FUJIFILM

DIGITAL CAMERA

X-T5

FF220001

使用説明書

BL00005204-100 **JA**

はじめに

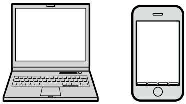
このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用の前に、この使用説明書をよくお読みの上、正しくご使用ください。お読みになったあとは、いつでも見られるように大切に保管してください。

最新情報について

本製品の最新の使用説明書はこちらをご覧ください。

https://fujifilm-dsc.com/ja/manual/

上記ウェブサイトでは、最新情報の使用説明書が用意されており、カラーの作例などもご用意しています。また、スマートフォンやタブレットからのアクセスも可能となっていますので、是非アクセスしてみてください。ソフトウエアのライセンスに関する情報も記載しています。



本製品のファームウエア更新情報はこちらをご覧ください。

https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/download/firmware/cameras/

章目次

メニュー一覧

このカメラで使用できるメニューの一覧です。

撮影メニュー

静止画撮影や動画撮影時に使用できるメニューです。

設定方法の詳細は撮影メニューをご覧ください（117）。

静止画撮影メニュー

と の両方のアイコンが付いている項目は、静止画撮影メニューと動画撮影メニューで共通の項目です。設定を変更すると両方同時に変更されます。

動画撮影メニュー

と の両方のアイコンが付いている項目は、静止画撮影メニューと動画撮影メニューで共通の項目です。設定を変更すると両方同時に変更されます。

再生メニュー

再生時に使用できるメニューです。

詳細は再生メニューをご覧ください（📖 225）。

セットアップメニュー

カメラの基本的な設定や表示などを変更するメニューです。

設定方法の詳細はセットアップメニューをご覧ください（📖 271）。

ネットワーク /USB 設定メニュー

カメラのネットワーク接続や USB 接続の設定を変更するメニューです。

詳細はネットワーク /USB 設定メニューをご覧ください（📖 264）。

目次

5　撮影に関する設定　71

6 撮影メニュー 117

12 資料 355

付属品一覧

ご使用の前に箱の中の付属品がすべてそろっているかを確認してください。

- 充電式バッテリー NP-W235（1 個）

> 安全上の理由から、ご購入時にはバッテリーは充電されていません。充電しないとカメラは作動しませんので、必ずカメラをお使いになる前にバッテリーを充電してください（📖 42）。

- AC パワーアダプター AC-5VJ（1 個）
- プラグアダプター（1 式）
- USB ケーブル（約 0.6m　1 本）
- ボディキャップ（1 個）（本体に装着）
- ショルダーストラップ（1 本）
- ホットシューカバー（1 個）（端子保護用、本体に装着）
- シンクロターミナルキャップ（1 個）（本体に装着）
- ヘッドホン用アダプター（1 個）
- 使用説明書（基本操作編）
- 保証書（1 部）

> - レンズキットをお買い上げいただいたときは、交換レンズが付属していることをご確認ください。
> - プラグアダプターは、国・地域によって付属されているアダプターが異なります。
> - ヘッドホン用アダプターはUSB端子（Type-C）をヘッドホン端子（φ 3.5mm）に変換するときに使用します。
> - このカメラで使用できるソフトウエアについては、📖 359 をご覧ください。

本書について

この説明書には、富士フイルムデジタルカメラ X-T5 の使い方がまとめられています。内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本書で使われている記号について

カメラを使用するときに、故障などを防ぐために注意していただきたいことを記載しています。

カメラを使用するにあたって知っておくと便利なこと、参考になることを記載しています。

参照ページを記載しています。

画面のイラストや写真について

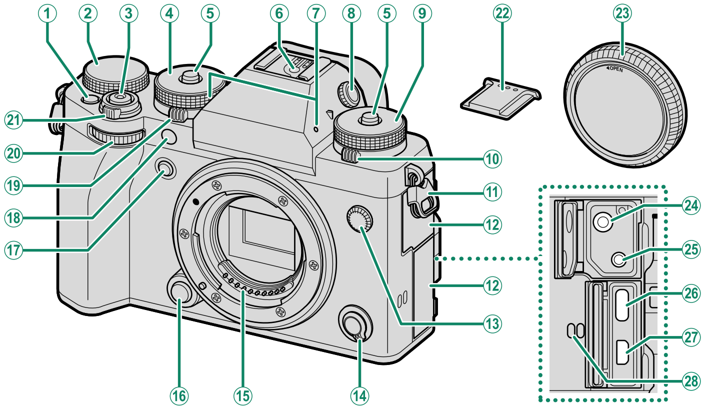
- 本書では、画面の表示を簡略化して記載しています。
- 本書に掲載している写真は、機能を説明するためのもので、実際の機種で撮影したものとは限りません。

表記について

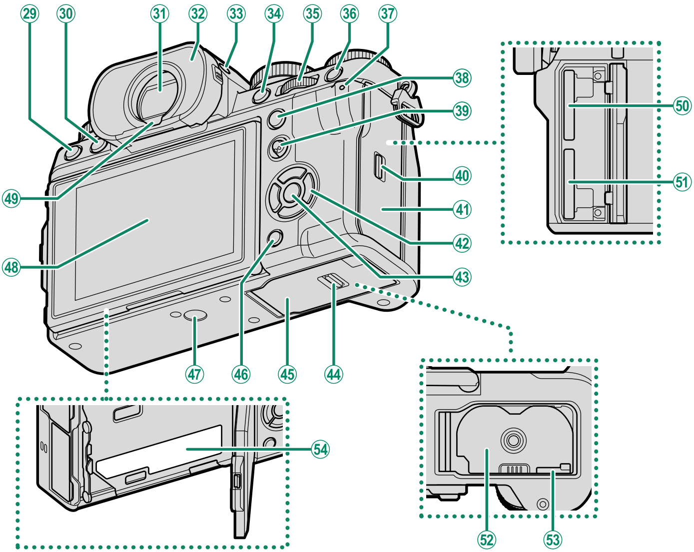
- このカメラでは、市販の SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードをお使いになれます。本書では、これらのカードを総称して「**メモリーカード**」と表記します。
- このカメラは、ファインダーと液晶モニターを装備しています。本書では、ファインダーを「**EVF**」、液晶モニターを「**LCD**」と表記する場合があります。
- メニューなどのカメラの表示は**太字**で表記しています。
- 本書では、スマートフォンとタブレットを併せて「**スマートフォン**」と表記する場合があります。

1 このカメラの概要

カメラの各部名称と機能



① **Fn1** ボタン 321
② 露出補正ダイヤル .... 6、99
③ シャッターボタン 55
④ シャッタースピードダイヤル .... 5、72、74、78、80
⑤ ダイヤルロック解除ボタン 5
⑥ ホットシュー 342
⑦ マイク 62
⑧ 視度調節ダイヤル（ロック式） 11
⑨ 感度ダイヤル .... 5、96
⑩ ドライブダイヤル 6
⑪ ストラップリング 34
⑫ 端子カバー
⑬ シンクロターミナル 345
⑭ フォーカスモード切換レバー 83
⑮ レンズ信号接点
⑯ レンズ取り外しボタン 35
⑰ **Fn2** ボタン 321
⑱ AF 補助光ランプ 150
セルフタイマーランプ 168
タリーランプ 199
⑲ 静止画 / 動画切換ダイヤル .... 5、62、72
⑳ フロントコマンドダイヤル .... 7、296
㉑ 電源レバー 46
㉒ ホットシューカバー 342
㉓ ボディキャップ 35
㉔ マイク端子（φ 3.5mm） 67
㉕ リモートレリーズ端子（φ 2.5mm） 77
㉖ USB 端子（Type-C） 42
㉗ HDMI マイクロ端子（Type D） 57
㉘ スピーカー .... 69、281

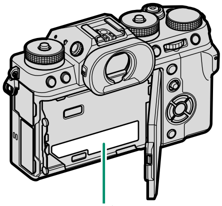


㉙ （消去）ボタン 59
㉚ ▶（再生）ボタン 56
㉛ ファインダー（EVF）
.... 12、16、18、26
㉜ アイカップ（ロック式）........................ 11
㉝ **VIEW MODE** ボタン 16
㉞ **AFON** ボタン .... 102、321
㉟ リアコマンドダイヤル
.... 7、223、296
㊱ **Q**（クイックメニュー）ボタン 315
㊲ インジケーターランプ .... 9、199
タリーランプ 199
㊳ **AEL**（AE ロック）ボタン ..... 102、321
㊴ フォーカスレバー .... 4、87、294
㊵ メモリーカードスロットカバーロック
.... 38
㊶ メモリーカードスロットカバー 38
㊷ セレクターボタン 4
㊸ **MENU/OK**（メニュー / 決定）ボタン
.... 24
㊹ バッテリーカバーロック 36
㊺ バッテリーカバー 36
㊻ **DISP/BACK**（表示 / 戻る）ボタン
.... 19、221
（Bluetooth）ボタン 249
㊼ 三脚用ねじ穴
㊽ チルト式液晶モニター（LCD）
.... 10、14、16
タッチパネル .... 26、160、210
㊾ アイセンサー 16
㊿ メモリーカードスロット 2 38
(51) メモリーカードスロット 1 38
(52) バッテリー挿入部 36
(53) バッテリー取り外しつまみ 37
(54) 銘板プレート 4

1
このカメラの概要

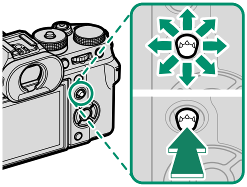
銘板プレート

銘板プレートには CMIIT ID、シリアル番号などが印刷されていますので取り外さないでください。



フォーカスレバー

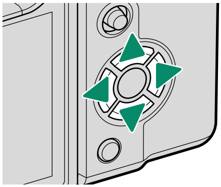
フォーカスレバーを八方向に動かしたり、中央を押したりしてフォーカスエリアを設定できます。メニューを表示しているときは、メニュー項目の選択に使用できます。



フォーカスレバーの設定は、フォーカスレバーを中央に長押しするか、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **フォーカスレバー設定**で変更できます。

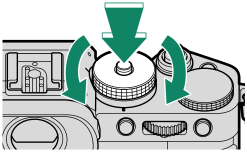
セレクターボタン

上下左右のボタンを押してメニューなどの項目を選択できます。また、ファンクションボタン（**Fn3** ～ **Fn6**）としても使用できます（295、321）。

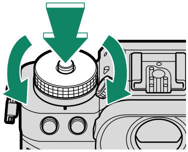


シャッタースピードダイヤル / 感度ダイヤル

シャッタースピードダイヤルや感度ダイヤルは、ダイヤルロック解除ボタンを押して、ロックを解除してからダイヤルを回します。ロック解除ボタンをもう一度押すと、ダイヤルがロックされます。



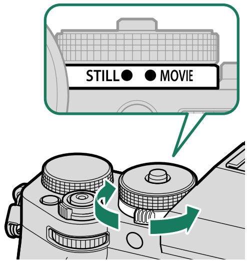
シャッタースピードダイヤル



感度ダイヤル

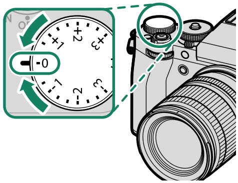
静止画 / 動画切換ダイヤル

静止画を撮影するときは静止画 / 動画切換ダイヤルを **STILL** に設定します。動画を撮影するときは **MOVIE** に設定します。



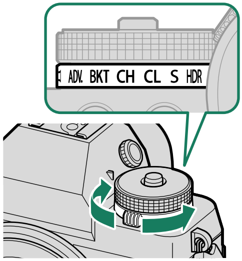
露出補正ダイヤル

露出を補正できます。



ドライブダイヤル

ドライブダイヤルで、ドライブモードを選択できます。

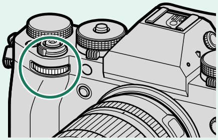
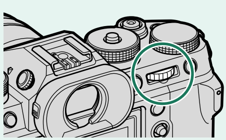
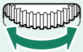
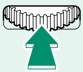


ドライブモード		📖
	パノラマ	111
ADV.	アドバンストフィルター	109
BKT	ブラケティング	103
CH	高速連写	105

ドライブモード		📖
CL	低速連写	105
S	1 コマ撮影	52
HDR	HDR	107

コマンドダイヤル

フロントコマンドダイヤルまたはリアコマンドダイヤルで、以下の操作ができます。

	フロントコマンドダイヤル	リアコマンドダイヤル
		
 **回転**	• メニュータブ、ページの切り替え • 絞り値の変更 *1、2 • 露出補正 *2、5 • ISO 感度の設定 *2、3 • 前後の画像を表示（再生時）	• メニュー項目の選択 • プログラムシフト • シャッタースピードの変更 *2 • クイックメニューの設定値を変更 • フォーカスエリアのサイズ変更 • 画像を再生ズーム（再生時） • 画像をマルチ再生（再生時）
 **中央押し**	• 絞り値と ISO 感度の切り替え *2、3、6 • **操作ボタン・ダイヤル設定** > **コマンドダイヤル設定**の設定切り替え（長押し）	• ファンクション（**ダイヤル**）ボタン • ピント位置拡大表示 *4 • マニュアルフォーカス時に **MF アシスト**の設定切り替え（長押し）*4 • ピント位置拡大表示（再生時）

*1 絞りの設定が **A**（オート）で、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **絞りリング設定 (A)** が**コマンド**のとき、または絞りリングなしレンズを装着しているとき、または**動画専用操作モード** が **ON** のとき

*2 **操作ボタン・ダイヤル設定** > **コマンドダイヤル設定**で設定を変更可能

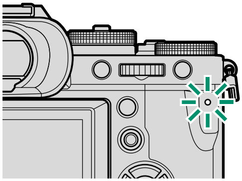
*3 感度ダイヤルが **C** の位置のとき、または**動画専用操作モード** が **ON** のとき

*4 ファンクションボタンに**フォーカスチェック**が割り当てられているときのみ
*5 露出補正ダイヤルが C の位置のとき、または**動画専用操作モード** が **ON** のとき
*6 露出補正ダイヤルが C の位置のとき、または**動画専用操作モード** が **ON** のときは、絞り値と露出補正と ISO 感度の切り替え

コマンドダイヤルを回す方向は、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **コマンドダイヤル回転方向**で設定できます。

インジケーターランプ

インジケーターランプの色や点灯 / 点滅で、
カメラの状態がわかります。



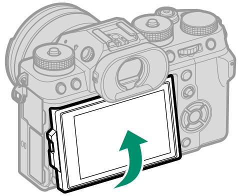
インジケーターランプ	カメラの状態
緑色点灯	被写体にピントが合っています。
緑色点滅	AF 警告、シャッター低速警告です（撮影できます）。
緑と橙色の交互点滅	**電源オン時**：メモリーカードに画像を記録中、または **表示設定** ＞ **撮影画像表示**が **OFF** 以外のときに確認画面を表示しています（続けて撮影できます）。
	電源オフ後：画像をスマートフォンに転送しています。*
橙色点灯	メモリーカードに画像を記録しています（続けて撮影できません）。
橙色点滅	フラッシュ充電中です（フラッシュは発光しません）。
赤色点滅	画像記録異常、またはレンズ異常です。

* 転送予約した画像がある場合

- 画面にも、警告表示が表示されます。
- ファインダーを覗いているときは、インジケーターランプは点灯 / 点滅しません。
- **動画設定** > **タリーランプ**で、動画の記録中に点灯するランプをインジケーターランプから AF 補助光ランプに変えたり、点灯または点滅の設定を変更できます。
- インターバルタイマー撮影中で画面の表示が消えているときは、インジケーターランプが緑色に点滅します。

液晶モニター

液晶モニターをチルトすると、液晶モニターを見やすい角度に調整して撮影できます。液晶モニターをチルトしているときは、指などが挟まらないようにご注意ください。また、内側の配線などには触れないでください。故障の原因となります。



液晶モニターはタッチパネルとして操作できます。タッチパネルでは以下の操作ができます。

- タッチ操作による撮影（📖 27）
- フォーカスエリアの変更（📖 26）
- タッチファンクション（📖 29）
- 動画専用操作モード（📖 28）
- 再生時の画面操作（📖 31）

縦向きチルトについて

このカメラでは、縦向きにしたときも縦方向に液晶モニターをチルトできます。縦位置（ローアングル / ハイアングル）撮影に便利です。

- チルトロック解除ボタンを押して、見やすい角度に調整してください（図 1）。
- 縦位置のハイアングル撮影では図のようにカメラを持ち替えると撮影しやすくなります（図 2）。

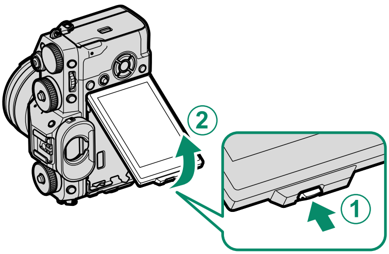


図 1

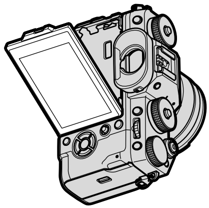
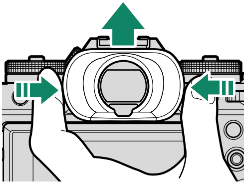


図 2

アイカップ

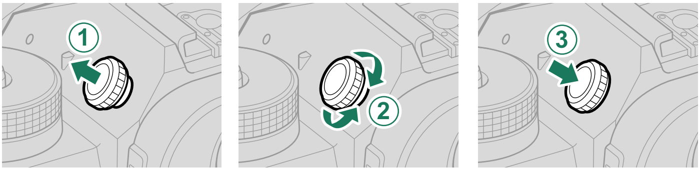
アイカップを取り外すときは、アイカップの両側にあるボタンを押しながら上に引き上げてください。



視度調節ダイヤル

ファインダー内の表示が見えにくいときは、ファインダーを覗きながら視度調節ダイヤルを回し、ファインダーの表示がもっともはっきり見えるように調節してください。

① 視度調節ダイヤルをつまんで引き出します。
② ダイヤルを回して視度を調節します。
③ 視度調節ダイヤルを押し込んでロックします。



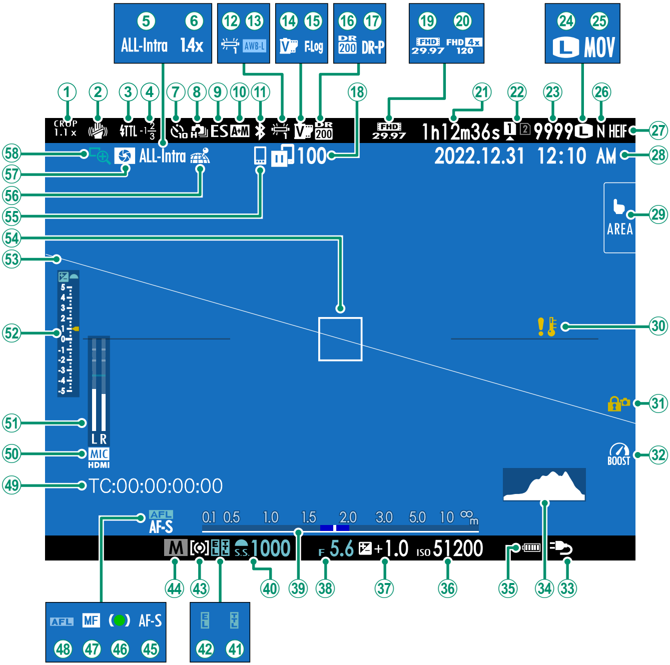
視度調節ダイヤルは必ず引き出してから回してください。引き出さずに回すと、故障の原因になりますのでご注意ください。

撮影時の表示画面

撮影時は、ファインダー（EVF）/ 液晶モニター（LCD）に次の情報が表示されます。

説明のため情報はすべて表示しています。

EVF の表示画面



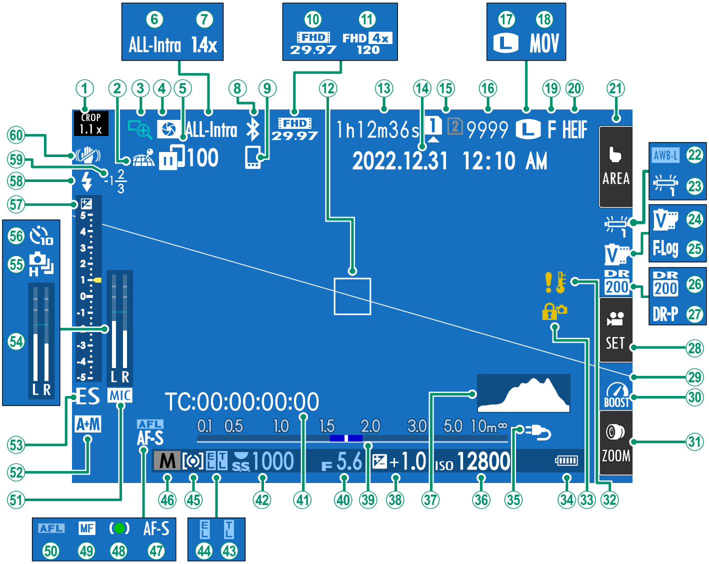
1. クロップ倍率 193
2. ブレ防止*2 174
3. フラッシュ（TTL モード） 346
4. 調光補正 346
5. 動画圧縮方式 191
6. デジタルテレコン 175
7. セルフタイマー 168、190
8. 連写モード 105
9. シャッター方式 170
10. AF＋MF*2 155
11. Bluetooth ON/OFF
12. ホワイトバランス 126
13. AWB ロック 302
14. フィルム シミュレーション 122
15. F-Log/HLG 撮影 194
16. ダイナミックレンジ 130
17. D レンジ優先 130
18. 画像転送状況 249、264
19. 動画モード 62、188
20. ハイスピード撮影 189
21. 動画の記録可能時間／記録経過時間 62
22. カードスロット設定 40、309
23. 撮影可能枚数*1 399
24. 画像サイズ 118
25. ファイル形式 191
26. 画質モード 119
27. 画像記録 HEIF 121
28. 日付・時刻 48、50、273
29. タッチパネルモード 26、160
30. 温度警告 39、398
31. ボタンロック*3 305
32. ブーストモード 307
33. 給電状態 44
34. ヒストグラム 22
35. バッテリー残量表示 47
36. ISO 感度 96
37. 露出補正 99
38. 絞り値 73、78、80
39. 距離指標バー*2 93
40. シャッタースピード 73、74、80
41. TTL ロック 181、325
42. AE ロック 102、302
43. 測光モード 98
44. 撮影モード 72
45. フォーカスモード*2 83
46. 合焦マーク*2 84
47. マニュアルフォーカス*2 83、91
48. AF ロック 102、302
49. タイムコード 216
50. マイク入力チャンネル 186、215
51. マイクレベル*2 213
52. 露出インジケーター 80、99
53. 電子水準器 23
54. AF フレーム 87、101
55. Bluetooth 接続先 249
56. 位置情報取得状態 310
57. 被写界深度確認 79、93
58. フォーカスチェック 94、156

*1 撮影可能枚数が 9999 枚以上でも「**9999**」と表示されます。

*2 **表示設定** > **情報表示拡大モード (EVF)** を **ON** にすると、非表示になります。

*3 **MENU/OK** ボタン長押しでボタンロックをしているときに表示されます。ロックを解除するときは **MENU/OK** ボタンを再度長押しします。

LCD の表示画面


ALL-Intra
1.4x
FHD 29.97
FHD 4x 120
L
MOV
CROP 1.1 x
ALL-Intra
100
FHD 29.97
1h12m36s
9999
F HEIF
2022.12.31 12:10 AM
AREA
AWB-L
F-Log
DR 200
DR-P
SET
BOOST
ZOOM
ES
A+M
MIC
L R
TC:00:00:00:00
AFL
AF-S
0.1 0.5 1.0 1.5 2.0 3.0 5.0 10m ∞
M
SS 1000
F 5.6
+1.0
ISO 12800
AFL
MF
AF-S

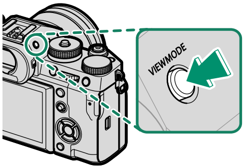
① クロップ倍率 193
② 位置情報取得状態 310
③ フォーカスチェック 94、156
④ 被写界深度確認 79、93
⑤ 画像転送状況 249、264
⑥ 動画圧縮方式 191
⑦ デジタルテレコン 175
⑧ Bluetooth ON/OFF
⑨ Bluetooth 接続先 249
⑩ 動画モード 62、188
⑪ ハイスピード撮影 189
⑫ AF フレーム 87、101
⑬ 動画の記録可能時間／記録経過時間 62
⑭ 日付・時刻 48、50、273
⑮ カードスロット設定 40、309
⑯ 撮影可能枚数 *1 399
⑰ 画像サイズ 118
⑱ ファイル形式 191
⑲ 画質モード 119
⑳ 画像記録 HEIF 121
㉑ タッチパネルモード *3 26、160
㉒ AWB ロック 302
㉓ ホワイトバランス 126
㉔ フィルム シミュレーション 122
㉕ F-Log/HLG 撮影 194
㉖ ダイナミックレンジ 130
㉗ D レンジ優先 130
㉘ 動画専用操作モード *3 28
㉙ 電子水準器 23
㉚ ブーストモード 307
㉛ タッチズーム *3 30
㉜ 温度警告 39、398
㉝ ボタンロック *4 305
㉞ バッテリー残量表示 47
㉟ 給電状態 44
㊱ ISO 感度 96
㊲ ヒストグラム 22
㊳ 露出補正 99
㊴ 距離指標バー *2 93
㊵ 絞り値 73、78、80
㊶ タイムコード 216
㊷ シャッタースピード 73、74、80
㊸ TTL ロック 181、325
㊹ AE ロック 102、302
㊺ 測光モード 98
㊻ 撮影モード 72
㊼ フォーカスモード *2 83
㊽ 合焦マーク *2 84
㊾ マニュアルフォーカス *2 83、91
㊿ AF ロック 102、302
(51) マイク入力チャンネル 186、215
(52) AF＋MF *2 155
(53) シャッター方式 170
(54) マイクレベル *2 213
(55) 連写モード 105
(56) セルフタイマー 168、190
(57) 露出インジケーター 80、99
(58) フラッシュ（TTL モード） 346
(59) 調光補正 346
(60) ブレ防止 *2 174

*1 撮影可能枚数が 9999 枚以上でも「**9999**」と表示されます。
*2 **表示設定** > **情報表示拡大モード (LCD)** を **ON** にすると、非表示になります。
*3 タッチ操作で切り替えることができます。
*4 **MENU/OK** ボタン長押しでボタンロックをしているときに表示されます。ロックを解除するときは **MENU/OK** ボタンを再度長押しします。

1 このカメラの概要

EVF と LCD の切り替え

VIEW MODE ボタンを押すごとに、ファインダー（EVF）と液晶モニター（LCD）の表示が以下のように切り替わります。撮影時と再生時でそれぞれ切り替わります。



セットアップメニューの **表示設定** > **VIEW MODE 設定**でも EVF と LCD の表示を切り替えることができます。

撮影時

設定	内容
アイセンサー	ファインダーに目を近づけると、アイセンサーの働きにより、表示が自動的にファインダーに切り替わります。目を離すと液晶モニターに表示が戻ります。
LCD ONLY	液晶モニターにのみ表示します。
EVF ONLY	ファインダーにのみ表示します。
EVF ONLY +	ファインダーに目を近づけたときだけアイセンサーの働きにより、ファインダーに自動的に表示されます。
アイセンサー+ LCD 撮影画像表示	撮影時はファインダーに目を近づけると、アイセンサーの働きにより、自動的にファインダー表示になり、撮影後に目を離すと液晶モニター表示で撮影画像を確認できます。セットアップメニューの **表示設定** > **撮影画像表示**で設定された内容で液晶モニターに表示されます。

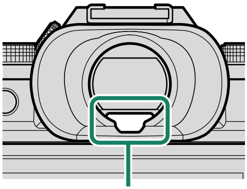
セットアップメニューの **表示設定** > **VIEW MODE設定**で **Q** ボタンを押すと、切り替わる項目を選べます。

再生時

設定	内容
アイセンサー	ファインダーに目を近づけると、アイセンサーの働きにより、表示が自動的にファインダーに切り替わります。目を離すと液晶モニターに表示が戻ります。
LCD ONLY	液晶モニターにのみ表示します。
EVF ONLY	ファインダーにのみ表示します。

アイセンサーについて

目以外のものを近づけたり、直射日光が当たったりしても、アイセンサーが反応することがあります。



EVF/LCD の明るさ・鮮やかさ調整

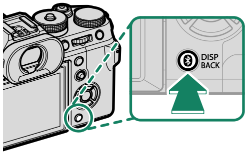
屋外で使用するときは、太陽光などの影響によって画面が見えにくくなる場合があります。その場合は、**表示設定** > **EVF 明るさ**、**EVF 鮮やかさ**でファインダー(EVF)の明るさや鮮やかさを調整し、**表示設定** > **LCD 明るさ**、**LCD 鮮やかさ**で液晶モニター（LCD）の明るさや鮮やかさを調整します。

縦表示について

表示設定 > **縦横自動回転表示**を **ON** にすると、カメラを縦向きで撮影するときにファインダー（EVF）または液晶モニター（LCD）の情報表示が縦向きになります。

情報表示の切り替え

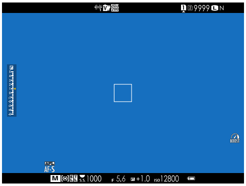
撮影モードで **DISP/BACK** ボタンを押すごとに表示が切り替わります。



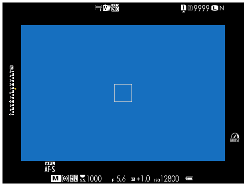
> EVF と LCD は、それぞれ個別に表示の切り替えを行ってください。EVF の表示を切り替えるときは、ファインダーを覗きながら **DISP/BACK** ボタンを押してください。

ファインダー（EVF）

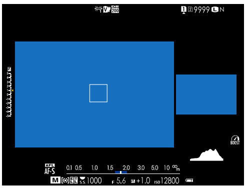
フル



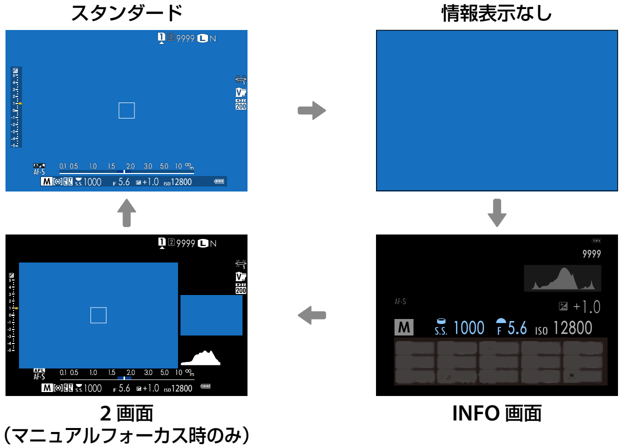
ノーマル



2 画面
（マニュアルフォーカス時のみ）



液晶モニター（LCD）



2 画面について

「2 画面」表示では、撮影画面全体を表示する親画面（大きい画面）とピントを合わせた位置を拡大表示する子画面（小さい画面）の 2 画面を表示します。

「スタンダード」画面の表示について

撮影時の「スタンダード」画面に表示したい項目は、**表示設定** > **画面のカスタマイズ**で選択できます。

1 **DISP/BACK** ボタンを押して、「スタンダード」画面に切り替えます。

2 セットアップメニューから **表示設定** > **画面のカスタマイズ**を選びます。

3 表示したい項目を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。
画面に表示する項目には、☑ が表示されます。☑ が表示されている状態で **MENU/OK** ボタンを押すと、選択が解除されます。

表示項目	工場出荷時	表示項目	工場出荷時
フレーミングガイド	☐	ブレ防止	☑
AF フレーム	☑	タッチパネルモード	☑
合焦マーク	☑	ホワイトバランス	☑
AF 時の距離指標	☐	フィルムシミュレーション	☑
MF 時の距離指標	☑	ダイナミックレンジ	☑
ヒストグラム	☐	ブーストモード	☑
ライブビューハイライト警告	☐	撮影可能枚数	☑
撮影モード	☑	画像サイズ & 画質モード	☑
絞り / シャッター速度 /ISO	☑	動画モード & 録画時間	☑
情報表示背景	☑	デジタルテレコン	☑
露出補正表示	☐	通信状況	☑
露出補正ゲージ	☑	マイクレベル	☑
フォーカスモード	☑	ガイダンスメッセージ	☑
測光	☑	カード無し時ガイダンス	☑
シャッター方式	☑	日時表示	☑
フラッシュ	☑	バッテリー残量表示	☑
連写モード	☑	画面枠	☐

4 各項目を設定し、**DISP/BACK** ボタンを押します。
設定が保存されます。

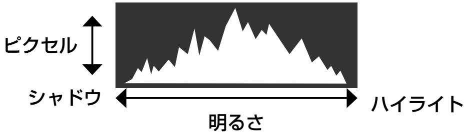
5 **DISP/BACK** ボタンを押して撮影画面に戻り、表示内容を確認してください。

画面枠について

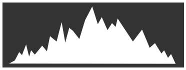
背景が黒いときなど、撮影範囲がわかりにくいときに**画面枠**をオンにすると、撮影画面内の縁に枠が表示されます。

ヒストグラム表示について

ヒストグラムとは明るさの分布をグラフ（横軸：明るさ / 縦軸：ピクセル数）に表したものです。被写体によってグラフ形状は異なります。



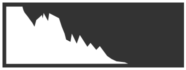
- **適正露出の場合**：全体的にピクセルの数が多く、山なりに分布します。



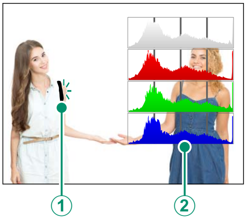
- **露出オーバーの場合**：ハイライトのピクセル数が多く、右に偏ります。



- **露出アンダーの場合**：シャドウのピクセル数が多く、左に偏ります。



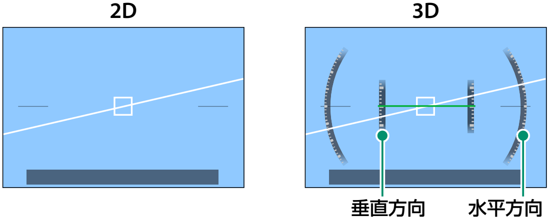
ヒストグラムを割り当てたファンクションボタンを押すと、RGB ヒストグラムとライブビューハイライト警告表示（高輝度部分が点滅）になります（📖 295、321）。



① 高輝度部分が点滅
② RGB ヒストグラム表示

電子水準器について

カメラの傾きを表示します。 **表示設定**＞**電子水準器設定**で表示の設定を切り替えることができます。三脚設置時など、カメラを水平にしたいときに使用します。

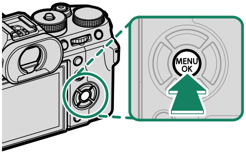


- **OFF の場合**：電子水準器を表示しません。
- **2D の場合**：水平方向の傾きを白い線で表示します。カメラが水平になると、線が緑色で表示されます。カメラのレンズ面を上下に向けたときは、表示が消えることがあります。
- **3D の場合**：水平方向と垂直方向の傾きを表示します。

電子水準器切替を割り当てたファンクションボタンを押して、2D 表示と 3D 表示を切り替えることができます。

メニューの使い方

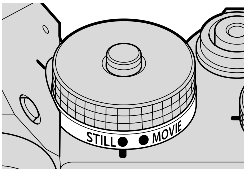
MENU/OK ボタンを押すと、メニューが表示されます。



メニュー画面について

メニュー画面は静止画撮影時 / 動画撮影時 / 再生時によって表示が異なります。

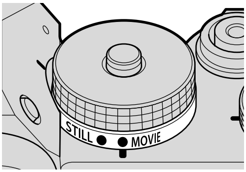
撮影時



静止画 / 動画切換ダイヤルが STILL のとき

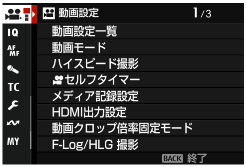




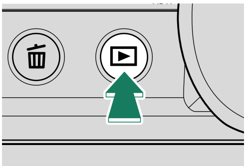


静止画 / 動画切換ダイヤルが MOVIE のとき





再生時



画像を再生しているとき

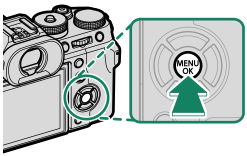




メニュータブへの移動

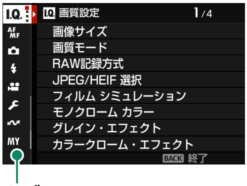
使用するメニュータブへの移動は以下の手順で行います。

1 **MENU/OK** ボタンを押して、メニューを表示します。





2 セレクターボタンの左を押してタブ選択に移ります。



3 セレクターボタンで使用する項目のメニュータブを選びます。

4 セレクターボタンの右を押してメニューに戻ります。

> メニュー画面表示中は、フロントコマンドダイヤルでタブ、ページの切り替え、リアコマンドダイヤルで項目の選択ができます。

タッチ操作について

このカメラでは、液晶モニター（LCD）をタッチパネルとして使用できます。

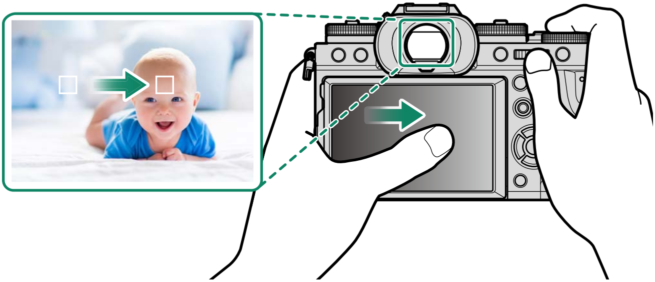
撮影時のタッチ操作について

タッチパネルを使用するときは、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **タッチパネル設定** > **タッチパネル設定**を **ON** にします。



EVF 使用時のタッチ操作

ファインダー（EVF）を使用しているときに液晶パネル（LCD）をタッチパネルとして使用して、フォーカスエリアを変更できます。**操作ボタン・ダイヤル設定** > **タッチパネル設定** > **EVF タッチパネル有効範囲**で動作範囲を設定できます。

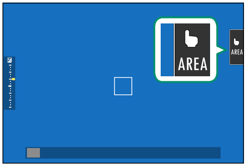


- **フォーカス設定** > **顔検出 / 瞳 AF 設定**が**顔検出 ON** のときは、ピントを合わせる顔を選べます。
- **フォーカス設定** > **被写体検出 AF 設定**が**被写体検出 ON** のときは、ピントを合わせる被写体を選べます。

1 このカメラの概要

LCD 使用時のタッチ操作

撮影画面のタッチパネルモードアイコンをタッチするごとに、タッチ操作を変更できます。LCD 使用時は次のタッチ操作が行えます。



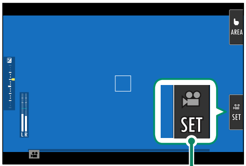
タッチパネルモード	意味
SHOT ショット	シャッターボタンを押す代わりに、ピントを合わせたいところの画面をタッチして撮影します。連写撮影では、画面を押し続けている間、連続撮影します。
AF AF ↓↑ AF OFF AF OFF	• フォーカスモードが **S**（AF-S）のときは、タッチした場所にピントを合わせ、AF ロックします。AF ロックを解除するには、**AF OFF** アイコンをタッチします。 • フォーカスモードが **C**（AF-C）のときは、タッチした被写体にピントを合わせ続けます。ピント合わせの動作を解除するには、**AF OFF** アイコンをタッチします。 • フォーカスモードが **M**（MF）のときは、ワンプッシュ AF の動作になり、タッチした場所にピントを合わせます。
AREA エリア選択	フォーカスエリアに設定したい場所をタッチすると、タッチした場所にフォーカスエリアが移動し、ピントを合わせる位置や拡大表示の位置が変更できます。
OFF OFF	タッチパネルモードを無効にします。

- タッチパネルの動作は AF モードによって異なります。
- ピント位置拡大中は、タッチパネルの動作が異なります（📖 161）。

- **操作ボタン・ダイヤル設定 > タッチパネル設定 > タッチパネル設定**が **OFF** のときは、タッチパネルモードアイコンは非表示になり、タッチ操作の切り替えはできません。
- **フォーカス設定 > タッチパネルモード**でもタッチ操作を切り替えることができます。動画撮影時のタッチ操作については、「動画撮影時のタッチ操作（タッチパネルモード：210）」をご覧ください。

動画専用操作モード

撮影メニューの **動画設定 > 動画専用操作モード** を **ON** にするか、撮影画面の動画専用モードボタンを押すと、コマンドダイヤルとタッチ操作で次の撮影時の設定を変更できます。動画撮影時に、静止画撮影とは別に露出を設定したい場合や、カメラの操作音を記録したくないときに便利です。

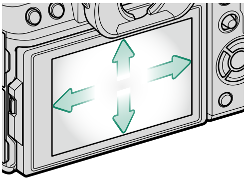


動画専用モードボタン

- シャッタースピード
- 絞り
- 露出補正
- 感度
- 内蔵マイクレベル設定／外部マイクレベル設定
- 風音低減
- ヘッドホン音量
- フィルム シミュレーション
- ホワイトバランス
- ブレ防止モード
- ブレ防止モードブースト

- 動画専用操作モードをオンにすると、シャッタースピードダイヤル、感度ダイヤル、露出補正ダイヤル、絞りリングの操作は無効になります。
- 動画専用操作モードのときに動画専用モードボタンを押すと、撮影の設定を変更したり、動画専用操作モードをオフにしたりすることができます。

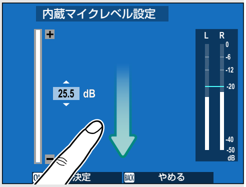
タッチファンクション



このカメラでは、画面を左右上下にフリックすることで、ファンクションボタンと同様に機能を呼び出すことができます（📖 321）。

- **T-Fn1**（画面を上フリック）
- **T-Fn2**（画面を左フリック）
- **T-Fn3**（画面を右フリック）
- **T-Fn4**（画面を下フリック）

- 割り当てた機能によっては、設定画面を表示後、項目の設定をタッチ操作で行えます。

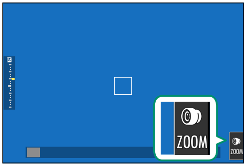


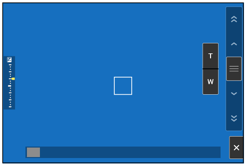
- タッチファンクションは工場出荷時の設定ではオフになっています。タッチファンクションを使用する場合は、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **タッチパネル設定** > **T-Fn タッチファンクション**を **ON** にしてください。

タッチズーム

タッチズームに対応しているレンズを使用しているときは、画面をタッチしてズーム操作を行うことができます。撮影画面でタッチズームボタンをタッチすると、タッチズームがオンになります。

タッチズームはそれぞれのボタンで操作します。





ボタン	意味
タッチズーム	タッチズームをオンにします。
T ボタン	タッチすると望遠側または広角側に操作できます。長押しすると、一定速度でズームできます。
W ボタン	
シーソースイッチ	シーソースイッチを任意の位置に移動させると、その位置に応じた速度、方向でズームします。
X ボタン	タッチズームをオフにします。

操作ボタン・ダイヤル設定 > **レンズズーム / フォーカス設定** > **定速ズーム (Fn)** で**T**ボタン、**W**ボタンのズーム速度を変更できます。

再生時のタッチ操作について

操作ボタン・ダイヤル設定 > タッチパネル設定 > ▶ タッチパネル設定が **ON** のときは、1 コマ再生時に以下のタッチ操作ができます。

スワイプ



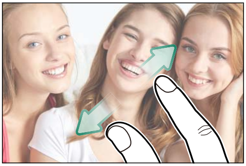
画面上を指で掃くように動かすと、前後の画像を表示できます。

ダブルタップ



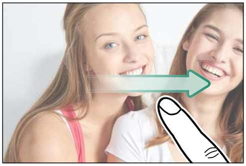
画面を 2 回タッチすると、ピントを合わせた位置を拡大表示できます。

マルチタッチ（ピンチアウト）



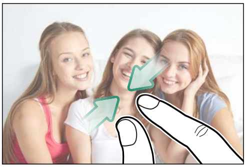
画面上に 2 本の指を置き、指の間隔を広げるように動かし、画像を拡大表示できます。

ドラッグ



拡大表示中に、表示される画像の範囲を移動できます。

マルチタッチ（ピンチイン）



画面上に 2 本の指を置き、指の間隔を狭めるように動かし、画像を縮小表示できます。

> 元の表示画像より縮小した画像は表示できません。

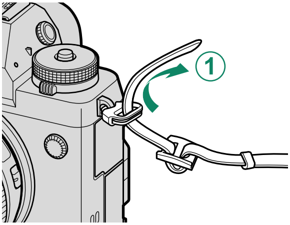
MEMO

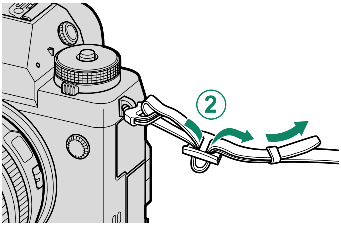
2 撮影の準備

ストラップを取り付ける

カメラにストラップを取り付けます。

ショルダーストラップは、次のようにストラップリング（2 箇所）に取り付けます。



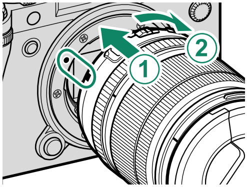


ストラップの取り付け方を間違えると、カメラが落下するおそれがありますので、しっかりと取り付けてください。

レンズを取り付ける

このカメラでは、富士フイルム製の FUJIFILM X マウント対応のレンズが使用できます。

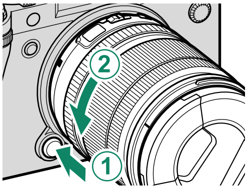
カメラのボディキャップとレンズのリアキャップを外してカメラとレンズの指標に合わせて（①)、レンズを回し（②）カメラにレンズを取り付けます。



- レンズを取り付けるときは、ゴミやほこりの付着に注意してください。
- カメラ内部には触れないでください。
- 「カチッ」とはまるまで、レンズを回してください。
- レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

レンズの取り外し方

カメラの電源をオフにしてからレンズ取り外しボタンを押して（①)、矢印の方向にレンズを回してください（②)。



レンズを取り外してカメラを保管するときは、ゴミやほこりの付着を防ぐためにボディキャップとレンズキャップを取り付けてください。

別売アクセサリーについて

このカメラでは、富士フイルム製の FUJIFILM X マウント対応のアクセサリーが使用できます。

レンズを取り付けたり取り外したりするとき（レンズ交換）は、以下のことにご注意ください。

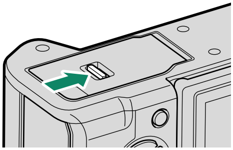
- ゴミやほこりの付着に注意してください。
- 直射日光など強い光源が当たらないところで行ってください。光源がカメラ内部に入り込むと、カメラ内部で焦点を結んで故障の原因になります。
- レンズキャップを取り付けて行ってください。
- レンズの使い方については、レンズの説明書をご覧ください。

バッテリーを入れる

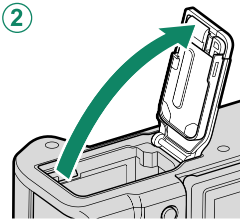
カメラにバッテリーを入れます。

1 バッテリーカバーロックをスライドさせて、バッテリーカバーを開けます。

①

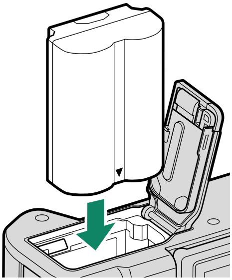


②



- カメラの電源がオンになっているときは、バッテリーカバーを開けないでください。画像ファイルやメモリーカードが壊れることがあります。
- バッテリーカバーに無理な力を加えないでください。

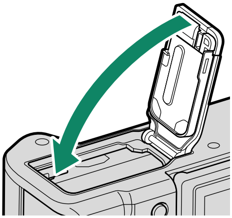
2 バッテリーを図のように入れます。



- バッテリーの向きを間違えるとカメラが破損するおそれがあります。正しい向きで挿入してください。
- バッテリーがしっかり固定されていることを確認してください。

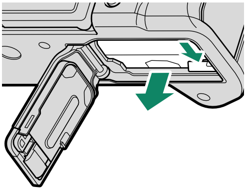
3 バッテリーカバーを閉めます。

> バッテリーカバーが閉まらないときは、無理に閉めずにバッテリーの挿入方向を確認してください。



バッテリーを取り出すときは

カメラの電源をオフにしてからバッテリーカバーを開け、バッテリー取り外しつまみを指で動かしてロックを外してください。



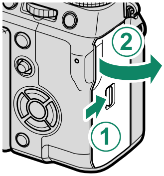
> 高温環境下で使用するとバッテリーが熱くなっている場合があります。取り出すときは注意してください。

メモリーカードを入れる

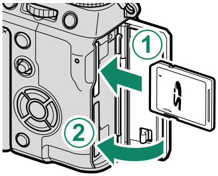
撮影した画像は、市販のメモリーカードに記録します。

このカメラには 2 つのメモリーカードスロットがあるため、2 枚のメモリーカードを使用できます。

1 メモリーカードスロットカバーロックをスライドさせて、メモリーカードスロットカバーを開けます。



2 メモリーカードを入れ、メモリーカードスロットカバーを閉めます。

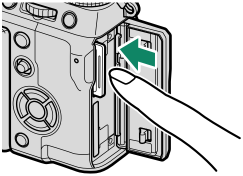


- **メモリーカードのフォーマット中や、データの記録 / 消去中は、カメラの電源をオフにしたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。カード損傷の原因になることがあります。**
- メモリーカードの向きが正しいことを確認してください。斜めに差し込んだり、無理な力を加えたりしないでください。
- 「カチッ」と音（感触）がするまで、メモリーカードを確実に奥まで差し込みます。

2 撮影の準備

メモリーカードを取り出すときは

カメラの電源をオフにしてからメモリーカードスロットカバーを開けます。メモリーカードを指で押し込み、ゆっくり指を離すと、ロックが外れて取り出せます。



- メモリーカードを取り出すときは、カードの中央を押してください。
- メモリーカードを取り出すときに、押し込んだ指を急に離すと、メモリーカードが飛び出すことがあります。指は静かに離してください。
- 画面に !🌡 が表示されたときは、メモリーカードが熱くなっていることがあります。しばらくたってからメモリーカードを取り出してください。

2 枚のメモリーカードを使用する場合

このカメラには 2 つのメモリーカードスロットがあるため、2 枚のメモリーカードを使用できます。静止画のメモリーカードへの記録方法は、**保存設定** > **カードスロット設定**で変更できます。

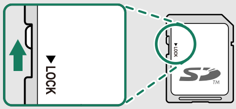
設定	説明	画面表示
順次記録 (工場出荷時設定)	スロット 1 のメモリーカードの空きがなくなったら、スロット 2 のメモリーカードに自動的に切り替えて保存します。**保存設定** > **スロット選択 (順次記録時)** で最初に記録するカードをスロット 2 に設定しているときは、スロット 2 のメモリーカードの空きがなくなったらスロット 1 のメモリーカードに切り替わります。	
バックアップ記録	2 枚のメモリーカードに同時に保存します。	
分割記録	スロット 1 のメモリーカードには RAW 画像を、スロット 2 のメモリーカードには JPEG 画像や HEIF 画像をそれぞれ保存します。この設定は **画質設定** > **画質モード**が、**FINE+RAW**、**NORMAL+RAW** のときのみ有効です。	 RAW+JPEG  RAW+HEIF

動画の記録先スロットは、**動画設定** > **メディア記録設定**で変更できます。

使用可能なメモリーカード

- このカメラは、SD/SDHC/SDXC メモリーカードに対応しています。また、バスインターフェースは UHS-I/UHS-II に対応しています。
- 高速連写撮影をするときは、UHS-II のメモリーカードをおすすめします。
- 動画撮影をするときは、設定によって使用できるメモリーカードが異なります（📖 68）。
- 対応メモリーカードについては、富士フイルムのホームページに掲載しています。詳しくは *https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/compatibility/cameras/* を参照してください。

- **メモリーカードのフォーマット中や、データの記録 / 消去中は、カメラの電源をオフにしたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。カード損傷の原因になることがあります。**
- メモリーカードにデータを記録、消去するときは、書き込み禁止スイッチのロックを解除してください。書き込み禁止スイッチを LOCK 側へスライドさせると、画像の記録や消去、カードのフォーマットができなくなります。



- メモリーカードは小さいため、乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万が一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- 外形寸法が SD メモリーカード規格から外れている miniSD アダプターや microSD アダプターを使うと、まれに抜けなくなることがあります。その場合、無理に抜こうとすると故障につながりますので、富士フイルム修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
- メモリーカードにラベルなどをはらないでください。はがれたラベルが、カメラの誤動作の原因になることがあります。
- メモリーカードの種類によっては、動画の記録が中断されることがあります。
- カメラでメモリーカードをフォーマットすると、画像を保存するフォルダが作られます。このフォルダの名前を変更したり、削除したりしないでください。また、パーソナルコンピューターやその他の機器で、画像ファイルの編集 / 削除または名前変更をしないでください。画像のファイル名を変更すると、カメラでの再生時に支障をきたす場合があります。

バッテリーを充電する

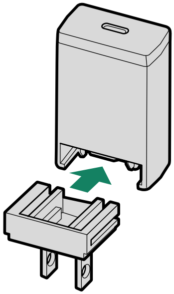
安全上の理由から、ご購入時にはバッテリーは充電されていません。充電しないとカメラは作動しませんので、必ずカメラをお使いになる前にバッテリーを充電してください。充電する前に、カメラの電源をオフにしてください。

- このカメラに付属されているバッテリーは NP-W235 です。
- 充電時間は約 180 分です。

1 ACパワーアダプターにプラグアダプターを取り付けます。

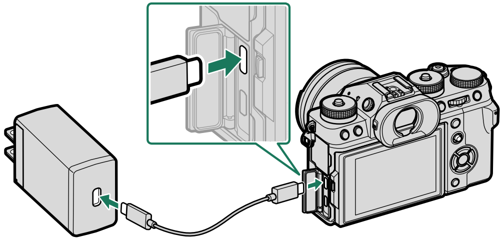
図のように正しい向きで「カチッ」と音（感触）がするまで、プラグアダプターを確実に奥まで差し込みます。

- 付属のプラグアダプターは、AC パワーアダプター AC-5VJ 専用です。この組み合わせ以外では使用しないでください。
- プラグアダプターは、仕向け国によって形状が異なります。



2 バッテリーを充電します。

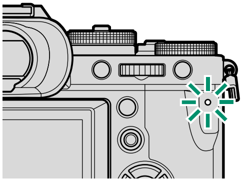
カメラと AC パワーアダプターを付属の USB ケーブルで接続します。AC パワーアダプターを屋内の電源コンセントに差し込みます。



- カメラの USB 端子（Type-C）に USB ケーブルを接続します。
- USB ケーブルは端子の奥までしっかりと差し込んでください。

充電状態の表示

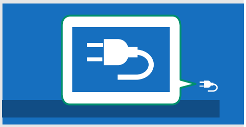
インジケーターランプでバッテリーの充電状態を示します。



インジケーターランプ	バッテリーの状態
点灯	充電中
消灯	充電完了
点滅	充電異常

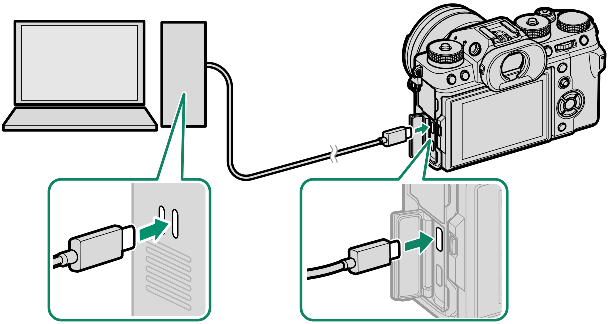
- 付属の AC パワーアダプターは 100 ～ 240V まで対応しており、海外でもご使用いただけます（変換プラグアダプターが必要な場合があります）。
- AC パワーアダプター、および USB ケーブルは、他の機器に使用しないでください。故障の原因になります。
- バッテリーにラベルなどをはらないでください。カメラから取り出せなくなることがあります。
- バッテリーの端子同士を接触（ショート）させないでください。発熱して危険です。
- バッテリーについてのご注意は「お取り扱いにご注意ください」を参照してください。
- 必ず専用の充電式バッテリーをお使いください。弊社専用品以外の充電式バッテリーをお使いになると故障の原因になることがあります。
- 外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- バッテリーは使わなくても少しずつ放電しています。撮影の直前（1 ～ 2 日前）には、バッテリーを充電してください。
- 使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。
- AC パワーアダプターを使用しないときは、コンセントから AC パワーアダプターを抜いてください。
- バッテリーを長期間充電しないとバッテリーの品質が保持できなくなり、充電できなくなるおそれがあります。定期的に充電することをおすすめします。
- 充電前に、バッテリーの端子の汚れを乾いたきれいな布などで拭いてください。端子が汚れていると、充電できないことがあります。
- 低温時および高温時は充電時間が長くなることがあります。
- ネットワーク /USB 設定メニューの **Bluetooth/ スマートフォン設定** > **Bluetooth ON/OFF** が **ON** のときはバッテリーの持続時間が短くなります。

- 充電中にカメラの電源をオンにすると充電は中断され、給電になります。給電中はバッテリーが少しずつ消費されます（📖 270）。
- 画面に給電状態アイコンが表示されます。



パーソナルコンピューターに接続してバッテリーを充電する

このカメラは、USB 充電に対応しています。パーソナルコンピューターメーカーが動作保証する OS および USB インターフェイスで使用できます。



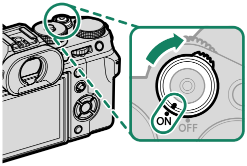
充電するときは、パーソナルコンピューターの電源をオンにしてください。

- カメラの電源がオンのときは充電できません。
- 付属の USB ケーブルを接続します。
- USB ハブやキーボードを経由せずに、直接カメラとパーソナルコンピューターを接続してください。
- 充電中にパーソナルコンピューターが休止状態（スリープ状態）になると、充電が中止されます。充電を続ける場合は、パーソナルコンピューターの休止状態（スリープ状態）を解除したあと、USB ケーブルを接続しなおしてください。
- パーソナルコンピューターの仕様や設定、または状態によって、バッテリーを充電できないことがあります。
- 充電時間の目安は約 600 分です（入力 5V/500mA の場合）。

電源をオンにする / オフにする

カメラの電源をオンにします。

電源レバーを **ON** に合わせると、電源がオンになります。**OFF** に合わせると、電源がオフになります。



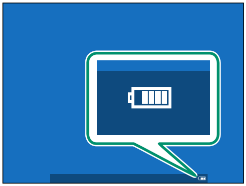
レンズやファインダーに指紋が付かないようにご注意ください。ファインダーがクリアに見えない、または撮影画像の画質低下の原因になります。

- 撮影中に ▶（再生）ボタンを押すと、再生モードになります。
- 再生中にシャッターボタンを半押しすると、撮影モードになります。
- 一定時間カメラを操作しないと、自動的にカメラの電源がオフになります。**消費電力設定** > **自動電源 OFF** では、自動的に電源がオフになるまでの時間を設定できます。自動的にカメラの電源がオフになった場合、シャッターボタンを半押しまたは電源レバーを **OFF** にしてから再度 **ON** にすると、撮影モードでオンになります。

バッテリー残量の表示

画面の表示で、バッテリー残量を確認できます。

画面に表示されるバッテリー残量表示の目盛でバッテリー残量を表します。



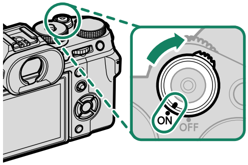
表示	意味
	バッテリーの残量は十分にあります。
	バッテリーの残量は約 80%です。
	バッテリーの残量は約 60%です。
	バッテリーの残量は約 40%です。
	バッテリーの残量は約 20%です。
 （赤点灯）	バッテリーの残量が不足しています。できるだけ早く充電してください。
 （赤点滅）	バッテリーの残量がありません。カメラの電源をオフにして、バッテリーを交換してください。

初期設定を行う

ご購入後初めて電源をオンにすると、言語や日時を初期設定として設定できます。以下の手順で初期設定を行ってください。

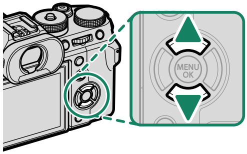
1 電源をオンにします。

言語設定画面が表示されます。



2 言語を設定します。

セレクターボタンで使用する言語を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



3 地域の設定画面が表示されます。

セレクターボタンでお住まいの地域とサマータイムの設定をしてから**設定完了**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

> 地域を設定しないときは **DISP/BACK** ボタンを押して設定をスキップしてください。



4 日時を設定します。



5 スマートフォンアプリケーションに関する画面が表示されます。



- 画面に表示される QR コードをスマートフォンで読み取ると、スマートフォンアプリケーションをダウンロードできます。
- **MENU/OK** ボタンを押すと、撮影画面が表示されます。

> スマートフォンアプリケーションを使用すると、撮影画像の転送やカメラの操作をワイヤレスで行うことができます（📖 249）。

6 メモリーカードをフォーマット（初期化）します（📖 272）。

> 未使用のメモリーカードや、パーソナルコンピューターやその他の機器で使用したメモリーカードは、必ずカメラでフォーマットしてからご使用ください。

> バッテリーを取り外してしばらく保管すると、設定した内容がクリアされる場合があります。その場合は、初期設定の設定画面が表示されますので、再設定してください。

言語を変更する

言語を変更するときは、以下の手順で変更します。

1 基本設定 > 言語/LANG. を選びます。

2 言語を設定します。

セレクターボタンで使用する言語を選びます。

3 MENU/OK ボタンを押します。

設定した言語表示になります。

日時を変更する

日時設定を変更するときは、以下の手順で変更します。

1 基本設定 > 日時設定を選びます。

2 日時を設定します。

セレクターボタンの左右を押して設定する項目（年、月、日、時、分）を選び、上下を押して設定する数字を選びます。

3 MENU/OK ボタンを押します。

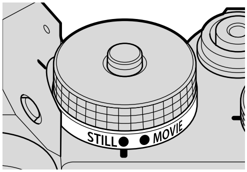
日時が設定されます。

3 基本的な撮影と再生

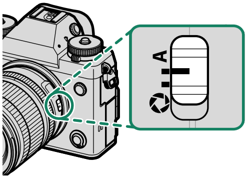
プログラムで静止画を撮影する

ここでは、プログラム（**P**）モードによる撮影の基本的な流れを説明します。その他のモードの撮影方法は「**P**、**S**、**A**、**M** で撮影する」をご覧ください（📖 72）。

1 静止画 / 動画切換ダイヤルを **STILL** に合わせます。

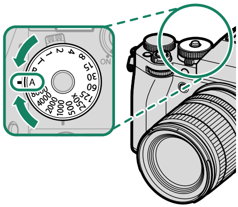


2 レンズの絞りモードスイッチを **A** に合わせます。

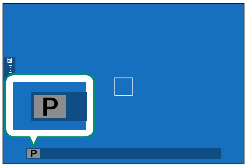


3 シャッタースピードダイヤルを **A** に合わせます。

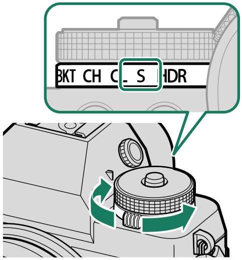
> シャッタースピードダイヤルは、ダイヤルロック解除ボタンを押してロックを解除してからダイヤルを回してください。



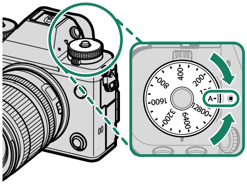
表示画面に **P** が表示されます。



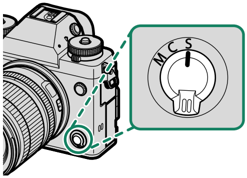
4 ドライブダイヤルを **S** に合わせます。



5 感度ダイヤルを **A** に合わせます。

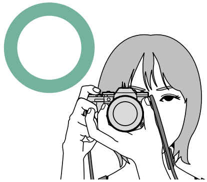


6 フォーカスモード切換レバーを **S** に合わせます。

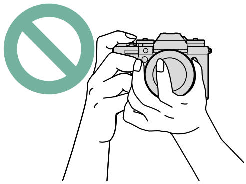


7 カメラを構えます。

- 手ブレを防ぐため、脇をしめ、カメラを両手でしっかりと持ってください。



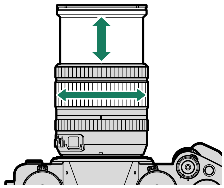
- レンズや AF 補助光ランプに指などがかかると、ピンぼけや暗い写真になることがあります。ご注意ください。



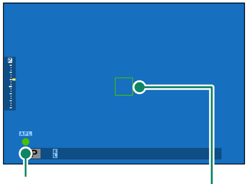
8 構図を決めます。

ズームリングがあるレンズを使用している場合

ズームリングを回して構図を調整します。広い範囲を写したいときは左方向、被写体を大きく写したいときは右方向に、ズームリングを回してください。



9 シャッターボタンを半押しして、被写体にピントと露出を合わせます。



- **ピントが合うと**、フォーカスフレームが緑色に点灯し、合焦マークが緑色に点灯します。
- **ピントが合わないときは、**フォーカスフレームが赤色に変わり、**!AF**が画面に表示され、合焦マークが白色に点滅します。

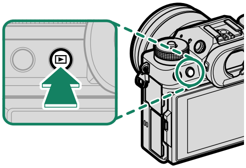
- 暗い被写体のピントを合わせやすくするためにAF補助光が発光する場合があります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントと露出は固定されます。そのまま半押しを続けて、ピントを固定することを「AFロック」、明るさを決めて固定することを「AEロック」といいます。
- レンズのマクロ領域から標準撮影距離範囲の全領域で、ピントが合います。

10 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込みます（全押しします）。

静止画を再生する

撮影した画像を再生します。

▶ ボタンを押すと、撮影した画像が表示（1 コマ再生）されます。





1 つ前の画像を見るにはセレクターボタンの左を押します。次の画像を見るにはセレクターボタンの右を押します。セレクターボタンを押したままにすると、早送りします。

- フロントコマンドダイヤルを回しても前後の画像を表示できます。
- 他のカメラで撮影した画像をこのカメラで再生すると、液晶モニターに 🎁（プレゼントアイコン）が表示されます。他のカメラで撮影した画像はきれいに表示されなかったり、拡大表示できなかったりするときがあります。

再生するメモリーカードについて

▶ ボタンを長押しすると、再生するメモリーカードを切り替えることができます。**再生メニュー** > **スロット切り替え**からも再生するメモリーカードの切り替えができます。

3 基本的な撮影と再生

HDMI 出力

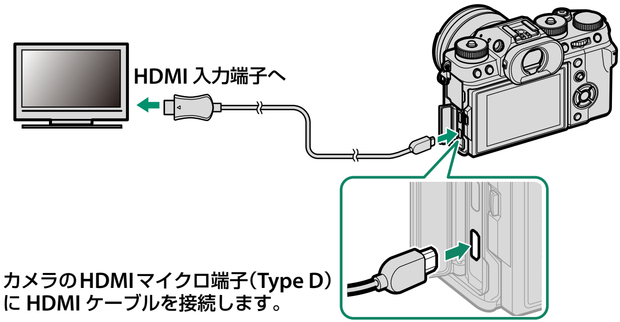
市販の HDMI ケーブルで HDMI 機器とカメラを接続して撮影画面や再生画面を出力できます。

HDMI 機器との接続

市販の HDMI ケーブルで HDMI 機器とカメラを接続します。

1 カメラの電源をオフにします。

2 市販の HDMI ケーブルでカメラとテレビを接続します。



3 テレビの入力を HDMI 入力に切り替えます。

テレビの音声 / 映像入力については、テレビの説明書をご覧ください。

4 カメラの電源をオンにします。

テレビの画面に液晶モニターの内容が表示されます。再生モードではカメラに表示されません（📖 58）。

- ケーブルは、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- HDMI ケーブルは、長さが 1.5 m 以内のものをご使用ください。

撮影画面の出力

ライブビューや動画をテレビに表示したり、HDMI 入力で録画できる外部レコーダーに保存したりできます。

再生画面の出力

撮影した静止画や動画をテレビなどに表示できます。カメラの電源をオンにして ▶（再生）ボタンを押すと、カメラの液晶モニターが消え、画像がテレビで再生されます。

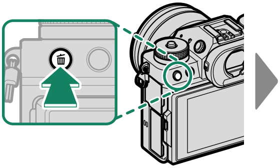
- HDMI ケーブルで接続しているときは、テレビの画面には記録した画像と音声が出力されます。
- テレビによっては、動画再生開始時に画面が一時的に黒くなる場合があります。
- 音量はテレビ側で調整してください。カメラで再生音量の設定をしても、音量は変わりません。

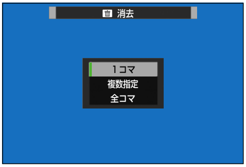
画像を消去する

1 コマ再生時に 🗑 ボタンを押すと、画像を消去できます。

誤って画像を消去すると元には戻せません。消去したくない画像は、プロテクトを設定するか、あらかじめパーソナルコンピューターにコピーしておいてください。

1 1 コマ再生中に 🗑 ボタンを押して、**1 コマ**を選びます。





2 セレクターボタンの左右を押して消去する画像を選んでから **MENU/OK** ボタンを押すと、表示されている画像が消去されます。

- **MENU/OK** ボタンを押すと同時に画像が消去されますので、誤って消去しないようにご注意ください。
- **MENU/OK** ボタンを繰り返し押すと画像が連続して消去されます。消去する画像を選んでから **MENU/OK** ボタンを押してください。

- プロテクトされた画像は消去できません。消去するには、プロテクトを解除してください（📖 234）。
- **▶ 再生メニュー** > **消去**でも、画像を消去できます。複数指定 / 全コマ消去による消去方法は **▶ 再生メニュー** > **消去**をご覧ください（📖 230）。

MEMO

4 動画の撮影と再生

動画を撮影する

音声付きの動画を撮影できます。

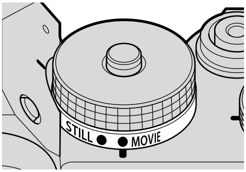
動画の撮影方法

このカメラは静止画 / 動画切換ダイヤルを **MOVIE** に合わせてシャッターボタンを押すか、**動画レリーズ**を割り当てたファンクションボタンを押すことで、動画を撮影できます。

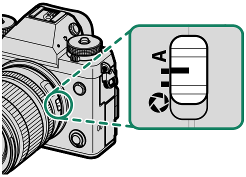
静止画 / 動画切換ダイヤル（MOVIE）

静止画 / 動画切換ダイヤルを **MOVIE** に合わせてからシャッターボタンを押すと、様々な設定を反映した動画を撮影することができます。

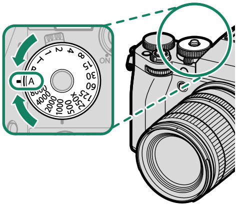
1 静止画 / 動画切換ダイヤルを **MOVIE** に合わせます。



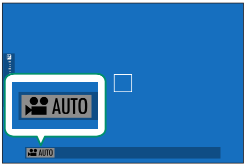
2 レンズの絞りモードスイッチを **A** に合わせます。



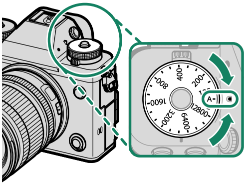
3 シャッタースピードダイヤルを **A** に合わせます。



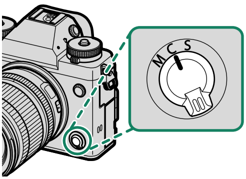
表示画面に **AUTO** が表示されます。



4 感度ダイヤルを **A** に合わせます。



5 フォーカスモード切換レバーを **C** に合わせます。



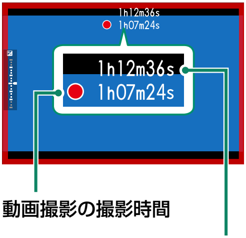
シャッタースピードダイヤルと感度ダイヤルは、ダイヤルロック解除ボタンを押してロックを解除してからダイヤルを回してください。

タッチパネル操作で設定することもできます（📖 28）。

6 **シャッターボタンを全押しします。**

動画撮影が開始されます。

- 撮影中は、◉ が表示されます。
- 動画撮影中は画面の外周が赤色で、ハイスピード撮影中は緑色で表示されます。
- 動画撮影の残り時間（カウントダウン）と撮影時間（カウントアップ）が表示されます。



7 **もう一度シャッターボタンを押すと、撮影が終了します。**

残り時間がなくなるか、メモリーカードに空きがなくなると、撮影は自動的に終了します。

ファンクションボタン（動画レリーズ）

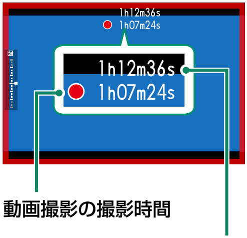
動画レリーズを割り当てたファンクションボタンを押すと、静止画撮影時に簡単に動画を撮影できます。

> フォーカスモードは自動的に **C**（AF-C）に変更され、露出はオートで撮影されます。

1 ファンクションボタンに**動画レリーズ**を割り当てます（📖 321）。

2 割り当てたファンクションボタンを押すと、動画撮影が開始されます。

- 撮影中は、◉ が表示されます。
- 動画撮影中は画面の外周が赤色で、ハイスピード撮影中は緑色で表示されます。
- 動画撮影の残り時間（カウントダウン）と撮影時間（カウントアップ）が表示されます。



3 もう一度ファンクションボタンを押すと、撮影が終了します。

残り時間がなくなるか、メモリーカードに空きがなくなると、撮影は自動的に終了します。

- 音声も同時に記録されるので、撮影中に指などでマイクをふさがないようご注意ください。
- 動画撮影中は、カメラの動作音が録音されることがあります。
- 高輝度の被写体を撮影すると、縦スジや横スジが入ることがありますが故障ではありません。

- ヘッドホンなどで音を聞きながら撮影する場合は USB 端子を使用します。付属のヘッドホン用アダプターで USB 端子から変換する必要があります。
- 動画の記録中は背面のインジケーターランプが点灯します。**動画設定**>**タリーランプ**で、点灯するランプ（インジケーターランプまたは AF 補助光ランプ）の切り替えや点灯または点滅の設定を変更できます。動画撮影中は ± 2 の範囲で露出補正が可能で、ズームリングがあるレンズを使用している場合は、ズームリングでズーム操作を行えます。
- **動画設定** > **REC 枠表示**を **OFF** に設定すると画面の外周の色表示をオフにできます。
- 動画撮影中も以下の操作が行えます。
  - 感度の変更
  - 次の操作による AF のやり直し
    - シャッターボタンの半押し
    - ファンクションボタンに **AF-ON** が割り当てられているボタンの操作
    - タッチパネル操作
  - **ヒストグラム**や**電子水準器切替**を割り当てたファンクションボタンを押して、ヒストグラムや水準器を表示
- 撮影モードや撮影の設定によっては、動画撮影できない場合や設定が反映された動画が撮影されない場合があります。
- 動画撮影時にフォーカスエリアを変更するには、**フォーカス設定** > **フォーカスエリア選択**を選んでから、フォーカスレバーとリアコマンドダイヤルを操作します（87）。

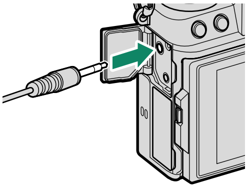
4
動画の撮影と再生

温度保護機能について

カメラやバッテリーの温度が上昇すると、カメラを保護するために自動的に電源がオフになる場合があります。温度警告が表示された場合は、画像にノイズが多くなる可能性があります。一度、電源をオフにし、しばらくたってからご使用ください。

外部マイクについて

このカメラでは、外部マイクを使用できます。外部マイクはプラグインパワーを必要としない φ 3.5 mm ピンで取り付けるものをご使用ください。詳しくはステレオマイクの使用説明書をご覧ください。



XLR マイクアダプターについて

このカメラではティアック株式会社製 XLR マイクアダプター（TASCAM CA-XLR2d-F）を使用できます。詳しくは以下の TASCAM のウェブサイトをご覧ください。

https://tascam.jp/jp/product/ca-xlr2d/

動画の設定について

動画の設定は静止画撮影メニューの **動画設定**または動画撮影メニューで変更できます（24）。

- 静止画撮影メニューの **動画設定**では、**動画レリーズ**を割り当てたファンクションボタンを押して動画を撮影するときの簡単な設定ができます（183）。
- 動画撮影メニューでは、静止画 / 動画切換ダイヤルを **MOVIE** に設定してからシャッターボタンを押して撮影するときの設定ができます（187）。
- **動画モード**で動画サイズやフレームレートなどを変更できます。
- **メディア記録設定**でファイル形式やビットレート、動画の記録先スロットなどを変更できます。
- 動画撮影時のピント合わせの方法はフォーカスモード切換レバーで設定します。フォーカスモードを **S** にしても、**フォーカス設定** > **顔検出 / 瞳 AF 設定**が**顔検出 ON** または**被写体検出 AF 設定**が**被写体検出 ON** のときは、自動的に **C** になります。また、フォーカスモードが **M** のときは、**顔検出 ON** や**被写体検出 ON** にしても顔検出や被写体検出は行われません。

- 静止画撮影メニューの **動画設定**は動画撮影メニューの設定と共通です。片方の設定を変更すると、もう片方の設定も自動的に変更されます。
- **動画設定** > **メディア記録設定**の設定によって使用できるメモリーカードが異なります。
  - ビットレートが 360Mbps の場合はビデオスピードクラス V60 以上のメモリーカードをご使用ください。
  - ビットレートが 100Mbps または 200Mbps の場合は UHS スピードクラス 3 以上のメモリーカードをご使用ください。

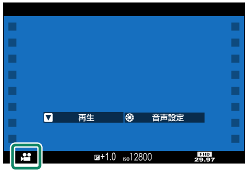
背景ボケを生かした動画について

絞りをできるだけ開放側に設定することでボケを生かした動画を撮影できます。絞りを **A** 以外に設定し、絞り値を調整します。

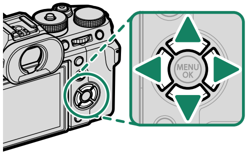
動画を再生する

撮影した動画をカメラで再生します。

画像の再生時に動画を選択すると、 が表示されます。1 コマ再生時に動画を選択してからセレクターボタンの下を押すと、動画を再生できます。



動画再生時の操作は、セレクターボタンで行います。



	1 コマ再生中	▶ 再生中	⏸ 一時停止中
上	情報表示の切り替え	停止	
下	再生	一時停止	再生
左右	前後の画像に移動	再生速度	コマ送り

動画再生時には、進行状況を示すバーが表示されます。



スピーカーを指などでふさがないでください。音が聞き取りにくくなります。

- 再生中に **MENU/OK** ボタンを押すと、再生音量の設定画面が表示されます。セレクターボタンの上下を押して動画の再生音量を選び、**MENU/OK** ボタンで決定します。動画の再生音量は、**音設定** > **再生音量**でも設定できます。
- ヘッドホンなどで音を聞く場合は USB 端子を使用します。付属のヘッドホン用アダプターで USB 端子から変換する必要があります。
- カメラとテレビを HDMI ケーブルで接続してから ▶ ボタンを押すと、撮影した動画をカメラのかわりにテレビで見ることができます（📖 57）。

動画の再生速度について

セレクターボタンの左右で、再生速度を変更できます。再生速度は再生アイコンの ▶（◀）の数で表示されます。▶（◀）の数が多いほど速度が速くなります。



再生アイコン

5 撮影に関する設定

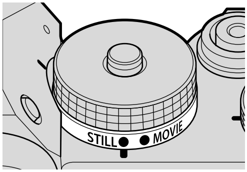
P、S、A、M で撮影する

シャッタースピードと絞り値の設定を変更して **P**、**S**、**A**、**M** で撮影します。

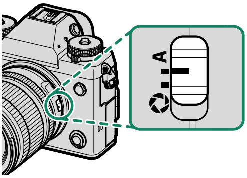
プログラム（P）撮影

カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。プログラムシフトで同じ露出値のままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることもできます。

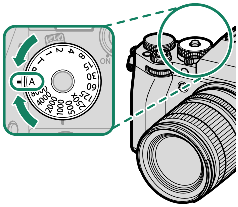
1 静止画 / 動画切換ダイヤルを **STILL** に合わせます。



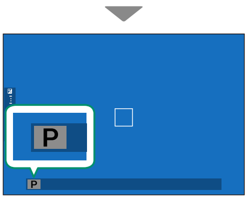
2 レンズの絞りモードスイッチを **A** に合わせます。



3 シャッタースピードダイヤルを **A** に合わせます。



表示画面に **P** が表示されます。



- 被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、シャッタースピードおよび絞り値が「–––」と表示されます。
- シャッタースピードダイヤルは、ダイヤルロック解除ボタンを押してロックを解除してからダイヤルを回してください。
- 絞りリングなしレンズを使用しているときは、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **絞り設定**を**オート**に設定してください。

プログラムシフトの設定

リアコマンドダイヤルを回すと、同じ露出のままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができます。



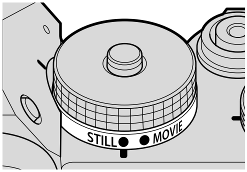
次のとき、プログラムシフトは使用できません。
- **フラッシュ設定** > **フラッシュ機能設定**の発光モードが **TTL** のとき
- **画質設定** > **ダイナミックレンジ**が **AUTO** のとき
- 動画を撮影しているとき

電源をオフにすると、設定したプログラムシフトは解除されます。

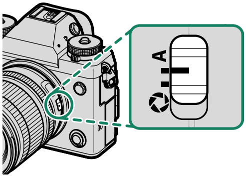
シャッタースピード優先（S）撮影

設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値を設定します。

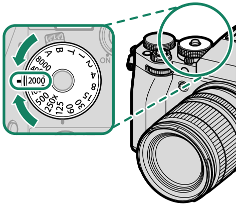
1 静止画 / 動画切換ダイヤルを **STILL** に合わせます。



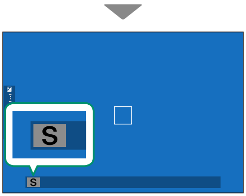
2 レンズの絞りモードスイッチを **A** に合わせます。



3 シャッタースピードダイヤルを回してシャッタースピードを設定します。



表示画面に **S** が表示されます。



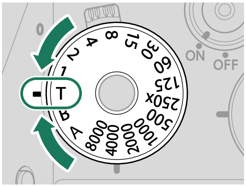
- 設定したシャッタースピードで適正な明るさにならないときは、絞り値が赤色で表示されます。
- 被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、絞り値が「---」と表示されます。
- シャッタースピードダイヤルは、ダイヤルロック解除ボタンを押してロックを解除してからダイヤルを回してください。
- 絞りリングなしレンズを使用しているときは、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **絞り設定**を**オート**に設定してください。

- リアコマンドダイヤルでシャッタースピードを 1/3 段きざみで微調整できます。
- シャッターボタンを半押ししている間や **AFON** ボタンを押している間もシャッタースピードを変更できます。
- シャッタースピードを 1 秒以上に設定したときは、撮影中にカウントダウンで残りの露光時間が表示されます。
- 長時間露光撮影でノイズが気になる場合は、**画質設定** > **長秒時ノイズ低減**を **ON** にすると、ノイズを低減できます。ノイズ低減処理を行うため、画像の記録に時間がかかる場合があります。
- 長時間露光撮影中にカメラが動くとピントがずれるので、三脚のご使用をおすすめします。

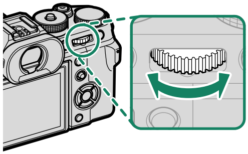
タイム撮影（T）

シャッタースピードを **T** に設定すると、タイム撮影ができます。カメラが動くとピントがずれるので、長時間露出で撮影する場合は、三脚のご使用をおすすめします。

1 **シャッタースピードを T に設定します。**



2 リアコマンドダイヤルで露光時間を設定します。



3 シャッターボタンを全押しすると、設定した時間シャッターが開きます。

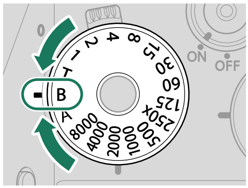
露光時間を 1 秒以上に設定したときは、撮影中にカウントダウンで残りの露光時間が表示されます。

> 長時間露光撮影でノイズが気になる場合は、**IQ 画質設定** > **長秒時ノイズ低減**を **ON** にすると、ノイズを低減できます。ノイズ低減処理を行うため、画像の記録に時間がかかる場合があります。

バルブ撮影（B）

シャッタースピードを **B** に設定すると、バルブ撮影ができます。カメラが動くとピントがずれるので、長時間露出で撮影する場合は、三脚のご使用をおすすめします。

1 シャッタースピードを **B** に設定します。



2 シャッターボタンを全押ししている間、シャッターが開きます。

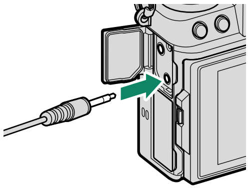
- シャッターが開くのは、最大 60 分間です。
- 撮影中は、経過時間が表示されます。
- シャッターボタンから指を離すとシャッターが閉じて撮影を終了します。撮影を終了すると、撮影した画像の処理を行います。処理が終わるまでの時間が表示されます。

ドライブモードで **1 コマ撮影**以外を選んでいるときや、**撮影設定** > **シャッター方式**で電子シャッターを選んでいるときは、バルブ撮影はできません。

- 絞りを **A**（オート）に設定している場合は、シャッタースピードは 30 秒に固定されます。
- 長時間露光撮影でノイズが気になる場合は、**画質設定** > **長秒時ノイズ低減**を **ON** にすると、ノイズを低減できます。ノイズ低減処理を行うため、画像の記録に時間がかかる場合があります。

リモートレリーズを使用する

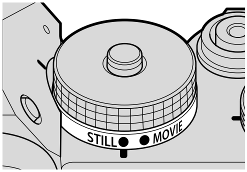
長時間露光撮影時には、リモートレリーズが便利です。リモートレリーズ端子に、別売のリモートレリーズ RR-100 や市販の電子式リモートレリーズを取り付けます。



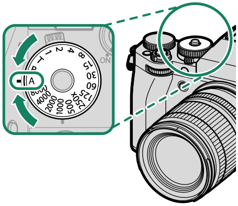
絞り優先（A）撮影

設定した絞り値に合わせて、カメラがシャッタースピードを自動的に決定します。

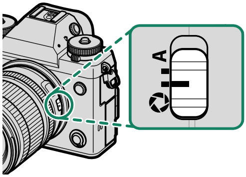
1 静止画 / 動画切換ダイヤルを **STILL** に合わせます。



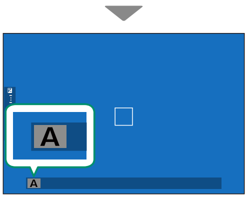
2 シャッタースピードダイヤルを **A** に合わせます。



3 レンズの絞りモードスイッチを ✿ に合わせます。



表示画面に **A** が表示されます。



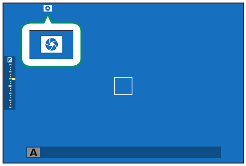
4 レンズの絞りリングを回して、絞り値を設定します。

- 設定した絞り値で適正な明るさにならないときは、シャッタースピードが赤色で表示されます。
- 被写体の明るさがカメラで測光できる明るさの範囲を超えると、シャッタースピードが「–––」と表示されます。
- シャッタースピードダイヤルは、ダイヤルロック解除ボタンを押してロックを解除してからダイヤルを回してください。
- 絞りリングなしレンズを使用しているときは、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **絞り設定**を**マニュアル**に設定してください。

シャッターボタンを半押ししている間も絞りを変更できます。

被写界深度を確認するには

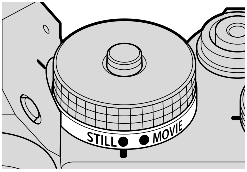
被写界深度を確認するには、ファンクションボタンに**被写界深度確認**を割り当てます。割り当てたファンクションボタンを押すと、が表示され、そのときの絞り値の被写界深度がスルー画で確認できます。



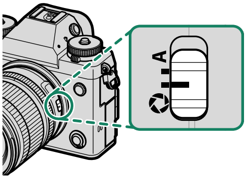
マニュアル（M）撮影

マニュアルでは、シャッタースピードや絞り値を撮影者が設定できます。意図的に「オーバー（明るい）」または「アンダー（暗い）」の露出を設定できるので、個性的で多彩な表現が可能になります。マニュアルで撮影するには、露出インジケーターを確認しながら、絞り値とシャッタースピードを設定します。

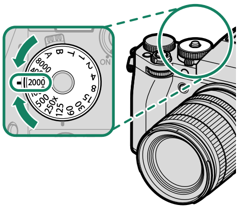
1 静止画 / 動画切換ダイヤルを **STILL** に合わせます。



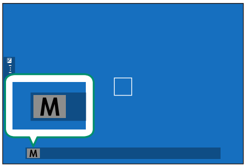
2 レンズの絞りモードスイッチを に合わせます。



3 シャッタースピードダイヤルを回して
シャッタースピードを **A** 以外に設定します。



表示画面に **M** が表示されます。



4 シャッタースピードダイヤルを回してシャッタースピードを設定し、レンズの絞りリングを回して絞り値を設定します。

露出インジケーターを確認しながら、絞り値とシャッタースピードを設定します。

シャッタースピードダイヤルは、ダイヤルロック解除ボタンを押してロックを解除してからダイヤルを回してください。

リアコマンドダイヤルでシャッタースピードを 1/3 段きざみで微調整できます。

露出設定プレビューについて

表示設定 > **マニュアル時モニター露出 / WB 反映**が**露出反映 /WB 反映**のときは、露出を反映した画像が画面に表示されます。

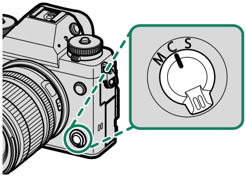


フラッシュ撮影など、撮影時に露出が変わる場合は、**マニュアル時モニター露出 / WB 反映**を**露出反映 /WB 反映**以外にしてください。

オートフォーカス撮影

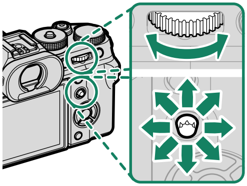
ここでは、カメラが自動的にピントを合わせて撮影するときの設定について説明しています。

1 フォーカスモード切換レバーを **S** または **C** に設定します（📖 83）。



2 AF モードを選びます（📖 85）。

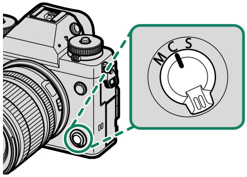
3 フォーカスエリアの位置やサイズを変更します（📖 87）。



4 撮影します。

フォーカスモード

フォーカスモードは、フォーカスモード切換レバーで設定します。



フォーカスモードの種類

フォーカスモード	内容
S **（AF-S）**	シングル AF で撮影します。シャッターボタンを半押しすると、カメラが一度だけ自動的にピントを合わせます。スナップや風景など動きのない被写体の撮影に適しています。
C **（AF-C）**	コンティニュアス AF で撮影します。シャッターボタンを半押しすると、カメラが常にピントを合わせ続けます。動きのある被写体の撮影に適しています。
M **（マニュアルフォーカス）**	意図した場所にピントを手動で合わせます。オートフォーカスの苦手な被写体を撮影するときや意図的にピントをずらしたいときなどに使用します（📖 91）。

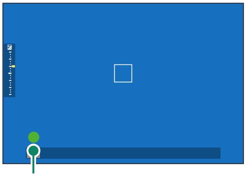
- レンズ側で **M**（マニュアルフォーカス）を設定できる交換レンズをご使用の場合は、フォーカスモード切換レバーを **S** または **C** に設定していても **M**（マニュアルフォーカス）で撮影できます。
- フォーカスモードが **S** または **C** のときは、**AF/MF フォーカス設定** > **プリ AF** を **ON** にすると、シャッターボタンを半押ししていないときも常にピントを合わせ続けます。

5 撮影に関する設定

合焦マークについて

合焦マークでピントの状況を確認できます。

合焦マーク	状況
( )	ピントが合うところを探しています。
●　（緑点灯）	**S** のときにピントが合って固定されています。
（●）（緑点灯）	**C** のときにピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変化します。
○　（白点滅）	ピントが合っていません。
MF	**M** のときに表示されます。



合焦マーク

AF モードの選択

フォーカスモードと AF モードの組み合わせで、さまざまな撮影シーンに応じたフォーカス設定を選択できます。

AF モードの設定方法

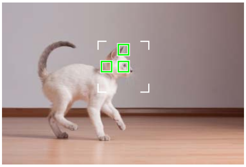
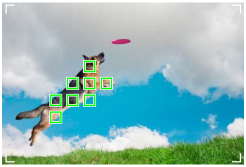
1 **MENU/OK** ボタンを押して、撮影メニューを表示します。

2 **フォーカス設定** > **AF モード**を選びます。

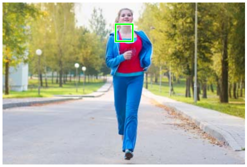
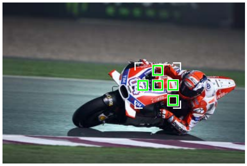
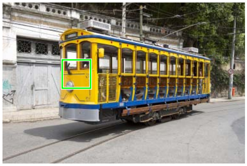
3 設定する AF モードを選びます。

AF モードの種類

- **フォーカスモードが S（AF-S）のとき**

設定	用途例	作例
シングルポイント	被写体を 1 点のスポットで捉えるモードで、基本的な AF モードです。フォーカスエリア選択で設定したフォーカスエリアにピントを合わせます。	
ゾーン	シングルポイントでは捉えにくい、やや動きのある被写体やスナップなどに向くモードです。フォーカスエリア選択で設定したゾーンにピントを合わせます。	
ワイド	画面内にあるコントラストが高い被写体に自動でピントを合わせるモードです。ピントの合った位置に AF エリアが表示されます。	
オール	フォーカスエリアの選択画面を表示しているときにリアコマンドダイヤルを回すと（87、88）、**シングルポイント**、**ゾーン**、**ワイド**の順でフォーカスエリアを選択できます。	

- **フォーカスモードが C（AF-C）のとき**

設定	用途例	作例
シングルポイント	前後直線的な動きをスポットで捉えるモードです。フォーカスエリア選択で設定したフォーカスエリアにピントを合わせ続けます。	
ゾーン	ある程度予測可能な動きに向いた AF モードです。フォーカスエリア選択で設定したゾーンに常にピントを合わせ続けます。	
トラッキング	画面内を広く動く被写体に向くモードです。被写体の移動に合わせて全フォーカスエリア内をカメラが自動で追尾します。	
オール	フォーカスエリアの選択画面を表示しているときにリアコマンドダイヤルを回すと（📖 87、88）、**シングルポイント**、**ゾーン**、**トラッキング**の順でフォーカスエリアを選択できます。	

フォーカスエリアの変更

フォーカスモードが **S** または **C** のときのフォーカスエリアを変更できます。

フォーカスエリアの変更方法

1 **MENU/OK** ボタンを押して、撮影メニューを表示します。

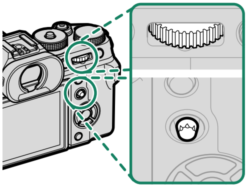
2 **AF MF フォーカス設定** > **フォーカスエリア選択**を選び、フォーカスエリアの選択画面を表示します。

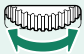
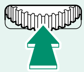
3 フォーカスレバーとリアコマンドダイヤルでフォーカスエリアを変更します。

タッチ操作によるフォーカスエリアの変更は「撮影時のタッチ操作について」をご覧ください（📖 26）。

フォーカスエリアの操作

フォーカスエリアの移動はフォーカスレバーで、サイズ変更はリアコマンドダイヤルでそれぞれ操作します。**AF モード**の設定によって操作が異なります。



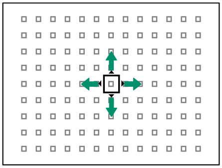
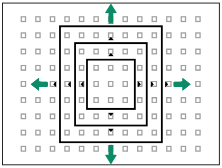
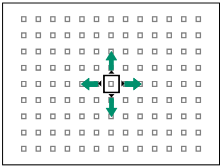
<table>
<tr><th rowspan="2">AFモード</th><th colspan="2">フォーカスレバー</th><th colspan="2">リアコマンドダイヤル</th></tr>
<tr><th>
8 方向移動</th><th>
中央押し</th><th>
回す</th><th>
中央押し</th></tr>
<tr><td>[·]</td><td rowspan="3">移動した方向にフォーカスエリアが移動</td><td rowspan="3">フォーカスエリアが中央に戻る</td><td>サイズ変更（6 段階）</td><td rowspan="2">100% に戻る</td></tr>
<tr><td>[ ]</td><td>サイズ変更（3 段階）</td></tr>
<tr><td>[ ]</td><td colspan="2">なし</td></tr>
</table>

- **ワイド / トラッキング**のフォーカスエリアは、フォーカスモードが **C** のときのみ有効です。
- **AF モード**が **オール**の場合は、フォーカスエリアの選択画面を表示しているときにリアコマンドダイヤルを回すと、**シングルポイント**（サイズ 6 段階）、**ゾーン**（サイズ 3 段階）、**ワイド**（AF-S のとき）または **トラッキング**（AF-C のとき）の順でフォーカスエリアを選択できます。

フォーカスエリアの選択画面

フォーカスエリアの選択画面は AF モードの設定によって異なります。

小さな四角（□）ひとつが**フォーカスエリアポイント**で、枠で囲んだエリアが**フォーカスエリア**です。

		
フォーカス設定 > **フォーカス点数切り替え**でフォーカスエリアポイントの点数を **117** と **425** から選べます。	117 のフォーカスエリアポイントを 3 × 3、5 × 5、7 × 7 の範囲で選べます。	コンティニュアス AF でトラッキングしたい被写体の位置にフォーカスエリアを移動できます。

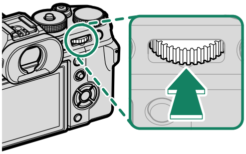
オートフォーカスの苦手な被写体について

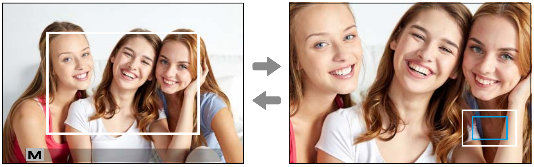
このカメラは精密なオートフォーカス機構を搭載していますが、次のような被写体や条件の場合、ピントが合いにくいことがあります。

- 鏡や車のボディなど光沢のあるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮などの暗い色で、光を反射せずに吸収するもの
- 煙や炎などの実体のないもの
- 背景との明暗差が少ないもの
- AF フレーム内にコントラスト差が大きいものがあり、その前か後ろに被写体がある場合（コントラストの強い背景の前にある被写体など）

拡大表示してピントを確認する

リアコマンドダイヤルの中央を押すと拡大して表示され、ピントの確認がしやすくなります。もう一度リアコマンドダイヤルの中央を押すと通常表示に戻ります。拡大表示する位置はフォーカスエリア選択で変更できます。





通常表示　　拡大表示

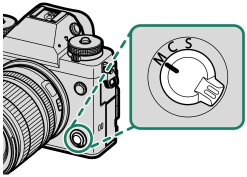
- フォーカスモードが **S** のときは、拡大表示中にリアコマンドダイヤルを回すと、拡大表示の倍率を変更できます。
- 拡大表示中にフォーカスレバーを動かすと、拡大表示のままフォーカスエリアを移動できます。
- フォーカスモードが **S** のときは、**AF モード**を **シングルポイント**に設定してください。
- フォーカスモードが **C** または **フォーカス設定** > **プリ AF** が **ON** のときは、拡大表示できません。
- リアコマンドダイヤルの中央押しは、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **ファンクション（Fn）設定**で他の機能を割り当てることができます。また拡大表示の機能を他のボタンに割り当てることもできます（321）。

5 撮影に関する設定

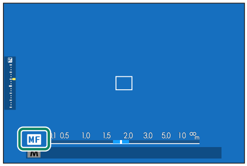
マニュアルフォーカス撮影

意図した場所にピントを手動で合わせて撮影する方法を説明します。

1 フォーカスモード切換レバーを **M** に設定します。

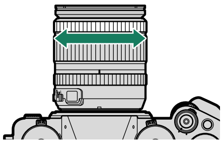


画面に MF が表示されます。



2 フォーカスリングを回してピントを合わせます。

フォーカスリングを時計回りに回すと遠距離側に、反時計回りに回すと近距離側にピントが合います。



3 撮影します。

- フォーカスリングを回す方向は、**操作ボタン･ダイヤル設定** > **レンズズーム / フォーカス設定**で設定できます。
- レンズ側で **M**（マニュアルフォーカス）を設定できる交換レンズをご使用の場合は、フォーカスモード切換レバーを **S** または **C** に設定していても **M**（マニュアルフォーカス）で撮影できます。

マニュアルフォーカス時の AF ロック機能について

- AF ロックまたは **AF-ON** が割り当てられているファンクションボタンを押すと、フォーカスフレーム内の被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。ピントを合わせる位置は、フォーカスエリア選択で変更できます。フォーカスエリアのサイズはリアコマンドダイヤルで変更できます。素早くピントを合わせたいときに便利です。
- **AF MF フォーカス設定** > **📷🎥 ワンプッシュ AF 時の動作**で、AF ロックを割り当てたファンクションボタンの動作を変更できます。**AF-S**（シングル AF）のときはボタンを押すとオートフォーカスでピントを合わせます。**AF-C**（コンティニュアス AF）のときはボタンを押している間、オートフォーカスでピントを合わせ続けます。

5

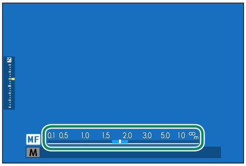
撮影に関する設定

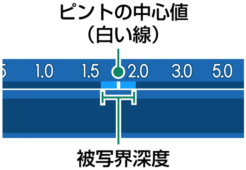
ピントの確認方法

マニュアルフォーカス撮影では、以下の方法でピントを確認できます。

距離指標を目安にする

白い線はピントの中心値を、青いバーは被写界深度を示します。距離指標の単位は、**表示設定** > **距離指標の単位**で**メートル**と**フィート**を切り替えられます。





- 距離指標を表示するには、以下の設定が必要です。
  - **表示設定** > **画面のカスタマイズ**で「AF 時の距離指標」「MF 時の距離指標」に☑を入れる。
  - **DISP/BACK** ボタンを押して、**スタンダード**（情報表示あり）画面に切り替える。
- 被写界深度のスケール（ゲージ）の基準を **フォーカス設定** > **被写界深度スケール**で設定できます。**フィルム基準**はプリント画像などを観賞するときの実用的な被写界深度を確認するときの目安にし、**ピクセル基準**はパーソナルコンピューターなどの画面で拡大表示して厳密な被写界深度を確認するときの目安にします。

拡大表示して確認する（フォーカスチェック）

AF/MF フォーカス設定 > **フォーカスチェック**を **ON** にすると、フォーカスリングを回したときに自動的に拡大表示され、ピントの確認がしやすくなります。リアコマンドダイヤルの中央を押すと通常表示に戻ります。拡大表示する位置は、フォーカスエリア選択で変更できます。

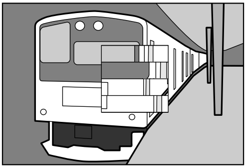
- 拡大表示中にフォーカスレバーを動かすと、拡大表示のままフォーカスエリアを移動できます。
- 拡大表示中にリアコマンドダイヤルを回すと、拡大表示の倍率を変更できます。ただし、MF アシストに**デジタルスプリットイメージ**または**デジタルマイクロプリズム**を設定しているときは、倍率変更できません。

画面に表示された画像で確認する

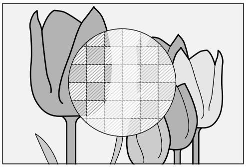
ピントの確認方法を静止画撮影メニューの **AF/MF フォーカス設定** > **MF アシスト**（156）または動画撮影メニューの **AF/MF フォーカス設定** > **MF アシスト**（208）で選べます。

静止画撮影時と動画撮影時で使用できるピントの確認方法が異なります。

- **デジタルスプリットイメージ**
  画面中央部にスプリットイメージが表示されます。スプリットイメージの上部、中央部、下部に 3 本の分割線があるので、ピントを合わせたい被写体が分割線上に写るようにして、分割線上下での像のズレが無いようにフォーカスリングを回して、フォーカスを調整してください。



- **デジタルマイクロプリズム**
  ピントがずれているときは像のボケが強調されて格子模様になり、ピントが合うと格子模様が消えて像が明確になります。



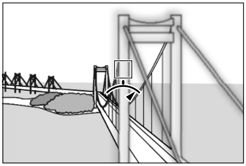
- **フォーカスピーキング**

  コントラストの高い輪郭部分が強調されます。フォーカスリングを回して、撮影したい被写体が強調されるように調整してください。



- **フォーカスメーター**

  フォーカスエリアの下に矢印が表示され、被写体の前後どちらにピントが合っているかを示します。矢印が左を指しているときは被写体より手前に、右を指しているときは被写体の後ろにピントが合っています。矢印が真上を指すようにフォーカスを調整してください。

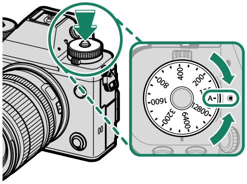


操作ボタン・ダイヤル設定 ＞ レンズ ズーム / フォーカス設定 ＞ フォーカスリング回転方向を **反時計回り**に設定すると、矢印の表示は左右逆になります。

ISO 感度を変更

光に対する ISO 感度を変更できます。

ダイヤルロック解除ボタンを押してロックを解除してから感度ダイヤルを回して、ISO 感度を設定します。ISO 感度を設定したらダイヤルロック解除ボタンをもう一度押して、ダイヤルをロックします。



ダイヤル設定	説明
A（オート）	被写体の明るさに応じて ISO 感度が自動的に設定されます。**撮影設定** > **感度 AUTO 設定**で **AUTO1**、**AUTO2**、**AUTO3** の設定を選びます。
C（コマンド）	フロントコマンドダイヤルで 64 ～ 51200、**AUTO1**、**AUTO2**、**AUTO3** の ISO 感度を変更できます。64 ～ 100 と 25600、51200 は拡張モードです。拡張モードでは標準感度よりもダイナミックレンジが狭くなったり、ノイズが多くなったりする場合があります。
125 ～ 12800	設定値を選べます。設定した値は、画面に表示されます。

ISO 感度の設定について

ISO 感度の設定値が大きいほど、暗い場所での撮影が可能になります。ただし、高感度になるほど、画像に粒子状のノイズが増えます。条件に合わせて ISO 感度設定を使い分けてください。

AUTO 設定について

撮影設定 ＞ 感度 AUTO 設定で ISO 感度を **A**（オート）に合わせたときの**基準 ISO 感度**、**上限 ISO 感度**、**低速シャッター限界**を設定できます。**AUTO1**、**AUTO2**、**AUTO3** にそれぞれ異なった値を設定できます。

設定	設定値	工場出荷時の設定値		
		AUTO1	**AUTO2**	**AUTO3**
基準 ISO 感度	125 ～ 12800	125		
上限 ISO 感度	400 ～ 12800	800	3200	12800
低速シャッター限界	1/8000 ～ 30 秒、AUTO	AUTO		

基準 ISO 感度と**上限 ISO 感度**を設定すると、その範囲内で最適な露出になるようにカメラが自動的に ISO 感度を設定します。また、**低速シャッター限界**では、ISO 感度が自動で切り替わるシャッタースピードの低速側の限界値を設定できます。

- **上限 ISO 感度**よりも**基準 ISO 感度**を高く設定している場合は、**上限 ISO 感度**で設定されている ISO 感度で撮影されます。
- **基準 ISO 感度**と**上限 ISO 感度**の範囲内でも最適な露出が得られない場合は、**低速シャッター限界**で設定したシャッタースピードよりも遅くなる場合があります。
- **低速シャッター限界**を **AUTO** にすると、レンズの焦点距離に応じてカメラが自動的に低速シャッター限界の値を設定します（手ブレ補正の ON/OFF によって、設定は変わりません）。

測光モードを変更

カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更できます。撮影状況により、適正な明るさ（露出）にならないときに使用します。

撮影設定 ＞ **測光**で使用する測光モードを設定します。

測光モードを変更するときは、**フォーカス設定** ＞ **顔検出 / 瞳 AF 設定**と**被写体検出 AF 設定**を **OFF** にしてください。

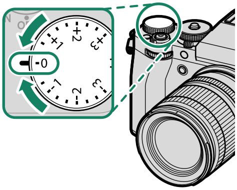
設定	説明
マルチ	被写体の輝度分布や色、背景や構図などの情報を瞬時にカメラが判断し、さまざまな撮影状況で適正な露出が得られます。通常の撮影では、（マルチ）をおすすめします。
中央部重点	撮影画面の中央部を重点的に測光して露出値を決定します。
[•] スポット	画面の約 2% 部分の露出が最適になるように測光します。逆光時など、被写体と背景の明るさが大きく異なるときなどに使用します。
[ ] アベレージ	画面全体を平均して測光します。構図や被写体により露出が変化しにくい特長があり、白や黒の服を着た人や風景の撮影などに使用します。

フォーカス設定 ＞ **測光 & フォーカスエリア連動**を **ON** にしているときは、フォーカスフレームの位置を測光します（157）。

露出補正

画像の明るさを調整できます。

露出補正ダイヤルを回して、露出を補正します。

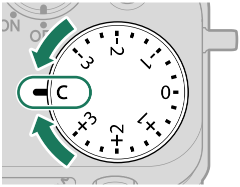


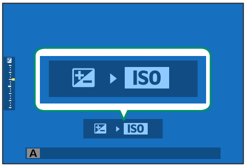
- モードによって補正段数が制限されることがあります。
- 露出補正の結果は撮影画面に反映されます。ただし、以下の設定では反映されないことがあります。
  - 露出補正量が± 3 段を超えたとき
  - **ダイナミックレンジ**を DR200 **200%**、DR400 **400%**に設定したとき
  - **D レンジ優先**を**強**または**弱**に設定したとき

  この場合、シャッターボタンを半押しすると、補正した明るさを液晶モニターまたはファインダーで確認できます。
  なお、動画モードにおいてダイナミックレンジを DR200 **200%**、DR400 **400%**に設定、または、F-log 撮影の場合も露出補正が反映されないことがあります。この場合は撮影モードをマニュアル（**M**）にして直接露出を指定することで対応してください。

C（カスタム）について

露出補正ダイヤルを **C** の位置にしてフロントコマンドダイヤルを回すと、露出が設定できます。





- フロントコマンドダイヤルによる露出補正では、± **5** の範囲で補正が可能になります。
- フロントコマンドダイヤルを押すと、フロントコマンドダイヤルの機能を切り替えることができます（📖 296）。

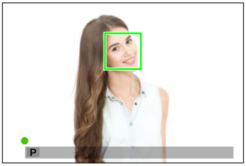
AE/AF ロック撮影

シャッターボタンを半押しすると、明るさとピントが固定されます。

1 AE/AF ロックしたい被写体に AF フレームを合わせます。

2 シャッターボタンを半押しします。

被写体に露出とピントが合い、AF フレームが緑点灯します。

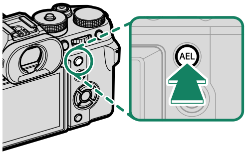


3 そのままシャッターボタンを全押しして、撮影します。

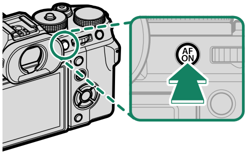
> シャッターボタンによる AE/AF ロック撮影を行う場合は、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **半押し AF**、**半押し AE** を **ON** にしておく必要があります。

ボタンによる AE/AF ロック

AEL ボタンを使用すると、AE ロックのみを行えます（工場出荷時の設定）。**AFON** ボタンに **AF LOCK のみ**を割り当てた場合、**AFON** ボタンを使用すると、AF ロックのみを行えます。



AEL ボタン（AE ロック）



AFON ボタン

- **AEL** ボタンまたは **AFON** ボタンで AE ロック / AF ロックしたときは、シャッターボタンを半押ししてもロックは解除されません。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **AE/AF-LOCK 設定**を**押下切替**にすると、**AEL** ボタンまたは **AFON** ボタンから指を離しても AE ロックや AF ロックは解除されなくなります。解除するときは、もう一度ボタンを押します。

- AE ロック中にフォーカスレバーでフォーカスポイントの位置を変更することができます。
- **AEL** ボタンや **AFON** ボタンには **操作ボタン・ダイヤル設定** > **ファンクション（Fn）設定**で他の機能を割り当てることができます。また使用するボタンは変更できます（321）。

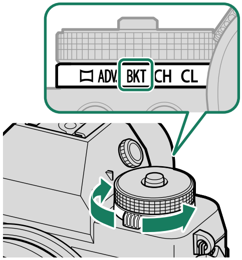
5

撮影に関する設定

ブラケティング撮影

一度シャッターボタンを押すと、それぞれの設定値を変えながら複数枚連続で撮影するブラケティング撮影ができます。

1 ドライブダイヤルを **BKT**（ブラケティング）に合わせます。



2 使用したいブラケティングの種類と設定値を 撮影設定 > ドライブ設定 > **BKT 設定**で選びます（162）。

> この設定はショートカット機能でも設定できます（312）。

3 撮影します。

AE ブラケティング

画像の明るさ（露出）を「適正」、「オーバー（明るい）」、「アンダー（暗い）」に変えながら選んだ撮影コマ数分連続撮影します。1 コマ / 連続撮影やステップ幅、撮影順序なども設定できます。

> アンダーまたはオーバーの露出がカメラの露出制御範囲を超えるときは、設定した**ステップ数**で撮影されません。

ISO ブラケティング

撮影した 1 枚の画像から、設定した ISO 感度を変化させて 3 枚の画像を作成します。変化させる ISO 感度は **±1/3**、**±2/3**、**±1** から選べます。

フィルムシミュレーション BKT

撮影した 1 枚の画像から、それぞれ設定したフィルムシミュレーションの設定に変化させて 3 枚の画像を作成します。

ホワイトバランス BKT

一度シャッターボタンを押すと、「センター（ノーマル）」、「ブルー（プラス）」、「アンバー（マイナス）」の 3 枚の画像を作成します。設定したホワイトバランスから**±1**、**±2**、**±3** ステップの幅を設定できます。

ダイナミックレンジ BKT

一度シャッターボタンを押すと、ダイナミックレンジの設定を「100%」、「200%」、「400%」の順に変えながら、3 枚連続で撮影します。

ISO 感度を固定値に設定しているときは自動的に ISO500 以上になります。ダイナミックレンジブラケティングを解除すると、ISO 感度は元の設定に戻ります。

フォーカス BKT

一度シャッターボタンを押すと、設定に応じてピントを変えながら連続で撮影されます。**撮影設定** > **ドライブ設定** > **BKT 設定**の**フォーカス BKT** で撮影コマ数やステップ幅、撮影間隔を設定できます。

BKT 設定について

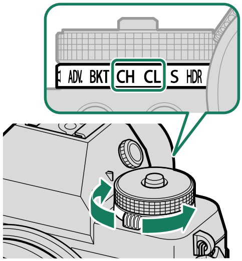
AE ブラケティング、**ISO ブラケティング**、**フィルムシミュレーション BKT**、**ホワイトバランス BKT**、**フォーカス BKT** の場合、ブラケティングの設定は**撮影設定** > **ドライブ設定** > **BKT 設定**で変更できます。

5 撮影に関する設定

連続撮影（連写）

シャッターボタンを押し続けている間、各連写設定に応じたコマ数で連続撮影します。動いている被写体などを連続して撮影するのに適しています。

1 ドライブダイヤルを **CH**（高速連写）または **CL**（低速連写）に合わせます。



2 **撮影設定** > **ドライブ設定**で連写速度を選びます。

> この設定はショートカット機能でも設定できます（312）。

3 撮影します。

シャッターボタンを押し続けている間、連続撮影します。

> シャッターボタンを放すか、メモリーカードに空きがなくなると、撮影は自動的に終了します。

- 連写中にファイル No. が 9999 を超えると、次のフォルダにまたがって記録されます。
- 連写中にメモリーカードの容量が不足すると、記録可能枚数分まで記録されます。ただし、連写モードによっては、空き容量がないときは撮影できない場合があります。
- 連写枚数が増えると、連写速度が遅くなる場合があります。
- シャッタースピード、ISO 感度、シーン、フォーカスモードによっては、連写速度が変わる場合があります。
- 撮影条件によっては、連写速度が低下したり、フラッシュが発光しなかったりする場合があります。
- 連続撮影では、撮影した画像を記録する時間が長くなる場合があります。
- **撮影設定** > **シャッター方式**の設定によって選べる連写の種類が異なります。

ピントや露出について

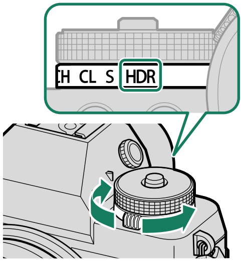
- ピントを自動で変えながら撮影したいときは、フォーカスモードを **C** に設定してください。
- 露出を自動で変えながら撮影したいときは、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **半押し AE** を **OFF** にしてください。

絞りや ISO 感度、露出補正などの撮影条件によっては、ピントや露出の自動調整が有効にならない場合があります。

HDR 撮影

一度シャッターボタンを押すと明るさの異なる 3 枚の画像を撮影し、1 枚の画像に合成します。白飛びや黒つぶれの少ない画像を撮影できます。

1 ドライブダイヤルを **HDR** に合わせます。



2 **撮影設定 > ドライブ設定 > HDR モード**で明るさの変化量を設定します（166）。

設定	おすすめ用途
AUTO	ダイナミックレンジを 200% から 800% の間で自動で設定します。
200%	ダイナミックレンジを 200% に設定します。
400%	ダイナミックレンジを 400% に設定します。
800%	ダイナミックレンジを 800% に設定します。
800% +	ダイナミックレンジがもっとも広くなるようにカメラが最適な設定を行います。

3 撮影します。

合成された画像が撮影されます。

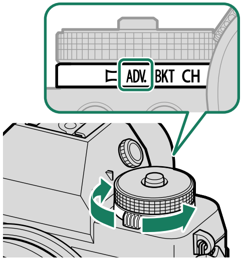
- 撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- 被写体が動いたり構図が変わったりする場合や、被写体の明るさが変わる場合は、意図したとおりの画像が撮影できないことがあります。
- 画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像度が若干低下します。
- ダイナミックレンジが広くなるほど、画像にノイズが増えます。状況に応じてダイナミックレンジ設定を使い分けてください。
- 拡張感度は使用できません。
- HDR の設定と ISO 感度の設定によっては、シャッタースピードが設定した値にならないことがあります。
- フラッシュは発光しません。

HDR 撮影で合成された画像には再生時に アイコンが表示されます。

アドバンストフィルター撮影

さまざまなフィルター効果を加えて撮影できます。

1 ドライブダイヤルを **ADV.**（アドバンストフィルター）に合わせます。



2 📷 **撮影設定** > **ドライブ設定** > **ADV. フィルター設定**で使用したいアドバンストフィルターを選びます。

> この設定はショートカット機能でも設定できます（📖 312）。

3 撮影します。

アドバンストフィルターの種類

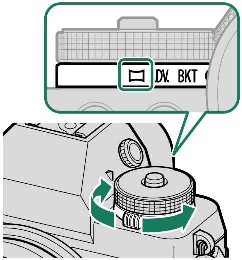
トイカメラ	レトロな雰囲気のあるトイカメラ風な写真に仕上がります。
ミニチュア	ジオラマ風に上下をぼかします。
ポップカラー	コントラストと彩度を強調します。
ハイキー	全体的に階調を明るくし、コントラストを抑えます。
ローキー	全体を暗く落ち着かせつつ、ハイライト部分を強調します。
ダイナミックトーン	ダイナミックな階調表現で、幻想的な効果を加えます。
ソフトフォーカス	全体にぼかしを加え、やわらかな雰囲気を与えます。
パートカラー（レッド）	特定の色域（カッコ内の色）だけを残し、残りをモノクロにします。
パートカラー（オレンジ）	
パートカラー（イエロー）	
パートカラー（グリーン）	
パートカラー（ブルー）	
パートカラー（パープル）	

被写体やカメラの設定によっては、画像が粗くなったり意図したような明るさや色味にならなかったりする場合があります。

パノラマ撮影

カメラを動かしながら撮影した複数の画像を合成し、高画質な1枚のパノラマ写真を作成します。

1 ドライブダイヤルを ▭（パノラマ）に合わせます。



2 撮影する角度（撮影画角）を選びます。

セレクターボタンの左を押して撮影画角変更画面を表示させ、撮影する画角の大きさを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

3 撮影方向を選びます。

セレクターボタンの右を押して撮影方向選択画面を表示させ、撮影する方向を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

4 シャッターボタンを全押しします。

撮影中にシャッターボタンを押し続ける必要はありません。

5 矢印方向にカメラを動かします。

ガイドの終端までカメラが動くと撮影が終了し、パノラマ写真が保存されます。



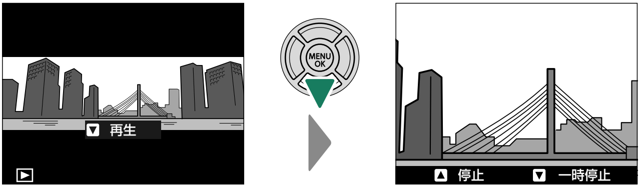
うまく撮影するには

- 一定の速度でゆっくりと小さな円を描くようにカメラを動かします。
- ガイドの方向にまっすぐカメラを動かします。
- うまくいかないときは、移動速度を変えてください。
- カメラがブレないように脇をしめて撮影してください。
- 三脚を使うと、よりきれいに撮影できます。
- ズーム位置を広角側に設定して、レンズの焦点距離を 35 mm（35 mm フィルム判で 50 mm 相当）以下で撮影することをおすすめします。

- 撮影中にシャッターボタンをもう一度全押しすると、撮影が停止します。このときに撮影された画像が保存されないことがあります。
- 撮影を中断したタイミングによっては、撮影した最後の部分が記録されないことがあります。
- 複数の写真を合成するため、つなぎ目がきれいに記録されない場合があります。
- 暗いシーンでは、写真がブレる場合があります。
- カメラを動かす速度が速すぎたり、遅すぎたりしたときは、撮影が中断される場合があります。設定した方向と異なる方向にカメラを動かしたときも撮影が中断されます。
- 撮影シーンによっては、設定した角度どおりに撮影できない場合があります。
- 以下の場合はパノラマ撮影には適していません。
  - 被写体が動いている
  - 被写体とカメラの距離が近すぎる
  - 空や芝生など、同じような模様が続く風景
  - 波や滝など常に模様が変化する風景
  - 明るさが大きく変動するシーン
- 露出は、最初にシャッターボタンを半押しした時点で固定されます（**操作ボタン・ダイヤル設定**＞**半押し AE** が **ON** のとき）。

パノラマ画像の再生

1 コマ再生時にパノラマ写真を選択してセレクターボタンの下を押すと、パノラマ写真を再生できます。横方向に撮影したパノラマ写真は左から右に、縦方向に撮影した写真は下から上に表示されます。



- パノラマ写真を 1 コマ再生しているときは、リアコマンドダイヤルを回して拡大 / 縮小表示できます。
- パノラマ再生時の操作は、セレクターボタンで行います。

	1 コマ再生中	再生中	一時停止中
上	－	停止	
下	再生	一時停止	再生
左右	前後の画像を表示	再生方向の変更	コマ送り

多重露出撮影

複数の画像を重ねて 1 つの画像に合成します。

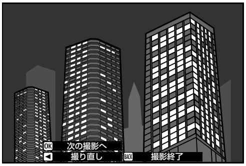


1 撮影設定 > 多重露出を ON にして、画像を合成する方法を選びます（176）。

2 1 枚目の画像を撮影します。

3 **MENU/OK** ボタンを押します。

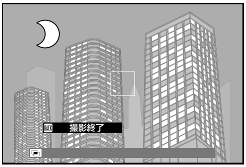
2 枚目の撮影画面になります。



- 1 枚目の画像を撮り直す場合はセレクターボタンの左を押してください。
- **DISP/BACK** ボタンを押すと、1 枚目の画像が保存され、多重露出撮影を終了します。

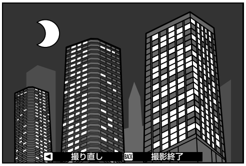
4 2 枚目の画像を撮影します。

1 枚目の画像が撮影画面に薄く表示されているので、その画像を見ながら 2 枚目の画像の位置を調整してください。



5 **MENU/OK** ボタンを押します。

2 枚の画像を合成した画像が表示されて、次の画像の撮影画面になります。



- 2 枚目の画像を撮り直す場合はセレクターボタンの左を押してください。
- **DISP/BACK** ボタンを押すと、撮影した画像が合成され、多重露出撮影を終了します。

6 繰り返し撮影します。

一度に 9 枚までの画像を合成できます。

7 撮影が終わったら **DISP/BACK** ボタンを押します。

撮影した画像を合成した画像が保存されて、多重露出撮影を終了します。

5

撮影に関する設定

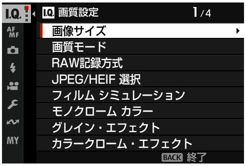
MEMO

撮影メニュー 6

画質設定（静止画）

静止画撮影時の画質に関する機能を設定できます。

静止画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、I.Q.（画質設定）タブを選びます。



> メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。

画像サイズ

記録する画像の大きさを変更できます。

設定値			
L 3:2	(7728×5152)	**L 4:3**	(6864×5152)
L 16:9	(7728×4344)	**L 5:4**	(6432×5152)
L 1:1	(5152×5152)		

設定値			
M 3:2	(5472×3648)	**M 4:3**	(4864×3648)
M 16:9	(5472×3080)	**M 5:4**	(4560×3648)
M 1:1	(3648×3648)		

設定値			
S 3:2	(3888×2592)	**S 4:3**	(3456×2592)
S 16:9	(3888×2184)	**S 5:4**	(3264×2592)
S 1:1	(2592×2592)		

スポーツファインダーモードによる撮影、または連写で **1.29X クロップ**の連写速度を選んでいる場合の画像サイズは以下のとおりです。

設定値			
M 3:2	(6000×4000)	**M 4:3**	(5328×4000)
M 16:9	(6000×3376)	**M 5:4**	(4992×4000)
M 1:1	(4000×4000)		

> **画像サイズ**は、カメラの電源をオフにしたり、撮影モードを切り替えたりしても保持されます。

画質モード

用途に合わせて記録画像の圧縮率を変更できます。

設定	説明
FINE	圧縮率を低くして画質を優先するモードです。
NORMAL	圧縮率を高くして撮影枚数を優先するモードです。
FINE+RAW	FINE で撮影した JPEG 画像や HEIF 画像と、RAW ファイルの両方を保存します。
NORMAL+RAW	NORMAL で撮影した JPEG 画像や HEIF 画像と、RAW ファイルの両方を保存します。
RAW	RAW ファイルのみを保存します。

ファンクションボタンを使って RAW 画像を撮影する

画質モードで **FINE**、**NORMAL** を選択していても、ファンクションボタンに **RAW** を割り当てておくと、ファンクションボタンを押すだけで RAW 画像を撮影できます（📖 321）。再度ファンクションボタンを押すか、撮影すると、元の設定（左列）に戻ります。

設定されている画質モード	ファンクションボタン（RAW を割り当て済み）を押した場合
FINE	**FINE+RAW**
NORMAL	**NORMAL+RAW**
FINE+RAW	**FINE**
NORMAL+RAW	**NORMAL**
RAW	**FINE**

RAW 記録方式

RAW 画像の記録方式を設定できます。

設定	説明
非圧縮	データを圧縮せずに RAW 画像を保存します。
ロスレス圧縮	データを圧縮して RAW 画像を保存します（データを完全に復元できます）。「Capture One Express for Fujifilm*1」、「Capture One for Fujifilm*1」、「Capture One*1」、「RAW FILE CONVERTER EX powered by SILKYPIX*2」、「FUJIFILM X RAW STUDIO」などロスレス圧縮 RAW の現像に対応したソフトウエアを使うとデータを欠落させずに現像できます。記録した画像は**非圧縮**と同等の画質になり、ファイルサイズは約 30～90% になります。
圧縮	データを非可逆圧縮して RAW 画像を保存します（データを完全には復元できません）。記録した画像は**非圧縮**とほぼ同等の画質になり、ファイルサイズは約 25～35% になります。

*1 対応時期については Capture One 社のウェブサイトをご覧ください。
https://www.captureone.com/

*2 対応時期については以下のウェブサイトをご覧ください。
https://fujifilm-x.com/support/compatibility/software/raw-file-converter-ex-powered-by-silkypix/

JPEG/HEIF 選択

記録する画像のファイル形式を JPEG と HEIF で切り替えることができます。

設定	説明
JPEG	JPEG で撮影します。再生互換性に優れたファイル形式です。
HEIF	HEIF で撮影します。圧縮効果に優れた保存形式ですが、画像の再生や転送できる環境が限られています。

- FILTER、パノラマ撮影、多重露出、HDR 撮影のときは、**HEIF** に設定していても自動的に **JPEG** に切り替わります。
- **HEIF** を選んでいるときは、**明瞭度**の設定は無効になります。また、**色空間**は **sRGB** になります。
- HEIF 画像は拡張子が「.HIF」のファイルとしてメモリーカードに保存されます。このファイルをパーソナルコンピューターで再生する場合は、ファイルの拡張子を「.HEIC」に変更してください。ただし、カメラとパーソナルコンピューターを USB 接続して画像を転送する場合、拡張子は自動的に「.HEIC」に変更されます。

フィルム シミュレーション

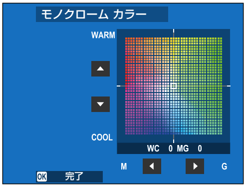
撮影時の発色や階調を変更できます。被写体に応じてフィルムを再現した設定から選べます。表現意図に応じてフィルムを選ぶ感覚で、色再現や階調表現を使い分けることができます。

設定	説明
STD PROVIA/ スタンダード	標準的な発色と階調で人物・風景など幅広い被写体に適します。
V Velvia/ ビビッド	高彩度な発色とメリハリある階調表現で風景・自然写真に最適です。
S ASTIA/ ソフト	落ち着いた発色とソフトな階調でしっとりとした表現に適します。
Cc クラシッククローム	発色をおさえ暗部のコントラストを高めることで落ち着いた表現に適します。
NH PRO Neg. Hi	コントラストを高めたややメリハリのあるポートレート撮影に適します。
NS PRO Neg. Std	やわらかな階調で肌色の質感を再現したいポートレート撮影に適します。
NC クラシックネガ	深い色とメリハリのある階調で、被写体をしっかりとした立体感で表現します。
NN ノスタルジックネガ	アンバーに味付けされたハイライトと色乗りの良いシャドウで、印刷された写真のような雰囲気を表現します。
E ETERNA/ シネマ	落ち着いた発色と豊かなシャドウトーンで動画に適します。
EB ETERNA ブリーチバイパス	低彩度かつ高コントラストの独特な発色で撮影できます。動画撮影にも適します。
A ACROS	質感豊かでシャープな表現のモノクロです。さらに **Ye**、**R**、**G** のフィルターを選んでコントラストを調整します。 • **AYe ACROS + Ye フィルター**：コントラストをやや強調し、青空が少し濃くなります。 • **AR ACROS + R フィルター**：コントラストを強調し、青空が濃くなります。 • **AG ACROS + G フィルター**：唇、肌の調子を出し、ポートレートに適します。

設定	説明
モノクロ	モノクロで表現します。さらに **Ye**、**R**、**G** のフィルターを選んでコントラストを調整します。 • **モノクロ＋Ye フィルター**：コントラストをやや強調し、青空が少し濃くなります。 • **モノクロ＋R フィルター**：コントラストを強調し、青空が濃くなります。 • **モノクロ＋G フィルター**：唇、肌の調子を出し、ポートレートに適します。
セピア	セピア調で表現します。

- フィルムシミュレーション設定時も、トーンやシャープネスなどの変更が可能です。
- この設定はショートカット機能でも設定できます（312）。
- フィルムシミュレーションについては、以下のウェブサイトも併せてご覧ください。
  https://fujifilm-x.com/ja-jp/tag/the-world-of-film-simulation/?post_type=xstories

モノクローム カラー



フィルムシミュレーションの **ACROS** または **モノクロ**で撮影したモノクロの色調を、赤みがかかった温かみのある温黒調（ウォームトーン）や、青みがかった冷たさを感じる冷黒調（クールトーン）に調整できます。**WARM** から **COOL**、または **G**（緑）から **M**（マゼンタ）の 2 つの軸で調整できます。

グレイン・エフェクト

画像にザラっとした粒状の質感を与えます。

強度

設定	説明
強	濃い粒状を与えます。
弱	薄い粒状を与えます。
OFF	使用しません。

粒度

設定	説明
大	粒の粗い質感を与えます。
小	粒の細かい質感を与えます。

カラークローム・エフェクト

赤や緑、黄色などの飽和しがちな彩度の高い色情報を階調豊かに表現します。

設定	説明
強	強い効果を与えます。
弱	弱い効果を与えます。
OFF	使用しません。

カラークローム ブルー

青系の色情報を階調豊かに表現します。

設定	説明
強	強い効果を与えます。
弱	弱い効果を与えます。
OFF	使用しません。

スムーススキン・エフェクト

人物の肌をなめらかに補正します。

設定	説明
強	強い効果を与えます。
弱	弱い効果を与えます。
OFF	使用しません。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを太陽光や照明などの光源に合わせて設定することにより、見た目に近い色で撮影できます。

設定	説明
WB W AUTO ホワイト優先	カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。白熱電球下で白色が再現されやすくなります。
AUTO	カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。通常の撮影では、**AUTO** をおすすめします。
WB A AUTO 雰囲気優先	カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。白熱電球下で、より温かみのある雰囲気を出します。
カスタム 1	白い紙などを使って、自分でホワイトバランスを設定します。
カスタム 2	
カスタム 3	
K 色温度設定	色温度を設定します。
晴れ	晴天の屋外での撮影用です。
日陰	曇天や日陰などでの撮影用です。
蛍光灯 1	昼光色蛍光灯の下での撮影用です。
蛍光灯 2	昼白色蛍光灯の下での撮影用です。
蛍光灯 3	白色蛍光灯の下での撮影用です。
電球	電球、白熱灯の下での撮影用です。
水中	水中での撮影を想定し、青かぶりを軽減します。

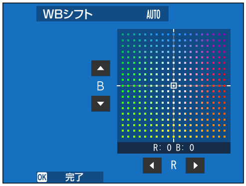
- 人物の顔をアップで撮影するときや特殊な光源を使って撮影するときなど、**AUTO** の設定で望んだような結果が得られない場合は、光源にあったホワイトバランスを選ぶかカスタムホワイトバランスをお使いください。
- フラッシュ発光時は、**AUTO**/**WB W AUTO ホワイト優先**/**WB A AUTO 雰囲気優先**/ 設定時のみフラッシュ用のホワイトバランスになります。光源の雰囲気を残したい場合は、フラッシュを発光禁止に設定してください。
- この設定はショートカット機能でも設定できます（312）。

6

撮影メニュー

WB シフト

ホワイトバランスを選んだあとに、**MENU/OK** ボタンを押すと、WB シフト画面が表示され、シフト量を調整できます。セレクターボタンでホワイトバランスのシフト量を調整します。



- ホワイトバランスを選んだあとに、**DISP/BACK** ボタンを押すと、シフト量を調整しないでホワイトバランスが設定されます。
- フォーカスレバーでシフト量を調整するときは、フォーカスレバーによる斜め移動はできません。

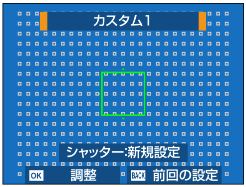
カスタムホワイトバランス

カスタムホワイトバランスでは、自分でホワイトバランスを設定します。あらかじめ白い紙などの被写体をご用意ください。

白い紙の代わりに、色のついたものを使用すると、それを白の基準にするため、色味を意図的に変更することができます。

1 ホワイトバランスの設定画面からカスタムホワイトバランス（1/2/3）を選びます。

2 白い紙などの被写体を画面内に表示します。



- **MENU/OK** ボタンを押すと、ホワイトバランスシフト量を調整できます。
- カスタムホワイトバランスを取得するエリアのサイズや位置を変更することもできます。

6

撮影メニュー

3 シャッターボタンを全押しして設定します。

> 前回取得したホワイトバランスを使用するには、シャッターボタンの代わりに **DISP/BACK** ボタンを押します。

4「**GOOD!**」と表示されたら、**MENU/OK** ボタンを押して決定します。



- 「**OVER**」または「**UNDER**」と表示された場合は、ホワイトバランスを正しく測定できていません。
- 「**OVER**」と表示されたときは -（マイナス）側に露出補正してから、再度測定してください。
- 「**UNDER**」と表示されたときは +（プラス）側に露出補正してから、再度測定してください。

K 色温度を設定する

光源の色温度に合わせて設定します。

> 色温度を設定することで、青味や赤味を強調したイメージの画像や、実際の色味とは大きく異なる画像を意図的に撮影できます。

1 ホワイトバランスの設定画面から **K** を選びます。

色温度が表示されます。



2 セレクターボタンで色温度を調整し、**MENU/OK** ボタンを押します。

WB シフト画面が表示されます。



- リアコマンドダイヤルを回して 10K きざみで調整することもできます。
- 色温度は 2500K から 10000K の間で調整できます。
- シフト量を調整しないときは、色温度を選んだあとに **DISP/BACK** ボタンを押してください。

3 セレクターボタンでホワイトバランスのシフト量を調整します。

4 **MENU/OK** ボタンを押します。

色温度が設定されます。設定した色温度が画面に表示されます。



色温度について

色温度とは、光の色を客観的な絶対温度（単位：K［ケルビン］）で表したものです。色温度が低いほど赤味を帯び、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

6

撮影メニュー

ダイナミックレンジ

撮影する画像のダイナミックレンジを変更できます。広いダイナミックレンジでの撮影は、逆光や明暗差の大きなシーンで白とびを抑えて、より見た目に近い画像を撮影できます。

設定		おすすめ用途
AUTO （自動調整）	**DR100 100%**	コントラストのある画像が撮影できます。
	DR200 200%	
DR400 400%		明暗差が大きいシーンでの、白とびを抑えます。

ダイナミックレンジが広くなるほど、画像にノイズが増えます。状況に応じてダイナミックレンジ設定を使い分けてください。

- **ダイナミックレンジ**が **AUTO** のときは、**DR100 100%**または **DR200 200%**で自動調整され、シャッターボタンを半押しすると絞りとシャッタースピードが表示されます。
- **DR200 200 %** は ISO 感 度 が ISO250 以 上 ISO12800 以 下、**DR400 400 %** は ISO500 以上 ISO12800 以下のときに設定できます。

D レンジ優先

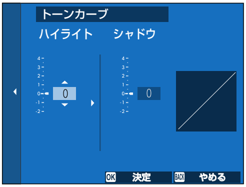
明暗差の大きいシーンで、白とびと黒つぶれの両方を抑えるよう階調を補正して自然な印象の画像を撮影します。

設定	説明
AUTO	明暗差に応じて、自動的に階調を補正します。
強	階調補正を強くします。明暗差の大きいシーンに適しています。
弱	階調補正を弱くします。明暗差のやや大きいシーンに適しています。
OFF	階調補正を行いません。

- **弱**は ISO 感度が ISO250 以上 ISO12800 以下、**強**は ISO500 以上 ISO12800 以下のときに設定できます。
- **D レンジ優先**が **OFF** 以外に設定されている場合、**トーンカーブ**、**ダイナミックレンジ**は自動的に設定されるため、変更することができなくなります。

トーンカーブ

トーンカーブを参考にしながら、ハイライト部やシャドウ部の調子をそれぞれ設定できます。硬くしたいときは「+」側に、軟らかくしたいときは「-」側に設定します。



設定	設定値
ハイライト	-2 ～ +4
シャドウ	-2 ～ +4

カラー

画像の色の濃さを設定します。撮影画像の色を濃くしたいときは「+」側に、薄くしたいときは「-」側に設定します。

設定値								
-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4

シャープネス

画像の輪郭をソフトにしたり、強調したりできます。輪郭を強調したいときは「+」側に、ソフトにしたいときは「-」側に設定します。

設定値								
-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4

高感度ノイズ低減

高い解像感を優先するかノイズの少なさを優先するか、撮影者が重視するポイントによって、高感度における質感描写の調整ができます。よりノイズを低減してなめらかにしたいときは「+」側に、画像の輪郭を残したいときは「-」側に設定します。

設定値								
-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4

明瞭度

ハイライト部とシャドウ部の階調をなるべく保ったまま、画像をはっきりとさせます。画像をはっきりとさせたいときは「+」側に、ソフトにしたいときは「-」側に設定します。

設定値										
-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5

> ⓘ 0 以外の値に設定して撮影した場合、画像処理のため保存に時間がかかります。

長秒時ノイズ低減

ON にすると、長時間露光撮影時のノイズを低減できます。

設定値	
ON	OFF

> ⓘ **ON** にすると、画像処理のため保存に時間がかかります。

点像復元処理

ON にすると、レンズごとの焦点距離、絞り値、画面中心から周辺までのデータを高精度に処理することで、絞り込み時の回折ボケやレンズ周辺部のわずかなボケを補正します。画像のすみずみまで高いシャープネスやリアルな立体感が得られます。

設定値	
ON	**OFF**

色空間

画像の使用目的に合わせて、カラースペースを選択できます。

設定	説明
sRGB	一般的なディスプレイの基準色再現域で、通常の撮影では sRGB に設定します。
Adobe RGB	より広い色再現域を持つ色空間で、商用印刷用途などに適しています。

ピクセルマッピング

撮影画像の輝点が気になってきたときなどに実行すると、輝点が軽減されます。

1 撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、**IQ 画質設定**タブを選びます。

2 ピクセルマッピングを選びます。

3 **MENU/OK** ボタンを押して、ピクセルマッピングを実行します。

- 実行しても、思うように軽減されないことがあります。
- 十分に充電されたバッテリーをご使用ください。
- カメラの温度が高いときはピクセルマッピングは実行できません。
- 処理には数秒程度かかることがあります。

カスタム選択

カスタム登録 / 編集で保存した**カスタム 1 ～ 7** の設定を呼び出します。

設定値			
選択しない	カスタム 1	カスタム 2	カスタム 3
カスタム 4	カスタム 5	カスタム 6	カスタム 7

カスタム設定を使用しない場合は、**選択しない**を選びます。

カスタム登録 / 編集

自分好みの撮影メニューの設定を組み合わせて保存できます。保存した設定は、**I.Q. 画質設定** > **カスタム選択**で呼び出せます。

静止画 / 動画切換ダイヤルが **STILL** のときに、静止画撮影メニューが設定できます。

カスタム設定を作成する

カスタム設定を新規に作成できます。

1 撮影メニューから **I.Q. 画質設定** > **カスタム登録 / 編集**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

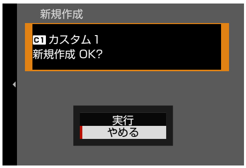
2 **C1 ～ C7** のうち、**新規作成**の場所を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



3 **実行**を選んで **MENU/OK** ボタンを押します。

選んだ場所に現在のカメラの設定が登録されます。



カスタム設定の内容を変更する

作成したカスタム設定の内容を変更して保存できます。

1 撮影メニューから **画質設定** > **カスタム登録 / 編集**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

> 動画の設定を変更する場合は、動画撮影メニューの **動画設定** > **カスタム登録 / 編集**で変更します。

2 設定を変更したいカスタムを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

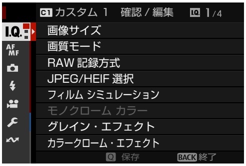


3 **確認 / 編集**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



4 撮影メニューの一覧からカスタム登録したいメニューの項目を選んで **MENU/OK** ボタンを押します。

選んだ項目の設定ができます。



5 **MENU/OK** ボタンを押すと、項目の設定を終了して撮影メニューの一覧に戻ります。

続けて別の項目を設定することができます。

静止画撮影メニューの IQ **画質設定** > **カスタム登録内容の自動更新**や動画撮影メニューの 🎞 **動画設定** > 🎥 **カスタム登録内容の自動更新**を**しない**に設定している場合、設定を変更した項目には赤い丸が表示され、自動的に保存されません。

- 設定を変更した項目を選んで Q ボタンを押すと、選んだ項目を個別に保存できます。
- 手順 3 の画面に戻り、**変更を保存**を選ぶと、設定を変更した項目をすべて保存できます。**変更をリセット**を選ぶと、変更をすべて保存せずに元の設定に戻します。
- 赤い丸が付いた変更中のカスタムをコピーした場合に、変更中のカスタムがコピーの対象となります。

カスタム設定をコピーする

選んだカスタム設定の内容を複製したり、別のカスタム設定に上書きしたりできます。カスタム設定の名前を変更している場合、コピー先のカスタム名はコピー元のカスタム名と同じになります。

1 撮影メニューから **画質設定** > **カスタム登録 / 編集**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

> 動画の設定を変更する場合は、動画撮影メニューの **動画設定** > **カスタム登録 / 編集**で変更します。

2 コピー元のカスタム設定を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



3 コピーを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



4 **C1** ～ **C7** から、コピーしたい場所を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

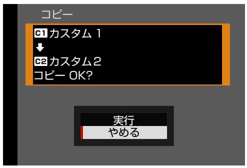
確認画面が表示されます。

> すでに作成されているカスタム設定を選ぶと、そのカスタム設定に登録されている内容を上書きします。



5 **実行**を選んで **MENU/OK** ボタンを押します。

カスタム設定が複製または上書きされます。



カスタム設定を消去する

選んだカスタム設定を消去します。

1 撮影メニューから **IQ 画質設定** > **カスタム登録 / 編集**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

> 動画の設定を変更する場合は、動画撮影メニューの **動画設定** > **カスタム登録 / 編集**で変更します。

2 消去したいカスタム設定を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



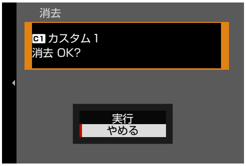
3 **消去**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

確認画面が表示されます。



4 **実行**を選んで **MENU/OK** ボタンを押します。

選んだカスタム設定が消去されます。



カスタム設定の名前を変更する

カスタム設定の名前を変更できます。

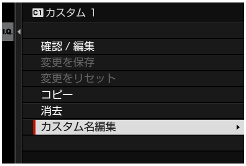
1 撮影メニューから **I.Q. 画質設定** > **カスタム登録 / 編集**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

> 動画の設定を変更する場合は、動画撮影メニューの **動画設定** > **カスタム登録 / 編集**で変更します。

2 名前を変更したいカスタム設定を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



3 **カスタム名編集**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



4 カスタム設定の名前を入力して**設定**を選びます。

カスタム設定の名前が変更されます。

カスタム登録内容の自動更新

カスタム登録の内容を自動更新できます。

設定	説明
する	カスタム設定（**カスタム 1** ～ **7**）の内容を変更すると、設定内容が自動的に更新されます。
しない	カスタム登録の内容を自動更新しません。カスタム登録内容を変更する場合は手動で行います（135）。

6 撮影メニュー

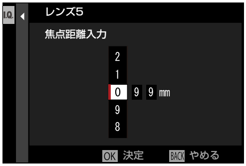
マウントアダプター設定

マウントアダプターを装着したときの設定を行います。**レンズ 1** ～**レンズ 6** に個別に設定を保存することができます。

- **歪曲収差補正**、**色シェーディング補正**、**周辺光量補正**は、M マウントアダプター使用時に設定できます。
- 動画の設定も同時に変更されます（📖 204）。

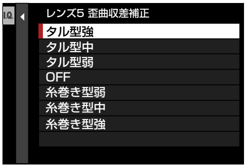
焦点距離設定

使用するレンズの実焦点距離を設定します。



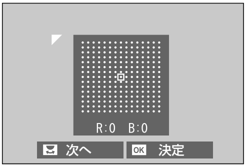
歪曲収差補正

画像の周辺部が歪んでしまう「歪曲収差」を補正できます。**タル型**と**糸巻き型**の補正を、それぞれ**強**、**中**、**弱**の 3 段階で補正できます。



色シェーディング補正

画像中央部と周辺部の色の違いなど（シェーディング）を画像の四隅それぞれ個別に補正できます。



1 リアコマンドダイヤルを回して、補正場所（画面の四隅）を選びます。三角マークで表示される隅をそれぞれ補正できます。

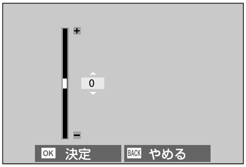
2 セレクターボタンで補正値（色・量）を設定します。画像中央部と周辺部の色の差がなくなるように調整してください。

- **レッド / シアン（横軸方向）**：**–9** ～ **+9** の範囲でレッドとシアンの縁取りを補正します。
- **ブルー / イエロー（縦軸方向）**：**–9** ～ **+9** の範囲でブルーとイエローの縁取りを補正します。

色シェーディング補正を効果的に行うためには、青空やグレーの紙など単色のものを撮影し、その画像で最適化してください。

周辺光量補正

画像の周辺光量を補正できます。補正量は、**–5**～**+5**と**0**(ゼロ)の計11段階から選べます。



- プラス側に補正すると周辺光量が上がり、オールドレンズでの補正に有効です。
- マイナス側に補正すると周辺光量が下がり、古いレンズやピンホールカメラで撮影したような効果が得られます。

周辺光量補正を効果的に行うためには、青空やグレーの紙など単色のものを撮影し、その画像で最適化してください。

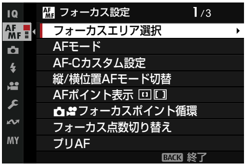
レンズ名編集

レンズ名を編集できます。

フォーカス設定（静止画）

静止画撮影時のフォーカスに関する機能を設定できます。

静止画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、AF MF（フォーカス設定）タブを選びます。



> メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。

フォーカスエリア選択

フォーカスモードが **S** または **C** のときのピントを合わせるエリアの位置を変更できます。フォーカスモードが **M** のときは、ピントを合わせる位置や拡大表示する位置を変更できます（87）。

AF モード

フォーカスモードが **S** または **C** のときの AF モードを設定します（85）。

AF-C カスタム設定

フォーカスモードを **C** に設定したときのピントの追従性を設定します。シーンに応じた **SET 1** ～ **5** を選びます。**SET 6 カスタム**で設定値を任意で設定することもできます。



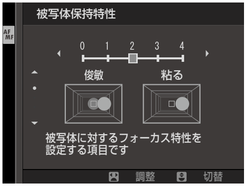
設定	説明
SET 1 **汎用性の高い基本的な設定**	動きのある被写体全般に適応する標準的な設定です。
SET 2 **障害物があるときや、フレームアウトしやすいとき**	ロックしている被写体にピントを合わせ続けようとします。被写体がフォーカスエリアから外れてしまったり、被写体以外がフォーカスエリアに入ってしまうシーンに適しています。
SET 3 **急加速 / 急減速する被写体向け**	急激な加速や減速に反応してピントを合わせようとします。被写体の速度変化が大きいシーンに適しています。
SET 4 **急に現れる被写体向け**	フォーカスエリア内に入ってきたものに対して即座にピントを合わせようとします。急に現れる被写体や被写体を切り替えながら撮影する場合に適しています。
SET 5 **前後左右に激しく動く被写体向け**	被写体の速度変化が大きく、さらに上下左右にも動いてフォーカスエリアから外れやすいシーンに適しています。
SET 6 **カスタム**	**被写体保持特性**、**速度変化特性**、**ゾーンエリア特性**をお好みで設定できます。**SET 1** ～ **5** で設定されている設定値を参考にして各特性を設定してください（📖 145、147）。

各設定の特性について

それぞれの設定は、**被写体保持特性**、**速度変化特性**、**ゾーンエリア特性**の設定値で構成されています。

被写体保持特性

AF エリアに距離差のある被写体以外のものが入ってきた場合、それまで追っていた被写体を保持するかどうかを決める特性です。設定値が大きいほどピントを合わせようとしている被写体を長く捉えようとします。

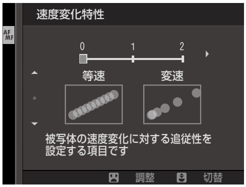


設定値				
0	**1**	**2**	**3**	**4**

- 数値が大きいほど、意図しない被写体にピントが合ってしまうと、ピントを合わせたい被写体になかなか切り替わらない場合があります。
- 数値が小さいほど、AF エリアに入ってきた意図しない被写体に切り替わる場合があります。

速度変化特性

被写体が速度変化した場合の被写体位置の予測度合いを決める特性です。数値が大きいほど急速な動きに反応し、ピント精度を上げようとします。

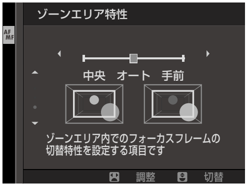


設定値		
0	**1**	**2**

数値が大きいほど、光の反射やコントラストがない被写体などの AF が苦手な被写体ではピントが不安定になる場合があります。

ゾーンエリア特性

ゾーン AF エリア内のどのエリアを優先してピントを決めるかを決める特性です。



設定	説明
手前	常に手前のエリアを優先してピントを選びます。
オート	初回 AF ではゾーン中央付近の被写体にピントを合わせ（ロック）、そのあとはロックした被写体が含まれるエリアを自動で選びます。
中央	常に中央のエリアを優先してピントを選びます。

ゾーンエリア特性は AF モードに **ゾーン**を選んでいるときのみ有効です。

SET 1 ～ 5 の特性について

SET 1 ～ 5 の特性の各設定値は以下のように設定されています。

AF-C カスタム設定	被写体保持特性	速度変化特性	ゾーンエリア特性
SET 1	2	0	オート
SET 2	3	0	中央
SET 3	2	2	オート
SET 4	0	1	手前
SET 5	3	2	オート

SET 6 カスタムの設定手順

1 **AF-C カスタム設定の SET 6 カスタムを選びます。**



2 **被写体保持特性、速度変化特性、ゾーンエリア特性の設定値を設定します。**

セレクターボタンで設定する項目を選び、フロントコマンドダイヤルで設定値を変更します。設定画面で 🗑 ボタンを押すと、設定をリセットします。

3 **DISP/BACK** ボタンで設定を決定します。

縦 / 横位置 AF モード切替

カメラを横向きで撮影するときと、縦向きで撮影するときの AF モードを別々に設定できます。

設定	説明
OFF	横向きと縦向きを同じ位置に設定します。
フォーカスエリアのみ	フォーカスエリアの位置のみ別々に設定します。
ON	縦向きと横向きをそれぞれ別々に設定します。

AF ポイント表示 [·] [ ]

AF/MF フォーカス設定 > **AF モード**が**ゾーン**または**ワイド / トラッキング**のときのフォーカスエリアポイント枠を表示するかどうかを設定できます。

設定値	
ON	OFF

フォーカスポイント循環

フォーカスエリアを画面の一番端まで移動したときに、画面端で止まるか、反対側の端に回り込むかを設定できます。

設定	説明
する	フォーカスエリアが画面の一番端に移動すると、反対側の端に回り込みます。
しない	フォーカスエリアが画面端で止まります。

フォーカス点数切り替え

AF モードが**シングルポイント**のときやマニュアルフォーカス時（フォーカスモードが **M** のとき）のフォーカスエリアポイントの点数を変更できます。

設定	説明
117 点（9 × 13）	117 点(9 × 13)のフォーカスエリアポイントから選べます。
425 点（17 × 25）	425 点（17 × 25）のフォーカスエリアポイントから選べます。

プリ AF

ON にすると、シャッターボタンを半押ししていないときも AF サーチを実行します。常に AF サーチが行われるため半押し後のピント合わせが速くなります。シャッターチャンスを逃したくないときに有効です。

設定値	
ON	**OFF**

ON にすると、バッテリーの消耗が早くなります。

AF 補助光

ON にすると、シャッターボタンを半押ししてからピントが合うまでの間、AF 補助光が発光します。AF 補助光は、暗い被写体のピントを合わせやすくするための光です。

設定値	
ON	**OFF**

- シーンによっては、発光してもピントが合いづらいことがあります。
- 被写体に近づいた撮影では、AF 補助光の効果が十分に得られない場合があります。
- 人の目に近づけて発光させないでください。

動画の設定も同時に変更されます（📖 207）。

顔検出 / 瞳 AF 設定

顔検出を使うと、カメラが人物の顔を検出し、背景よりも顔にピントと明るさを合わせ、人物の明るさが適正になるように撮影できます。また、**瞳 AF** で、左右どちらの目にピントを合わせるかを選べます。



設定	説明
顔検出 ON	顔検出を使用します。さらに瞳 AF の動作を選べます。 • **瞳 AF OFF**：顔検出のみ行い、瞳 AF は行いません。 • **瞳 AF AUTO**：顔を検出したときにカメラが自動的に左右のどちらかの目にピントを合わせます。 • **瞳 AF 右目優先**：顔を検出したときに優先して右目にピントを合わせます。 • **瞳 AF 左目優先**：顔を検出したときに優先して左目にピントを合わせます。
OFF	顔検出も瞳 AF も使用しません。

- 撮影の直前に被写体やカメラが動いたときは、緑色の枠の位置から顔がずれて写ることがあります。
- 各撮影モードでピントは人物の顔に合いますが、モード設定に応じた明るさになるため、人物の顔が適正な明るさにならないことがあります。
- **顔検出 ON** に設定すると、**被写体検出 AF 設定**は自動的に **OFF** になります。

- フォーカスエリア内やフォーカスエリアの近くに顔を検出すると、顔の上に白い枠が表示されます。
- フォーカスエリア内に複数の顔を検出した場合は、カメラが自動で顔を選択します。
- 画面をタッチしてフォーカスエリアを移動すると、ピントを合わせる顔を変更できます。**AF モード**が **[ ] ワイド**のときはフォーカスレバー操作でピントを合わせる顔を変更することもできます。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **フォーカスレバー設定**の**フォーカスレバー** ☼ が **AF ポイント ダイレクト移動**や**フォーカスエリア選択**のときは、フォーカスレバーや EVF 使用時のタッチパネル操作で変更することもできます（📖 26）。
- 目にピントが合っているときに**右目 / 左目切替**を割り当てたファンクションボタンを押すと、ピントを合わせる目を切り替えることができます。
- ピントを合わせた顔が撮影画面から外れると、顔が撮影画面に戻ることを一定時間待つため、顔以外の場所に白い枠が残ることがあります。
- 撮影条件によっては連写後に選択した顔が解除されることがあります。
- 縦位置撮影時も顔を検出できます。
- メガネをかけた状態や髪の毛で目が隠れている状態など瞳を検出できない場合があります。瞳を検出できず目にピントを合わせることができない場合は、顔を検出して顔にピントを合わせます。
- この設定はショートカット機能でも設定できます（📖 312）。

6
撮影メニュー

被写体検出 AF 設定

動物や乗り物など、あらかじめ設定された種類の被写体を検出し、その被写体にピントを合わせるかどうかを設定できます。

設定	説明
被写体検出 ON	被写体検出を使用します。さらに検出する被写体の種類を選べます。 • **動物**：犬、猫を検出して追尾します。 • **鳥**：鳥を検出して追尾します。 • **クルマ**：主にモータースポーツの車両や、車両のフロント部分を検出して追尾します。 • **バイク & 自転車**：バイクや自転車のライダーを検出して追尾します。 • **飛行機**：飛行機のコクピットや機首、ボディを検出して追尾します。 • **電車**：鉄道車両の運転室や車両前面を検出して追尾します。
OFF	被写体検出を使用しません。

被写体検出 ON に設定すると、**顔検出 / 瞳 AF 設定**は自動的に **OFF** になります。

- フォーカスエリア内やフォーカスエリアの近くに被写体を検出すると、被写体の上に白い枠が表示されます。
- フォーカスエリア内に複数の被写体を検出した場合は、カメラが自動で被写体を選択します。
- 画面をタッチしてフォーカスエリアを移動すると、ピントを合わせる被写体を変更できます。**AF モード**が **[ ] ワイド**のときはフォーカスレバー操作でピントを合わせる被写体を変更することもできます。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **フォーカスレバー設定**の**フォーカスレバー**が **AF ポイント ダイレクト移動**や**フォーカスエリア選択**のときは、フォーカスレバーや EVF 使用時のタッチパネル操作で変更することもできます（26）。
- ピントを合わせた被写体が撮影画面から外れると、被写体が撮影画面に戻ることを一定時間待つため、被写体以外の場所に白い枠が残ることがあります。
- 撮影条件によっては連写後に選択した被写体が解除されることがあります。
- 縦位置撮影時も被写体を検出できます。
- この設定はショートカット機能でも設定できます（312）。

AF+MF

ON に設定すると、AF ロック状態（シャッターボタンを半押ししたときなど）でフォーカスリングを回したときに AF ロックが解除され、マニュアルフォーカスで撮影できます。

設定値	
ON	**OFF**

- 距離指標付レンズをお使いの場合はレンズ側を距離指標モード（MF）に設定すると、この機能を使用できます。このとき、レンズの距離指標は無効になります。
- 距離指標付レンズをお使いの場合は、フォーカスリングをあらかじめ距離指標の中央の位置にセットしてください（フォーカスリングの距離指標を最短距離または無限遠にセットすると、ピントが合わない場合があります）。

- フォーカスリングを回してから一定時間カメラを操作しないと、自動的に設定されているフォーカスモードに戻ります。
- **MF アシスト**の**デジタルスプリットイメージ**と**デジタルマイクロプリズム**は使用できません。

AF+MF 時のフォーカス位置拡大表示について

AF MF フォーカス設定 > **フォーカスチェック**を **ON** にしてフォーカスリングを回すと、**AF モード**が**シングルポイント**のときにエリア選択位置でフォーカス位置を拡大表示できます。拡大倍率はリアコマンドダイヤルを回して切り替えます。

MF アシスト

マニュアルフォーカス時（フォーカスモードが **M** のとき）のピント確認方法を設定します（📖 94）。

設定	説明
デジタルスプリットイメージ	画面中央部にスプリットイメージが表示されます。 スプリットイメージの上部、中央部、下部に 3 本の分割線があるので、ピントを合わせたい被写体が分割線上に写るようにして、分割線上下での像のズレが無いようにフォーカスリングを回して、フォーカスを調整できます。スプリットイメージは**モノクロ**、**カラー**のいずれかを選べます。
デジタルマイクロプリズム	ピントがずれているときは像のボケが強調されて格子模様になり、ピントが合うと格子模様が消えて像が明確になります。
フォーカスピーキング	コントラストの高い輪郭部分を強調して表示します。表示色とピーキングレベルの組み合わせを選べます。
OFF	通常表示です（デジタルスプリットイメージ / デジタルマイクロプリズム / フォーカスピーキング機能を使用しません）。

フォーカスチェック

ON にすると、マニュアルフォーカス時（フォーカスモードが **M** のとき）にフォーカスリングを回すと自動的に拡大表示され、ピントの確認がしやすくなります。

設定値	
ON	**OFF**

- リアコマンドダイヤルの中央を押すと通常表示に戻ります。
- 拡大表示する位置は、フォーカスエリア選択で変更できます。

測光 & フォーカスエリア連動

ON にすると、**測光**が**マルチ**または**スポット**のときにフォーカスフレームの位置に連動して測光します。

設定値	
ON	**OFF**

ワンプッシュ AF 時の動作

マニュアルフォーカス時（フォーカスモードが **M** のとき）の AF ロックまたは **AF-ON** を割り当てたファンクションボタンによるピント合わせの方法を変更できます。

設定	説明
AF-S	ボタンを押すと、オートフォーカスでピントを合わせます。
AF-C	ボタンを押している間、オートフォーカスでピントを合わせ続けます。

動画の設定も同時に変更されます（📖 208）。

被写界深度スケール

被写界深度のスケール（ゲージ）の基準を変更できます。

設定	説明
ピクセル基準	パーソナルコンピューターなどの画面で拡大表示して厳密な被写界深度を確認するときの目安にします。
フィルム基準	プリント画像などを観賞するときの実用的な被写界深度を確認するときの目安にします。

動画の設定も同時に変更されます（📖 209）。

レリーズ優先 / フォーカス優先

シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定できます。フォーカスモードが **AF-S** のときと、**AF-C** のときのそれぞれを個別に設定できます。

設定	説明
レリーズ	ピントが合っていなくてもすぐに撮影できます。シャッタータイミングを優先したいときに設定します。
フォーカス	ピントが合うまで撮影できません。ピントを合わせてから撮影したいときに設定します。

AF+MF が **ON** のときは、設定にかかわらずピントが合っていなくてもすぐに撮影できます。

フォーカスリミッター

ピントを合わせる距離を制限して、ピントを合わせるスピードを速くします。

設定	説明
OFF	フォーカスリミッターを使用しません。
カスタム	最短距離と最長距離を指定してピントを合わせる範囲を設定できます。 • **実行**：設定した範囲で撮影します。 • **設定**：2 つの対象物を指定して、その間の範囲にピントを合わせるように設定します。
プリセット 1	あらかじめ設定されている範囲でピントを合わせて撮影します。
プリセット 2	

- ピントを合わせる範囲を、使用するレンズの最短撮影距離よりも手前に設定した場合、フォーカスリミッターは無効になります。
- フォーカスリミッターで設定、表示される距離は、実際の距離と異なる場合があります。
- 撮影距離範囲切り換えスイッチがあるレンズを装着すると、カメラとレンズの両方の設定が有効になります。それぞれのピントを合わせる範囲が重なるように設定してください。

- **カスタム**設定時は次の操作もできます。
  - タッチパネルで 2 つの対象物をタッチして指定することもできます。
  - 対象物を選ぶかわりにフォーカスリングを回して無限遠に合わせると、最長距離を無限遠に設定できます。
- 動画の設定も同時に変更されます（209）。

6 撮影メニュー

タッチパネルモード

液晶モニター（LCD）のタッチ操作で、ピント合わせやフォーカスエリア選択ができるように設定できます。

タッチパネルモード	意味
SHOT ショット	シャッターボタンを押す代わりに、画面のピントを合わせたいところをタッチして撮影します。連写撮影では、画面を押し続けている間、連続撮影します。
AF **AF** ⇓⇑ AF OFF **AF OFF**	• フォーカスモードが **S**（AF-S）のときは、タッチした場所にピントを合わせ、AF ロックします。AF ロックを解除するには、**AF OFF** アイコンをタッチします。 • フォーカスモードが **C**（AF-C）のときは、タッチした被写体にピントを合わせ続けます。ピント合わせの動作を解除するには、**AF OFF** アイコンをタッチします。 • フォーカスモードが **M**（MF）のときは、ワンプッシュ AF の動作になり、タッチした場所にピントを合わせます。
AREA **エリア選択**	フォーカスエリアに設定したい場所をタッチすると、タッチした場所にフォーカスエリアが移動し、ピントを合わせる位置や拡大表示の位置が変更できます。
OFF **OFF**	タッチパネルモードを無効にします。

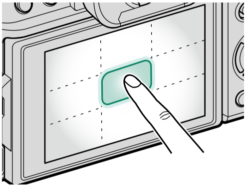
- タッチパネルの動作は AF モードによって異なります。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **タッチパネル設定** > **タッチパネル設定** が **OFF** のときは、タッチパネルモードアイコンは非表示になり、タッチ操作の切り替えはできません。

ピント位置拡大中のタッチパネルの動作

ピント位置拡大中（フォーカスチェックがオンのとき）は、タッチパネルの動作が異なります。

■ **画面の中央をタッチしたときの動作**

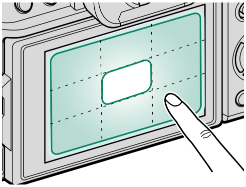
画面の中央をタッチしたときは、以下のように動作します。



タッチパネルモード	静止画時
ショット	**AF-S/MF**：撮影
AF	**AF-S**：AF
	MF：ワンプッシュ AF
エリア選択	**AF-S**：AF
	MF：ワンプッシュ AF
OFF	**AF-S/MF**：OFF

■ **画面の中央以外の場所をタッチしたときの動作**

タッチパネルモードや静止画 / 動画撮影の状態に関わらず、シングルタッチすると常に拡大表示する位置が移動するだけで、他の動作は行いません。

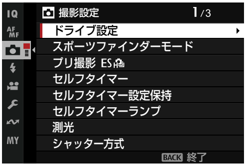


撮影設定（静止画）

静止画撮影時の設定を設定できます。

静止画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、(撮影設定)タブを選びます。

メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。



ドライブ設定

ドライブモードの設定を変更できます。

BKT 設定

ドライブモードが **BKT** のときのブラケティングの種類やそれぞれの設定を変更できます。

BKT 選択

ドライブモードが **BKT** のときのブラケティングの種類を選びます。

ブラケティングの種類	
AE ブラケティング	ホワイトバランス BKT
ISO ブラケティング	ダイナミックレンジ BKT
フィルムシミュレーション BKT	フォーカス BKT

AE ブラケティング

BKT 選択が **AE ブラケティング**のときの撮影コマ数などを設定できます。

サブメニュー	内容
コマ数 / ステップ数設定	AE ブラケティングで撮影するコマ数と明るさの変化量（ステップ数）を設定できます。 • **コマ**：撮影するコマ数を選びます。 • **ステップ**：明るさの変化量を選びます。
1 コマ / 連続	• **1 コマ**：シャッターボタンを押すたびに 1 枚ずつ撮影します。 • **連続**：シャッターボタンを 1 度押すと、**コマ数 / ステップ数設定**の設定にしたがって連続撮影します。
撮影順序設定	AE ブラケティングの撮影順序を設定できます。

ISO ブラケティング

BKT 選択が **ISO ブラケティング**のときの変化量を設定します。

設定値		
±1/3	±2/3	**±1**

フィルムシミュレーション BKT

BKT 選択が **フィルムシミュレーション BKT** のときに撮影する 3 枚の画像に対するフィルムシミュレーションの設定をそれぞれ設定します（📖 122）。

ホワイトバランス BKT

BKT 選択が **ホワイトバランス BKT** のときの変化量を設定します。

設定値		
±1	**±2**	**±3**

フォーカス BKT

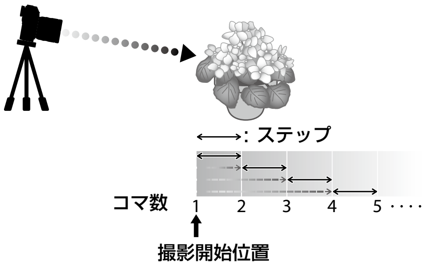
フォーカス BKT 撮影の方法を**マニュアル**か **AUTO** で選べます。

- **マニュアル**：**マニュアル**を選ぶと、次の項目を手動で設定できます。

サブメニュー	内容
コマ数	撮影するコマ数を選びます。
ステップ	ピントの変化量を選びます。
撮影間隔	次の撮影までの時間を選びます。

コマ数 / ステップとピント位置の関係について

コマ数 / **ステップ**とピント位置の関係は図のようになります。



- ピント位置は、撮影開始位置から無限遠側に向かって移動します。
- **ステップ**の数値が小さいとピント位置の間隔は狭くなり、大きいと広くなります。
- ピント位置が無限遠に到達すると、**コマ数**の設定に関わらず撮影を終了します。

- **AUTO**：**AUTO** を選ぶとカメラが**コマ数**と**ステップ**を自動で設定します。

1 **撮影メニューから 撮影設定 > ドライブ設定 > BKT 設定 > フォーカス BKT を選び、MENU/OK ボタンを押します。**

2 **AUTO を選んでから、撮影間隔を設定します。**
撮影画面が表示されます。

3 **被写体のもっとも手前にピントを合わせて MENU/OK ボタンを押します。**
距離指標上に **A** が設定されます。



> もっとも遠い方を先に設定しても、ピントを合わせる範囲は変わりません。

4 **被写体のもっとも遠い方にピントを合わせて DISP/BACK ボタンを押します。**
距離指標上に **B** が設定され、ピントを合わせる範囲（**A** と **B** の間）が設定されます。



> **DISP/BACK** ボタンの代わりに **MENU/OK** ボタンを押して再度 **A** を設定することもできます。

5 **撮影します。**
カメラが**コマ数**と**ステップ**を自動で設定します。撮影コマ数は撮影画面に表示されます。



CH 高速連写

ドライブモードが **CH**（高速連写）のときの連写速度を設定します。電子シャッター使用時の表示フレームレートは、**1.29X クロップ**の連写速度選択時は 60fps、それ以外は 40fps になります。

設定値		
20fps (1.29X クロップ) ES *1	**13fps (1.29X クロップ) ES *1**	**10fps (1.29X クロップ) ES *1**
15fps *2	**10fps *3**	

*1 電子シャッター使用時のみ選べます。
*2 電子シャッター時は 13fps で撮影されます。
*3 電子シャッター時は 8.9fps で撮影されます。

CL 低速連写

ドライブモードが **CL**（低速連写）のときの連写速度を設定します。

設定値		
7.0fps *	**5.0fps**	**3.0fps**

* 電子シャッター使用時は 6.7fps で撮影します。

HDR モード

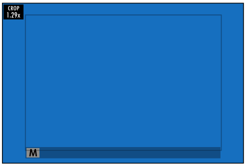
一度シャッターボタンを押すと明るさの異なる 3 枚の画像を撮影し、1 枚の画像に合成します。白飛びや黒つぶれの少ない画像を撮影できます（📖 107）。

ADV. フィルター設定

ドライブモードが **ADV.** のときのフィルター効果を設定します（📖 110）。

スポーツファインダーモード

撮影画面をクロップし、枠内を撮影します。スポーツや鳥など動く被写体を撮影する場合に便利です。



設定	説明
ON	画面内に画角 1.29 倍相当のフレーム（枠）が表示され、フレーム（枠）内をクロップして撮影します。
OFF	クロップ撮影しません。

- 撮影メニューの I.Q. **画質設定** > **画像サイズ**は M サイズのみ選べます。
- 電子シャッターで撮影可能なモードのときは使用できません。

プリ撮影 ES

シャッターボタンを全押ししてから撮影画像がメモリーカードに記録されるまでのタイムラグを抑えるために、シャッターボタンを半押ししたときから電子シャッターによる撮影を開始し、全押し直前の画像から連写した画像をメモリーカードに記録します。

設定値	
ON	OFF

- 連写設定が **CH**（高速連写）で **ES 電子シャッター**のときにプリ撮影を行います（170）。
- フラッシュは発光しません。

セルフタイマー

シャッターボタンを全押ししてからセルフタイマーが開始されるまでの時間を設定できます。

- 画面には、シャッターがきれるまでの秒数が表示されます。
- タイマーを途中で止めるには、**DISP/BACK** ボタンを押します。



設定	説明
2 秒	シャッターボタンを全押ししてから 2 秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すときにカメラが動くのを防ぐときなどに使用します。セルフタイマー開始と同時にカメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。
10 秒	シャッターボタンを全押ししてから 10 秒後にシャッターがきれます。撮影者を含めた集合写真を撮影するときなどに使用します。カメラ前面のセルフタイマーランプが点灯し、撮影直前に点滅します。
OFF	セルフタイマーを使用しません。

- シャッターボタンを押すときは、レンズの前に立たないでください。ピントが合わなかったり、適正な明るさにならなかったりすることがあります。
- セルフタイマー設定は、電源をオフにすると自動的に解除されます。

セルフタイマー設定保持

ON のときは、セルフタイマー撮影後に続けてシャッターボタンを押すと、設定されている時間でセルフタイマー撮影できます。また、電源をオフにしても**セルフタイマー**の設定は維持されます。

設定値	
ON	OFF

セルフタイマーランプ

ON にするとセルフタイマー撮影中にセルフタイマーランプが点滅します。夜景を撮影するときなどは **OFF** に設定してください。

設定値	
ON	OFF

測光

カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更できます。撮影状況により、適正な明るさ（露出）にならないときに使用します（📖 98）。

シャッター方式

使用するシャッター方式を変更できます。電子シャッターを使用すると、シャッター音を消して撮影することもできます。

設定	説明
MS メカニカルシャッター	メカニカルシャッターで撮影します。
ES 電子シャッター	電子シャッターで撮影します。
EF 電子先幕シャッター	電子先幕シャッターで撮影します。
M+E メカニカル+電子	カメラが状況に応じて**メカニカル**または**電子シャッター**で撮影します。
EF+M 電子先幕+メカニカル	カメラが状況に応じて**電子先幕**または**メカニカル**で撮影します。
EF+M+E 電子先幕+メカニカル+電子	カメラが状況に応じて**電子先幕**、**メカニカル**、**電子シャッター**のいずれかを使って撮影します。

ES 電子シャッター、**M+E メカニカル＋電子**、**EF+M+E 電子先幕+メカニカル+電子**のいずれかに設定すると、シャッタースピードダイヤルでシャッタースピードを **8000** にしたあとにリアコマンドダイヤルで、より高速のシャッタースピードを選べます。

- 電子シャッター使用時は、以下のことにご注意ください。
  - 動いている被写体を撮影すると、画像が歪んで撮影される場合があります。
  - 高速シャッター使用時においても、手持ち撮影すると画像が歪んで撮影される場合があります。三脚のご使用をおすすめします。
  - 瞬間的な光や、蛍光灯などの照明下では、帯状のムラが撮影されることがあります。
  - シャッター音を消して撮影できますが（📖 279）、被写体のプライバシーや肖像権などに十分ご配慮の上、お客様の責任でお使いください。
- 電子先幕シャッター使用時は、以下のことにご注意ください。
  - シャッタースピードが高速になるほど露光ムラが大きくなり、被写体のボケ像が欠けて写ることがあります。

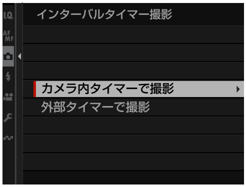
電子シャッター使用時は、以下の機能制限があります。

- ISO 感度は 12800 ～ 125 に制限されます。
- 電子シャッターで撮影されるときは、長秒時ノイズ低減は機能しません。
- フラッシュは発光しません。ただし、ピクセルシフトマルチショット撮影時は発光します。

インターバルタイマー撮影

設定した時間ごとに自動撮影するインターバルタイマー撮影の**撮影間隔**と**撮影回数**を設定できます。

1 **撮影メニューから 撮影設定 > インターバルタイマー撮影を選び、MENU/OK ボタンを押します。**



2 **カメラ内タイマーで撮影を選び、MENU/OK ボタンを押します。**

インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。



> タイマー付きリモートレリーズで撮影するときは**外部タイマーで撮影**を選んでください。撮影画面に戻り、リモートレリーズで撮影ができます。

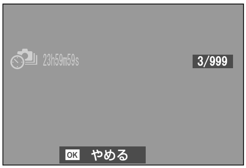
3 **セレクターボタンで撮影間隔と撮影回数を設定し、MENU/OK ボタンを押します。**

開始時間設定画面が表示されます。



4 **セレクターボタンで開始時間を設定し、MENU/OK ボタンを押します。**

インターバルタイマー撮影が開始されます。



> バルブ撮影、多重露出撮影のインターバルタイマー撮影はできません。また、連写でインターバルタイマー撮影すると、1 回の撮影は 1 コマ撮影となります。

- 三脚のご使用をおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れに注意してください。AC パワーアダプター AC-5VJ をご使用ください。
- インターバルタイマー撮影中に ▶ ボタンを押すと、撮影した画像を確認できます。もう一度 ▶ ボタンを押すか、撮影の時間になると、撮影画面に戻ります。
- インターバルタイマー撮影中は画面の表示が消えます。撮影の数秒前になると画面表示が復帰します。
- 画面の表示が消えているときにシャッターボタンを押すと、画面表示が復帰します。
- インターバルタイマー撮影中で画面の表示が消えているときは、インジケーターランプが緑色に点滅します。
- 撮影回数を ∞ に設定すると、インターバルタイマー撮影設定前の画面に表示されていた撮影可能枚数まで撮影します。

インターバルタイマー撮影露出平準化

ON にすると、インターバルタイマー撮影時にカメラが自動で露出を調整し、直前に撮影された画像と明るさが大きく変化しないようにします。

設定値	
ON	**OFF**

- 被写体の明るさが大きく変化するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合、**インターバルタイマー撮影**の**撮影間隔**を短くすることをおすすめします。
- マニュアル（**M**）撮影のときは、**感度**が **A**（オート）のときのみ露出の平準化を行います。

インターバルタイマー撮影間隔優先

ON にすると、インターバルタイマー撮影時にシャッタースピードが撮影間隔よりも長くならないよう、カメラが自動でシャッタースピードを調整します。

設定値	
ON	OFF

シャッタースピードが **A**（オート）のときのみ有効です。

フリッカー低減

蛍光灯などの照明下で画面や画像に発生するちらつき（フリッカー現象）を低減します。

設定	説明
全コマ	全コマでフリッカー低減処理を行います。1 コマ目のみでフリッカー低減処理を行う場合に対し、連写速度が遅くなります。
1 コマ目のみ	1 コマ目のみでフリッカー低減処理を行い、2 枚目以降（連写時）はその処理を継続します。連写中にフリッカーが見えてきてしまうことがあります。
OFF	フリッカー低減を行いません。

- フリッカー低減を使用すると、撮影にかかる時間が長くなります。
- 電子シャッターでは、**フリッカー低減**が **OFF** になります。
- 動画撮影では、使用できません。

フリッカーレス S.S. 設定

ON にすると、LED 照明などで発生するフリッカー現象の影響を低減するために、通常よりもシャッタースピードを細かく設定することができます。

設定値	
ON	**OFF**

撮影モードが **S** または **M** のときのみ有効です。

ブレ防止モード

手ブレ補正の ON/OFF を設定します。

設定	説明
常時	常に手ブレ軽減を行います。
撮影時	撮影される瞬間のみ手ブレ軽減を行います。フォーカスモードが **C** のときは、シャッターボタン半押し時も手ブレを軽減します。
OFF	手ブレ軽減を使用しません。**OFF** のときは、(手ブレ補正OFFアイコン) が表示されます。

- レンズに手ブレ補正のスイッチ（OIS スイッチ）がある場合、レンズ側の設定が優先されます。
- 手ブレ補正機能が動作すると、振動や動作音を感じることがあります。

感度 AUTO 設定

ISO 感度を **A**（オート）に合わせたときの**基準 ISO 感度**、**上限 ISO 感度**、**低速シャッター限界**を設定できます。**AUTO1**、**AUTO2**、**AUTO3** にそれぞれ異なった値を設定できます（📖 97）。

デジタルテレコン

拡大した画像をデジタル超解像処理によって撮影できます。

設定	説明
2.0x	画像を 2 倍に拡大して撮影できます。画像は切り抜かれ、画像サイズが L や M の場合は自動的に S に変更されます。
1.4x	画像を 1.4 倍に拡大して撮影できます。画像は切り抜かれ、画像サイズが L の場合は自動的に M に変更されます。
OFF	デジタルテレコンを使用しません。

デジタルテレコンを使うと画質が劣化する場合があります。

連写で 1.29x クロップの連写速度を選んでいるときや、**スポーツファインダーモード**を **ON** にしているときは、デジタルテレコンは使用できません。

多重露出

多重露出撮影で撮影した複数の画像をどのように合成するかを選べます。



設定	内容
ON	多重露出の設定を選んで、多重露出撮影を行います。 • **加算**：撮影した画像の露出を加算して合成します。合成する枚数に応じてマイナスの露出補正をしてください。 • **加算平均**：重ね合わせた画像の露出が適正になるように自動的に露出を補正して合成します。同じ構図で撮影したときは背景が適正露出になるように補正されます。 • **比較（明）**：重ね合わせた画像の同じ位置を比較して、もっとも明るい部分が残るように合成します。色や明るさによって色が混ざることがあります。 • **比較（暗）**：重ね合わせた画像の同じ位置を比較して、もっとも暗い部分が残るように合成します。色や明るさによって色が混ざることがあります。
OFF	多重露出撮影を行いません。

一度に 9 枚の画像まで合成することができます。

ピクセルシフトマルチショット

ボディ内手ブレ補正を利用して、0.5 画素単位でシフトした画像を 20 枚撮影し、それぞれ RAW 画像で記録できます。撮影した RAW 画像はパーソナルコンピューターの専用アプリケーションで合成処理を行い、高解像の RAW 画像を生成できます。

1 撮影メニューから **撮影設定** > **ピクセルシフトマルチショット**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

2 撮影間隔を設定します。

- **撮影間隔**は**最短**に設定することをおすすめします。
- 1 枚ごとにフラッシュを発光させて撮影する場合は、**撮影間隔**をフラッシュのチャージ時間に合わせて設定してください。

3 シャッターボタンを押して撮影を開始します。

- メモリーカードに撮影した RAW 画像が記録されます。
- 振動を伝えないようにするため、セルフタイマーまたはリモートレリーズで撮影してください。

4 パーソナルコンピューターで合成処理を行います。

- 合成処理は FUJIFILM Pixel Shift Combiner で行えます。
- 高解像度の RAW 画像の現像は Capture One 社の Capture One Express for Fujifilm、Capture One for Fujifilm、Capture One Pro をご使用ください。FUJIFILM X RAW STUDIO、RAW FILE CONVERTER EX powered by SILKYPIX では現像できません。

- パーソナルコンピューターのソフトウエアの詳細やダウンロードは以下をご覧ください。
  - **FUJIFILM Pixel Shift Combiner**：
    https://fujifilm-x.com/products/software/pixel-shift-combiner/
  - **Capture One Express for Fujifilm**：
    https://www.captureone.com/ja/products-plans/capture-one-express/fujifilm
  - **Capture One for Fujifilm**：
    https://www.captureone.com/ja/explore-features/fujifilm
  - **Capture One Pro**：
    https://www.captureone.com/ja/explore-features
- ピクセルシフトマルチショットはテザー撮影にも対応しています。テザー撮影は FUJIFILM Pixel Shift Combiner で行います。
- フラッシュ撮影したときのシャッタースピード同調速度は 1/25 秒以下です。
- ピクセルシフトマルチショット撮影時は、以下の制限があります。
  - 電子シャッターのみでの撮影になります。
  - ISO 感度は最大 1600 に制限されます。ISO 1600 以上または **AUTO** に設定している場合は ISO 1600 になり、ISO 1600 未満に設定している場合は、設定値のままになります。
  - **RAW 記録方式**は**ロスレス圧縮**のみになります。
  - フォーカスモードが **C**（AF-C）の場合は、**S**（AF-S）で撮影されます。**S**（AF-S）または **M**（マニュアル）の場合は、設定されているフォーカスモードのまま撮影されます。
  - 動きのある被写体や撮影中に振動、明るさの変化がある場合は、うまく合成できないことがあります。
  - **撮影設定** > **フリッカー低減**は自動的に **OFF** になります。
  - 露出補正は 20 枚すべて同じ設定で撮影されます。

再生表示

ピクセルシフトマルチショットで撮影された画像を 1 コマ再生すると、ピクセルシフトマルチショットを示すアイコンが表示されます（220）。



ワイヤレス通信

無線 LAN を使ってスマートフォンと通信できます。スマートフォンと通信すると、以下の機能が使用できます。

- スマートフォンを操作して、カメラで撮影
- カメラからスマートフォンに画像を送信
- スマートフォン側でカメラ内の画像を閲覧 / 取り込み
- スマートフォンで取得した位置情報をカメラに送信

これらの機能を使用するには、スマートフォンにあらかじめ最新のスマートフォンアプリケーションをインストールしておく必要があります。

スマートフォンアプリケーションについては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://app.fujifilm-dsc.com/

フラッシュ設定（静止画）

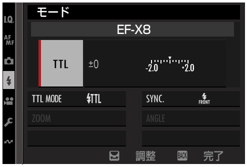
静止画撮影時のフラッシュに関する設定を変更できます。

静止画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、（フラッシュ設定）タブを選びます。



フラッシュ機能設定

フラッシュの発光モードや発光量または発光強度などを設定できます。使用するフラッシュによって設定できる項目が異なります。



各フラッシュの設定は「オプション品・外部機器の使い方」の「クリップオンフラッシュ / シンクロターミナル」をご覧ください（📖 341）。

赤目補正

暗い場所でフラッシュ撮影したときの「赤目現象」を軽減します。

設定	説明
赤目抑制発光	赤目軽減を目的とした予備フラッシュ発光による赤目補正を行います。
OFF	赤目補正を行いません。

赤目抑制発光は、TTL モードで使用できます。

TTL-LOCK モード

TTL ロックの動作方法を設定します。TTL ロックを使用すると、TTL 発光による複数撮影においてフラッシュの発光量を一定にするためにプレ発光による演算結果をロックして撮影条件や調光を保つことができます。

設定	説明
直前の発光条件でロック	カメラが記憶している直前の撮影で使用された TTL 発光の撮影条件でロックします。
調光発光してロック	調光発光して、その調光結果でロックします。

- TTL ロックを使用するには、ファンクションボタンに **TTL-LOCK** を割り当てます。割り当てたファンクションボタンを押すと、TTL ロックを設定したり、解除したりすることができます（📖 321）。
- ロックしていても調光補正はできます。
- **直前の発光条件でロック**を設定していても直前の発光条件がないときは、エラーメッセージが表示されます。

LED ライト設定

フラッシュの LED ビデオライトを静止画撮影時の AF 補助光やキャッチライトとして使用するかどうかを設定できます。LED ライトを搭載したクリップオンフラッシュを使用しているときに設定できます。

設定	説明
キャッチライト	キャッチライトとしてのみ使用します。
AF 補助光	AF 補助光としてのみ使用します。
AF 補助光+ キャッチライト	AF 補助光とキャッチライトとして使用します。
OFF	どちらも使用しません。

フラッシュ機能設定メニューからも設定できる場合があります。

コマンダー設定

富士フイルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムのコマンダーフラッシュとして使用する際の、発光グループを設定できます。富士フイルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムに対応したクリップオンフラッシュを接続している場合に設定できます。

設定	説明
Gr A	A グループに設定します。
Gr B	B グループに設定します。
Gr C	C グループに設定します。
OFF	撮影時には、撮影画像への影響を最小限に抑えた微小光量で発光します。

フラッシュ機能設定メニューからも設定できる場合があります。

CH 設定

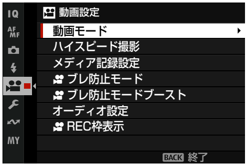
コマンダーフラッシュとリモートフラッシュ間の光通信チャンネルを設定します。近隣で本フラッシュシステムを使用している場合の混信による誤動作を防いだり、複数のフラッシュシステムを使い分けたりする際に便利です。

設定値			
CH1	**CH2**	**CH3**	**CH4**

動画設定（静止画）

静止画撮影時に**動画レリーズ**を割り当てたファンクションボタンを押して動画を撮影するときの設定ができます。

静止画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、（動画設定）タブを選びます。



> メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。

動画モード

動画撮影メニューと共通のメニューです（188）。設定を変更すると動画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

ハイスピード撮影

動画撮影メニューと共通のメニューです（189）。設定を変更すると動画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

メディア記録設定

動画撮影メニューと共通のメニューです（190）。設定を変更すると動画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

ブレ防止モード

動画撮影メニューと共通のメニューです（📖 196）。設定を変更すると動画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

ブレ防止モードブースト

動画撮影メニューと共通のメニューです（📖 196）。設定を変更すると動画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

オーディオ設定

動画撮影時の音声に関する設定を変更できます。

内蔵マイクレベル設定

内蔵マイクの音量を調節できます。

設定	説明
AUTO	カメラが自動的にマイクレベルを調節します。
マニュアル	マイクレベルを 25 段階から設定できます。
OFF	マイクレベルをオフにします。

外部マイクレベル設定

外部マイクの音量を調節できます。

設定	説明
AUTO	カメラが自動的にマイクレベルを調節します。
マニュアル	マイクレベルを 25 段階から設定できます。
OFF	マイクレベルをオフにします。

マイク端子設定

マイク入力端子に取り付ける機器を設定します。

設定	説明
マイク	外部マイクを直接取り付けるときに選びます。
ライン	ライン出力する外部音声機器を取り付けるときに選びます。

マイクレベルリミッター

マイクへの音声信号の過大入力による音割れを抑制します。

設定値	
ON	OFF

風音低減

動画撮影時に風音によるノイズを低減して録音します。

設定値	
ON	OFF

ローカットフィルター

動画撮影時に低域ノイズをカットして録音します。

設定値	
ON	OFF

ヘッドホン音量

ヘッドホンの音量を設定します。

設定	説明
0	音量をオフに設定します。
1 ～ 10	音量を 1 ～ 10 に設定します。

XLR マイクアダプター設定

XLR マイクアダプターを使用しているときに、マイク入力チャンネルなどを設定できます。

サブメニュー	内容
マイク入力チャンネル	カメラの内蔵マイクも使用して 4ch 録音をするか、XLR マイクアダプターのマイクのみで 2ch 録音をするかを設定できます。 • **4ch XLR+ カメラ**:カメラの内蔵マイクも使用して、4ch 録音をします。 • **2ch XLR のみ**:XLR マイクアダプターに取り付けられた外部マイクのみで 2ch 録音をします。
4ch 音声モニタリング	動画撮影中にヘッドホンなどでモニタリングする音声を設定できます。 • **XLR**:XLR マイクアダプターに取り付けられた外部マイクの音声をモニタリングします。 • **カメラ**:カメラの内蔵マイクの音声をモニタリングします。
HDMI4ch 音声出力	HDMI 端子に取り付けられた外部レコーダーに出力する音声を設定できます。 • **XLR**:XLR マイクアダプターに取り付けられた外部マイクの音声を出力します。 • **カメラ**:カメラの内蔵マイクの音声を出力します。

- カメラのマイク端子に外部マイクが取り付けられているときは、内蔵マイクの代わりに外部マイクの音声を使用します。
- 4ch 録音は動画のファイル形式が MOV のときのみ行えます。

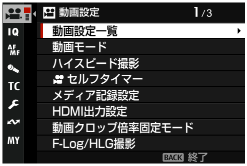
REC 枠表示

動画撮影メニューと共通のメニューです（📖 198）。設定を変更すると動画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

動画設定（動画）

動画撮影に関する設定を変更できます。

動画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、（動画設定）タブを選びます。



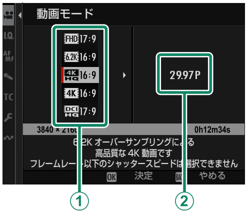
動画設定一覧

現在の動画撮影の設定を一覧表示します。

動画のクイックメニューが表示されているときに **DISP/BACK** ボタンを押しても表示できます。

動画モード

撮影する動画の画像サイズとアスペクト比、フレームレートを変更できます。



1 撮影メニューから **動画設定** > **動画モード**を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

2 セレクターボタンの上下を押して動画の画像サイズとアスペクト比を選び（①）、セレクターボタンの右を押します。

- **6.2K 16:9** を選ぶと、アスペクト比 16:9 の 6.2K 動画を撮影します。
- **4K HQ 16:9**、**DCI HQ 17:9** を選ぶと、それぞれアスペクト比 16：9 または 17：9 の 4K 高画質動画を撮影します。
- **4K 16:9**、**DCI 17:9** を選ぶと、それぞれアスペクト比 16：9 または 17：9 の 4K 動画を撮影します。
- **FHD 16:9**、**FHD 17:9** を選ぶと、それぞれアスペクト比 16：9 または 17：9 の FULL HD 動画を撮影します。

3 フレームレートを選び（②）、**MENU/OK** ボタンを押します。

設定値					
23.98P	**24P**	**25P**	**29.97P**	**50P**	**59.94P**

フレームレートは、動画モードによって選択できる設定値が異なります。

ハイスピード撮影

ハイスピード動画を撮影するかどうかを設定できます。素早く動く被写体の撮影や、肉眼では確認しづらい一瞬のアクションもスローモーションのような映像で楽しむことができます。**ON** を選ぶと撮影時と再生時のフレームレートをそれぞれ設定できます。

ON HDMI ONLY を選ぶと HDMI 端子に接続した外部レコーダーにのみ出力することができます。このとき、再生時のフレームレートは選べません。

画像サイズ

設定値	
FHD 16:9	FHD 17:9

再生時

設定値					
23.98P	24P	25P	29.97P	50P	59.94P

撮影時

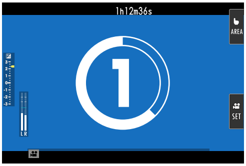
設定値			
100P	120P	200P	240P

- 音声は記録されません。
- 撮影 1 秒に対し、設定されたビットレートを目標に圧縮してメモリーカードに記録します。
- 再生フレームレートによって選択できる撮影フレームレートが変わります。

セルフタイマー

シャッターボタンを全押ししてから録画が開始されるまでの時間を設定できます。

- 画面には、シャッターがきれるまでの秒数がカウントダウン表示されます。
- タイマーを途中で止めるには、**DISP/BACK** ボタンを押します。



設定値			
3 秒	5 秒	10 秒	OFF

メディア記録設定

動画の記録先やファイル形式、圧縮方式、ビットレートについての設定ができます。

メディア記録設定

動画の記録先やファイル形式、圧縮方式などを設定できます。

動画の記録先

撮影した動画の記録先や記録方法、出力先を設定できます。

設定	説明
1→2	メモリーカードスロット 1 に保存します。メモリーカードの容量がなくなったら、メモリーカードスロット 2 に自動的に切り替えて保存します。
2→1	メモリーカードスロット 2 に保存します。メモリーカードの容量がなくなったら、メモリーカードスロット 1 に自動的に切り替えて保存します。
1+2	2 枚のメモリーカードに同時に保存します。
HDMI	HDMI 端子に接続した機器にのみ出力します。

バックアップする動画の動画モードを変更することはできません。撮影時の設定で記録されます。

ファイル形式、圧縮方式

動画のファイル形式や、圧縮方式を設定できます。

設定	説明
H.264 ALL-I 420 MOV	再生互換性が高い圧縮方式です。4:2:0 8bit データをALL-I で圧縮します。
H.264 LongGOP 420 MOV	再生互換性が高い圧縮方式です。4:2:0 8bit データをLong GOP で圧縮します。
H.264 LongGOP 420 MP4	WEB へのアップロードなどに適した動画を撮影できます。
H.265 ALL-I 420 MOV	H.264 よりも圧縮効率が高い圧縮方式です。4:2:0 10bit データを ALL-I で圧縮します。
H.265 LongGOP 420 MOV	H.264 よりも圧縮効率が高い圧縮方式です。4:2:0 10bit データを Long GOP で圧縮します。
H.265 ALL-I 422 MOV	H.264 よりも圧縮効率が高い圧縮方式です。4:2:2 10bit データを ALL-I で圧縮します。
H.265 LongGOP 422 MOV	H.264 よりも圧縮効率が高い圧縮方式です。4:2:2 10bit データを Long GOP で圧縮します。

- HDMI 端子に接続した機器には、H.264 の場合は 4:2:2 8bit、H.264 以外の場合は 4:2:2 10bit で出力します。
- **ALL-I** は撮影したコマを 1 コマずつ圧縮する方式です。データ量は大きくなりますが、各コマのデータが保存されているので編集を前提とした動画撮影に適しています。
- **Long GOP** は良好な画質と高い圧縮率を備えた圧縮方式です。データ量は小さく、長時間の撮影に適しています。
- **動画モード**、**ハイスピード撮影**、**F-Log/HLG 撮影**の設定によって、設定できるファイル形式や圧縮方式が異なります。

ビットレート

動画のビットレートを設定できます。

設定値			
50Mbps	100Mbps	200Mbps	360Mbps

ビットレートはハイスピード動画や圧縮方式の設定によって選択できる設定値が異なります。映像によっては設定値より低い値となる場合があります。

HDMI 出力設定

HDMI 端子に接続した機器に撮影画面を出力する場合の設定ができます。

HDMI 出力情報表示

ON にすると、動画を HDMI で出力したときに、カメラに表示されている情報表示をそのまま表示します。

設定値	
ON	OFF

HDMI レックコントロール

動画撮影時に、シャッターボタンと連動して動画の開始 / 停止制御信号を HDMI 機器に送るかどうかを設定します。

設定値	
ON	OFF

RAW 出力設定

HDMI 端子に接続した外部レコーダー用に RAW 動画を出力するかどうかを設定します。

設定	説明
RAW 出力設定 ATOMOS	Atomos 社製の外部レコーダー用の RAW 動画を出力します。
RAW 出力設定 Blackmagic	Blackmagic design 社製の外部レコーダー用の RAW 動画を出力します。
OFF	RAW 動画を出力しません。

- 動画の画像サイズは自動的に 6.2K に変更されます。
- RAW 出力時はメモリーカードに記録できません。
- **RAW** で撮影された映像は、カメラ内部の画像補正処理が反映されません。
- ISO 感度は ISO800 以上、ISO12800 以下になります。
- 外部レコーダーの表示画質は、外部レコーダーの仕様にもとづいて RAW から作られる映像であり、最終的なポストプロダクションなどで得られる映像を再現できない場合があります。
- HDMI 出力に **RAW** を選んだときは、カメラの画面の拡大表示機能は使用できません。
- **RAW** で撮影された映像を、対応している外部レコーダー以外で HDMI 出力すると、モザイク画像が表示され正しく表示できません。
- RAW 出力時は動画モード、ハイスピード撮影は無効になります。

動画クロップ倍率固定モード

動画のクロップ倍率を 1.25 倍に固定します。動画設定を変更したときに撮影範囲を合わせやすくなります。

設定値	
ON	**OFF**

F-Log/HLG 撮影

F-Log 撮影および HLG（Hybrid Log-Gamma）による映像をどのように記録または HDMI 出力するかを設定します。

設定	説明
HDMI	メモリーカードと外部レコーダーの両方にフィルムシミュレーション映像が記録・出力されます。
F-Log HDMI F-Log	メモリーカードと外部レコーダーの両方に F-Log で撮影された映像が記録・出力されます。
FLog2 HDMI FLog2	メモリーカードと外部レコーダーの両方に F-Log2 で撮影された映像が記録・出力されます。
HLG HDMI HLG	メモリーカードと外部レコーダーの両方に HLG で撮影された映像が記録・出力されます。

- **F-Log** および **FLog2** は、撮影後の映像処理（ポストプロダクション）を前提としたやわらかいガンマカーブで、広い色空間の映像になります。**FLog2** は **F-Log** よりもダイナミックレンジが広いガンマカーブです。**F-Log** は ISO 感度が ISO500 以上、ISO12800 以下、**FLog2** は ISO 感度が ISO1000 以上、ISO12800 以下になります。
- **HLG**（Hybrid Log-Gamma）は、国際標準規格（ITU-R BT2100）に準拠した動画撮影方式のひとつです。HLG 方式で記録した映像を HLG 対応ディスプレイで再生することで、明暗差の大きいシーンや、彩度が高い被写体においてリアリティのある高品位な映像を表現できます。ISO 感度は ISO800 以上、ISO12800 以下になります。
- フィルムシミュレーションの映像（）は、撮影メニューの **IQ 画質設定** > **フィルム シミュレーション**で選んでいる設定になります。

6

撮影メニュー

データレベル設定

撮影する動画の信号値の範囲を設定できます。

設定	説明
ビデオレンジ	動画の階調を 8bit の場合は 16 ～ 235、10bit の場合は 64 ～ 940 の制限された範囲で記録します。
フルレンジ	動画の階調を 8bit の場合は 0 ～ 255、10bit の場合は 0 ～ 1023 の範囲で記録します。

測光

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（98）。

フリッカーレス S.S. 設定

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（174）。

設定値	
ON	OFF

ブレ防止モード

手ブレ補正の ON/OFF を設定します。

設定	説明
IBIS/OIS	センサーシフト式（IBIS）と光学式（OIS）のブレ補正を行います。OIS を搭載していないレンズを使用している場合は、IBIS でブレ補正を行います。
IBIS/OIS + DIS	IBIS と OIS に加え、電子式（DIS）のブレ補正を行います。**動画モード**に応じて画角がクロップされます。
OFF	ブレ補正を行いません。**OFF** のときは、が表示されます。

- レンズに手ブレ補正のスイッチ（OIS スイッチ）がある場合、レンズ側の設定が優先されます。
- 手ブレ補正機能が動作すると、振動や動作音を感じることがあります。

ブレ防止モードブースト

手ブレ補正の強さを設定します。

設定	説明
ON	手持ちで構図を固定して撮影する場合に適しています。
OFF	手持ちで構図を変えながら撮影する場合に適しています。

ブレ防止モードブーストを割り当てたファンクションボタンを押すと、動画撮影中に設定を切り替えることができます（321）。

6 撮影メニュー

ゼブラ設定

動画モードの画面に、露出オーバーで白とびが発生しそうな高輝度部分を縞状のパターン（ゼブラ）で表示できます。

設定	説明
ゼブラ右	 右上がりのゼブラ表示になります。
ゼブラ左	 左上がりのゼブラ表示になります。
切	ゼブラ表示しません。

ゼブラレベル

ゼブラ設定のゼブラレベル（輝度レベル）を設定します。

設定値										
50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100

動画専用操作モード

ON にすると、コマンドダイヤルとタッチ操作で撮影時の設定を変更できます。動画撮影時、カメラの操作音を記録したくないときに便利です（28）。

設定値	
ON	**OFF**

REC 枠表示

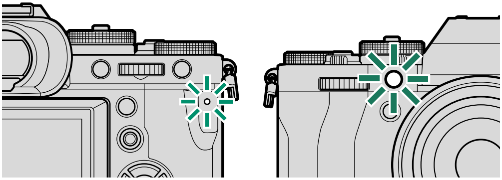
ON にすると、動画の撮影中であることを示す赤い枠を画面に表示します。

設定値	
ON	**OFF**

ハイスピード撮影時は緑色の枠が表示されます。

タリーランプ

動画撮影中に点灯するランプの切り替え（インジケーターランプまたはAF 補助光ランプ）や点灯または点滅の設定を変更できます。



インジケーターランプ　　AF 補助光ランプ

設定	説明
前面 OFF 背面 [点灯アイコン]	動画撮影中はインジケーターランプが点灯します。
前面 OFF 背面 [点滅アイコン]	動画撮影中はインジケーターランプが点滅します。
前面 [点灯アイコン] 背面 [点灯アイコン]	動画撮影中はインジケーターランプと AF 補助光ランプが点灯します。
前面 [点灯アイコン] 背面 OFF	動画撮影中は AF 補助光ランプが点灯します。
前面 [点滅アイコン] 背面 [点滅アイコン]	動画撮影中はインジケーターランプと AF 補助光ランプが点滅します。
前面 [点滅アイコン] 背面 OFF	動画撮影中は AF 補助光ランプが点滅します。
前面 OFF 背面 OFF	動画撮影中はインジケーターランプと AF 補助光ランプは消灯します。

カスタム選択

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、静止画とは別に設定してください（📖 134）。

カスタム登録 / 編集

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、静止画とは別に設定してください（📖 134）。

カスタム登録内容の自動更新

静止画と共通のメニューです（📖 139）。

ワイヤレス通信

静止画と共通のメニューです（📖 179）。

画質設定（動画）

動画撮影時の画質に関する機能を設定できます。

動画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、IQ（画質設定）タブを選びます。



メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。

フィルムシミュレーション

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（122）。

モノクローム カラー

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（124）。

ホワイトバランス

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（📖 126）。

ダイナミックレンジ

撮影する動画のダイナミックレンジを変更できます。

設定	説明
DR100 **100%**	それぞれの設定については「ダイナミックレンジ」（📖 130）を参照してください。
DR200 **200%**	
DR400 **400%**	

- 動画撮影時のダイナミックレンジには、**AUTO**（自動調整）はありません。
- DR200 **200%**は ISO 感度が ISO 250 以上 ISO 12800 以下、DR400 **400%**は ISO 500 以上 ISO 12800 以下のときに設定できます。
- **動画設定** > **F-Log/HLG 撮影**が のときに設定できます。

トーンカーブ

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（📖 131）。

カラー

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（📖 131）。

シャープネス

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（📖 131）。

高感度ノイズ低減

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（📖 132）。

フレーム間ノイズリダクション

AUTO にすると、撮影条件に応じて自動的にフレーム間のノイズを軽減します。

設定値	
AUTO	**OFF**

カメラを動かした場合や動いている被写体を撮影した場合は、残像が出ることがあります。

周辺光量補正

ON にすると、動画の周辺光量を補正します。

設定値	
ON	**OFF**

- 別売のマウントアダプターを使用して、カメラ側に情報を送ることができないレンズを装着した場合、**ON** にすると、撮影メニューの **画質設定** > **マウントアダプター設定** > **周辺光量補正**（142）で設定した内容で、動画の周辺光量を補正します。
- 撮影した動画に縞模様が発生する場合は **OFF** にしてください。

マウントアダプター設定

静止画と共通のメニューです（140）。設定を変更すると静止画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

6

撮影メニュー

フォーカス設定（動画）

動画撮影時のフォーカスに関する機能を設定できます。

動画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、AF MF（フォーカス設定）タブを選びます。



メニューに表示される項目は、撮影モードによって異なります。

フォーカスエリア選択

フォーカスモードが **S** または **C** のときのピントを合わせるエリアの位置を変更できます。フォーカスモードが **M** のときは、ピントを合わせる位置や拡大表示する位置を変更できます（📖 87）。

動画撮影中はフォーカスエリアのサイズ変更はできません。

AF モード

動画撮影時のピント合わせの方法を変更できます。

設定	説明
オートエリア	ピントを合わせるエリアをカメラが自動的に選びます。
エリア選択	ピントを合わせるエリアを選べます。

AF-C カスタム設定

動画撮影時にフォーカスモードを C に設定したときのピントの追従性を設定します。

被写体保持特性

AF エリアに距離差のある被写体以外のものが入ってきた場合、それまで追っていた被写体を保持するかどうかを決める特性です。被写体保持特性については、「AF-C カスタム設定」の「各設定の特性について」の「被写体保持特性」(📖 145)を参照してください。

設定値				
0	1	2	3	4

- 数値が大きいほど、意図しない被写体にピントが合ってしまうと、ピントを合わせたい被写体になかなか切り替わらない場合があります。
- 数値が小さいほど、AF エリアに入ってきた意図しない被写体に切り替わる場合があります。

AF 速度

AF でピントを合わせる速度を調整します。速度を速くしたいときは「+」側に、遅くしたいときは「-」側に設定します。

設定値										
-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5

フォーカスポイント循環

静止画と共通のメニューです(📖 148)。設定を変更すると静止画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

AF 補助光

静止画と共通のメニューです（150）。設定を変更すると静止画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

顔検出 / 瞳 AF 設定

動画撮影時の顔検出の設定ができます。

設定	説明
顔検出 ON	設定については「顔検出 / 瞳 AF 設定」（151）を参照してください。
OFF	顔検出も瞳 AF も使用しません。

動画撮影時はフォーカスモード切換レバーを **S** にしても、**フォーカス設定** > **顔検出 / 瞳 AF 設定**が**顔検出 ON** のときは、自動的に **C**（コンティニュアス AF）になります。また、フォーカスモードが **M** のときは、**顔検出 / 瞳 AF 設定**を**顔検出 ON** にしても顔検出は行われません。

被写体検出 AF 設定

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（153）。

動画撮影時はフォーカスモード切換レバーを **S** にしても、**フォーカス設定** > **被写体検出 AF 設定**が**被写体検出 ON** のときは、自動的に **C**（コンティニュアス AF）になります。また、フォーカスモードが **M** のときは、**被写体検出 AF 設定**を**被写体検出 ON** にしても被写体検出は行われません。

AF+MF

ON にすると、フォーカスモードが **S** や **C** のときにマニュアルフォーカスで撮影できます。**AFON** ボタンを押すと解除できます。

設定値	
ON	**OFF**

MF アシスト

マニュアルフォーカス時（フォーカスモードが **M** のとき）のピント確認方法を設定します（📖 94）。

設定	説明
フォーカスピーキング	コントラストの高い輪郭部分を強調して表示します。表示色とピーキングレベルの組み合わせを選べます。
フォーカスメーター	画面上の矢印の向きで被写体の前後どちらにピントが合っているかを表示します。
フォーカスメーター＋ピーキング	フォーカスメーターとフォーカスピーキングの両方を使用してピントが確認できます。
OFF	通常表示です（フォーカスピーキング/フォーカスメーター機能を使用しません）。

フォーカスチェック

静止画撮影メニューと同じ機能ですが、動画撮影用に設定してください（📖 156）。

ワンプッシュ AF 時の動作

静止画と共通のメニューです（📖 157）。設定を変更すると静止画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

動画撮影中はワンプッシュ AF は無効になります。ワンプッシュ AF を使うときは、動画撮影を始める前に使用してください。

被写界深度スケール

静止画と共通のメニューです（157）。設定を変更すると静止画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

フォーカスリミッター

静止画と共通のメニューです（159）。設定を変更すると静止画撮影メニューの設定も同時に変更されます。

タッチパネルモード

液晶モニター（LCD）のタッチ操作で、ピント合わせやフォーカスエリア選択ができるように設定できます。

タッチパネルモード	意味
AF	ピントを合わせたいところの画面をタッチして、ピント合わせを行います。**シャッターボタンを全押しすると動画撮影を開始し、もう一度全押しすると動画撮影を終了します。** • フォーカスモードが **S**（AF-S）のときは、動画撮影中にもう一度画面をタッチすると、タッチした場所でピントを合わせ直します。 • フォーカスモードが **C**（AF-C）のときは、動画撮影中、タッチした場所にピントを合わせ続けます。 • フォーカスモードが **M**（MF）のときは、動画スタンバイ中はタッチした場所でワンプッシュ AF の動作を行い、動画撮影中はタッチした場所にフォーカスエリアを移動します。
エリア選択	フォーカスエリアに設定したい場所をタッチすると、タッチした場所にフォーカスエリアが移動します。**シャッターボタンを全押しすると動画撮影を開始し、もう一度全押しすると動画撮影を終了します。** • フォーカスモードが **S**（AF-S）のときは、動画撮影中にもう一度画面をタッチすると、タッチした場所にフォーカスエリアが移動します。ピント合わせをする場合は、**AF-ON** を割り当てたボタンを押してください。 • フォーカスモードが **C**（AF-C）のときは、動画撮影中、タッチした場所にピントを合わせ続けます。 • フォーカスモードが **M**（MF）のときは、タッチした場所にフォーカスエリアを移動させます。
OFF	タッチパネルモードを無効にします。

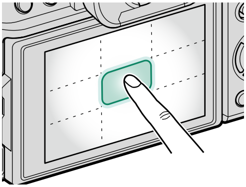
- タッチパネルの動作は AF モードによって異なります。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **タッチパネル設定** > **タッチパネル設定** が **OFF** のときは、タッチパネルモードアイコンは非表示になり、タッチ操作の切り替えはできません。

ピント位置拡大中のタッチパネルの動作

ピント位置拡大中（フォーカスチェックがオンのとき）は、タッチパネルの動作が異なります。

■ 画面の中央をタッチしたときの動作

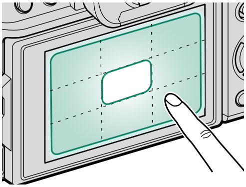
画面の中央をタッチしたときは、以下のように動作します。



タッチパネルモード	動画時
AF	**AF-S**：AF
	MF：ワンプッシュ AF
エリア選択	**AF-S**：AF
	MF：ワンプッシュ AF
OFF	**AF-S/MF**：OFF

■ 画面の中央以外の場所をタッチしたときの動作

タッチパネルモードや静止画 / 動画撮影の状態に関わらず、シングルタッチすると常に拡大表示する位置が移動するだけで、他の動作は行いません。



フォーカスチェックロック

拡大表示中に動画撮影を開始したときに、拡大表示を維持したまま撮影するかどうかを設定できます。

設定値	
ON	OFF

オーディオ設定（動画）

動画撮影時の音声に関する設定を変更できます。

動画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、
（オーディオ設定）タブを選びます。



内蔵マイクレベル設定

内蔵マイクの音量を調節できます。

設定	説明
AUTO	カメラが自動的にマイクレベルを調節します。
マニュアル	マイクレベルを 25 段階から設定できます。
OFF	マイクレベルをオフにします。

外部マイクレベル設定

外部マイクの音量を調節できます。

設定	説明
AUTO	カメラが自動的にマイクレベルを調節します。
マニュアル	マイクレベルを 25 段階から設定できます。
OFF	マイクレベルをオフにします。

マイク端子設定

マイク入力端子に取り付ける機器を設定します。

設定	説明
マイク	外部マイクを直接取り付けるときに選びます。
ライン	ライン出力する外部音声機器を取り付けるときに選びます。

マイクレベルリミッター

マイクへの音声信号の過大入力による音割れを抑制します。

設定値	
ON	**OFF**

風音低減

動画撮影時に風音によるノイズを低減して録音します。

設定値	
ON	**OFF**

ローカットフィルター

動画撮影時に低域ノイズをカットして録音します。

設定値	
ON	**OFF**

ヘッドホン音量

ヘッドホンの音量を設定します。

設定	説明
0	音量をオフに設定します。
1 ～ 10	音量を 1 ～ 10 に設定します。

XLR マイクアダプター設定

XLR マイクアダプターを使用しているときに、マイク入力チャンネルなどを設定できます。

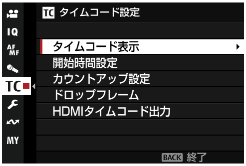
サブメニュー	内容
マイク入力チャンネル	カメラの内蔵マイクも使用して 4ch 録音をするか、XLR マイクアダプターのマイクのみで 2ch 録音をするかを設定できます。 • **4ch XLR+ カメラ**：カメラの内蔵マイクも使用して、4ch 録音をします。 • **2ch XLR のみ**：XLR マイクアダプターに取り付けられた外部マイクのみで 2ch 録音をします。
4ch 音声モニタリング	動画撮影中にヘッドホンなどでモニタリングする音声を設定できます。 • **XLR**：XLR マイクアダプターに取り付けられた外部マイクの音声をモニタリングします。 • **カメラ**：カメラの内蔵マイクの音声をモニタリングします。
HDMI4ch 音声出力	HDMI 端子に取り付けられた外部レコーダーに出力する音声を設定できます。 • **XLR**：XLR マイクアダプターに取り付けられた外部マイクの音声を出力します。 • **カメラ**：カメラの内蔵マイクの音声を出力します。

- カメラのマイク端子に外部マイクが取り付けられているときは、内蔵マイクの代わりに外部マイクの音声を使用します。
- 4ch 録音は動画のファイル形式が MOV のときのみ行えます。

タイムコード設定（動画）

動画撮影時の時間を表すタイムコード（時間 / 分 / 秒 / フレーム）についての設定ができます。

動画撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、TC（タイムコード設定）タブを選びます。



タイムコード表示

ON にすると、動画撮影画面や再生画面にタイムコードを表示します。

設定値	
ON	OFF

開始時間設定

タイムコード値を調整できます。

設定	説明
手動設定	タイムコードの開始時間を手動で設定できます。
現在時刻	現在のカメラの時間 / 分 / 秒がタイムコードの開始時間になります。
リセット	00 時間 00 分 00 秒にタイムコードをリセットします。

カウントアップ設定

タイムコードのカウントを動画撮影中のみ行うか、常時カウントを行うかを選べます。

設定	説明
レックラン	動画撮影中のみ、タイムコードのカウントを行います。
フリーラン	常時タイムコードのカウントを行います。

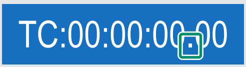
ドロップフレーム

動画のフレームレートが **59.94P** と **29.97P** の場合に、タイムコードのカウントと実際の映像時間に生じた小数点以下の部分の差のズレを補正するためにタイムコードを間引く（ドロップフレームを行う）かどうかを設定できます。

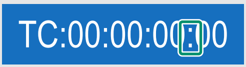
設定	説明
ON	ドロップフレームを行います。タイムコードと映像時間を厳密に合わせたいときに選びます。
OFF	ドロップフレームを行いません。

- ドロップフレームの設定により、タイムコードの表示が異なります。





ON



OFF

- 動画のフレームレートが **23.98P** の場合、ドロップフレームは常に **OFF** になります。

6 撮影メニュー

HDMI タイムコード出力

動画を HDMI で出力するときに、タイムコードを付加するかどうかを選びます。

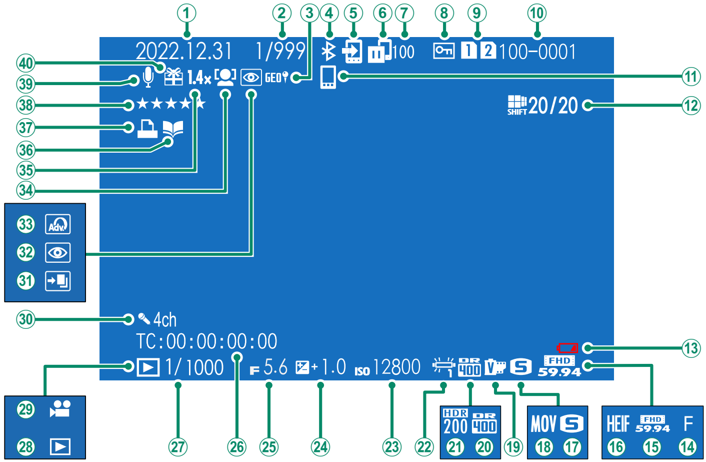
設定値	
ON	**OFF**

7 画像の再生と再生メニュー

再生時の表示画面

再生時は、画面（EVF/LCD）に次の情報が表示されます。

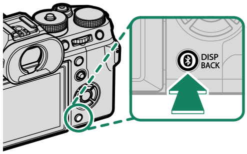
説明のため情報はすべて表示しています。

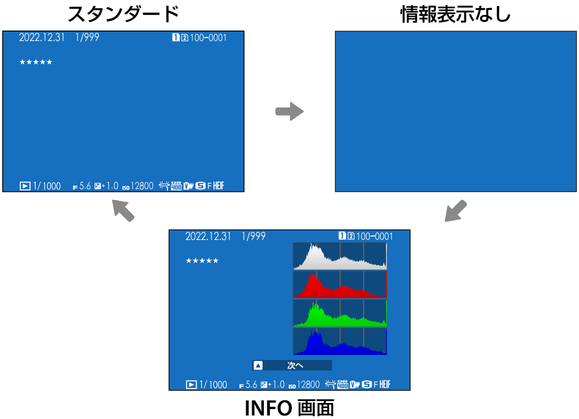


① 日付・時刻……48、50、273
② コマ数表示
③ 位置情報……310
④ Bluetooth ON/OFF
⑤ 画像転送予約
⑥ 画像転送状況
⑦ 画像転送予約枚数
⑧ プロテクト……234
⑨ カードスロット……225
⑩ コマ NO.……308
⑪ Bluetooth 接続先……249
⑫ ピクセルシフトマルチショット……177
⑬ バッテリー残量不足……47
⑭ 画質モード……119
⑮ 動画モード……188
⑯ HEIF 画像……121
⑰ 画像サイズ……118
⑱ ファイル形式……191
⑲ フィルム シミュレーション……122
⑳ ダイナミックレンジ……130
㉑ HDR……107
㉒ ホワイトバランス……126
㉓ ISO 感度……96
㉔ 露出補正……99
㉕ 絞り値……73、78、80
㉖ タイムコード……216
㉗ シャッタースピード……73、74、80
㉘ 再生モード……56
㉙ 動画アイコン……69
㉚ 4ch 音声……186、215
㉛ HDR 画像……107
㉜ 赤目補正……180
㉝ アドバンストフィルター……109
㉞ 顔検出……151
㉟ デジタルテレコン……175
㊱ フォトブックアシスト……242
㊲ プリント予約……244
㊳ レーティング……237
㊴ ボイスメモ……236
㊵ プレゼント……56

情報表示の切り替え

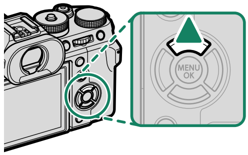
再生モードで **DISP/BACK** ボタンを押すごとに表示が切り替わります。

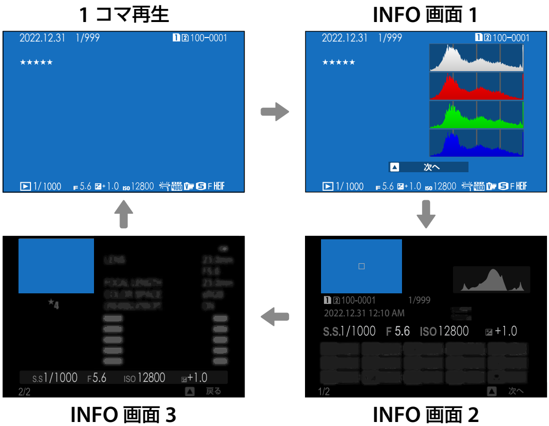




撮影時の情報確認

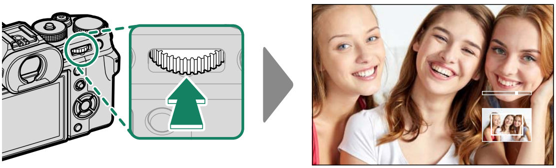
1 コマ再生時にセレクターボタンの上を押すと、撮影時の情報を確認できます。





ピントの位置を拡大表示する

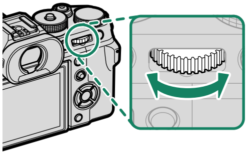
リアコマンドダイヤルの中央を押すと、ピントを合わせた位置を拡大できます。もう一度リアコマンドダイヤルの中央を押すと、1 コマ再生に戻ります。

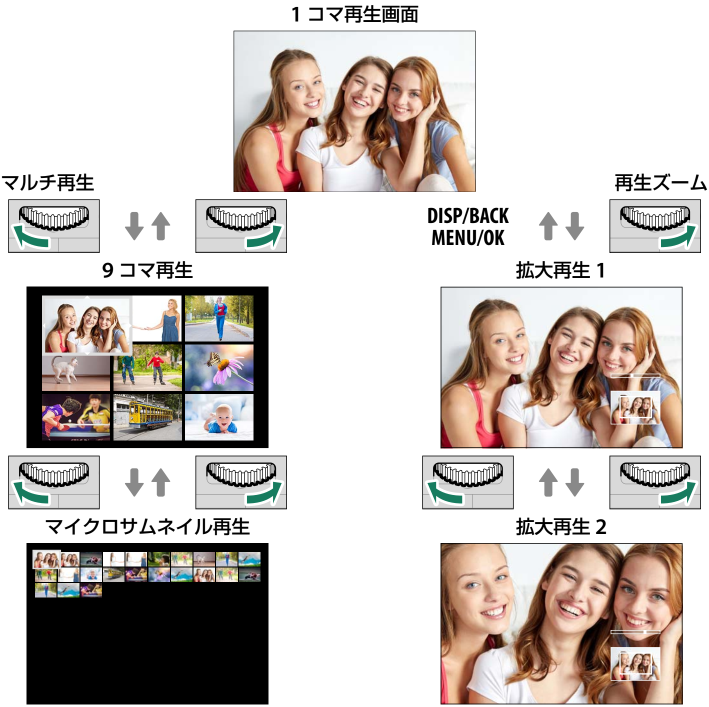


再生方法

再生画像を拡大表示したり、一覧表示したりできます。

拡大表示や複数画像の一覧表示は、1 コマ再生時にリアコマンドダイヤルで操作します。





再生ズーム

1 コマ再生時にリアコマンドダイヤルを右に回すと、画像を拡大表示できます。再生ズームを解除するには、**DISP/BACK** ボタンまたは **MENU/OK** ボタンを押すか、リアコマンドダイヤルの中央を押します。

最大ズーム倍率は、撮影時の IQ **画質設定** > **画像サイズ**によって変わります。

ナビゲーションについて

拡大表示中にセレクターボタンで、液晶モニターに表示される範囲を移動できます。



ナビゲーション

マルチ再生

1 コマ再生時にリアコマンドダイヤルを左に回すと、9 コマ、100 コマ（マイクロサムネイル）の一覧を表示できます。

- セレクターボタンで画像を選び、**MENU/OK** ボタンを押すと、選んだ画像を 1 コマ表示できます。
- セレクターボタンの上下を押してページを切り替えることもできます。

再生メニュー

画像の再生に関する機能を設定できます。

再生画面で **MENU/OK** ボタンを押します。



スロット切り替え

画像を再生するメモリーカードを選びます。

> ▶ ボタンを長押ししても、再生するメモリーカードを切り替えることができます。

RAW 現像

撮影した RAW ファイルを、パーソナルコンピューターを使用せずにカメラでさまざまな設定を加えて別ファイルで保存（現像）できます。

現像手順

1 再生画面で現像する RAW 画像を選びます。

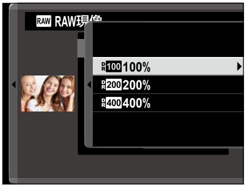
2 ▶ 再生メニュー＞**RAW 現像**を選びます。

3 **MENU/OK** ボタンを押します。
設定できる機能の一覧が表示されます。



4 セレクターボタンの上下を押して変更する項目を選びます。

5 セレクターボタンの右を押して設定の変更に移ります。



6 セレクターボタンの上下を押して設定を変更します。

7 **MENU/OK** ボタンを押して、決定します。
手順 3 の画面に戻ります。手順 7 までを繰り返して、設定したい項目をすべて変更します。

8 **Q** ボタンを押します。
保存する画像のプレビューが表示されます。

9 **MENU/OK** ボタンを押して、別ファイルとして保存します。

RAW 画像の再生時に **Q** ボタンを押しても、**RAW 現像**を表示できます。

RAW 現像設定項目一覧

項目	機能
撮影時条件を反映	撮影時の条件を一括で反映します。
ファイル形式	保存する画像ファイルの形式を変更できます。
画像サイズ	記録する画像の大きさを変更できます。
画質モード	記録する画像の圧縮率を変更できます。
増感 / 減感	画像の明るさを調整できます。
ダイナミックレンジ	明るい部分の白とびを防ぎ、目で見たままに近い写真を撮影できます。
D レンジ優先	明暗差の大きいシーンで、白とびと黒つぶれの両方を抑えるよう階調を補正して自然な印象の画像を撮影します。
フィルム シミュレーション	色調を変更できます。
モノクローム カラー	フィルムシミュレーションの **ACROS** や **モノクロ**で撮影したモノクロ画像の色調を調整できます。
グレイン・エフェクト	画像にザラっとした粒状の質感を与えます。
カラークローム・エフェクト	赤や緑、黄色などの飽和しがちな彩度の高い色情報を階調豊かに表現します。
カラークローム ブルー	青系の色情報を階調豊かに表現します。
スムーススキン・エフェクト	人物の肌をなめらかに補正します。
ホワイトバランス	ホワイトバランスを変更できます。
WB シフト	ホワイトバランスを調整します。
トーンカーブ	画像のハイライト部やシャドウ部の強弱を調整します。
カラー	撮影時における画像の色の濃さを設定します。
シャープネス	撮影時における画像の輪郭をソフトにしたり、強調したりできます。

項目	機能
高感度ノイズ低減	高感度撮影時に画像に発生するノイズを低減できます。
明瞭度	画像をはっきりとさせます。
点像復元処理	回折現象やレンズ周辺部のわずかなボケを補正し、解像感を向上させます。
色空間	画像に適用する色空間を設定します。
HDR モード	白飛びや黒つぶれを少なくします。
デジタルテレコン	撮影時に設定した画角に変更します。

撮影時の設定によって設定できない項目があります。

HEIF を JPEG/TIFF に変換

撮影した HEIF 画像を JPEG 画像や TIFF 画像に変換できます。

画像を選択

変換したい HEIF 画像を選択して、変換できます。

ファイル形式

変換するファイル形式を設定できます。

設定値		
JPEG	TIFF 8bit	TIFF 16bit

保存先スロット選択

変換した画像を保存するメモリーカードスロットを設定できます。

設定値	
スロット 1	スロット 2

消去

画像を 1 コマだけ消去したり、消去する画像を複数枚選んで消去したり、すべての画像をまとめて消去したりすることができます。

誤って画像を消去すると元には戻せません。消去したくない画像は、プロテクトを設定するか、あらかじめパーソナルコンピューターにコピーしておいてください。

設定	説明
1 コマ	画像を 1 コマだけ消去します。
複数指定	指定した画像をまとめて消去します。
全コマ	画像がすべて消去されます。

1 コマ消去

1 消去メニューから **1 コマ**を選びます。

2 セレクターボタンの左右を押して消去する画像を選んでから **MENU/OK** ボタンを押すと、表示されている画像が消去されます。

- **MENU/OK** ボタンを押すと同時に画像が消去されますので、誤って消去しないようにご注意ください。
- **MENU/OK** ボタンを繰り返し押すと画像が連続して消去されます。消去する画像を選んでから **MENU/OK** ボタンを押してください。

複数指定消去

1 消去メニューから**複数指定**を選びます。

2 消去する画像を選んで **MENU/OK** ボタンを押すと、選択されます。
- 選択された画像は ☑ が表示されます。
- 選択を解除するときは、もう一度 **MENU/OK** ボタンを押します。

3 まとめて消去する画像を選択指定したあと、**DISP/BACK** ボタンを押します。

消去実行画面が表示されます。

4 **実行**を選んで、**MENU/OK** ボタンを押すと、複数指定消去が実行されます。

プリント予約やフォトブックなどが設定されている画像には、❗ が表示されます。

全コマ消去

1 消去メニューから**全コマ**を選びます。

2 **実行**を選んで、**MENU/OK** ボタンを押すと、全コマ消去が実行されます。

- **DISP/BACK** ボタンを押して消去を中止しても、それまでに消去した画像は元に戻せません。
- プリント予約を設定している画像を消去しようとすると、メッセージが表示されます。**MENU/OK** ボタンを押すと、その画像を消去します。

同時消去

保存設定 > カードスロット設定を**分割記録**にして 2 枚のカードに記録した RAW 画像と JPEG 画像や HEIF 画像を同時に消去するかどうかを設定できます。

設定	説明
ON	RAW 画像を消去すると、別のカードに同時記録した JPEG 画像や HEIF 画像も消去されます。
OFF	RAW 画像を消去しても、別のカードに同時記録した JPEG 画像や HEIF 画像は消去されません。

トリミング

撮影した画像の必要な部分をトリミング（切り抜く）できます。トリミングした画像は別ファイルとして保存されます。

1 再生画面でトリミングしたい画像を選びます。

2 再生メニュー > **トリミング**を選びます。

3 リアコマンドダイヤルとセレクターボタンでトリミングしたい部分を調整します。

4 **MENU/OK** ボタンを押すと、トリミング後の記録画素数が表示されます。

5 **MENU/OK** ボタンを押して、トリミングします。

- 拡大率が大きければトリミング画像の記録画素数は小さくなります。
- トリミングを行ったあとの記録画素数が 640 のときは、**実行**が黄色で表示されます。
- トリミングした画像の縦横比は、3:2 になります。

リサイズ

撮影した画像のサイズを小さくできます。リサイズした画像は別ファイルとして保存されます。

1 再生画面でリサイズしたい画像を選びます。

2 **再生メニュー＞リサイズ**を選びます。

3 変更するサイズを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

4 **MENU/OK** ボタンを押して、リサイズします。

元画像のサイズによって、リサイズできるサイズが異なります。

プロテクト

誤って画像を消去しないように、画像をプロテクトできます。

1 **▶ 再生メニュー > プロテクトを選びます。**

2 プロテクトの方法を選びます。

設定	説明
設定 / 解除	プロテクト設定されていない画像はプロテクトが設定され、プロテクト設定されている画像はプロテクト設定が解除されます。 • 手順 3 のあとに、続けてセレクターボタンで設定 / 解除する画像を選べます。
全コマ設定	すべての画像がプロテクトされます。
全コマ解除	すべての画像のプロテクト設定が解除されます。

3 **MENU/OK** ボタンを押して、プロテクトを設定 / 解除します。

4 **DISP/BACK** ボタンを押して、プロテクトを終了します。

メモリーカードをフォーマットすると、プロテクトした画像も消去されます。

- 画像転送予約している画像をプロテクトすると、転送予約は解除されます。
- 再生画面で **AFON** ボタンを押してもプロテクトを設定したり解除したりすることができます。

画像回転

撮影した画像を回転して再生できます。

1 **表示設定** > **縦横自動回転再生**を **ON** にします。

2 再生画面で回転したい画像を選びます。

3 **再生メニュー** > **画像回転**を選びます。

4 セレクターボタンの下（時計回りに 90° 回転）または上（反時計回りに 90° 回転）を押して画像を回転します。

5 **MENU/OK** ボタンを押して、回転を決定します。

- プロテクトされた画像は回転できません。プロテクトを解除してから回転してください。
- 他のカメラで撮影した画像は回転できないことがあります。また、他のカメラやパーソナルコンピューターで再生する場合は、画像は回転表示しません。
- **表示設定** > **縦横自動回転再生**を **ON** にすると、縦方向で撮影した画像を自動的に回転して再生します。

ボイスメモ設定

静止画に音声を記録できます。

1 ▣ **再生メニュー** > **ボイスメモ設定**を **ON** にします。

2 再生画面でボイスメモを記録したい画像を選びます。

3 フロントコマンドダイヤルの中央を押している間、ボイスメモが記録されます。

30 秒経過すると、記録は終了します。

- すでにボイスメモが記録されている画像に再度記録すると、上書き記録されます。
- プロテクトされている画像にボイスメモは記録できません。
- 画像を消去すると、記録されているボイスメモも消去されます。

ボイスメモの再生について

再生時にボイスメモが記録されている画像を選択すると、🎙 が表示されます。

- フロントコマンドダイヤルの中央を押すと、ボイスメモを再生できます。
- ボイスメモ再生時には、進行状況を示すバーが表示されます。
- 再生中に **MENU/OK** ボタンを押すと、再生音量の設定画面が表示されます。セレクターボタンで再生音量を選び、**MENU/OK** ボタンで決定します。再生音量は、**音設定** > **再生音量**でも設定できます。

レーティング

撮影した画像に星の数でランクを付けることができます。

1 ▶ **再生メニュー ＞ レーティングを選びます。**

2 フロントコマンドダイヤルでランク付けをしたい画像を選び、リアコマンドダイヤルで ★ の数（0 ～ 5）を設定します。

- フロントコマンドダイヤルの代わりにセレクターボタンで画像を選ぶこともできます。
- 1 コマ再生画面や 9 コマ再生画面、マルチサムネイル画面のときに **AEL** ボタンを押して、レーティングの画面に切り替えることもできます。
- タッチパネルで画像の拡大や縮小ができます。
- 以下の画像はレーティングを設定できません。
  - プロテクトされている画像
  - 動画
  - プレゼント画像（他のカメラで撮影した画像）

画像コピー

カメラのメモリーカードスロット 1（以下、スロット 1）に装着したメモリーカードとメモリーカードスロット 2（以下、スロット 2）に装着したメモリーカードとの間で、画像をコピーできます。

1 **▶ 再生メニュー＞画像コピー**を選びます。

2 コピーの方法を選びます。

設定	説明
スロット 1➡ スロット 2	スロット 1 のメモリーカードの画像をスロット 2 のメモリーカードにコピーします。
スロット 2➡ スロット 1	スロット 2 のメモリーカードの画像をスロット 1 のメモリーカードにコピーします。

3 セレクターボタンの右を押します。

4 コピーするコマ数を選びます。

設定	説明
1 コマ	表示中の画像をコピーします。 • 手順 5 のあとにセレクターボタンの左右を押して、続けてコピーする画像を選べます。
全コマ	すべての画像をコピーします。

5 **MENU/OK** ボタンを押して、コピーを開始します。

- コピー先の空き容量がなくなると、その時点でコピーを終了します。
- 32GB 以下の SD メモリーカード（32GB を含む）の場合、ファイルサイズが 4GB を超えたファイルはコピーされず、コピーを終了します。

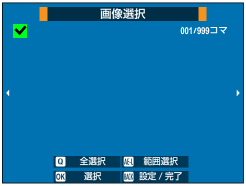
スマートフォンに画像転送

Bluetooth® でペアリングしているスマートフォンに画像を転送できます
(📖 249)。

1 **スマートフォンに画像転送 > コマ選択を選びます。**

> **予約リセット**を選ぶと、スマートフォンへの画像転送予約をすべて解除できます。

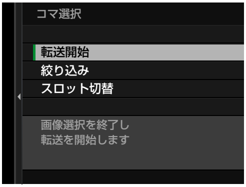
2 転送予約する画像を選びます。



MENU/OK ボタンを押して画像を選択します。

- 表示する画像を絞り込んだり、画像を表示するメモリーカードスロットを切り替えたいときは、画像を選択する前に **DISP/BACK** ボタンを押してください。
- **Q** ボタンを押すと画像を全選択できます。
- **AEL** ボタンを押すと、開始する画像と終了する画像を選んで範囲選択できます。

3 **DISP/BACK** ボタンを押してから**転送開始**を選びます。

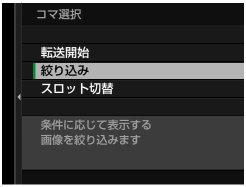


画像が転送されます。

画像の絞り込みとメモリーカードスロットの切り替え

画像選択画面で **DISP/BACK** ボタンを押すと、表示する画像の絞り込みや、画像を表示するメモリーカードスロットを切り替えることができます。

- **絞り込み**を選ぶと、表示する画像を絞り込むことができます。
- **スロット切替**を選ぶと画像を表示するメモリーカードスロットを切り替えることができます。



絞り込みや**スロット切替**を選ぶと、その前に選んだ画像は選択解除されます。

- 同じメモリーカードで最大 999 枚まで転送予約することができます。
- 以下の画像は転送予約できません。
  - プロテクトされている画像
  - 動画
  - RAW 画像
  - プレゼント画像（他のカメラで撮影した画像）
- ネットワーク/USB 設定メニューの **Bluetooth/ スマートフォン設定** > **Bluetooth ON/OFF** が **ON** で、**電源 OFF 中の画像転送**が **ON** のときは、カメラの電源がオフのときでも画像をペアリングされているスマートフォンに転送します。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **Fn1 ボタン設定**を **スマートフォン転送予約**に設定しておくと、**Fn1** ボタンを押して画像選択画面を呼び出すこともできます。

ワイヤレス通信

無線 LAN を使ってスマートフォンと通信できます。スマートフォンと通信すると、以下の機能が使用できます。

- スマートフォンを操作して、カメラで撮影
- カメラからスマートフォンに画像を送信
- スマートフォン側でカメラ内の画像を閲覧 / 取り込み
- スマートフォンで取得した位置情報をカメラに送信

これらの機能を使用するには、スマートフォンにあらかじめ最新のスマートフォンアプリケーションをインストールしておく必要があります。

- スマートフォンアプリケーションについては、以下のウェブサイトをご覧ください。
  https://app.fujifilm-dsc.com/
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **Fn1 ボタン設定**を **ワイヤレス通信**に設定しておくと、**Fn1** ボタンを押してスマートフォンと通信できます。

スライドショー

撮影した画像を順番に自動再生します。**MENU/OK** ボタンを押すと、スライドショーを開始 / 終了します。**DISP/BACK** ボタンを押すと、スライドショー終了のガイダンスを表示します。セレクターボタンの左右を押すとコマ送りします。

スライドショー中は、自動電源 OFF になりません。

フォトブックアシスト

画像を選んで、フォトブックを作成できます。

フォトブックを作成する

1 **▣ 再生メニュー＞フォトブックアシストを選びます。**

2 **新規 BOOK を選び、MENU/OK ボタンを押します。**

フォトブックの新規作成画面が表示されます。

3 **画像を選択します。**

セレクターボタンの上を押すと表示されている画像を選択または選択解除し、下を押すと表示されている画像を表紙にします。

- 640 以下で保存されている画像と動画は選択できません。
- 最初に選択した画像は、自動的に表紙と 1 枚目の画像になります。表紙は、あとからでも変更できます。

4 **画像の選択が終わったら、MENU/OK ボタンを押します。**

5 **作成終了を選びます。**

全て選択を選ぶと、全画像がフォトブック作成中の画像として選択されます。

6 **MENU/OK ボタンを押します。**

フォトブックアシストメニューに作成したフォトブックが表示されます。

- フォトブックで選択できる画像は 300 枚までです。
- 画像が 1 枚も選択されていないフォトブックは削除されます。

作成したフォトブックについて

カメラで作成したフォトブックは、対応する店頭で簡単に注文することができます。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

https://www.fujifilm.com/jp/ja/consumer/photoprinting/print

作成したフォトブックを見る

作成されているフォトブックを選ぶと、フォトブックの内容を見ることができます。セレクターボタンの左右を押して次や前の画像に移動できます。

作成したフォトブックを編集 / 削除する

1 作成したフォトブックを表示しているときに **MENU/OK** ボタンを押します。

---

2 **編集**または**削除**を選びます。

- **編集**：フォトブックの内容を再編集できます。編集方法はフォトブックを作成する方法と同じです。
- **削除**：表示されているフォトブックを削除できます。

---

3 画面の指示にしたがって、フォトブックを編集 / 削除します。

プリント予約（DPOF）

プリント予約（DPOF）であらかじめ DPOF 指定（プリント予約）しておくと、フジカラーデジカメプリントサービス取扱店でお店プリントするときに、指定した内容で簡単にプリントできます。

1 **再生メニュー＞プリント予約（DPOF）を選びます。**

2 日付の有無を設定します。

設定	説明
日付あり設定	撮影日を印字します。
日付なし設定	撮影日を印字しません。
全コマ解除	現在設定されている DPOF 指定（プリント予約）を一度に解除できます。

3 プリント予約する画像を選びます。

4 プリント枚数を選びます（最大 99 枚）。

DPOF 指定を取り消したいときは、プリント枚数が 0 になるまでセレクターボタンの下を押します。



手順 3 と 4 を繰り返して、プリントする画像をすべて予約します。

5 合計枚数を確認して、もう一度 **MENU/OK** ボタンを押します。

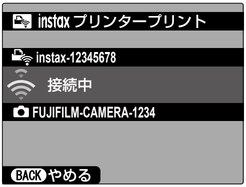
- DPOF 指定（プリント予約）した画像には、再生時に が表示されます。
- 同じメモリーカードで最大 999 枚まで DPOF 指定することができます。
- 別のカメラで DPOF 指定された画像がメモリーカードに入っているときは、すでに設定されている DPOF 指定を取り消し、DPOF 指定し直してください。

instax プリンタープリント

別売の「FUJIFILM instax SHARE」プリンターで画像を印刷できます。あらかじめネットワーク /USB 設定メニューの **instax プリンター接続設定**で、instax SHARE プリンターのプリンター名（SSID）とパスワードを入力しておく必要があります。

1 プリンターの電源を入れます。

2 ▶ **再生メニュー ＞instax プリンタープリント**を選ぶと、カメラとプリンターの接続が開始されます。



3 プリントしたい画像を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

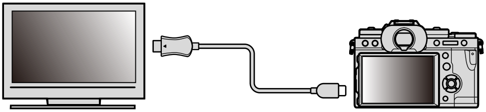


- 他のカメラで撮影した画像はプリントできません。
- プリントされる範囲は液晶モニターに表示されている画像の範囲よりも狭くなります。
- プリンターによって、操作画面が変わることがあります。

4 画像がプリンターに送信され、プリントが開始されます。

表示比率

静止画を HD 出力のテレビで再生するときの表示比率を選べます。HDMI ケーブルでカメラと HD 出力テレビを接続したときに有効です。



設定値	
16 : 9	3 : 2

3:2 で撮影した静止画をテレビで全画面表示したいときは、**16:9** に設定してください。**16:9** に設定すると上下が切れた状態でフル画面表示されます。

8 ネットワーク /USB 機能と設定メニュー

ネットワーク /USB 機能の概要

このカメラはパーソナルコンピューターやスマートフォンと接続して、撮影した画像を転送したり、パーソナルコンピューターやスマートフォンでカメラを操作して撮影することができます。

このカメラでできること

このカメラでできることは次の通りです。

ネットワーク /USB 機能	内容	📖
スマートフォンアプリケーションと接続	スマートフォンと Bluetooth® で接続して、撮影した画像を転送したり、ライブビューを確認しながらカメラを操作できます。	249
USB カードリーダー	パーソナルコンピューターやスマートフォンと USB ケーブルで接続して、メモリーカード内の画像を転送できます。	252
ウェブカメラ	パーソナルコンピューターと USB ケーブルで接続して、パーソナルコンピューター上でウェブカメラとして使用できます。	257
instax プリント	instax プリンターと接続して、撮影した画像をプリントできます。	258
テザー撮影	無線 LAN や USB ケーブルでパーソナルコンピューターと接続し、テザー撮影ができます。	260
RAW 現像	カメラの画像処理エンジンを使用した RAW 現像をパーソナルコンピューター上で行えます。	262
設定の保存読込	パーソナルコンピューターやスマートフォンにカメラの設定を保存したり、保存した設定を読み込んだりできます。	263

スマートフォンアプリケーションを使用する

カメラとスマートフォンを Bluetooth® で接続すると、撮影画像をスマートフォンへ転送したり、ライブビューを確認しながらカメラをスマートフォンで操作できます。

> 撮影画像の転送時は自動的に無線 LAN で接続します。

スマートフォンにアプリケーションをインストールする

カメラとスマートフォンを接続するためには、あらかじめ専用のアプリケーションをスマートフォンにインストールする必要があります。以下のウェブサイトをご覧いただき、スマートフォンにアプリケーションをインストールしてください。

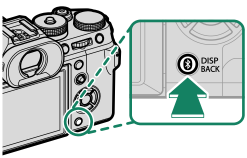
https://app.fujifilm-dsc.com/

> 使用できるアプリケーションはスマートフォンの OS によって異なります。

カメラとスマートフォンを接続する

カメラとスマートフォンをペアリングして、Bluetooth® で接続します。

1 撮影画面で (Bluetooth) ボタンを長押しします。

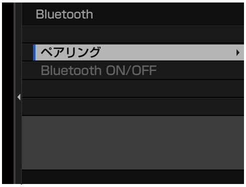


> 再生画面で長押ししたときは、手順 3 に進みます。

2 **Bluetooth** を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



3 ペアリングを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

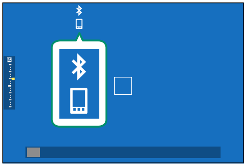


4 スマートフォンのアプリケーションを起動し、カメラとペアリングします。

詳しい手順は以下のウェブサイトをご覧ください。

https://app.fujifilm-dsc.com/

ペアリングをすると、自動的にカメラとスマートフォンが Bluetooth で接続されます。カメラとスマートフォンが接続されると、カメラの表示画面にスマートフォンアイコンと白い Bluetooth アイコンが表示されます。



- 一度ペアリングを行うと、スマートフォンアプリケーションを起動するたびに自動的にカメラと接続します。
- スマートフォンと接続しないときは Bluetooth をオフにするとカメラの消費電力を抑えることができます。

スマートフォンアプリケーションを使用する

スマートフォンアプリケーションを使用して、次のようにスマートフォンに画像を転送できます。

あらかじめ **Bluetooth/ スマートフォン設定** > **Bluetooth ON/OFF** を **ON** にしてください。

スマートフォンアプリケーションで選んで画像を転送する

スマートフォンアプリケーションで転送する画像を選んで、スマートフォンに画像を転送することができます。

スマートフォンアプリケーションの詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

https://app.fujifilm-dsc.com/

撮影した画像を自動的に転送する

ネットワーク /USB 設定メニューの **Bluetooth/ スマートフォン設定** > **撮影時 自動画像転送**を **ON** にすると、撮影した画像がペアリングしているスマートフォンに自動的に転送されます。

- ネットワーク /USB 設定メニューの **Bluetooth/ スマートフォン設定** > **Bluetooth ON/OFF** が **ON** で、**電源 OFF 中の画像転送**が **ON** のときは、カメラの電源がオフのときでも画像をペアリングされているスマートフォンに転送します。
- ネットワーク /USB 設定メニューの **Bluetooth/ スマートフォン設定** > **スマートフォン送信時圧縮**を **ON** にすると、転送する画像のサイズを圧縮して転送します（📖 266）。
- ネットワーク /USB 設定メニューの **Bluetooth/ スマートフォン設定** > **ファイル形式選択**で、転送する画像のファイル形式を設定できます。

再生メニューから画像を選んで転送する

スマートフォンに画像転送 > **コマ選択**で、選んだ画像を Bluetooth® でペアリングしているスマートフォンに転送できます（📖 239）。

USB カードリーダーとして使用する

カメラとスマートフォンやパーソナルコンピューターを USB ケーブルで接続すると、撮影画像を転送できます。

スマートフォンに画像を転送する

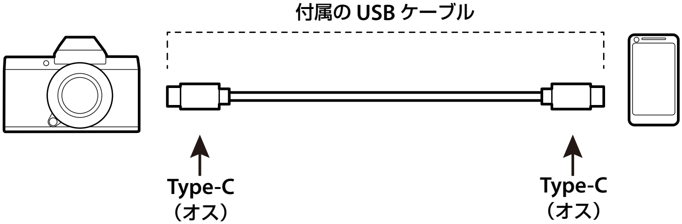
スマートフォンに画像を転送するときは、ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 OFF/ 通信 ON** にしてからカメラとスマートフォンを USB ケーブルで接続します。

Android のスマートフォンをお使いの方

スマートフォンに搭載されている USB 端子の形状によって、接続方法が異なります。

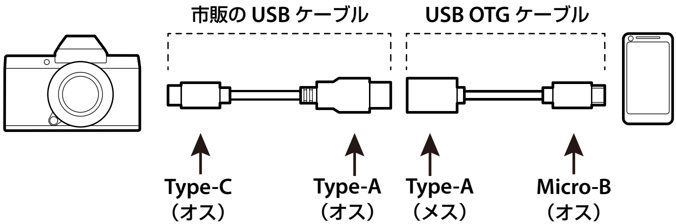
USB Type-C の場合

付属の USB ケーブルがご使用いただけます。



USB Micro-B の場合

USB OTG 対応ケーブルでカメラとスマートフォンを接続します。



- スマートフォンが USB OTG に対応している必要があります。
- USB Type-C と USB Micro-B のケーブルで直接つないだ場合、正しく接続できません。OTG ケーブルを使用してください。

1 ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 OFF/ 通信 ON** にします。

2 接続モードで **USB カードリーダー**を選びます。

3 カメラの電源がオンになっている状態でカメラとスマートフォンを USB ケーブルで接続します。

「Camera Importer」以外のアプリケーション（「フォト」など）へのアクセスを許可するかどうかを確認する通知が表示された場合は、「キャンセル」をタップして手順 4 に進みます。

4 スマートフォンを操作して、「Android システム・USB PTP に接続しました」の通知をタップします。

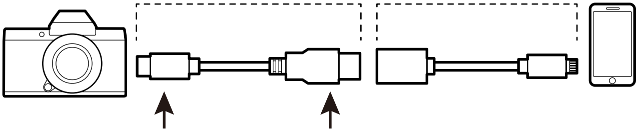
5 USB デバイス用のアプリケーションの中から「Camera Importer」を選びます。

自動的に「Camera Importer」アプリケーションが起動し、画像 / 動画をインポートできます。

「Camera Importer」アプリケーションから「There is no MTP device connected」などの通知が表示された場合は、USB ケーブルを抜いて、手順 3 からやり直してください。

iOS のスマートフォンをお使いの方

カメラアダプタでカメラとスマートフォンを接続します。カメラには USB 端子（Type-C）が搭載されているので、別途カメラアダプタの USB 端子（Type-A）と接続するケーブルをご用意ください。



1 ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**給電 OFF/ 通信 ON** にします。

2 接続モードで **USB カードリーダー**を選びます。

3 カメラの電源がオンになっている状態でカメラとスマートフォンを USB ケーブルで接続します。

「写真」アプリケーションを起動すると、画像 / 動画をインポートできます。

- USB Type-C を搭載した iPad などを接続するときは、Type-C to C の USB ケーブルを使用してください。
- USB Type-C と Lightning のケーブルで直接つないだ場合、正しく接続できません。カメラアダプタを使用してください。

パーソナルコンピューターに画像を転送する

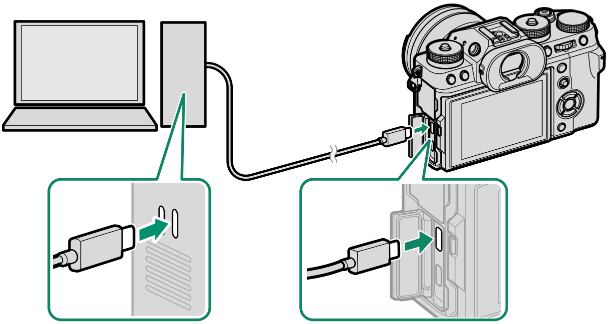
1 ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 OFF/ 通信 ON** にします。

2 接続モードで **USB カードリーダー**を選びます。

3 カメラの電源をオフにします。

4 パーソナルコンピューターを起動します。

5 USB ケーブルで、カメラとパーソナルコンピューターを接続します。



USB 端子（Type-C）

> USB ケーブルは、長さが 1m 以内で、データ転送が可能なものをご使用ください。

6 カメラの電源をオンにします。

7 画像を転送します。

- **Mac OS X / OS X / macOS の場合**：OS 標準アプリケーションの「イメージキャプチャ」などのソフトウエアで画像や動画を取り込んでください。ファイルサイズが 4GB を超える場合は、カードリーダーでファイルを取り込んでください。
- **Windows の場合**：OS 標準アプリケーションなどで画像や動画を取り込んでください。

- USB ケーブルを取り外すときは、カメラの電源をオフにしてください。
- USB ケーブルは、接続端子の奥までしっかりと差し込んでください。USB ハブやキーボードを経由させずに、直接カメラとパーソナルコンピューターを接続してください。
- 画像をコピーするときは、バッテリー切れに注意してください。通信中に電源がオフになると、メモリーカード内のデータが破壊されることがあります。
- メモリーカード内に大量の画像がある場合は、ソフトウエアの起動に時間がかかり、画像の保存や転送ができないことがあります。このような場合は、お手元のカードリーダーを使って、転送してください。
- カメラとパーソナルコンピューターの接続を外す前に、カメラのインジケーターランプが消灯、もしくは緑色に点灯していることを確認してください。
- カメラとパーソナルコンピューターの通信時には、USB ケーブルを抜かないでください。メモリーカードのデータが壊れたり、データが消えたりすることがあります。
- メモリーカードの交換は、必ずカメラとパーソナルコンピューターの接続を外したあとに行ってください。
- ソフトウエアでネットワークサーバ上に画像ファイルを保存してご利用いただく場合、スタンドアローン（単独）のパーソナルコンピューターのようにご利用になれないことがあります。
- パーソナルコンピューターでの「コピー中」という表示が消えてすぐにカメラを取り外したり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。大きなサイズのデータをコピーした場合、パーソナルコンピューターの表示が消えても、カメラのアクセスがしばらく行われている場合があります。
- インターネットに接続する際に発生する通話料金、プロバイダ接続料金などはお客様のご負担となります。

ウェブカメラとして使用する

カメラをパーソナルコンピューターに接続して、ウェブカメラとして使用できます。

1 ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 OFF/ 通信 ON** にします。

2 接続モードで **USB WEBCAM** を選びます。

3 カメラとパーソナルコンピューターを USB ケーブルで接続してから、カメラの電源をオンにします（📖 255）。

4 ウェブカメラを使用するアプリケーション上で、カメラを選択します。

instax プリントする

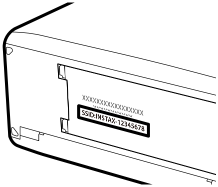
別売の「FUJIFILM instax SHARE」プリンターで画像をプリントできます。

プリンターとの接続を設定する

ネットワーク /USB 設定メニューの **instax プリンター接続設定**を選び、instax SHARE プリンターのプリンター名（SSID）とパスワードを入力します。

プリンター名（SSID）とパスワード

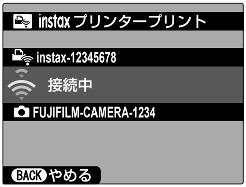
instax SHARE プリンターの底面に SSID が記載されています。工場出荷時のパスワードは「1111」です。すでにスマートフォンを使用してプリントされている方で任意のパスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してください。



画像をプリントする

1 プリンターの電源を入れます。

2 ▶ 再生メニューの **instax** プリンタープリントを選ぶと、カメラとプリンターの接続が開始されます。



3 プリントしたい画像を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。



- 他のカメラで撮影した画像はプリントできません。
- プリントされる範囲は液晶モニターに表示されている画像の範囲よりも狭くなります。
- プリンターによって、操作画面が変わることがあります。

4 画像がプリンターに送信され、プリントが開始されます。

テザー撮影をする

USB や無線 LAN でカメラとパーソナルコンピューターを接続し、パーソナルコンピューター上でカメラを操作して静止画を撮影したり、撮影した画像をパーソナルコンピューターに転送や保存したりすることができます。

USB 接続でテザー撮影をする

USB ケーブルでカメラとパーソナルコンピューターを接続して、テザー撮影をします。

1 ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 OFF/ 通信 ON** にします。

2 接続モードで **USB テザー撮影 自動**または **USB テザー撮影 固定**を選びます。

- **USB テザー撮影 自動**を選ぶと、接続したパーソナルコンピューターの電源がオンのときは自動的にテザー撮影状態になります。パーソナルコンピューターと接続していないときや、パーソナルコンピューターの電源がオフのときはテザー撮影状態にはならず、撮影した画像はカメラのメモリーカードに保存されます。
- **USB テザー撮影 固定**を選ぶと、パーソナルコンピューターと接続していないときもカメラは常にテザー撮影状態になり、撮影しても画像は保存されません。

3 カメラとパーソナルコンピューターを USB ケーブルで接続してから、カメラの電源をオンにします（📖 255）。

4 **テザー撮影をします。**

「Adobe Lightroom Classic + FUJIFILM Tether Shooting Plug-in」、「FUJIFILM X Acquire」、「Capture One」などのソフトウエアをご使用ください。

- X Acquire を使うときは、カメラのシャッターボタンを押して撮影します。
- テザー撮影の詳しい方法は、以下のウェブサイトをご覧ください。
  https://app.fujifilm-dsc.com/jp/tether/
- 使用するソフトウエアの詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。
  https://fujifilm-x.com/products/software/

無線 LAN でテザー撮影をする

無線 LAN でカメラとパーソナルコンピューターを接続して、テザー撮影をします。

1 ネットワーク /USB 設定メニューの**ネットワーク設定**であらかじめカメラを無線 LAN のネットワークに接続します。

2 **接続モード**で**ワイヤレステザー撮影 固定**を選びます。

3 **テザー撮影をします。**

「Adobe Lightroom Classic + FUJIFILM Tether Shooting Plug-in」、「FUJIFILM X Acquire」などのソフトウエアをご使用ください。

- X Acquire を使うときは、カメラのシャッターボタンを押して撮影します。
- テザー撮影の詳しい方法は、以下のウェブサイトをご覧ください。
  https://app.fujifilm-dsc.com/jp/tether/
- 使用するソフトウエアの詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。
  https://fujifilm-x.com/products/software/

RAW 現像する

X RAW STUDIO を使用して、カメラの画像処理エンジンを使用したRAW 現像をパーソナルコンピューター上で行うことができます。

1 ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 OFF/ 通信 ON** にします。

2 接続モードで **USB RAW 現像 / 設定保存読込**を選びます。

3 カメラとパーソナルコンピューターを USB ケーブルで接続してから、カメラの電源をオンにします（📖 255）。

4 X RAW STUDIO を起動します。

X RAW STUDIO 上で RAW 現像ができます。

> 使用するソフトウエアの詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。
> *https://fujifilm-x.com/products/software/*

設定の保存や読み込みをする

FUJIFILM X Acquire を使用して、パーソナルコンピューターにカメラの設定を保存したり、保存した設定を読み込んだりすることができます。

パーソナルコンピューターで設定の保存や読み込みをする

1 ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 OFF/ 通信 ON** にします。

2 **接続モードで USB RAW 現像 / 設定保存読込を選びます。**

3 カメラとパーソナルコンピューターを USB ケーブルで接続してから、カメラの電源をオンにします（📖 255）。

4 **FUJIFILM X Acquire を起動します。**

FUJIFILM X Acquire 上で設定の保存や読み込みができます。

> 使用するソフトウエアの詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。
> *https://fujifilm-x.com/products/software/*

ネットワーク /USB 設定メニュー

カメラのネットワーク /USB 機能の設定を変更できます。

撮影画面または再生画面で **MENU/OK** ボタンを押し、（ネットワーク /USB 設定）タブを選びます。



Bluetooth/ スマートフォン設定

Bluetooth 接続に関する設定や、スマートフォンに関するさまざまな設定ができます。

スマートフォンにあらかじめ最新のスマートフォンアプリケーションをインストールしておく必要があります。

ペアリング登録

スマートフォンアプリケーションがインストールされているスマートフォンとペアリング登録します。

ペアリング接続先選択

ペアリング登録で登録したスマートフォンの中から接続するスマートフォンを選びます。**接続なし**を選択するとスマートフォンとのペアリングは行いません。

ペアリング削除

ペアリング登録されているスマートフォンの情報を削除できます。

削除されたスマートフォンはペアリング接続先選択のリストからも削除されます。

Bluetooth 機器一覧

ペアリング登録されている機器のうち、スマートフォン以外の機器の一覧を確認したり、ペアリングを削除したりできます。

Bluetooth ON/OFF

ON にすると、ペアリング登録したスマートフォンでスマートフォンアプリケーションが起動したときに、カメラが自動的にスマートフォンと接続します。

設定値	
ON	OFF

撮影時 自動画像転送

ON にすると、撮影したときに画像を自動的に転送します。

設定値	
ON	OFF

スマートフォン位置情報同期

ON にすると、ペアリング登録されているスマートフォンと位置情報を同期します。

設定値	
ON	OFF

スマートフォンアプリケーションが起動している必要があります。なお、スマートフォンアプリケーションが起動していても、途中でペアリングが切断された場合は、同期も中断されます。最後に位置情報を取得してから 30 分以上更新がないと、カメラの位置情報取得マークが赤い表示に変わります。

名前

無線 LAN 通信で使用するカメラの名前を変更できます。工場出荷時は、カメラ固有の名前になっています。

電源 OFF 中の画像転送

ON にすると、カメラの電源をオフにしたときに、撮影した画像をペアリングされているスマートフォンに転送します。

設定値	
ON	OFF

スマートフォン送信時圧縮

スマートフォンへ画像を送信するときの画像サイズを変更できます。**ON** にすると、画像サイズを圧縮して送信します。**ON** での使用をおすすめします。

設定値	
ON	OFF

- メモリーカードに保存されている元の画像の画像サイズは変更されません。
- 記録画像サイズが L サイズ、M サイズの場合に、画像サイズを圧縮して転送します。

無線通信周波数設定

無線 LAN 通信を行うときの無線 LAN の周波数を設定します。

設定値	
2.4GHz（IEEE802.11 b/g/n）	5GHz（IEEE802.11 a/n/ac）

- 5GHz の一部のチャンネルについて、屋外での使用が禁止されている国・地域があります。ご使用になる前に 5.2GHz 帯（W52）が使用可能かご確認ください。
- 購入した国・地域によって選べる設定値は異なります。

ファイル形式選択

転送する画像のファイル形式を設定します。**JPEG** と **HEIF** の ON と OFF をそれぞれ設定できます。

機内モード

ON にすると無線 LAN や Bluetooth をオフにできます。

設定値	
ON	OFF

ネットワーク設定

無線 LAN（ワイヤレス）に関する設定を変更できます。

サブメニュー	内容
アクセスポイント設定	• **簡単設定**：アクセスポイントに簡単接続で接続します。 • **手動設定**：アクセスポイントにマニュアル操作で接続します。**無線 LAN ルーター選択**、**SSID 入力**を手動で行います。
IP アドレス設定	• **自動**：IP アドレスを自動で設定します。 • **手動**：IP アドレスを手動で設定します。**IP アドレス**、**サブネットマスク**、**ゲートウェイ**の設定をそれぞれ手動で行います。

instax プリンター接続設定

別売の「FUJIFILM instax SHARE」プリンターのプリンター名（SSID）とパスワードを入力して、プリンターとの接続を設定します（📖 258）。

接続モード

外部機器とカメラを接続して使用する機能を設定します。

設定	説明
USB カードリーダー	USB ケーブルでパーソナルコンピューターとカメラを接続すると、自動的にメモリーカードのデータをパーソナルコンピューターに転送するモードになります。接続していないときは通常のカメラとして動作します。
USB WEBCAM	パーソナルコンピューターと USB ケーブルで接続して、パーソナルコンピューター上でウェブカメラとして使用できます。
USB テザー撮影 自動	USB ケーブルでパーソナルコンピューター、ジンバル、ドローンなどを接続すると、外部機器からカメラの制御が可能になります。接続した外部機器の電源を入れると、カメラは自動的にテザー撮影状態（外部機器による制御を受け付ける状態）になります。外部機器と接続していないときや外部機器の電源がオフのときは、通常通りにカメラを使用できます。 • 「Capture One」、「Adobe® Photoshop® Lightroom® + Tether Plugin」、「FUJIFILM X Acquire」、「FUJIFILM Pixel Shift Combiner」がインストールされているパーソナルコンピューターと接続すると、撮影した静止画をパーソナルコンピューターへ自動転送したり、パーソナルコンピューターから静止画の撮影を制御したりできます。「FUJIFILM X Acquire」では、カメラ設定の保存や読み込みも可能です。 • 対応したジンバル･ドローンなどを接続すると、ジンバル･ドローン側からカメラの制御が可能になります。制御は静止画撮影と動画撮影の両方行えます。静止画撮影、動画撮影の切り替えはカメラ側で設定します。使用できる機能は接続先のジンバル･ドローンの仕様によって異なります。

設定	説明
USB テザー撮影 固定	**USB テザー撮影 自動**と使用できる機能は同じです。ただし、外部機器を接続していないときや外部機器の電源がオフのときも、テザー撮影状態（外部機器による制御を受け付ける状態）になります。USB ケーブルが抜けるなどの異常が発生した場合も、再度 USB ケーブルを接続すると、外部機器からの制御を継続できます。工場出荷時の設定では、撮影した静止画はメモリーカードに記録されませんのでご注意ください。
ワイヤレステザー撮影 固定	ワイヤレス接続でテザー撮影モードになります。ネットワーク /USB 設定メニューの**ネットワーク設定**でアクセスポイントを設定してください。
USB RAW 現像 / 設定保存読込	USB ケーブルでパーソナルコンピューターとカメラを接続すると、自動的に「USB RAW 現像」「設定保存読込」が可能になります。接続していないときは通常のカメラとして動作します。 • **USB RAW 現像**：（使用ソフトウエア：FUJIFILM X RAW STUDIO）カメラに搭載している画像処理エンジンで、高速、高品質に RAW 現像を行います。 • **設定保存読込**：（使用ソフトウエア：FUJIFILM X Acquire）カメラの設定の保存、読込ができます。カメラの設定全体を瞬時に切り替えたり、複数の同一機種カメラ間で設定を共有したりするときに便利です。接続していないときは通常のカメラとして動作します。

消費電力設定 > **自動電源 OFF** の設定は、テザー撮影中（外部機器を接続した撮影中）も有効になります。テザー撮影中にオートパワーオフをさせたくない場合は、**自動電源 OFF** を **OFF** に設定してください。

このカメラで使用できるソフトウエアについては、359 をご覧ください。

USB 給電 / 通信設定

パーソナルコンピューターやスマートフォンなどの機器と USB ケーブルで接続したときにカメラに給電するか、カメラと通信するかを設定します。

設定	説明
自動	接続した機器からカメラに給電するか、接続した機器と通信するかを自動的に切り替えます。
給電 ON/ 通信 OFF	接続した機器から給電します。カメラのバッテリーの消費を抑えることができます。接続した機器との通信はできません。
給電 OFF/ 通信 ON	カメラに給電せず、接続した機器と通信を行います。

給電機能がない機器や Lightning 端子を持つ機器からは給電できません。これらの機器と接続するときはあらかじめ**給電 OFF/ 通信 ON** に設定してください。**給電 ON/ 通信 OFF** のまま接続すると、データの転送などができない場合があります。

カメラの電源がオフのときは、設定にかかわらずバッテリーの充電を行います。

情報表示

カメラ本体の MAC アドレスと Bluetooth アドレス、無線 LAN の IP アドレスを表示します。

ワイヤレス設定初期化

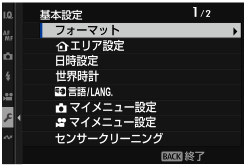
無線通信の設定を工場出荷時の設定に戻します。

9 セットアップメニュー

セットアップメニュー（基本設定）

カメラの基本的な設定を変更できます。

MENU/OK ボタンを押して、（セットアップ）タブを選び、**基本設定**を選びます。



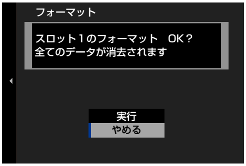
フォーマット

メモリーカードをフォーマット（初期化）します。

1 セットアップメニューから **基本設定** > **フォーマット**を選びます。

2 フォーマットしたいメモリーカードが入っているスロット（**スロット 1**/**スロット 2**）を選びます。

3 **MENU/OK** ボタンを押すと、確認の画面が表示されます。



4 **実行**を選び、**MENU/OK** ボタンを押すと、フォーマットが実行されます。

> 確認画面で**やめる**を選んだ状態で **MENU/OK** ボタンを押したり、**DISP/BACK** ボタンを押したりしたときは、フォーマットは実行されません。

- プロテクトされている画像を含むすべてのファイルが消去されます。消去したくない画像があるときは、フォーマットを実行しないでください。
- フォーマットの途中で、バッテリーカバーを開けないでください。

（消去）ボタンを長押し中にリアコマンドダイヤルの中央を押してもフォーマット画面を表示できます。

エリア設定

お住まいの地域やサマータイムの設定をします。

エリア設定

世界地図からお住まいの地域を選択します。

サマータイム

サマータイムを使用するかどうかを設定できます。

設定	説明
ON	サマータイムを使用します。
OFF	サマータイムを使用しません。

日時設定

日付と時刻を設定します。

1 セットアップメニューから **基本設定** > **日時設定**を選びます。

2 セレクターボタンの上下を押して年月日の並び順を選びます。

3 セレクターボタンの左右を押して設定する項目（年、月、日、時、分）を選び、上下を押して設定する数字を選びます。

4 **MENU/OK** ボタンを押すと、日時が設定されます。

世界時計

旅行先で、簡単にカメラの時計を現地時間に合わせることができます。

設定	説明
⌂ ホーム	現在設定されている日時を表示します。
✈ 現地	旅行先の日時を表示します。

ⓘ ✈ **現地**を選ぶときは、あらかじめ ⌂ **エリア設定**でお住まいの地域を設定してください。

現地時間の設定方法

1 ✈ 現地を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

2 セレクターボタンの左右を押して旅行先のエリアを選びます。

サマータイムを使用したいときは**サマータイム**を **ON** に設定してください。

3 **MENU/OK** ボタンを押します。

✈ **現地**を選ぶと、電源を入れるたびに、画面に ✈ と日時が約 3 秒間黄色で表示されます。

言語/LANG.

メニューなどを表示する言語を設定します。

マイメニュー設定

静止画撮影時によく使うメニューなどを **マイメニュー**に登録しておくことができます（313）。

マイメニュー設定

動画撮影時によく使うメニューなどを **マイメニュー**に登録しておくことができます（313）。

センサークリーニング

センサーのほこりなどをふるい落とすことができます。

設定	説明
実行	**実行**を選ぶと、すぐにセンサークリーニングを実行します。
電源 ON 時に実行	**ON** に設定すると、カメラの電源をオンにしたときにセンサークリーニングを実行します。
電源 OFF 時に実行	**ON** に設定すると、カメラの電源をオフにしたときにセンサークリーニングを実行します。ただし、再生モードで電源をオフにした場合は、実行されません。

センサークリーニングを実行してもセンサーのほこりを完全にふるい落とすことはできません。ほこりが取れない場合は、ブロワーでセンサーをクリーニングしてください（📖 378）。

バッテリー劣化度

バッテリーの劣化状態をチェックできます。バッテリーの劣化状態を0～4の目盛りの位置で表示します。数値が大きいほどバッテリーの劣化が進んでいることを示します。



バッテリーが劣化すると、バッテリーの消耗が早くなります。新しいバッテリーをお買い求めいただくことをおすすめします。

セットアップメニュー
9

リセット

撮影メニューまたはセットアップメニューの設定をそれぞれ工場出荷時の設定に戻します。

1 リセットするメニューを選び **MENU/OK** ボタンを押します。

設定	説明
静止画メニューリセット	静止画撮影メニューの **カスタム登録 / 編集**の内容、ホワイトバランスのカスタムの内容以外がリセットされます。
動画メニューリセット	動画撮影メニューの **カスタム登録 / 編集**の内容、ホワイトバランスのカスタムの内容以外がリセットされます。
セットアップリセット	セットアップメニューの**日時設定**、**エリア設定**、**世界時計**、**著作権情報**以外がリセットされます。
初期化	ホワイトバランスのカスタムの内容以外の全ての設定がリセットされます。

2 確認画面で**実行**を選んで **MENU/OK** ボタンを押します。

認証

セットアップメニューの **基本設定** > **認証**を選ぶと、製品型番などの認証情報が電子形式で表示されます。

セットアップメニュー（音設定）

カメラの音に関する設定を変更できます。

MENU/OK ボタンを押して、（セットアップ）タブを選び、**音設定**を選びます。



AF 合焦音量

シャッターボタン半押し中にピントが合ったときの音量を設定します。

設定	説明
	音量「大」に設定します。
	音量「中」に設定します。
	音量「小」に設定します。
OFF	消音に設定します。

セルフタイマー音量

セルフタイマー使用時の音量を設定します。

設定	説明
	音量「大」に設定します。
	音量「中」に設定します。
	音量「小」に設定します。
OFF	消音に設定します。

操作音量

ボタンなどを操作するときの音量を設定します。

設定	説明
🔊	音量「大」に設定します。
🔉	音量「中」に設定します。
🔈	音量「小」に設定します。
🔈OFF	消音に設定します。

🎥REC 開始終了音量

動画撮影を開始するときと終了するときの音量を設定します。

設定	説明
🔊	音量「大」に設定します。
🔉	音量「中」に設定します。
🔈	音量「小」に設定します。
🔈OFF	消音に設定します。

MS EF 電子シャッター音量

メカニカルシャッターや電子先幕シャッター使用時のシャッターをきるときの音量を設定します。

設定	説明
🔊	音量「大」に設定します。
🔉	音量「中」に設定します。
🔈	音量「小」に設定します。
🔈OFF	消音に設定します。

MS EF 電子シャッター音

メカニカルシャッターや電子先幕シャッター使用時のシャッターをきるときの音を設定します。

設定	説明
♪1 サウンド 1	シャッター音 1 に設定します。
♪2 サウンド 2	シャッター音 2 に設定します。
♪3 サウンド 3	シャッター音 3 に設定します。

ES 電子シャッター音量

電子シャッター使用時のシャッターをきるときの音量を設定します。

設定	説明
🔊	音量「大」に設定します。
🔉	音量「中」に設定します。
🔈	音量「小」に設定します。
🔈OFF	消音に設定します。

ES 電子シャッター音

電子シャッター使用時のシャッターをきるときの音を設定します。

設定	説明
♪1 サウンド 1	シャッター音 1 に設定します。
♪2 サウンド 2	シャッター音 2 に設定します。
♪3 サウンド 3	シャッター音 3 に設定します。

再生音量

動画再生時の音量を設定します。

設定	説明
0	音量をオフに設定します。
1 ～ 10	音量を 1 ～ 10 に設定します。

4ch 音声再生

XLR マイクアダプターを使用して、4ch 録音で撮影された動画を再生するときの音声を選べます。

設定	説明
XLR	XLR マイクアダプターに取り付けられた外部マイクの音声を再生します。
カメラ	カメラの内蔵マイクまたはマイク端子に取り付けられた外部マイクの音声を再生します。

再生画面でフォーカスレバーを中央に押して設定を切り替えることもできます。

セットアップメニュー（表示設定）

カメラの画面表示に関する設定を変更できます。

MENU/OK ボタンを押して、（セットアップ）タブを選び、**表示設定**を選びます。



VIEW MODE 設定

アイセンサー、EVF（ファインダー）、LCD（液晶モニター）の設定を切り替えます（16）。

EVF 明るさ

EVF（ファインダー）の明るさを調整できます。

設定	説明
AUTO	基準の明るさを設定すると、カメラが自動的に適切な明るさに調整します。
マニュアル	-7 ～ +5 の明るさを手動で調整します。

EVF 鮮やかさ

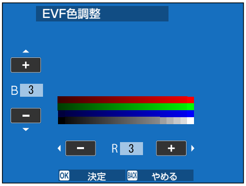
EVF（ファインダー）の鮮やかさを調整できます。

設定値										
-5	**-4**	**-3**	**-2**	**-1**	**0**	**+1**	**+2**	**+3**	**+4**	**+5**

EVF 色調整

EVF（ファインダー）の色調を調整できます。

1 セレクターボタンで色調を調整します。



2 **MENU/OK** ボタンで決定します。

LCD 明るさ

LCD（液晶モニター）の明るさを調整できます。

設定値										
-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5

LCD 鮮やかさ

LCD（液晶モニター）の鮮やかさを調整できます。

設定値										
-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5

LCD 色調整

LCD（液晶モニター）の色調を調整できます。

1 セレクターボタンで色調を調整します。

2 **MENU/OK** ボタンで決定します。

撮影画像表示

撮影直後の確認画面の表示時間を設定できます。

設定	説明
連続	シャッターボタンを半押しするまで、または **MENU/OK** ボタンを押すまで表示します。リアコマンドダイヤルの中央を押すと、ピント位置が拡大表示され、もう一度押すと元に戻ります。
1.5 秒 /0.5 秒	撮影した画像を一定時間表示します。表示中にシャッターボタンを半押しすると、表示を終了します。
OFF	表示しません。

- 実際に記録される画像と色味が若干異なることがあります。
- 高感度撮影時には、ノイズが目立つ場合があります。

縦横自動回転表示

ON にすると、撮影時にカメラが縦向きの場合、ファインダー（EVF）または液晶モニター（LCD）の表示が縦向きになります。

設定値	
ON	**OFF**

マニュアル時モニター露出 /WB 反映

マニュアル（**M**）撮影で、撮影画面に露出やホワイトバランスを反映できます。

設定	説明
露出反映 /WB 反映	露出とホワイトバランスの両方を反映した画面を表示します。
WB のみ反映	ホワイトバランスのみ反映した画面を表示します。デイライトシンクロ撮影など、撮影時に露出の条件が変わる場合に使用します。
OFF	露出もホワイトバランスも反映しません。タングステンモニタリングランプを使用したフラッシュ撮影など、撮影時に露出、ホワイトバランスの条件が変わる場合に使用します。

ナチュラルライブビュー

撮影画面に撮影効果を反映するかどうかを設定できます。

設定	説明
ON	撮影効果を反映せず、ソフトな階調で逆光シーンの暗い部分などの被写体を見やすいようにした画像が画面に表示されます。表示される画像の色味、階調は記録される画像と異なります。また、モノクロ、セピアでは一部撮影効果を反映した画像が表示されます。
OFF	フィルムシミュレーション、ホワイトバランスなどの撮影効果を反映した画像が画面に表示されます。

F-Log ビューアシスト

ON にすると、F-Log 撮影時や F-Log 撮影した動画の再生時に、階調補正を適用した映像（BT.709 相当）を画面に表示します。

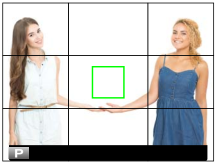
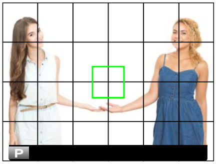
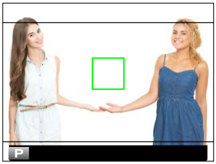
設定値	
ON	OFF

電子水準器設定

撮影時の電子水準器の表示を設定できます（📖 23）。

フレーミングガイド

撮影時のフレーミングガイドの種類を設定できます。

設定	説明	イメージ
方眼 9 分割	縦横にガイド線が表示されます（**9 コマ**）。	
方眼 24 分割	縦横にガイド線が表示されます（**24 コマ**）。	
HD HD フレーミング	画面が **16:9** になるようなガイド線が表示され、HD 画像の構図が決めやすくなります。	

フレーミングガイドは工場出荷時の設定では表示されない設定になっています。フレーミングガイドを表示する方法は「画面のカスタマイズ」をご覧ください（21）。

縦横自動回転再生

ON にすると、縦方向で撮影した画像を自動的に回転して再生します。

設定値	
ON	OFF

距離指標の単位

撮影モード時に表示される距離指標の単位を変更できます。

設定	説明
メートル	距離指標の単位をメートル（m）に設定します。
フィート	距離指標の単位をフィート（ft.）に設定します。

シネマレンズ使用時の絞り単位

別売のシネマレンズ FUJINON MKX シリーズレンズを使用したときの絞り値をシネマレンズ用の T 値（T ナンバー）で表示するか、通常のレンズと同じ F 値（F ナンバー）で表示するかを設定できます。シネマレンズの使い方については、レンズの使用説明書をご覧ください。

設定	説明
T 値	映画撮影用のレンズの絞り値の単位として一般的に使われています。レンズの透過率を考慮した実質的な明るさを表します。
F 値	通常のレンズで絞り値の単位として一般的に使われています。レンズの透過率が 100% であるという前提で明るさを表すため、レンズによっては実質的な明るさと異なる場合があります。

2 画面モード表示設定

情報表示切り替えの「2 画面」の表示設定を変更できます。

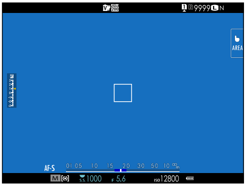
設定	説明
R: フォーカス **L: フレーム**	R（右）側の子画面（小さい画面）にピントを合わせた位置を拡大表示し、L（左）側の親画面（大きい画面）に撮影画面全体を表示します。
R: フレーム **L: フォーカス**	R（右）側の子画面（小さい画面）に撮影画面全体を表示し、L（左）側の親画面（大きい画面）にピントを合わせた位置を拡大表示します。

画面のカスタマイズ

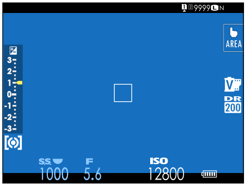
撮影時の「スタンダード」画面に表示したい項目を設定できます（📖 21）。

情報表示拡大モード (EVF)

ON にすると、EVF 画面に表示する撮影時の情報を拡大して表示できます。拡大表示する情報は **表示設定** > **情報表示拡大　表示設定**で変更できます。



OFF



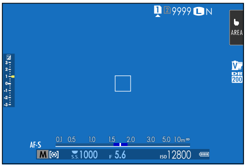
ON

情報表示拡大モード (EVF) を **ON** にすると、一部のアイコンが非表示になります（13）。

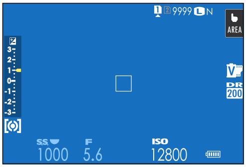
ファンクションボタンに**情報表示拡大モード**を割り当てておくと、ファンクションボタンを押すだけで**情報表示拡大モード**の **ON**/**OFF** を切り替えられます（321）。

情報表示拡大モード (LCD)

ON にすると、LCD 画面に表示する撮影時の情報を拡大して表示できます。拡大表示する情報は **表示設定** > **情報表示拡大　表示設定**で変更できます。



OFF



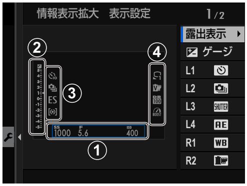
ON

情報表示拡大モード (LCD) を **ON** にすると、一部のアイコンが非表示になります（15）。

ファンクションボタンに**情報表示拡大モード**を割り当てておくと、ファンクションボタンを押すだけで**情報表示拡大モード**の **ON**/**OFF** を切り替えられます（321）。

情報表示拡大　表示設定

表示設定 > 情報表示拡大モード (EVF)、情報表示拡大モード (LCD) を **ON** にしたときに拡大表示する項目を変更できます。



サブメニュー	説明
① **露出表示**	画面の下部に表示する項目を選びます。画面に表示する項目には、☑ が表示されます。☑ が表示されている状態で **MENU/OK** ボタンを押すと、選択が解除されます。
② **ゲージ**	**ON** にすると、露出補正ゲージが拡大表示されます。
③ **L1、L2、L3、L4**	画面の左側に拡大表示するアイコンを最大 4 つまで選択できます。
④ **R1、R2、R3、R4**	画面の右側に拡大表示するアイコンを最大 4 つまで選択できます。

情報表示コントラスト調整

表示画面のコントラストを調整できます。

設定	説明
高コントラスト	コントラストを高めに（明暗差を大きく）設定します。
通常	通常表示です。
低コントラスト	コントラストを低めに（明暗差を小さく）設定します。
暗所	暗い環境で使用するときに適したコントラストに設定します。

位置情報表示

ON にすると、スマートフォンから取得した位置情報を表示できます。

設定値	
ON	OFF

クイックメニュー背景設定

静止画撮影時のクイックメニューの背景を設定できます。

設定値	
透明	黒

クイックメニュー背景設定

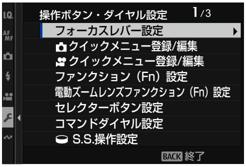
動画撮影時のクイックメニューの背景を設定できます。

設定値	
透明	黒

セットアップメニュー（操作ボタン・ダイヤル設定）

カメラの操作ボタンや操作ダイヤルに関する設定を変更できます。

MENU/OK ボタンを押して、（セットアップ）タブを選び、**操作ボタン・ダイヤル設定**を選びます。



フォーカスレバー設定

フォーカスレバーを中央に押したり、上下左右に動かしたりしたときの動作を設定できます。

フォーカスレバー押下

設定	説明
OFF	フォーカスレバーを中央に押す操作を無効にします。
フォーカスエリア選択	フォーカスエリアのサイズと位置の変更ができます。**顔検出 / 瞳 AF 設定**や**被写体検出 AF 設定**がオンのときは、ピントを合わせる顔や瞳、被写体を選択できます。
拡大 / 縮小	フォーカスエリアの位置を拡大表示します（90）。
中央へリセット	フォーカスエリアが中央に戻ります。

フォーカスレバー

設定	説明
OFF	フォーカスレバーを上下左右に動かす操作を無効にします。
AF ポイントダイレクト移動	撮影画面のままフォーカスエリア位置を移動できます。
フォーカスエリア選択	フォーカスエリアの選択画面が表示され、フォーカスエリアを選択できます。

クイックメニュー登録 / 編集

静止画撮影時にクイックメニューに表示するメニューを変更できます（315）。

クイックメニュー登録 / 編集

動画撮影時にクイックメニューに表示するメニューを変更できます（315）。

ファンクション（Fn）設定

ファンクションボタンに割り当てる機能を設定できます（321）。

電動ズームレンズファンクション（Fn）設定

ファンクションボタンがある電動ズームレンズを装着したときの、レンズのファンクションボタンに割り当てる機能を設定できます（329）。

セレクターボタン設定

セレクターボタンの設定を変更できます。

設定	説明
Fn ボタン	ファンクションボタンとして機能します。
フォーカスエリア	セレクターボタンでフォーカスエリアを選択できます。

フォーカスエリアのときは、ファンクションボタンに割り当てられている機能は使用できなくなります。

コマンドダイヤル設定

フロントコマンドダイヤルとリアコマンドダイヤルの機能を設定できます。

設定	説明
フロントコマンドダイヤル 1	**フロントコマンドダイヤル 1** にシャッタースピード（**S.S.(プログラムシフト)**）または絞り値（**絞り**）*1 を割り当てます。
フロントコマンドダイヤル 2	**フロントコマンドダイヤル 2** と**フロントコマンドダイヤル 3** に、シャッタースピード（**S.S.(プログラムシフト)**）、絞り値（**絞り**）*1、**露出補正** *2、ISO 感度（**ISO**）*3、または**なし**を割り当てます。
フロントコマンドダイヤル 3	
リアコマンドダイヤル	リアコマンドダイヤル回転時の機能をシャッタースピード（**S.S.(プログラムシフト)**）、絞り値（**絞り**）*1、**露出補正** *2、ISO 感度（**ISO**）*3、または**なし**に割り当てます。

*1 絞りの設定が **A**（オート）で、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **絞りリング設定 (A)** が**コマンド**のとき、または絞りリングなしレンズを装着しているとき

*2 露出補正ダイヤルが **C** の位置のとき

*3 感度ダイヤルが **C** の位置のとき

- **コマンドダイヤル設定**は、フロントコマンドダイヤルの中央を長押ししても設定できます。
- フロントコマンドダイヤルの中央を押すたびに、**フロントコマンドダイヤル 1**、**フロントコマンドダイヤル 2**、**フロントコマンドダイヤル 3** の順に切り替えます。

S.S. 操作設定

OFF にすると、コマンドダイヤルによるシャッタースピードの微調整機能が無効になります。

設定値	
ON	**OFF**

コマンドダイヤル回転方向

コマンドダイヤルで数値を変更するときの、ダイヤルを回す向きを変更できます。フロントコマンドダイヤルとリアコマンドダイヤルでそれぞれ設定できます。

設定	説明
- ------ +	コマンドダイヤルを右に回すと数値が増えたり、項目が次に進んだりします。
+ ------ -	コマンドダイヤルを左に回すと数値が増えたり、項目が次に進んだりします。

半押し AF

ON にすると、シャッターボタン半押し時にオートフォーカスでピントを合わせます。

サブメニュー	説明
AF-S	• **ON**：シャッターボタンを半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせ、ピントを固定します。 • **OFF**：シャッターボタンを半押ししてもフォーカスに関する動作は行いません。
AF-C	• **ON**：シャッターボタンを半押ししている間、オートフォーカスでピントを合わせ続けます。 • **OFF**：シャッターボタンを半押ししてもフォーカスに関する動作は行いません。

半押し AE

ON にすると、シャッターボタン半押し時に AE ロック（露出を固定）します。フォーカスモードが **S**（AF-S）または **M**（マニュアルフォーカス）のときと、**C**（AF-C）のときでそれぞれ個別に設定できます。

設定値	
ON	**OFF**

連写時に露出を追従させたいときは、**OFF** にしてください。

レンズなしレリーズ

ON にすると、レンズを未装着でシャッターがきれます。

設定値	
ON	OFF

カードなしレリーズ

メモリーカードが未挿入時の動作を設定できます。

設定	説明
ON	メモリーカードが未挿入のときもシャッターがきれ、動作を確認できます。撮影メニューやセットアップメニューも表示できます。
OFF	メモリーカードが未挿入のときはシャッターがきれません。メモリーカードの入れ忘れ防止などに便利です。

レンズズーム/フォーカス設定

フォーカスリングがあるレンズや対応する電動ズームレンズを装着したときの動作を設定できます。

フォーカスリング回転方向

マニュアルフォーカス時（フォーカスモードが **M** のとき）に遠距離側に合わせる場合の、フォーカスリングの回転方向を変更できます。

設定	説明
時計回り	フォーカスリングの回転方向を **時計回り**に設定します。
反時計回り	フォーカスリングの回転方向を **反時計回り**に設定します。

フォーカスリング操作

フォーカスリングの操作に応じたピント移動について設定できます。

設定	説明
ノンリニア	リング操作の回転速度に応じて、移動量可変でピントを移動します。
リニア	回転速度に応じず、回転量に対してリニアにピント移動します。

MF 定速フォーカス (Fn)

対応する電動ズームレンズ使用時に、ファンクションボタンでマニュアルフォーカス撮影をするときの、ピントの変化速度を設定できます。数値が大きいほど変化する速度は速くなります。

設定値							
1(遅)	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**	**8(速)**

定速ズーム (Fn)

対応する電動ズームレンズ使用時に、ファンクションボタンでズーム操作をするときの動作速度を設定できます。数値が大きいほど速くなります。

設定値							
1(遅)	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**	**8(速)**

定速ズーム / フォーカス操作 (Fn)

対応する電動ズームレンズ使用時に、ファンクションボタンで定速フォーカスや定速ズーム操作をするときの動作を設定できます。

設定	説明
スタート / ストップ	ファンクションボタンを押すとフォーカスやズームを行い、もう一度押すと止まります。
押下中のみ	ファンクションボタンを押している間、フォーカスやズームを行います。

ズームリング回転方向

対応する電動ズームレンズのズームリングを操作するときの、ズームリングの回転方向を変更できます。

設定	説明
↻ 時計回り	ズームリングの回転方向を ↻ **時計回り**に設定します。
↺ 反時計回り	ズームリングの回転方向を ↺ **反時計回り**に設定します。

ズーム / フォーカスコントロールリング

対応する電動ズームレンズのズーム / フォーカスコントロールリングの用途を設定できます。

設定値	
ズーム	フォーカス

セットアップメニュー

9

AE/AF-LOCK 設定

AE ロックまたは AF ロックを割り当てたファンクションボタンを押したときの機能を変更できます。

設定	説明
AE/AF-LOCK 押下中のみ	ボタンを押している間、固定されます。
押下切替	ボタンを押すと固定され、もう 1 度ボタンを押すと解除されます。

AWB-LOCK 設定

AWB（オートホワイトバランス）ロックを割り当てたファンクションボタンを押したときの機能を変更できます。AWB ロックを使用すると、ホワイトバランス設定が **WB W AUTO ホワイト優先**、**AUTO**、**WB A AUTO 雰囲気優先**のときにホワイトバランスを固定できます。

設定	説明
AWB-LOCK 押下中のみ	ボタンを押している間、AWB ロックします。
押下切替	ボタンを押すと AWB ロックされ、もう 1 度ボタンを押すと解除されます。

絞りリング設定 (A)

絞りの設定が **A**（オート）のときに、フロントコマンドダイヤルを回すと絞り値を任意で変えられるように変更できます。

設定	説明
AUTO	絞りの設定が **A**（オート）のときはカメラが自動で絞り値を設定します。
コマンド	絞りの設定が **A**（オート）のときも、フロントコマンドダイヤルを回して絞り値を変えられます。

絞り設定

絞りリングなしレンズを使用しているときの絞りの操作方法を選択できます。

設定	説明
オート+ マニュアル	フロントコマンドダイヤルを回して、絞りの操作ができます。また、小絞り値からさらにダイヤルを回すと、**A**（オート）も選べます。
オート	絞り設定がオートになります。プログラム（**P**）またはシャッタースピード優先（**S**）になります。
マニュアル	フロントコマンドダイヤルを回して、絞りの操作ができます。絞り優先（**A**）またはマニュアル（**M**）になります。

Fn1 ボタン設定

再生モードで **Fn1** ボタンを押したときの動作を設定できます。

設定	説明
スマートフォン転送予約	画像選択画面を表示します。ペアリングしているスマートフォンに転送する画像を選んで転送予約できます（239）。スマートフォンとペアリングしていないときは **Bluetooth/スマートフォン設定**の画面が表示されます（264）。
ワイヤレス通信	ワイヤレス通信を行います。

タッチパネル設定

液晶モニター（LCD）のタッチ操作を行うかどうかを設定できます。

タッチパネル設定

設定	説明
ON	撮影時に液晶モニター（LCD）をタッチパネルとして使用します。
OFF	タッチパネルとして使用しません。

ダブルタップ拡大

設定	説明
ON	撮影時に液晶モニター（LCD）を 2 回タッチすると、画像が拡大します。
OFF	タッチによる画像拡大はしません。

T-Fn タッチファンクション

設定	説明
ON	タッチファンクションを使用します。
OFF	タッチファンクションを使用しません。

タッチズーム

設定	説明
ON	撮影時に液晶モニター（LCD）をタッチして、対応する電動ズームレンズのズーム操作を行います（📖 30）。
OFF	タッチズームを使用しません。

▶ タッチパネル設定

設定	説明
ON	再生時に液晶モニター（LCD）をタッチパネルとして使用します。
OFF	タッチパネルとして使用しません。

EVF タッチパネル有効範囲

EVF 使用時に液晶モニター（LCD）をタッチパネルとして使用できます。タッチパネルの有効範囲は次の中から選びます。

設定	説明
	全面で動作
	右半分で動作
	右上 1/4 側で動作
	右下 1/4 側で動作
	左半分で動作
	左上 1/4 側で動作
	左下 1/4 側で動作
OFF	タッチパネルとして使用しません。

ロック

カメラのボタンや機能をロックして誤操作を防止できます。機能別にロックするボタンや機能を選ぶこともできます。

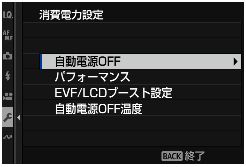
サブメニュー	内容
ロック指定	• **解除**：ロック指定を解除します。 • **全てロック**：**機能別ロック設定**で選択できるすべてのボタンや機能を一括でロックします。 • **機能別ロック**：**機能別ロック設定**で選んだボタンや機能をロックします。
機能別ロック設定	**ロック指定**で**機能別ロック**を選んだときにロックするボタンや機能を選びます。

撮影画面で **MENU/OK** ボタンを長押しすると**機能別ロック**ができます。もう一度長押しするとロックを解除します。

セットアップメニュー（消費電力設定）

カメラの消費電力に関する設定を変更できます。

MENU/OK ボタンを押して、🔧（セットアップ）タブを選び、**消費電力設定**を選びます。



自動電源 OFF

自動的に電源をオフにできます。

設定	説明
5 分	設定した時間、カメラを操作しないと、自動的に電源がオフになります。
2 分	
1 分	
30 秒	
15 秒	
OFF	自動的に電源がオフになりません。

パフォーマンス

ブーストを選ぶと、カメラの AF 性能やファインダー表示の性能がアップします。

設定	説明
ブースト	カメラの AF 性能やファインダー表示の性能がアップします。バッテリーの持続時間は**ノーマル**よりも短くなります。
ノーマル	カメラの AF 性能やファインダー表示の性能、バッテリーの持続時間を標準の性能にします。
エコノミー	カメラのAF性能やファインダー表示の性能を抑えます。バッテリーの持続時間は**ノーマル**より長くなります。

EVF/LCD ブースト設定

パフォーマンスで**ブースト**を選んだときの、EVF や LCD の性能を設定します。

設定	説明
EVF/LCD 表示 低照度優先	EVF/LCD の明るさを調整して、暗所での被写体を見やすく表示します。映像にブレが生じると、残像が発生する場合があります。
EVF/LCD 表示 解像度優先	EVF/LCD 表示の解像度を高くして、被写体を高精細に表示します。
EVF 表示 フレームレート優先（100P）	EVF 表示のフレームレートを高くして、動きをなめらかに表示します。
EVF 表示 フレームレート優先（200P 相当）	**EVF 表示フレームレート優先（100P）**よりもフレームレートを高くして、動きをよりなめらかに表示します。EVF の輝度が低くなることがあります。

自動電源 OFF 温度

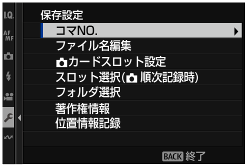
カメラの温度が上昇した際にはメッセージが表示され、さらに上昇すると、撮影を中断し電源を自動的にオフにします。その際の温度を変更できます。

設定	説明
標準	カメラの電源をオフにする温度を**標準**に設定します。
高	**標準**に比べて、カメラの温度が高くなっても撮影することができます。動画撮影時など**高**に設定すると、**標準**に比べて撮影時間が長くなります。カメラを持ち続けると低温やけどの恐れがありますので、三脚などをお使いください。

セットアップメニュー（保存設定）

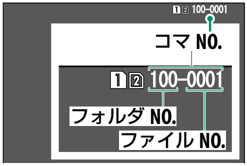
画像の保存に関する設定を変更できます。

MENU/OK ボタンを押して、（セットアップ）タブを選び、**保存設定**を選びます。



コマ NO.

メモリーカードを交換したときのコマNO.（フォルダ NO. ーファイル NO.）の付け方を選びます。



設定	説明
連番	メモリーカード内の最大ファイル NO. に 1 を足したファイル NO. が付けられます。メモリーカードを交換したときは、次のファイル NO. とメモリーカード内の最大ファイル NO. のいずれか大きい方の番号を付けます。ファイル名の重複を防げます。
新規	新しいメモリーカードを入れるたびに、ファイル NO. が 0001 から付けられます。フォーマット済みのメモリーカードに交換することで、番号をリセットできます。

- コマ NO. が「999-9999」になると、それ以上撮影できなくなります。電源をオフにしてから、フォーマットしたメモリーカードをカメラに入れて撮影してください。
- **基本設定** > **リセット**を行っても**コマ NO.** はリセットされません。
- 他のカメラで撮影した画像は、コマ NO. 表示が異なることがあります。

ファイル名編集

ファイル名（DSCF****/_DSF****）をそれぞれ変更できます。

設定	工場出荷時	変更例
sRGB	DSCF****	ABCD****
Adobe RGB	_DSF****	_ABC****

カードスロット設定

2 枚のメモリーカードへの記録方法を変更できます。

設定	説明
順次記録	使用しているメモリーカードスロットのメモリーカードの容量がなくなったら、もうひとつのメモリーカードに自動的に切り替えて保存します。
バックアップ記録	2 枚のメモリーカードに同時に保存します。
分割記録	スロット 1 のメモリーカードには RAW 画像を、スロット 2 のメモリーカードには JPEG 画像や HEIF 画像をそれぞれ保存します。この設定は **画質設定** > **画質モード**が、**FINE+RAW**、**NORMAL+RAW** のときのみ有効です。

スロット選択 (順次記録時)

カードスロット設定が**順次記録**のときに、最初に記録するメモリーカードスロットを設定できます。

設定値	
スロット 1	**スロット 2**

フォルダ選択

記録フォルダの切り替えや新規作成ができます。

設定	説明
フォルダ選択	セレクターボタンの上下を押して既存のフォルダを選択し、**MENU/OK** ボタンを押すと、次に撮影する画像は選んだフォルダに保存されます。
フォルダ作成	5 文字のフォルダ名を入力し決定した後、撮影すると、入力した名前のフォルダが作成され、画像はそのフォルダに保存されます。

著作権情報

撮影時の著作権情報を画像の Exif 情報に記録できます。画面の内容にしたがってそれぞれ情報を入力すると、設定後に撮影された画像に著作権情報が記録されます。

設定	説明
著作権情報の表示	現在登録されている著作権情報を表示します。
作成者名の入力	作成者名を入力します。
著作権者名の入力	著作権者名を入力します。
著作権情報の削除	現在登録されている著作権情報を削除します。画像に著作権情報を残したくない場合は、**著作権情報の削除**を行ってから撮影してください。

位置情報記録

ON にすると、スマートフォンから取得した位置情報を撮影する画像に記録することができます。

設定値	
ON	OFF

10 ショートカット機能

ショートカット機能について

用途や場面に合わせてショートカット機能を使い分けると便利です。

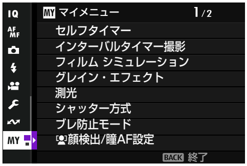
このカメラでは、よく使う機能のメニューをマイメニューやクイックメニューに登録して使用したり、ファンクションボタン、タッチファンクションで機能をダイレクトで呼び出したりできます。

ショートカット機能	内容	
マイメニュー	よく使うメニューなどを選んでマイメニューに登録しておくことができます。**MENU/OK** ボタンを押して、MY（マイメニュー）タブを選ぶと、登録したメニューのみが表示されます。	313
クイックメニュー	**Q** ボタンを押すと **Q**（クイックメニュー）が表示され、よく使うメニュー項目の設定値を確認できます。**Q**（クイックメニュー）で設定値を変更することもできます。	315
ファンクションボタン	あらかじめ割り当てられている機能のファンクションボタンを押すと、ダイレクトで割り当てた機能を呼び出すことができます。	321
タッチファンクション	タッチファンクション（**T-Fn1**/**T-Fn2**/**T-Fn3**/**T-Fn4**）でタッチパネルをフリックして、あらかじめ割り当てられている機能をダイレクトで呼び出すことができます。	326
レンズファンクションボタン	ファンクションボタンがあるレンズを使用する場合、ファンクションボタンに機能を割り当てて呼び出すことができます。	329

マイメニュー

よく使うメニューを自由にまとめて登録できます。

撮影画面で **MENU/OK** ボタンを押して、MY（マイメニュー）タブを選びます。



MY マイメニューにメニューが登録されていないときは MY（マイメニュー）タブを選ぶことはできません。

マイメニュー設定

よく使うメニューなどを **MY マイメニュー**に登録しておくことができます。登録したメニューは、MY（マイメニュー）タブを選ぶと表示されます。

1 **セットアップメニューの 基本設定 ＞ マイメニュー設定または マイメニュー設定を選びます。**

メニューが表示されます。



順序変更を選ぶと登録したマイメニューの順番を変更できます。**削除**を選ぶと登録したマイメニューを削除できます。

2 **登録を選び、MENU/OK ボタンを押します。**

登録可能なメニューが青文字で表示されます。



登録済みのメニューにはチェックマークが付きます。

3 登録するメニューの順序を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

マイメニューが登録されます。



4 **MENU/OK** ボタンを押します。

マイメニュー登録画面に戻ります。

5 手順 3 と 4 を繰り返して、マイメニューを登録します。

最大 16 項目（8×2 ページ）のメニューが登録できます。

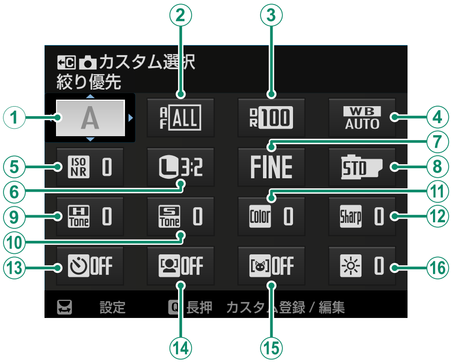
クイックメニュー

クイックメニューを使うと、撮影の設定を確認したり、設定し直したりできます。クイックメニューは **Q** ボタンを押して表示させます。

クイックメニュー画面

クイックメニューに表示する項目は静止画撮影時と動画撮影時で個別に設定できます。工場出荷時は、クイックメニューに以下の機能が割り当てられています。

静止画撮影時

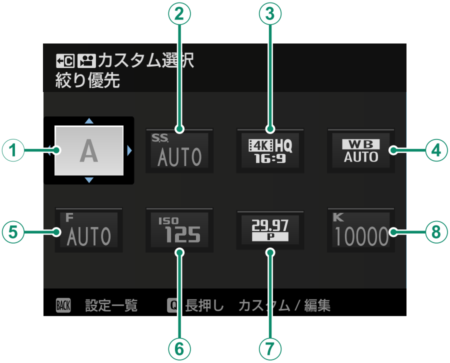


工場出荷時の設定	
① **カスタム選択***	⑨ **ハイライトトーン**
② **AF モード**	⑩ **シャドウトーン**
③ **ダイナミックレンジ**	⑪ **カラー**
④ **ホワイトバランス**	⑫ **シャープネス**
⑤ **高感度ノイズ低減**	⑬ **セルフタイマー**
⑥ **画像サイズ**	⑭ **顔検出 / 瞳 AF 設定**
⑦ **画質モード**	⑮ **被写体検出 AF 設定**
⑧ **フィルム シミュレーション**	⑯ **EVF/LCD 明るさ**

* **カスタム選択**を設定していないときは撮影モードが表示されます。

各メニュー（② ～ ⑯）には、それぞれの設定値が表示されます。各メニュー項目は、入れ替えることができます。

動画撮影時



工場出荷時の設定	
① 🎥 カスタム選択*	⑤ 絞り（動画専用操作モード ⬭👆）
② シャッタースピード（動画専用操作モード ⬭👆）	⑥ 感度（動画専用操作モード ⬭👆）
③ 動画モード 解像度／アスペクト比	⑦ 動画モード フレームレート
④ 🎥 ホワイトバランス	⑧ 🎥 ホワイトバランス色温度（K 設定時）

* 🎥 **カスタム選択**を設定していないときは撮影モードが表示されます。

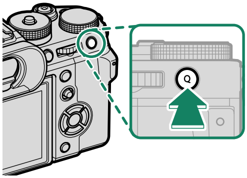
各メニュー（②～⑧）には、それぞれの設定値が表示されます。各メニュー項目は、入れ替えることができます。

ショートカット機能
10

設定の確認と変更

1 撮影画面で **Q** ボタンを押します。

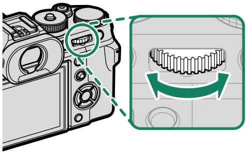
クイックメニューが表示されます。



2 設定を変更するメニュー項目をセレクターボタンで選びます。



3 リアコマンドダイヤルで設定値を選びます。



クイックメニューが表示されているときに **Q** ボタンを長押しすると、**カスタム登録/編集**または **カスタム登録/編集**の画面が表示されます。

4 **Q** ボタンを押します。

表示されている設定値になり、撮影画面に戻ります。

- クイックメニューの操作はタッチ操作でも行えます。
- **Q** ボタンはファンクションボタンとして使用できます。**操作ボタン・ダイヤル設定** > **ファンクション（Fn）設定**で、ファンクションボタンの機能を他の機能に割り当てることができます。また、ファンクションボタンの機能を他のボタンに割り当てることもできます（📖 321）。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **ファンクション（Fn）設定**で **Q ボタン設定**を**なし**に設定すると、**Q**（クイックメニュー）ボタンは無効になります。

ショートカット機能

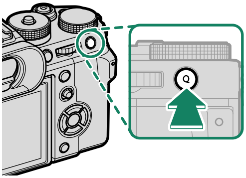
10

クイックメニューの割り当て変更

クイックメニューに表示するメニューを変更できます。

1 撮影画面で **Q** ボタンを長押しします。

クイックメニュー登録 / 編集画面が表示されます。



静止画撮影時 / 動画撮影時によって、静止画または動画のクイックメニュー登録 / 編集画面が表示されます。

2 割り当てを変更するメニューを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

3 割り当てるメニューを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

クイックメニューにメニューが割り当てられます。

クイックメニューの割り当ては、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **クイックメニュー登録 / 編集**または **クイックメニュー登録 / 編集**からも設定できます。

割り当て可能なメニュー（静止画）

- 画像サイズ
- 画質モード
- フィルム シミュレーション
- グレイン・エフェクト
- カラークローム・エフェクト
- カラークローム ブルー
- スムーススキン・エフェクト
- ダイナミックレンジ
- D レンジ優先
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス色温度（K 設定時）
- ハイライトトーン
- シャドウトーン
- カラー
- シャープネス
- 明瞭度
- 高感度ノイズ低減
- AF モード
- AF-C カスタム設定
- 顔検出 / 瞳 AF 設定
- 被写体検出 AF 設定
- MF アシスト
- タッチパネルモード
- セルフタイマー
- 測光
- シャッター方式
- フリッカー低減
- フラッシュ機能設定
- フラッシュ調光補正
- 動画モード 解像度／アスペクト比
- 動画モード フレームレート
- ビットレート
- ハイスピード撮影
- ブレ防止モード
- ブレ防止モードブースト
- 内蔵 / 外部マイクレベル設定
- EVF/LCD 明るさ
- EVF/LCD 鮮やかさ
- なし

なしを選ぶと、クイックメニューの割り当てはなくなります。

割り当て可能なメニュー（動画）

- フィルム シミュレーション
- ダイナミックレンジ
- 🎥 ホワイトバランス
- 🎥 ホワイトバランス色温度（K 設定時）
- ハイライトトーン
- シャドウトーン
- カラー
- シャープネス
- 高感度ノイズ低減
- 顔検出 / 瞳 AF 設定
- 被写体検出 AF 設定
- MF アシスト
- タッチパネルモード
- 測光
- 動画モード 解像度／アスペクト比
- 動画モード フレームレート
- ビットレート
- ハイスピード撮影
- 🎥 セルフタイマー
- 動画 AF モード
- 動画クロップ倍率固定モード
- 🎥 ブレ防止モード
- 🎥 ブレ防止モードブースト
- シャッタースピード（動画専用操作モード）
- 絞り（動画専用操作モード）
- 感度（動画専用操作モード）
- 内蔵 / 外部マイクレベル設定
- EVF/LCD 明るさ
- EVF/LCD 鮮やかさ
- なし

なしを選ぶと、クイックメニューの割り当てはなくなります。

ファンクション機能

ファンクションボタン、タッチファンクションに、それぞれ機能を 1 つ割り当てられます。

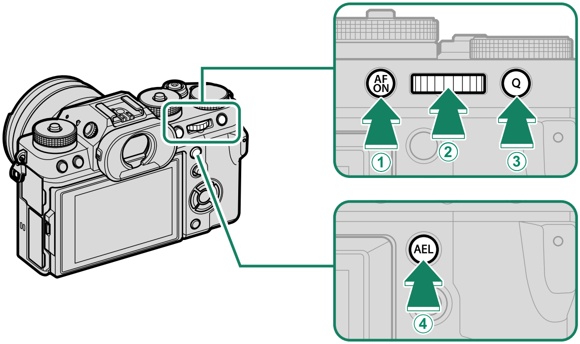
ファンクションボタン

ファンクションボタンを押すだけで機能を切り替えたり、設定画面を呼び出したりできます。

ファンクションボタンの工場出荷時設定

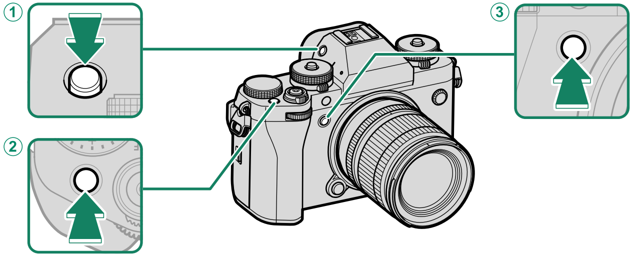
工場出荷時に割り当てられている機能とボタンの位置は次のとおりです。

背面のファンクションボタン



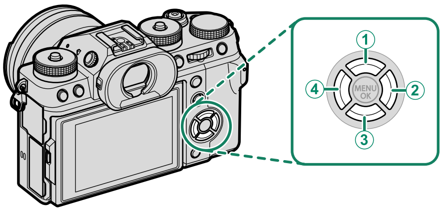
ファンクションボタン	割り当てられている機能
① **AFON** ボタン	**AF-ON**
② リアコマンドダイヤル中央押し	**フォーカスチェック**
③ **Q** ボタン	**クイックメニュー**
④ **AEL** ボタン	**AE LOCK のみ**

前面のファンクションボタン



ファンクションボタン	割り当てられている機能
① **VIEW MODE** ボタン	VIEW MODE 設定
② **Fn1** ボタン	顔検出 ON/OFF
③ **Fn2** ボタン	ドライブ設定

セレクターボタン

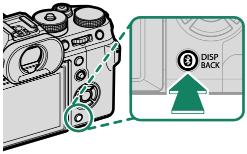


ファンクションボタン	割り当てられている機能
① **Fn3** ボタン	測光
② **Fn5** ボタン	ホワイトバランス
③ **Fn6** ボタン	パフォーマンス
④ **Fn4** ボタン	フィルムシミュレーション

ファンクションボタンの割り当て変更

DISP/BACK ボタンを長押しすると、ファンクションボタンの割り当て設定画面を表示できます。

1 撮影画面で **DISP/BACK** ボタンを長押しします。



操作ボタン・ダイヤル設定 > **ファンクション（Fn）設定**からも設定できます。

2 割り当てを変更するファンクションボタンを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

3 割り当てる機能を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

割り当て可能な機能

割り当て可能な機能は次のとおりです。

- 画像サイズ
- 画質モード
- RAW
- フィルム シミュレーション
- グレイン・エフェクト
- カラークローム・エフェクト
- カラークローム ブルー
- スムーススキン・エフェクト
- ダイナミックレンジ
- D レンジ優先
- ホワイトバランス
- 明瞭度
- カスタム選択
- カスタム 1 設定呼び出し
- フォーカスエリア選択
- フォーカスチェック
- AF モード
- AF-C カスタム設定
- 顔検出 ON/OFF
- 右目 / 左目切替
- 被写体検出 ON/OFF
- フォーカスリミッター
- フォーカスチェックロック
- ドライブ設定
- スポーツファインダーモード
- プリ撮影 ES
- セルフタイマー
- 測光
- シャッター方式
- フリッカー低減
- フリッカーレス S.S. 設定
- 感度 AUTO 設定
- ブレ防止モード
- デジタルテレコン
- 多重露出
- ワイヤレス通信
- フラッシュ機能設定
- TTL-LOCK
- モデリング発光
- 動画レリーズ
- ハイスピード撮影
- セルフタイマー
- 動画クロップ倍率固定モード
- ブレ防止モードブースト
- ゼブラ設定
- 内蔵 / 外部マイクレベル設定
- 4ch 音声再生
- 動画専用操作モード
- VIEW MODE 設定
- 被写界深度確認
- マニュアル時モニター露出 /WB 反映
- ナチュラルライブビュー
- ヒストグラム
- 電子水準器切替
- 情報表示拡大モード
- F-Log ビューアシスト
- ズーム / フォーカスコントロールリング
- 定速ズーム (T)
- 定速ズーム (W)
- MF 定速フォーカス (N)
- MF 定速フォーカス (F)
- AE LOCK のみ
- AF LOCK のみ
- AE/AF LOCK

- AF-ON
- AWB LOCK のみ
- 絞り設定
- ロック指定
- パフォーマンス
- 撮影時 自動画像転送
- Bluetooth ON/OFF
- クイックメニュー
- 再生モード
- なし

- セレクターボタンだけで、2 つ以上の機能を同時に動作させることはできません。
- **なし**を選ぶと、ファンクションボタンの割り当てはなくなります。

AF-ON の割り当て

AF-ON を割り当てたボタンを押すとピント合わせを行います。

モデリング発光の割り当て

モデリング発光に対応したクリップオンフラッシュを装着している状態で、**モデリング発光**を割り当てたボタンを押すと、モデリング発光を行います。撮影前に被写体の影の出かたなどを確認できます。

TTL-LOCK の割り当て

TTL-LOCK を割り当てたボタンを押すと、**フラッシュ設定** > **TTL-LOCK モード**で設定されているモードでロックできます（181）。

カスタム 1 設定呼び出しの割り当て

カスタム 1 設定呼び出しを割り当てたボタンを撮影中に押すと、一時的に**カスタム 1** に割り当てた設定で撮影できます。もう一度押すと元の設定に戻ります。

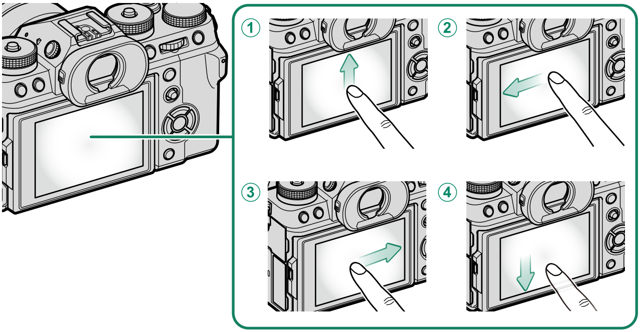
タッチファンクション

タッチファンクション（**T-Fn1**/**T-Fn2**/**T-Fn3**/**T-Fn4**）機能は、タッチパネル（液晶モニター）のフリック動作で機能を呼び出すことができます。

タッチファンクションは工場出荷時の設定ではオフになっています。タッチファンクションを使用する場合は、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **タッチパネル設定** > **タッチファンクション**を **ON** にしてください。

タッチファンクションの工場出荷時設定

工場出荷時に割り当てられている機能とフリック方向は次のとおりです。

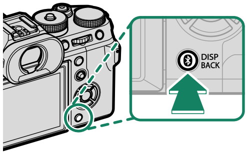


タッチファンクション	割り当てられている機能
① **T-Fn1**（液晶モニターを上フリック）	**ヒストグラム**
② **T-Fn2**（液晶モニターを左フリック）	**被写界深度確認**
③ **T-Fn3**（液晶モニターを右フリック）	**情報表示拡大モード**
④ **T-Fn4**（液晶モニターを下フリック）	**電子水準器切替**

タッチファンクションの割り当て変更

DISP/BACK ボタンを長押しすると、タッチファンクションの割り当て設定画面を表示できます。

1 撮影画面で **DISP/BACK** ボタンを長押しします。



> **操作ボタン・ダイヤル設定** > **ファンクション（Fn）設定**からも設定できます。

2 割り当てを変更するタッチファンクションを選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

3 割り当てる機能を選び、**MENU/OK** ボタンを押します。

割り当て可能な機能

割り当て可能な機能は次のとおりです。

- 画像サイズ
- 画質モード
- RAW
- フィルム シミュレーション
- グレイン・エフェクト
- カラークローム・エフェクト
- カラークローム ブルー
- スムーススキン・エフェクト
- ダイナミックレンジ
- D レンジ優先
- ホワイトバランス
- 明瞭度
- カスタム選択
- カスタム 1 設定呼び出し
- フォーカスエリア選択
- フォーカスチェック
- AF モード
- AF-C カスタム設定
- 顔検出 ON/OFF
- 右目 / 左目切替
- 被写体検出 ON/OFF
- フォーカスリミッター
- フォーカスチェックロック
- ドライブ設定
- スポーツファインダーモード
- プリ撮影 ES
- セルフタイマー
- 測光
- シャッター方式
- フリッカー低減
- フリッカーレス S.S. 設定
- 感度 AUTO 設定
- ブレ防止モード
- デジタルテレコン
- 多重露出
- ワイヤレス通信
- フラッシュ機能設定
- TTL-LOCK
- モデリング発光
- ハイスピード撮影
- セルフタイマー
- 動画クロップ倍率固定モード
- ブレ防止モードブースト
- ゼブラ設定
- 内蔵 / 外部マイクレベル設定
- 4ch 音声再生
- 動画専用操作モード
- VIEW MODE 設定
- 被写界深度確認
- マニュアル時モニター露出 /WB 反映
- ナチュラルライブビュー
- ヒストグラム
- 電子水準器切替
- 情報表示拡大モード
- F-Log ビューアシスト
- ズーム / フォーカスコントロールリング
- 絞り設定
- ロック指定
- パフォーマンス
- 撮影時 自動画像転送
- Bluetooth ON/OFF
- クイックメニュー
- 再生モード
- なし

なしを選ぶと、タッチファンクションの割り当てはなくなります。

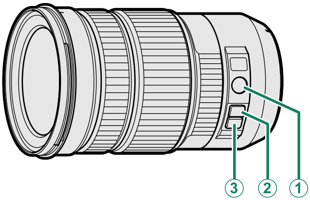
レンズファンクションボタン

レンズファンクションボタンのある電動ズームレンズを使用する場合、ファンクションボタンに別の機能を割り当てることができます。

レンズファンクションボタンの工場出荷時設定

工場出荷時に割り当てられている機能とボタンの位置は次のとおりです。

ここでは、XF18-120mmF4 LM PZ WR を例に説明しています。



レンズファンクションボタン	割り当てられている機能
① **Z/F**	ズーム / フォーカスコントロールリング
② **L-Fn1**（ズームボタン上）	定速ズーム (T)
③ **L-Fn2**（ズームボタン下）	定速ズーム (W)

レンズファンクションボタンの割り当て変更

レンズファンクションボタンの割り当ては、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **電動ズームレンズファンクション（Fn）設定**で設定できます。割り当てられる機能は次のとおりです。

- 画像サイズ
- 画質モード
- RAW
- フィルム シミュレーション
- グレイン・エフェクト
- カラークローム・エフェクト
- カラークローム ブルー
- スムーススキン・エフェクト
- ダイナミックレンジ
- D レンジ優先
- ホワイトバランス
- 明瞭度
- カスタム選択
- カスタム 1 設定呼び出し
- フォーカスエリア選択
- フォーカスチェック
- AF モード
- AF-C カスタム設定
- 顔検出 ON/OFF
- 右目 / 左目切替
- 被写体検出 ON/OFF
- フォーカスリミッター
- フォーカスチェックロック
- ドライブ設定
- スポーツファインダーモード
- プリ撮影 ES
- セルフタイマー
- 測光
- シャッター方式
- フリッカー低減
- フリッカーレス S.S. 設定
- 感度 AUTO 設定
- ブレ防止モード
- デジタルテレコン
- 多重露出
- ワイヤレス通信
- フラッシュ機能設定
- TTL-LOCK
- モデリング発光
- 動画レリーズ
- ハイスピード撮影
- セルフタイマー
- 動画クロップ倍率固定モード
- ブレ防止モードブースト
- ゼブラ設定
- 内蔵 / 外部マイクレベル設定
- 4ch 音声再生
- 動画専用操作モード
- VIEW MODE 設定
- 被写界深度確認
- マニュアル時モニター露出 /WB 反映
- ナチュラルライブビュー
- ヒストグラム
- 電子水準器切替
- 情報表示拡大モード
- F-Log ビューアシスト
- ズーム / フォーカスコントロールリング
- 定速ズーム (T)
- 定速ズーム (W)
- MF 定速フォーカス (N)
- MF 定速フォーカス (F)
- AE LOCK のみ
- AF LOCK のみ
- AE/AF LOCK

- AF-ON
- AWB LOCK のみ
- 絞り設定
- ロック指定
- パフォーマンス
- 撮影時 自動画像転送
- Bluetooth ON/OFF
- クイックメニュー
- 再生モード
- なし

- **なし**を選ぶと、レンズファンクションボタンの割り当てはなくなります。
- **定速ズーム（T）**または、**定速ズーム（W）**を割り当てているときは、機能別ロック設定が無効になります（📖305）。

MEMO

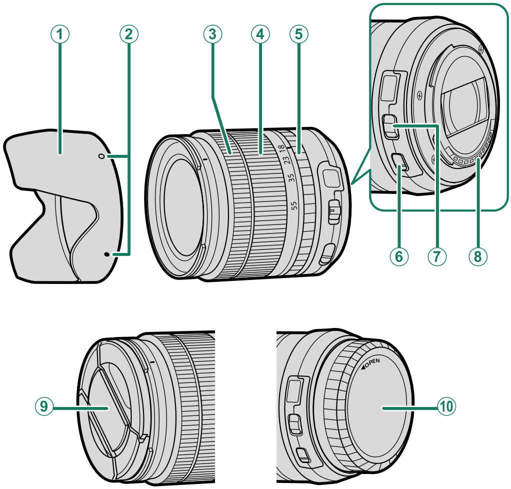
11

オプション品・
外部機器の使い方

交換レンズ

このカメラでは、富士フイルム製の FUJIFILM X マウント対応の交換レンズが使用できます。

レンズの各部名称



① レンズフード
② 取り付け指標
③ フォーカスリング
④ ズームリング
⑤ 絞りリング
⑥ OIS スイッチ
⑦ 絞りモードスイッチ
⑧ レンズ信号接点
⑨ レンズフロントキャップ
⑩ レンズリアキャップ

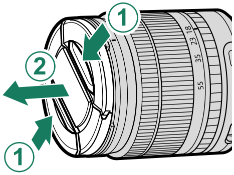
ここでは、XF18-55mmF2.8-4 R LM OIS を例に説明しています。

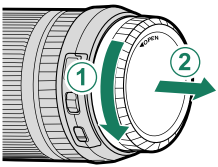
交換レンズのお手入れ

- 使用後は、ブロワーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いて汚れを落としてから保管してください。汚れがひどいときは、富士フイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽く拭いてください。
- 交換レンズを保管するときは、レンズフロントキャップとレンズリアキャップを取り付けてください。

レンズキャップの取り外し方

図のようにレンズキャップを取り外します。

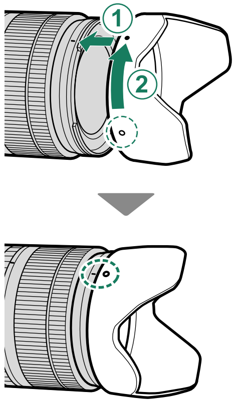




レンズキャップは形状が異なることがあります。

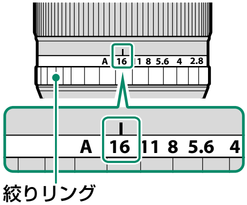
レンズフードの取り付け方

レンズフードを取り付けると、画像に悪影響を及ぼす光線をカットし、レンズ面の保護にも役立ちます。



絞りリング付きレンズについて

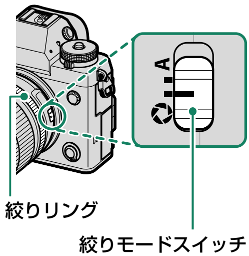
レンズで絞りを **A** 以外に設定しているときは、レンズの絞りリングで絞りを調整できます（**A**（絞り優先）または **M**（マニュアル）モードのとき）。



- **動画専用操作モード** が **ON** のときは、絞りリング操作は無効になります。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** ＞ **絞りリング設定 (A)** が**コマンド**のときに絞りリングを **A** に設定すると、コマンドダイヤルで絞りを調整できます。

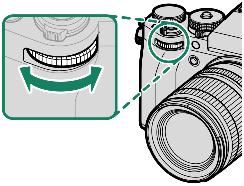
絞りモードスイッチがあるレンズの場合

絞りモードスイッチがあるレンズでは、絞りモードスイッチを の位置に設定すると、レンズの絞りリングで絞りを調整できます。



絞りリングなしレンズについて

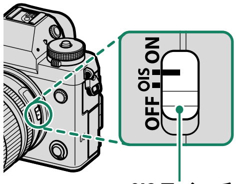
絞りリングなしレンズを使用しているときは、**操作ボタン・ダイヤル設定** > **絞り設定**で操作方法を選択できます。**絞り設定**で**オート**以外を設定しているときは、フロントコマンドダイヤルで絞りを調整します。



絞り設定調整の工場出荷時の設定は、フロントコマンドダイヤルに設定されています。**操作ボタン・ダイヤル設定** > **コマンドダイヤル設定**で、リアコマンドダイヤルに設定を変更することもできます。

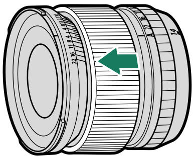
手ブレ補正対応レンズについて

手ブレ補正対応レンズを使用しているときは、カメラのメニューでブレ防止モードを設定できます。レンズに手ブレ補正のスイッチ(OIS スイッチ)がある場合は、OIS スイッチを **ON** の位置に合わせると、手ブレ補正機能が使用できます。

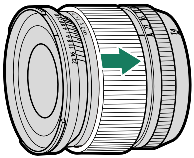


フォーカスリングの移動により MF 撮影が可能なレンズについて

- **AF** 時は、フォーカスリングをフロント側にセットしてください。



- **MF** 時は、フォーカスリングをリア側にセットしてください。



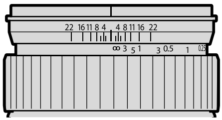
ライブビューで画像を確認しながらフォーカスリングを回し、ピントを調整してください。距離指標と被写界深度目盛を活用した目測による **MF** 撮影も容易に行えます。

フォーカスリングをリア側（**MF**）に移動しても、撮影モードによっては、**MF** 撮影できない場合があります。

被写界深度目盛

絞り値によるピントの合う範囲の目安は、被写界深度目盛で確認できます。

- レンズの被写界深度スケールは、フィルム基準です。

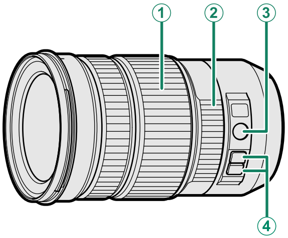


電動ズームレンズについて

電動ズームレンズを使用しているときは、ズーム / フォーカスコントロールリング、ズームボタン、ズームリングでズーム操作が行えます。

濡れた状態でズーム操作を行うと、内部に水が入りやすくなるので、水分を拭き取ってから操作してください。

ここでは、XF18-120mmF4 LM PZ WR を例に説明しています。



名称	説明
① ズームリング	ズームリングを回してマニュアルでズーム操作が行えます。
② ズーム / フォーカスコントロールリング	ズーム / フォーカスコントロールリングを回している間、電動ズームします。回す量によってズームの速度が変わります。
③ **Z/F** ボタン（ズーム / フォーカス切り換えボタン）	ズーム / フォーカスコントロールリングの機能をズームまたはフォーカスで切り替えることができます。
④ ズームボタン	ズームボタンを押すと一定速度で電動ズームします。もう一度押すとズームを終了します。

- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **電動ズームレンズファンクション（Fn）設定**で、**Z/F** ボタンやズームボタンに別の機能を割り当てることもできます。
- **操作ボタン・ダイヤル設定** > **レンズ ズーム / フォーカス設定**で、ズームボタンのズーム速度を変更できます。

クリップオンフラッシュ / シンクロターミナル

別売のクリップオンフラッシュを使うと、大光量の撮影ができます。別売のクリップオンフラッシュには、同調速度よりも高速シャッターに対応するFP（ハイスピードシンクロ）発光対応の製品や、単灯フラッシュとしてだけでなく、ワイヤレス多灯フラッシュシステムのコマンダーフラッシュとしてもご使用いただける製品もあります。

カメラでセットアップメニューを表示しているときなど、フラッシュのテスト発光ができない場合があります。

赤目補正について

暗い場所でフラッシュ撮影したときに、フラッシュの光が目の中で反射することにより瞳が赤く写る現象を「赤目現象」といいます。赤目現象を補正したいときは、**フラッシュ設定** > **赤目補正**を**赤目抑制発光**に設定します。

フラッシュ使用時のシャッタースピードについて

フラッシュ撮影したときのシャッタースピード同調速度は1/250秒以下です。

別売フラッシュについて

このカメラでは、別売の富士フイルム製クリップオンフラッシュが使用できます。

他社製のフラッシュをお使いになるときのご注意

カメラのホットシューに300V以上の電圧がかかるフラッシュは使用できません。

クリップオンフラッシュ・シンクロターミナルを設定する

1 使用するフラッシュをカメラに接続します。

2 撮影メニューの フラッシュ設定 > **フラッシュ機能設定を選びます。**

カメラに接続しているフラッシュの状態により、表示されるメニューや設定可能な項目が異なります。



フラッシュ設定	説明	📖
EF-X8	別売のクリップオンフラッシュ EF-X8 を接続して、ポップアップしている場合に表示されます。	343
シンクロターミナル	シンクロターミナルにフラッシュを接続して使用する際の設定です。EF-X8 を接続してポップアップしていない場合や、ホットシューに何も接続されていない場合、またはカメラに対応したクリップオンフラッシュ以外が接続されている場合は、シンクロターミナルの設定画面が表示されます。	345
クリップオンフラッシュ	別売のクリップオンフラッシュ（EF-X8 を除く）を接続して、電源を入れている場合に表示されます。	346
コマンダー（光通信）	富士フイルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムに対応したコマンダーフラッシュを使用するときに表示されます。光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムに対応している別売のクリップオンフラッシュを接続して、電源を入れている場合に表示されます。	349

3 フラッシュの設定を変更します。

セレクターボタンで変更する項目を選び、リアコマンドダイヤルで設定値を変更します。



4 **DISP/BACK** ボタンを押します。

フラッシュモードが設定されます。

EF-X8

別売のクリップオンフラッシュ EF-X8 では、以下の項目を設定できます。



項目	設定 / 説明
①**モード（発光モード）**	フラッシュの発光モードを選びます。 • **TTL**：TTL 自動調光で発光します。**調光補正**で発光量を調整し、**TTL モード**で TTL 撮影の発光モードを選択します。 • **M**：被写体の明るさやカメラ側の設定に関わらず、常に一定の光量で発光します。**発光量**でフル発光（$^{1}/_{1}$）から $^{1}/_{64}$ 発光までの発光強度を設定できます。状況によっては、フラッシュの発光強度を少量に設定すると、設定値が十分に反映されない場合があります。実際の撮影画像で確認してください。 • **（コマンダー）**：スタジオフラッシュなど、主灯の発光に同期して発光可能なリモートフラッシュをコントロールするときに選択します。 • **OFF（OFF）**：フラッシュを使用しません。**OFF** に設定しても、シンクロターミナルに接続したフラッシュは撮影に同期して発光させることができます。シンクロターミナルに接続したフラッシュもオフにしたい場合は、EF-X8 をポップダウンしてから、フラッシュ機能設定メニューを開いてください。シンクロターミナルの動作設定が可能になります。
②**調光補正 / 発光量（発光強度）**	フラッシュの調光補正または発光量を設定します。設定値は選択している発光モードによって異なります。

項目	設定 / 説明
③TTL モード	TTL 撮影の発光モードを選びます。カメラの撮影モード（**P**、**S**、**A**、**M**）によって選択可能な設定が異なります。 • TTL AUTO（フラッシュ発光 AUTO）：被写体の明るさに応じて、発光・非発光の判断を含めて適切な発光をカメラが自動で制御します。被写体が十分に明るい場合、フラッシュは発光しません。フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると、画面に ⚡ が表示されます。 • TTL（スタンダード）：一般的なフラッシュ撮影に使用します。発光強度はカメラが自動でコントロールします。カメラのシャッターボタンを押したときに、フラッシュが充電されていないときは、撮影を優先して非発光で撮影します。 • TTL SLOW（スローシンクロ）：夜景と人物の両方をきれいに撮影できます。カメラのシャッタースピードが低速に設定されます。カメラのシャッターボタンを押したときにフラッシュが充電されていないときは、撮影を優先して非発光で撮影します。
④同調モード	フラッシュが発光するタイミングを選びます。 • FRONT（先幕）：シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。通常の撮影ではこちらを選んでください。 • REAR（後幕）：シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。

シンクロターミナル

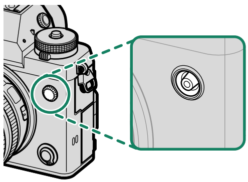
別売のクリップオンフラッシュを使用していないときに表示されます。



項目	設定 / 説明
①モード（発光モード）	ホットシュー X 接点（シンクロターミナル）からトリガー信号を発行するかどうかを選びます。 • **M**：撮影に同期して、ホットシューX接点（シンクロターミナル）からトリガー信号が発行されます。撮影は同調速度よりも長いシャッタースピードを使用する必要があります。また、発光時間の長いフラッシュ、応答の遅いフラッシュなどを使用する場合は、さらに遅いシャッタースピードを設定してください。 • **OFF**：ホットシュー X 接点（シンクロターミナル）からトリガー信号を発行しません。
②同調モード	フラッシュが発光するタイミングを選びます。 • **FRONT（先幕）**：シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。通常の撮影ではこちらを選んでください。 • **REAR（後幕）**：シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。

シンクロターミナルについて

シンクロコードを必要とするフラッシュをお使いになるときは、シンクロコードをシンクロターミナルに接続してください。



クリップオンフラッシュ

別売のクリップオンフラッシュを使用するときに表示されます。



項目	設定 / 説明
①**モード（発光モード）**	フラッシュに設定されている発光モードが表示されます。カメラで発光モードを変更できるフラッシュをご使用の場合は、発光モードを選択することができます。表示される内容や設定可能な項目はご使用されているフラッシュにより異なります。 • **TTL**：TTL 自動調光で発光します。**調光補正**で発光量を調整できます。 • **M**：被写体の明るさやカメラ側の設定に関わらず、常に一定の光量で発光します。カメラで発光強度を変更できるフラッシュをご使用の場合は、**発光量**で発光強度を変更できます。 • **Multi**：対応しているクリップオンフラッシュをご使用の場合、1 回の撮影中に複数回発光（マルチ発光）します。 • **OFF**：フラッシュを使用しません。フラッシュを使用しない設定が可能なフラッシュをご使用の場合に選択できます。

項目	設定 / 説明
②調光補正 / 発光量（発光強度）	• **モード**が **TTL** のときに、調光補正量を調整できます。撮影条件によっては調整可能範囲を超え、設定値が反映されない場合があります。EF-X20、EF-20、EF-42 をご使用の場合は、フラッシュ本体での調光補正設定と合算した補正量が適用されます。 • **モード**が **M** のときに、カメラで発光強度を変更できるフラッシュをご使用の場合は、フル発光（1/1）から 1/512 発光まで、1/3 段ステップで発光強度を設定できます。状況によっては、フラッシュの発光強度を少量に設定すると、設定値が十分に反映されない場合がありますので、実際の撮影画像で確認してください。 • **モード**が **Multi** のときに、カメラで発光強度を変更できるフラッシュをご使用の場合は、1/4 発光から 1/512 発光まで 1/3 段ステップで発光強度を設定できます。状況によっては、フラッシュの発光強度を少量に設定すると、設定値が十分に反映されない場合がありますので、実際の撮影画像で確認してください。
③TTL モード	TTL 撮影の発光モードを選びます。カメラの撮影モード（**P**、**S**、**A**、**M**）によって選択可能な設定が異なります。 • **（フラッシュ発光 AUTO）**：被写体の明るさに応じて、発光・非発光の判断を含めて適切な発光をカメラが自動で制御します。被写体が十分に明るい場合、フラッシュは発光しません。フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると、画面に が表示されます。 • **（スタンダード）**：一般的なフラッシュ撮影に使用します。発光強度はカメラが自動でコントロールします。カメラのシャッターボタンを押したときに、フラッシュが充電されていないときは、撮影を優先して非発光で撮影します。 • **（スローシンクロ）**：夜景と人物の両方をきれいに撮影できます。カメラのシャッタースピードが低速に設定されます。カメラのシャッターボタンを押したときにフラッシュが充電されていないときは、撮影を優先して非発光で撮影します。

項目	設定 / 説明
④同調モード	フラッシュが発光するタイミングを選びます。 • FRONT（先幕）：シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。通常の撮影ではこちらを選んでください。 • REAR（後幕）：シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。 • FP（AUTO FP(HSS)）：FP（ハイスピードシンクロ）に対応したフラッシュを接続している場合に選択できます。シャッタースピードに応じて、FP（ハイスピードシンクロ）と先幕を自動で切り替えます。シャッタースピードがフラッシュ同調速度より速い場合は、自動で FP になります。**モード**が **Multi** のときは、**先幕**となります。
⑤ズーム設定	照射角ズームに対応したフラッシュをご使用の場合に照射角設定が表示されます。カメラで設定変更が可能なフラッシュをご使用の場合は、照射角ズームを設定できます。**AUTO** の設定では、カメラに取り付けているレンズの焦点距離に応じて自動で照射角が変更されます。
⑥配光設定（配光特性）	本機能に対応しているフラッシュをご使用の場合は、撮影画角に対するフラッシュ光の配光（照射角）特性を変更できます。 • **（光量優先）**：フラッシュの照射角を若干狭めに設定して到達距離を稼ぎます。 • **（スタンダード）**：撮影画角に対して最適な照射角にします。 • **（配光優先）**：照射角を若干広めにして撮影画面全体の配光の均一性を高めます。
⑦LED ライト設定	本機能に対応しているフラッシュをご使用の場合は、フラッシュ内蔵の LED ライトの用途を設定できます。 • **（キャッチライト）**：キャッチライトのみ使用します。 • **AF**（**AF 補助光**）：AF 補助光のみ使用します。 • **（AF 補助光＋キャッチライト）**：AF 補助光とキャッチライトの両方を使用します。 • **OFF**：どちらも使用しません。
⑦TIMES*（発光回数）	**モード**が **Multi** のときに、1 回の撮影における発光回数を設定します。
⑧Hz*（発光周波数）	**モード**が **Multi** のときに、発光周波数を設定します。

* フラッシュの能力を超えた設定を行った場合は、フラッシュ側で設定が調整される場合があります。

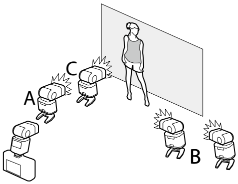
コマンダー（光通信）

富士フイルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムのコマンダーフラッシュを接続している場合に表示されます。



富士フイルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムでは、コマンダーフラッシュとリモートフラッシュ間の光通信チャンネルをCH1 〜 CH4 から設定することができます。近隣で本フラッシュシステムを使用している場合の混信による誤動作を防いだり、複数のフラッシュシステムを使い分ける際に便利です。

また、システムを構成するフラッシュを A、B、C の 3 つのグループに分けて、グループごとに発光モード、発光量を設定できます。



項目	設定 / 説明
①**A グループモード** ②**B グループモード** ③**C グループモード** **（発光モード）**	それぞれのグループの発光モードを設定します。A、B グループは **TTL**/**TTL%**/**M**/**Multi**/**OFF** から選択できます。C グループは **TTL**/**M**/**Multi**/**OFF** から選択できます。 • **TTL**：**TTL** を設定したグループのフラッシュは TTL 自動調光で発光します。グループごとに調光補正を設定できます。 • **TTL%**：A または B グループで **TTL%** を設定すると、A グループと B グループの発光を光量比で設定できます。また A、B グループ全体として調光補正を設定できます。 • **M**：**M** を設定したグループのフラッシュは、被写体の明るさやカメラ側の設定に関わらず、常に一定の光量で発光します。グループごとにフル発光を基準として発光強度を設定できます。 • **Multi**：A、B または C グループを **Multi** に設定すると、システム全体がマルチ発光モードになります。マルチ発光モードでは 1 回の撮影中に複数回発光させることができます。 • **OFF**：**OFF** を設定したグループのフラッシュは発光しません。
④**A グループ調光補正 / 発光量** ⑤**B グループ調光補正 / 発光量** ⑥**C グループ調光補正 / 発光量** **（発光強度）**	グループごとに設定されるモードに応じて、調光補正や発光強度が設定できます。 • **モード**が **TTL** に設定されているときは調光補正を設定できます。 • **モード**が **M**/**Multi** に設定されているときは発光強度を設定できます。 • **モード**が **TTL%** に設定されているときは光量比と調光補正が設定できます。 補正量、発光強度の設定がフラッシュの調整能力を超える場合には、十分に調整できない場合がありますので、実際の撮影画像で確認してください。

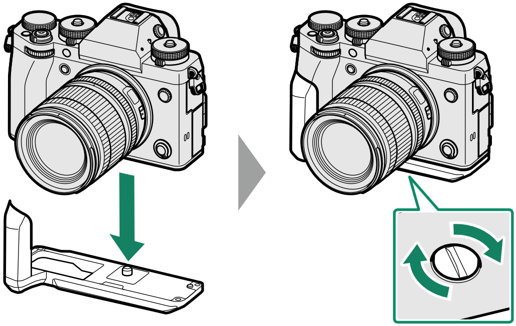
項目	設定 / 説明
⑦TTL モード	TTL 撮影の発光モードを選びます。カメラの撮影モード（**P**、**S**、**A**、**M**）によって選択可能な設定が異なります。 • **（フラッシュ発光 AUTO）**：被写体の明るさに応じて、発光・非発光の判断を含めて適切な発光をカメラが自動で制御します。被写体が十分に明るい場合、フラッシュは発光しません。フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると、画面に が表示されます。 • **（スタンダード）**：一般的なフラッシュ撮影に使用します。発光強度はカメラが自動でコントロールします。カメラのシャッターボタンを押したときに、フラッシュが充電されていないときは、撮影を優先して非発光で撮影します。 • **（スローシンクロ）**：夜景と人物の両方をきれいに撮影できます。カメラのシャッタースピードが低速に設定されます。カメラのシャッターボタンを押したときにフラッシュが充電されていないときは、撮影を優先して非発光で撮影します。
⑧同調モード	フラッシュが発光するタイミングを選びます。 • **（先幕）**：シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。通常の撮影ではこちらを選んでください。 • **（後幕）**：シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。 • **（AUTO FP(HSS)）**：FP（ハイスピードシンクロ）に対応したフラッシュを接続している場合に選択できます。シャッタースピードに応じて、FP（ハイスピードシンクロ）と先幕を自動で切り替えます。シャッタースピードがフラッシュ同調速度より速い場合は、自動で FP になります。 **モード**が **Multi** のときは、**先幕**となります。
⑨ズーム設定	照射角ズームに対応したフラッシュをご使用の場合に照射角設定が表示されます。また、ご使用のフラッシュによっては、カメラで照射角ズームを設定できます。**AUTO** の設定では、カメラに取り付けているレンズの焦点距離に応じて自動で照射角が変更されます。
⑩配光設定（配光特性）	本機能に対応しているフラッシュをご使用の場合は、撮影画角に対するフラッシュ光の配光（照射角）特性を変更できます。 • **（光量優先）**：フラッシュの照射角を若干狭めに設定して到達距離を稼ぎます。 • **（スタンダード）**：撮影画角に対して最適な照射角にします。 • **（配光優先）**：照射角を若干広めにして撮影画面全体の配光の均一性を高めます。

項目	設定 / 説明
⑪ **コマンダー設定（コマンダー発光設定）**	**モード**が **TTL**、**TTL%**、**M** のときに、富士フイルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムのコマンダーフラッシュとして使用する際の、発光グループを設定できます。富士フイルムの光通信方式ワイヤレス多灯フラッシュシステムに対応したクリップオンフラッシュを接続している場合に設定できます。 • **Gr A**：A グループに設定します。 • **Gr B**：B グループに設定します。 • **Gr C**：C グループに設定します。 • **OFF**：撮影時には、撮影画像への影響を最小限に抑えた微小光量で発光します。
⑪ **TIMES（発光回数）**	**モード**が **Multi** のときに、1 回の撮影における発光回数を設定します。
⑫ **CH 設定**	コマンダーフラッシュとリモートフラッシュ間の光通信チャンネルを設定します。近隣で本フラッシュシステムを使用している場合の混信による誤動作を防いだり、複数のフラッシュシステムを使い分けたりする際に便利です。
⑫ **Hz（発光周波数）**	**モード**が **Multi** のときに、発光周波数を設定します。

ハンドグリップ

ハンドグリップを使うと、カメラのホールディング性を高めることができます。

ハンドグリップ（MHG-XT5）は三脚ねじ穴に取り付けます。



MEMO

12 資料

カメラで使える別売アクセサリー

このカメラでは、以下の富士フイルム製別売アクセサリーを使用できます。最新情報については、*https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/compatibility/cameras/* をご覧ください。

充電式バッテリー NP-W235：リチウムイオンタイプの大容量充電式電池です。

デュアルバッテリーチャージャー BC-W235：充電式バッテリー NP-W235 を 2 個同時に充電できます。充電時間は約 200 分（＋25℃において）です。30W 以上の出力に対応した給電機器を使用することで充電時間が最短約 150 分になります。

アイカップ EC-XH W/EC-XT L/EC-XT M/EC-XT S/EC-GFX：ファインダー接眼部に装着するアイカップです。

リモートレリーズ RR-100：三脚と併用してブレを軽減したいときなどにお使いください（φ 2.5 mm 端子）。

ステレオマイク MIC-ST1：動画撮影時の外部マイクとしてお使いください。

XF シリーズレンズ /XC シリーズレンズ：FUJIFILM X マウント専用の交換レンズです。

シネマレンズ FUJINON MKX シリーズレンズ：FUJIFILM X マウント専用のシネマレンズです。

マクロエクステンションチューブ MCEX-11/16：カメラボディと交換レンズの間に装着することで、高い撮影倍率でマクロ撮影が可能となります。

テレコンバーター XF1.4X TC WR：対応するレンズの焦点距離を約 1.4 倍にするテレコンバーターです。

テレコンバーター XF2X TC WR：対応するレンズの焦点距離を約 2.0 倍にするテレコンバーターです。

M マウントアダプター：豊富なバリエーションを持つ M マウントレンズをカメラボディに装着するためのマウントアダプターです。

ボディキャップ BCP-001：カメラのレンズ取り付け部の蓋です。

クリップオンフラッシュ EF-X500：TTL 自動調光機能、マニュアル発光に対応した、最大ガイドナンバー 50（ISO100･m）のクリップオンタイプのフラッシュです。同調速度を超えた高速シャッターに追従する FP（ハイスピードシンクロ）発光や、富士フイルム光通信多灯システムのコマンダーフラッシュ、リモートフラッシュとしても使用できます。別売外部電源 EF-BP1 にも対応しています。

バッテリーパック EF-BP1：EF-X500 用の外部バッテリーパックです。単 3 電池 8 本を搭載可能です。

クリップオンフラッシュ EF-60：TTL 自動調光機能、マニュアル発光に対応した、最大ガイドナンバー 60（ISO100･m）のクリップオンタイプのフラッシュです。同調速度を超えた高速シャッターに追従する FP（ハイスピードシンクロ）発光や、別売ワイヤレスコマンダー EF-W1 をコマンダーとしたリモートフラッシュとしても使用できます。

ワイヤレスコマンダー EF-W1：NAS* 無線通信方式に対応したフラッシュ用ワイヤレスコマンダーです。別売クリップオンフラッシュ EF-60 やニッシンジャパン株式会社の NAS 対応フラッシュと合わせて使用できます。
* NAS はニッシンジャパン株式会社の登録商標です。

外付けフラッシュ EF-X8：カメラ本体から電力を供給する、コンパクトなクリップオンタイプのフラッシュです。最大ガイドナンバーは約 8（ISO100･m）、照射角度は 16mm（35mm 判換算で 24mm 相当）です。

クリップオンフラッシュ EF-42：TTL 自動調光機能、マニュアル発光に対応した、最大ガイドナンバー 42（ISO100･m）のクリップオンタイプのフラッシュです。

クリップオンフラッシュ EF-X20：TTL 自動調光機能、マニュアル発光に対応した、最大ガイドナンバー 20（ISO100･m）のクリップオンタイプのフラッシュです。

クリップオンフラッシュ EF-20：TTL 自動調光機能のみに対応した、最大ガイドナンバー 20（ISO100･m）のクリップオンタイプのフラッシュです。

ハンドグリップ MHG-XT5：カメラのホールディング性を高めます。カメラに装着したままバッテリー / メモリーカードの出し入れが可能です。

三脚グリップ TG-BT1：Bluetooth に対応し、グリップを握ったまま、動画・静止画の撮影や、対応する電動ズームレンズ使用時にズーム操作ができる三脚グリップです。

グリップベルト GB-001：本体に装着することでホールド感を高めます。ハンドグリップと組み合わせてお使いいただくことにより、さらに安定性が向上いたします。

instax SHARE プリンター SP-1/SP-2/SP-3：撮影した画像を無線 LAN で送信し、簡単にチェキフィルムにプリントできるプリンターです。

カメラで使えるソフトウエア

このカメラでは、以下のソフトウエアを使用できます。最新情報については、*https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/compatibility/cameras/* をご覧ください。

スマートフォン用アプリケーション

カメラとスマートフォンを無線で通信できるスマートフォンアプリケーションです。

https://app.fujifilm-dsc.com/

RAW FILE CONVERTER EX powered by SILKYPIX

RAW 画像をパーソナルコンピューター上で現像できるパーソナルコンピューター用アプリケーションです。富士フイルムのウェブサイトから無償で入手可能です。

https://fujifilm-x.com/support/download/software/raw-file-converter-ex-powered-by-silkypix/

- 本ソフトウエアは、株式会社市川ソフトラボラトリーが提供するソフトウエアです。
- 対応時期については以下のウェブサイトをご覧ください。
  https://fujifilm-x.com/support/compatibility/software/raw-file-converter-ex-powered-by-silkypix/

Capture One Express for Fujifilm

RAW 画像をパーソナルコンピューター上で現像できるパーソナルコンピューター用アプリケーションです。Capture One 社から無償で入手可能です。

https://www.captureone.com/ja/products-plans/capture-one-express/fujifilm

対応時期については上記のウェブサイトをご覧ください。

Capture One for Fujifilm

Capture One 社のテザー撮影、RAW 現像に対応したワークフローソフトウエアです。

https://www.captureone.com/ja/explore-features/fujifilm

対応時期については上記のウェブサイトをご覧ください。

FUJIFILM Tether Shooting Plug-in (Lightroom専用)

Adobe Lightroom Classic のプラグインソフトウエアです。

- FUJIFILM Tether Shooting Plug-in PRO / FUJIFILM Tether Shooting Plug-in

  https://fujifilm-x.com/products/software/adobe-photoshop-lightroom-tether-plugin/

FUJIFILM X Acquire

カメラとパーソナルコンピューターを USB ケーブルまたは Wi-Fi 経由で接続し、撮影した画像をパーソナルコンピューターに自動転送して指定したフォルダに保存したり、USB 接続によりカメラ設定をバックアップ / リストアしたりすることができるパーソナルコンピューター用アプリケーションソフトウエアです。

https://fujifilm-x.com/products/software/x-acquire/

FUJIFILM X RAW STUDIO

パーソナルコンピューターとデジタルカメラを USB ケーブルで接続して、パーソナルコンピューターに代わり、デジタルカメラに搭載している独自の画像処理エンジンを使用して演算することで、高速かつ高品質な RAW 現像を実現します。

https://fujifilm-x.com/products/software/x-raw-studio/

FUJIFILM Pixel Shift Combiner

ピクセルシフト撮影した複数の画像の合成や、偽色の低減処理ができるパーソナルコンピューター用アプリケーションです（📖 177）。

https://fujifilm-x.com/products/software/pixel-shift-combiner/

お取り扱いにご注意ください

ご使用前に必ずお読みください

安全上のご注意

このたびは弊社製品をお買上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは大切に保管してください。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や障害の程度を次の表示で説明しています。	
⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で説明しています。	
⚠	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
⊘	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

電源プラグを抜く

異常が起きたら電源を切り、電池・バッテリーや AC パワーアダプター、USB ケーブルを外す。

煙が出ている、異臭がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。
- お買上げ店または弊社デジタルカメラサポートセンター、修理サービスセンターにご相談ください。

水ぬれ禁止

カメラ内部や接続コードに水や異物を落とさない。

カメラ内部や接続コードを水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らした場合は、使用しないでください。

水・異物が内部に入ったら、電源を切り、電池・バッテリーや AC パワーアダプター、USB ケーブルを外す。

そのまま使用すると、ショートして火災・感電の原因になります。
- お買上げ店または弊社デジタルカメラサポートセンター、修理サービスセンターにご相談ください。

風呂、シャワー室での使用禁止

風呂、シャワー室では使用しない。

火災・感電の原因になります。

分解禁止

分解や改造は絶対にしない（ケースは絶対に開けない）。

火災・感電の原因になります。

⚠警告	
接触禁止	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れない。** 感電したり、破損部でケガをする原因になります。 • 感電やケガに注意して速やかに電池・バッテリーを取り出し、お買上げ店または弊社デジタルカメラサポートセンター、修理サービスセンターにご相談ください。
	接続コードの上に重い物をのせたり、加工したり、無理に引き曲げたり、加熱したりしない。 コードに傷がついて、火災・感電の原因になります。 • コードに傷がついた場合は、お買上げ店または弊社デジタルカメラサポートセンター、修理サービスセンターにご相談ください。 • 一度端子部分が曲がってしまったコネクターは使用しないでください。
	不安定な場所に置かない。 バランスがくずれて倒れたり落下したりして、ケガの原因になります。
	移動中の使用はしない。 歩行中や自動車などの乗り物を運転しながらの撮影、再生などの操作はしないでください。 転倒、交通事故などの原因になります。
	雷が鳴りだしたら金属部分に触れない。 落雷すると誘電雷により感電の原因になります。
	指定外の方法で電池・バッテリーを使用しない。 電池は極性（⊕⊖）表示どおりに入れてください。
	電池・バッテリーを分解、加工、加熱しない。 **電池・バッテリーを落としたり、たたいたり、投げたり、強い衝撃や変形を与えない。** **電池・バッテリーの液漏れ、変形、変色、その他異常に気が付いたときは使用しない。** **リチウム電池やアルカリ電池は充電しない。** **電池・バッテリーをショートさせない。** **電池・バッテリーを金属製品と一緒に保管しない。** **バッテリーを指定以外の充電器で充電しない。** 電池・バッテリーの発熱・発火・破裂・液漏れにより、火災・ケガ・やけどの原因になります。
	指定外の電池・バッテリーや AC パワーアダプターを使用しない。 **表示された電源電圧以外の電圧で使用しない。** 火災の原因になります。
	電池・バッテリーの液が漏れて、目に入ったり、皮膚や衣服に付着したときは、失明やケガのおそれがあるので、ただちにきれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受ける。

⚠ 警告

フラッシュを人の目に近づけて発光させない。

視力障害になる恐れがあります。特に乳幼児を撮影するときは、十分に離れて撮影してください。

カメラの温度が高い部分に長時間触れない。

電源を入れたまま長時間、身体の同じ個所に直接触れて使用しない。

低温やけどの原因になる場合があります。特に以下の場合は、三脚などをお使いください。

- 長時間ご使用になる場合
- 気温の高い環境でご使用になる場合
- 血行の悪い方、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合
- **自動電源 OFF 温度**を**高**に設定してご使用される場合

バッテリーが正しく交換されていないと、爆発の危険があります。交換には同一のものだけを使用してください。

可燃性 / 爆発性ガス / 粉塵のある場所で使用しない。

電池・バッテリーを廃棄する場合や保存する場合には、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼る。

他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因になります。

メモリーカードやホットシューカバーなどの小さな付属品は乳幼児に触れさせない。

メモリーカードやホットシューカバーなど小さな付属品は、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

小さいお子様の手の届くところに置かない。

誤って、ストラップを首に巻きつけ窒息の原因になったり、フラッシュの誤発光による目の障害やカメラ動作などによるケガの原因になることがあります。

飛行機内、病院での使用は、航空会社、病院の指示に従う。

本製品が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。

⚠ 注意

	油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない。 火災・感電の原因になることがあります。
	異常な高温になる場所に置かない。 窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所に置かないでください。 火災の原因になることがあります。
	本製品の上に重いものを置かない。 バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、ケガの原因になることがあります。
	AC パワーアダプターを接続したまま移動しない。AC パワーアダプターを抜くときは、接続コードを引っ張らない。 電源コードやケーブルが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
	本製品や AC パワーアダプターや充電器を布や布団でおおったりしない。 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
	電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 火災・感電の原因になることがあります。
	お手入れの際や長時間使用しないときは、電池・バッテリーや AC パワーアダプターを外し、電源プラグを抜く。 火災・感電の原因になることがあります。
電源プラグを抜く	**充電終了後は充電器をコンセントから抜く。** コンセントにつけたままにしておくと火災の原因になることがあります。
	メモリーカードを取り出す場合、カードが飛び出す場合がありますので、指で受け止めた後にカードを引き抜くこと。 飛び出したカードが当たり、ケガの原因になることがあります。
	撮影直後にメモリーカードに触れない。 メモリーカードが高温になり、やけどの原因となることがあります。 温度が下がってからメモリーカードを取り出してください。
	定期的な内部点検・清掃を依頼する。 本製品の内部にほこりがたまり、火災や故障の原因になることがあります。 • 2 年に 1 度くらいは、内部清掃をお買上げ店または弊社修理サービスセンターにご依頼ください。
	本製品を廃棄する場合の処理方法については最寄りの自治体の手順に従うこと。

資料

12

電源についてのご注意

※ ご使用になるカメラの電池の種類をお確かめの上お読みください。

電池・バッテリーを上手に長くお使いいただくため、下記をお読みください。使い方を誤ると、電池・バッテリーの寿命が短くなるばかりか、液漏れ、発熱・発火の恐れがあります。

充電式リチウムイオンバッテリー使用機種

※ バッテリーは出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

※ バッテリーを持ち運ぶときは、カメラに取り付けるか、ソフトケースに入れてください。

■ バッテリーの特性

- バッテリーは使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1 ～ 2 日前）に充電したバッテリーを用意してください。
- バッテリーを長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。
- 寒冷地や低温時では撮影できる枚数が少なくなります。充電済みの予備バッテリーをご用意ください。また、使用時間を長くするために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロなどをお使いになる場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。

■ 充電について

- カメラと付属の AC パワーアダプターを使用するか、別売のデュアルバッテリーチャージャー BC-W235 を使用して充電できます。
  - 充電は周囲の温度が +5℃～ +40℃の範囲で可能です。この範囲外では充電できないことがあります。
  - +10℃～ +35℃の温度範囲外で充電する場合、バッテリーの性能を劣化させないために充電時間が長くなることがあります。充電は +10℃～ +35℃の温度範囲で行ってください。
- 充電式リチウムイオンバッテリーは充電の前に放電したり、使い切ったりする必要はありません。
- 充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱を持つことがありますが、異常ではありません。
- 充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

■ バッテリーの寿命について

- 使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。
- バッテリーを長期間充電しないとバッテリーの品質が保持できなくなり、充電できなくなるおそれがあります。定期的に充電することをおすすめします。

■ 保存上のご注意

- 長期保管の場合は、電池容量の 2/3 から半分程度の電池残量で常温保管をお勧めいたします。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラや、バッテリーチャージャーから取り外してください。
- 涼しいところで保存してください。
  - 周囲の温度が +15℃～ +25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。
  - 暑いところや極端に寒いところは避けてください。

危険ですので、次のことにご注意ください

⚠ バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。

⚠ 火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。

⚠ 分解したり、改造したりしないでください。

⚠ バッテリーは、過度な低気圧中に放置しないでください。

- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
- 水にぬらさないようご注意ください。
- 端子は常にきれいにしておいてください。
- 長時間高温の場所に置かないでください。また、長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生には AC パワーアダプターをお使いください。

■ 電池の廃棄について

- 電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。
- 電池は、機械的に押し潰し、又は切断しないでください。

■ 小形充電式電池のリサイクルについて

小形充電式電池（リチウムイオンバッテリーまたはニッケル水素電池など）はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済みの電池は、端子を絶縁するためにセロハンテープなどを貼るか、個別にポリ袋に入れて最寄りのリサイクル協力店にある充電式電池回収 BOX に入れてください。詳細は、「一般社団法人 JBRC」のホームページをご参照ください。

https://www.jbrc.com/

■ AC パワーアダプター使用機種

- 室内専用です。
- 接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- 接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- 使用中、AC パワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発振音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

カメラをお使いになる前のご注意

■ 撮影の前には試し撮りをしましょう

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。

※ 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■ 著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメモリーカードの転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■ 製品の取り扱いについて

画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■ 液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分にご注意ください。万一のときは、応急処置を行ってください。

- 皮膚に付着した場合：付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合：きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の診断を受けてください。

液晶パネルは非常に高精度の技術で作られておりますが、黒い点や常時点灯する点などが存在することがあります。これは故障ではなく、記録される画像には影響ありません。

■ 商標について

- デジタルスプリットイメージ、Digital Split Image は、富士フイルム（株）の商標または登録商標です。
- デジタルマイクロプリズム、Digital Micro Prism は、富士フイルム（株）の商標または登録商標です。
- DynaFont は、DynaComware Taiwan Inc. の登録商標です。
- Apple、iPhone、iPad、Mac、Mac OS X、OS X、macOS、Lightning、Apple ProRes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Android は、Google LLC の商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Photoshop ならびに Lightroom は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi CERTIFIED ロゴおよび、Wi-Fi Protected Setup® は、Wi-Fi Alliance® の商標または登録商標です。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、富士フイルム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- SDHC ロゴ、SDXC ロゴは、SD-3C,LLC の商標です。
- CFexpress は CFA（CompactFlash Association）の商標です。
- HDMI ロゴは HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- その他の社名、商品名などは、日本および海外における各社の商標または登録商標です。

■ ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本製品は、一般財団法人 VCCI 協会の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因になることがあります。

カメラの使用上のご注意

- カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子が破損する場合があります。
- 太陽光がファインダーのレンズに入射すると、内部の表示パネル上で焦点をむすび、表示パネルを破損させてしまうことがあります。ファインダーを太陽に向けないようにご注意ください。

■ 避けて欲しい保存場所

次のような場所での本製品の使用・保管は避けてください。

- 雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ
- 極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い電磁場の発生するところ（放送塔、送電線、レーダー、モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■ 冠水、浸水、砂かぶりにご注意（防水機能付機種を除く）

水や砂は本製品の大敵です。海辺、水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に、本製品を置かないでください。水や砂が本製品の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■ 結露（つゆつき）にご注意

本製品を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本製品内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メモリーカードに水滴がつくことがあります。このようなときはメモリーカードを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■ 長時間お使いにならないときは

本製品を長時間お使いにならないときは、バッテリーまたは電池、メモリーカードを取り外して保管してください。

■ 海外で使うとき

- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社デジタルカメラサポートセンター、修理サービスセンターにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

メモリーカードについてのご注意

詳細は、使用説明書をお読みください。

■ メモリーカード取扱上のご注意

- メモリーカードは、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- メモリーカードをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- メモリーカードの記録中、消去（フォーマット）中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メモリーカードが破壊されることがあります。
- 指定以外のメモリーカードはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因になります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 静電気を帯びたメモリーカードをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したメモリーカードが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- メモリーカードにはラベル類は一切はらないでください。メモリーカードの出し入れの際、故障の原因になります。

■ メモリーカードをパーソナルコンピューターで使用する場合のご注意

- パーソナルコンピューターで使用したあとのメモリーカードを使って撮影する場合は、カメラでフォーマットしなおしてください。
- カメラでフォーマットして撮影、記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。
- パーソナルコンピューターでメモリーカードのフォルダ名、ファイル名の変更、消去などの操作を行わないでください。メモリーカードがカメラで使用できなくなることがあります。
- 画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
- 画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーまたは移動し、コピーまたは移動した画像ファイルを編集してください。

レンズとアクセサリーについてのご注意

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが 4.5mm 以下の製品をご使用ください。
- 他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねます。

無線 LAN/Bluetooth 機器使用上の注意事項

重要！ 本製品に搭載されている無線 LAN/Bluetooth 機能をご使用になる前に必ずお読みください。

本製品は、米国輸出規則（EAR）の対象となり、米国禁輸出国への輸出や持ち出しには、米国商務省、財務省等当局の許可が必要となりますのでご注意ください。

■ 本製品は無線 LAN/Bluetooth 機器としてお使いください。

無線 LAN/Bluetooth 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、当社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。無線 LAN/Bluetooth 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときはご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全に行ってください。

■ 無線 LAN/Bluetooth 機能はお買い求め頂いた国での利用を前提としています。

本製品の無線 LAN/Bluetooth 機能はお買い求め頂いた国の電波に関する法律に準拠しております。ご使用の際は、お使い頂く国の法律を遵守してください。お買い求め頂いた国以外でのご使用上のトラブル等については、弊社では一切の責任を負いかねます。

■ 磁場、静電気、電波障害が発生するところでは本製品を使用しないでください。

電子レンジ付近などの磁場、静電気、電波障害が発生するところでは本製品を使用しないでください（環境により電波が届かないことがあります）。また、2.4GHz 付近の電波を使用しているものの近くで使用すると双方の処理速度が落ちる場合があります。

■ セキュリティについて

無線 LAN/Bluetooth 機能は電波を使って通信するため、有線 LAN よりもセキュリティに注意する必要があります。

- 本製品に使用権限のない（知らない）ネットワークが表示されても接続しないでください。接続すると不正アクセスとみなされるおそれがあります。使用権限のあるネットワークだけをお使いください。
- 電波によるデータの送受信は傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。
- 本製品を電気通信事業者（移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダ等）の通信回線（公衆無線 LAN を含む）に直接接続しないでください。

■ 本製品は「電波法」に基づく技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵し、証明ラベルは無線設備上に表示または、画面で確認することができます。以下の行為は法律で罰せられることがあります。

- 本製品を分解、または改造すること
- 本製品上の証明ラベルをはがすこと

■ 本製品の使用する無線チャンネルは、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。

- 産業・科学・医療用機器
- 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
  (1) 構内無線局（免許を要する無線局）
  (2) 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

■ **本製品を使用する場合は、前項の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。**

無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに場所を変更するか、または電波の使用を停止してください。

その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社デジタルカメラサポートセンターへお問い合わせください。

- 2.4GHz 帯使用時の注意事項（日本国内向け）

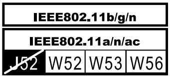


本製品が 2.4GHz 周波数帯を使用する DSSS と OFDM 変調方式を採用した無線設備で、与干渉距離が約 40 m であることを意味しています。



本製品が 2.4GHz 周波数帯を使用するその他の変調方式を採用した無線設備で、与干渉距離が約 80 m であることを意味しています。

- 5GHz 帯使用時の注意事項（日本国内向け）



5GHz の周波数帯においては、5.2GHz/5.3GHz/5.6GHz 帯（W52/W53/W56）の 3 種類の帯域を使用することができます。

5.2GHz/5.3GHz 帯（W52/W53）を使って屋外で通信を行うことは、電波法で禁止されています。

当該無線設備の送信は 5.2GHz 帯高出力データ通信システムの基地局、または陸上移動中継局と通信する場合を除き屋内においてのみ可能です。

■ **本製品を飛行機の中で使用しないでください。**

本製品の飛行機内での使用については航空会社の指示に従ってください。

本製品は電源オフの状態でも電波を発信することが可能です。搭乗前にネットワーク /USB 設定メニューの**機内モード**を **ON** にすると電波の発信を遮断できます。

レンズをご使用前に必ずお読みください

安全上のご注意

本文は、レンズまたはレンズを取り付けたカメラを安全に取り扱うための注意内容です。

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは大切に保管してください。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や障害の程度を次の表示で説明しています。	
⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で説明しています。	
⚠	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
🛇	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

風呂、シャワー室での使用禁止	**水をかけたり、水にぬらしたりしない。** 火災・感電の原因になります。
分解禁止	**分解や改造は絶対にしない（ケースは絶対に開けない）。** 火災・感電の原因になります。 また、異常動作を起こしてケガの原因になります。
接触禁止	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れない。** 感電したり、破損部でケガをする原因になります。 • 感電やケガに注意して速やかにカメラの電池・バッテリーを取り出し、お買上げ店または弊社デジタルカメラサポートセンター、修理サービスセンターにご相談ください。
🛇	**不安定な場所に置かない。** バランスがくずれて倒れたり落下したりして、ケガの原因になります。
🛇	**レンズまたはカメラで直接太陽を見ない。** 失明や視力障害になる恐れがあります。

⚠ 注意	
禁止	**油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない。** 火災・感電の原因になることがあります。
禁止	**異常な高温になる場所に置かない。** 窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所に置かないでください。 火災の原因になることがあります。
指示	**小さいお子様の手の届くところに置かない。** ケガの原因になることがあります。
禁止	**濡れた手で触らない。** 感電の原因になることがあります。
注意	**逆光撮影では、画角から太陽を十分にはずす。** 太陽光がカメラ内部に直接入ることで、カメラ内で焦点を結び、火災ややけどの原因になることがあります。
注意	**使用しない時は、レンズにキャップをつけ、太陽光のあたらない場所に保管する。** 太陽光が内部で焦点を結び、火災ややけどの原因になることがあります。
禁止	**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しない。** 転倒したり、ぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

お手入れについて

長くご愛用いただくために、カメラをご使用になった後は次のようにお手入れすることをおすすめします。

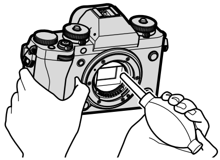
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などで拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質、変形したり、塗料がはげたりするなどの原因になります。特にカメラ本体の革については変色の原因になる場合があります。
- カメラ本体に液体が付着した場合は、すぐに乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
- 液晶モニター表面などの汚れはブロワーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。それでも取れないときは、富士フイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽く拭いてください。
- 液晶モニター表面などは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- センサーのクリーニングは **基本設定** > **センサークリーニング**で行えます。**センサークリーニング**を実行しても汚れが取れない場合は、ブロワーでほこりを取り除いてください。
- カメラを保管するときは、ボディキャップを取り付けてください。

センサークリーニング

基本設定 > **センサークリーニング**を実行しても汚れが取れない場合は、ブロワーでほこりを取り除いてください。

クリーニング作業中にセンサーを傷付けたり、破損した場合、弊社修理サービスセンターでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

1 センサーの表面に付着したほこりをブロワー（ブラシの付いていないもの）で取り除きます。



2 センサーの表面に付着していたほこりが取り除けたかを確認します。

3 カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

- ブロワーはブラシの付いていないものを使用してください。ブロワーのブラシでセンサーのほこりを取り除くと、表面を傷付けることがあります。
- 取り除けていない場合は、再度ブロワーでクリーニングしてください。

ファームウエア更新情報

本製品はファームウエアの更新による機能の追加／変更のため、付属の使用説明書の記載と一部機能が異なる場合があります。詳しくは下記ホームページから各機種のファームウエア更新情報をご覧ください。

https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/download/firmware/cameras/

ファームウエアバージョンの確認方法

バージョンの確認は、メモリーカードがカメラ内にある状態でないと確認ができませんので、ご注意ください。

1 カメラの電源をオフにします。

メモリーカードが入っていることを確認します。

2 **DISP/BACK** ボタンを押しながら電源をオンにすると、バージョンが表示されます。

3 バージョンの確認ができたら、電源をオフにしてください。

別売アクセサリー（交換レンズ、クリップオンフラッシュ、マウントアダプターなど）のファームウエアバージョンを確認するときやファームウエアを更新するときは、カメラボディに別売アクセサリーを装着してから確認や更新を行ってください。

トラブルシューティング /FAQ

カメラの動作がおかしいときは、まず次の表の内容をご確認ください。処置を行っても改善されない場合は、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

電源とバッテリー

症状		ここをチェック！	処置	
バッテリー、電源について	**ON/OFF**（電源）レバーを **ON** に合わせても電源がオンになりません。	ご購入後、バッテリーを充電しましたか？	ご購入時にはバッテリーは充電されていません。バッテリーを充電してください。	42
		バッテリーが消耗していませんか？	充電済みのバッテリーを使ってください。	42
		バッテリーを正しい向きで入れていますか？	バッテリーを正しい方向で入れ直してください。	36
		バッテリーカバーはきちんと閉まっていますか？	バッテリーカバーをしっかり閉めてください。	
	ON/OFF（電源）レバーをオフにしたあとに素早くオンにしても液晶モニターが点灯しません。	—	液晶モニターが点灯するまで、シャッターボタンを半押しし続けてください。	—

症状		ここをチェック！	処置	📖
バッテリー、電源について	バッテリーの消耗が早いです。	非常に寒いところでカメラを使っていませんか？	バッテリーをポケットなどで温めておいて、撮影の直前に取り付けてください。	—
		バッテリーの端子が汚れていませんか？	バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布で拭いてください。	—
		プリ AF を **ON** に設定していませんか？	**プリ AF** を **ON** で撮影すると、バッテリーの消耗が早くなります。	149
		同じバッテリーを長時間使っていませんか？	バッテリーの寿命の可能性があります。**バッテリー劣化度**を確認し、劣化している場合は、新しいバッテリーと交換してください。	276
	使用中に電源がオフになってしまいました。	バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電済みのバッテリーを使ってください。	42
	カメラの電源が切れません。	カメラが処理中の場合があります。	インジケーターランプの点灯状況を確認してください。	9

症状		ここをチェック！	処置	📖
充電について	充電が開始されません。	プラグは正しくコンセントに接続されていますか？	AC パワーアダプターのプラグを正しくコンセントに接続してください。	42
		プラグアダプターは正しく AC パワーアダプターに装着されていますか？	プラグアダプターを正しく AC パワーアダプターに装着してください。	
		最後に充電してから長期間経っていませんか？	長期間充電しないと、安全のため充電ができなくなります。新しいバッテリーと交換してください。	—
	充電が開始されません。（USB 充電時）	カメラにバッテリーは入っていますか？	バッテリーを入れてください。	36
		バッテリーは正しい向きでカメラに入っていますか？	バッテリーを正しい方向で入れ直してください。	
		USB ケーブルはパーソナルコンピューターに接続されていますか？	パーソナルコンピューターと正しく USB ケーブルで接続してください。	45
		パーソナルコンピューターの電源がオフまたは休止状態になっていませんか？	パーソナルコンピューターの電源がオンになっていることを確認し休止状態（スリープ状態）を解除したあと、USB ケーブルを接続し直してください。	
	充電が開始されません。（充電器使用時）	バッテリーは入っていますか？	バッテリーを入れてください。	—
		バッテリーは正しい向きで入っていますか？	バッテリーを正しい方向で入れ直してください。	—
		AC アダプターは正しく充電器に接続されていますか？	AC アダプターを正しく充電器に接続してください。	—
	充電時間がかかりすぎます。	非常に寒いところで充電を行っていませんか？	低温時は、充電時間が長くなるときがあります。	—

症状		ここをチェック！	処置	📖
充電について	充電中にインジケーターランプが点滅して充電できません。	バッテリーの端子が汚れていませんか？	バッテリーをいったん取り出して、端子部分を乾いたきれいな布で拭いてから、入れ直してください。	36
		バッテリーの寿命または故障の可能性があります。	**バッテリー劣化度**を確認し、劣化している場合は、新しいバッテリーと交換してください。それでも充電できないときは、弊社デジタルカメラサポートセンターにお問い合わせください。	276 356 416
給電について	給電状態アイコンが表示されません。	**USB 給電 / 通信設定**が**給電 OFF/ 通信 ON** になっていませんか？	**USB 給電 / 通信設定**を**自動**または**給電 ON/ 通信 OFF** にしてください。	270

メニューなどの設定時

症状	ここをチェック！	処置	📖
メニューが日本語以外で表示されています。	**言語/LANG.** が日本語以外の言語になっていませんか？	言語設定を**日本語**にしてください。	50 275

撮影時

症状		ここをチェック！	処置	📖
基本撮影について	シャッターボタンを押しても撮影できません。	撮影可能枚数が 0 になっていませんか？	新しいメモリーカードを入れるか、不要なコマを消去してください。	38 230
		メモリーカードはフォーマットされていますか？	カメラでフォーマットしてください。	272
		メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れていませんか？	メモリーカードの接触面を乾いた柔らかい布で拭いてください。	—
		メモリーカードが壊れている可能性があります。	新しいメモリーカードを入れてください。	38
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電済みのバッテリーを使ってください。	42
		電源がオフになっていませんか？	電源をオンにしてください。	46
		他社製のマウントアダプターを使用していませんか？	**レンズなしレリーズ**を **ON** にしてください。	299
	シャッターボタンを半押しすると、EVF や LCD にノイズが見えます。	被写体が暗かったり、絞りを絞り込んだりしていませんか？	設定した絞りで撮影前の構図を確認するために明るく表示しているので、ノイズが目立つ場合があります。撮影画像には影響ありません。	—
ピントについて	ピントを合わせられません。	オートフォーカスの苦手な被写体を撮影しようとしていませんか？	AE/AF ロック撮影してください。	101
		被写体に対し、フォーカスエリアを小さくしていませんか？	フォーカスエリアを 1 〜 2 段階大きくしてから撮影してください。	88

資料

12

	症状	ここをチェック！	処置	📖
パノラマ撮影について	シャッターボタンを押してもパノラマ撮影できません。	インジケーターランプが橙色に点灯していませんか？	インジケーターランプが消灯するまでお待ちください。	9
顔検出について	顔を検出できません。	サングラス、帽子や前髪などで顔の一部が隠れていませんか？	なるべく顔の全体が見えるようにしてください。	151
		撮影したい人物の顔が、構図内で小さすぎませんか？	顔が大きく写るようにもうすこし近づいて撮影してください。	
		人物の顔が横向きまたは斜めに傾いていませんか？	顔が正面を向いているほうが、検出しやすくなります。	
		顔検出 / 瞳 AF 設定が **OFF** になっていませんか？	**顔検出 / 瞳 AF 設定**を**顔検出 ON** にしてください。	
		カメラが傾いていませんか？	カメラをまっすぐに構えたほうが、検出しやすくなります。	—
		人物の顔が暗くないですか？	適切な明るさで撮影してください。	—
被写体検出について	被写体を検出できません。	被写体の一部が隠れていませんか。	なるべく被写体の全体が見えるようにしてください。	153
		撮影したい被写体が構図内で小さすぎませんか。	被写体が大きく写るようにもうすこし近づいて撮影してください。	
		被写体検出 AF 設定が **OFF** になっていませんか？	**被写体検出 AF 設定**を**被写体検出 ON** にしてください。	
		被写体が暗くありませんか。	適切な明るさで撮影してください。	—

症状		ここをチェック！	処置	参照ページ
フラッシュについて	フラッシュが発光しません。	フラッシュが使用できない設定になっていませんか？	フラッシュが使用できる設定に変更してください。	180
			シャッター方式を電子シャッター以外に設定してください。	170
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電済みのバッテリーを使ってください。	42
		ドライブモードが連写やブラケティングになっていませんか？	ドライブモードを連写やブラケティング以外に設定してください。	6
	フラッシュが発光したのに撮影した画像が暗い。	被写体から離れすぎていませんか？	フラッシュ撮影可能距離内で撮影してください。	—
		フラッシュを指などでふさいでいませんか？	カメラを正しく構えてください。	—
		高速シャッタースピードで撮影していませんか？	シャッタースピードが同調速度より高速の場合は、フラッシュを発光しても暗くなることがあります。シャッタースピードを同調速度以下に設定してください。	74 80 403

	症状	ここをチェック！	処置	📖
撮影した画像の異常について	画像がぼやけています。	レンズに指紋などの汚れが付いていませんか？	レンズを清掃してください。	—
		レンズに指などがかかっていませんか？	レンズに指がかからないようにしてください。	54
		撮影時に AF フレーム（赤点灯）と **!AF** が表示されていませんでしたか？	しっかりとピントを合わせてから撮影してください。	55
	画像に点状のノイズがあります。	気温の高いところでスローシャッター（長時間露光）撮影しませんでしたか？	撮像素子の特性*によるもので、故障ではありません。**ピクセルマッピング**を実行してください。 * 撮像素子が X 線や宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じる場合があります。**ピクセルマッピング**を行うと輝点が軽減されます。	133
	画像にノイズが撮影されます。	高温環境で連続使用をしていませんか？	しばらく電源オフにしたあとでご利用ください。	46
		温度警告が表示されていませんでしたか？		398

再生時

症状		ここをチェック！	処置	
1コマ再生について	画像が粗く表示されます。	他のカメラで記録した画像ではありませんか？	他のカメラで記録した画像はきれいに表示できないことがあります。	—
	拡大表示できません。	リサイズした画像ではありませんか？	リサイズした画像は、再生ズームができません。	—
		他のカメラで記録した画像ではありませんか？	他のカメラで記録した画像は再生ズームができないことがあります。	—
動画再生について	カメラから音が出ません。	カメラの再生音量の設定が小さくなっていませんか？	再生音量を調節してください。	281
		動画撮影時にマイクを手などでふさいでいませんでしたか？	動画撮影時はマイクをふさがないでください。	—
		再生中にスピーカーを手などでふさいでいませんか？	再生中はスピーカーをふさがないでください。	—
消去について	選択した画像を消去できません。	プロテクトされていませんか？	プロテクトを解除してください。プロテクトを解除するときは、プロテクトを行ったカメラをお使いください。	234
	全コマ消去したのに画像が残っています。			
コマナンバーについて	コマ NO. の連番が機能しません。	バッテリーやメモリーカードを交換するときに電源を切らずにバッテリーカバーを開けませんでしたか？	バッテリーやメモリーカードを交換するときは、必ず電源をオフにしてください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けると、コマ NO. の連番が機能しないことがあります。	308

接続時

	症状	ここをチェック！	処置	
テレビとの接続について	カメラの画面に何も表示されません。	カメラとテレビを接続していませんか？	カメラとテレビを接続した場合、再生モードでは、カメラの画面には何も表示されません。	57
	カメラの画面にもテレビの画面にも何も表示されません。	**VIEW MODE** ボタンによる切り替えが **EVF ONLY +** SENSOR になっていませんか？	ファインダーに目を近づけてください。	16
			VIEW MODE ボタンを押して、他の設定に変更してください。	
	テレビに画像、音声が出ません。	カメラとテレビが正しく接続できていますか？	確認して正しく接続し直してください。	57
		テレビの入力が「テレビ」になっていませんか？	テレビの入力を「HDMI」にしてください。	
		テレビの音量が小さくなっていませんか？	テレビの音量を調節してください。	
パーソナルコンピューターとの接続について	パーソナルコンピューターがカメラを認識しません。	USB ケーブルが正しく接続されていますか？	確認して正しく接続し直してください。	255
	「FUJIFILM X RAW STUDIO」、「FUJIFILM X Aquire」がカメラを正常に認識しません。	カメラの**接続モード**を確認してください。	カメラを USB ケーブルで接続するときに、あらかじめ **USB RAW 現像 / 設定保存読込**に設定してください。	263

症状		ここをチェック！	処置	📖
スマートフォンなどの接続について	iPhone、iPad と接続できません。	**USB 給電 / 通信設定**が**給電 ON/ 通信 OFF** になっていませんか？	給電機能がない機器やLightning 端子を持つ機器と接続するときは、ネットワーク /USB 設定メニューの **USB 給電 / 通信設定**をあらかじめ**給電 OFF/ 通信 ON** に設定してください。	270
	スマートフォンと接続できません。	接続の方法を確認してください。	スマートフォンに搭載されている端子の形状によって、接続方法が異なります。	252

無線 LAN 通信

無線 LAN 機能のトラブルシューティングについては、以下のウェブサイトをご覧ください。

https://digitalcamera-support-ja.fujifilm.com/

<table>
<tr><th>症状</th><th>ここをチェック！</th><th>処置</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="2">スマートフォンと接続できません。

スマートフォンとの接続 / 送信に時間がかかります。

画像送信が途中で失敗 / 切断します。</td><td>スマートフォンとの距離が離れていませんか？</td><td>スマートフォンを近づけてご使用ください。</td><td rowspan="2">249</td></tr>
<tr><td>電子レンジやコードレス電話機などの機器を近くでご使用されていませんか？</td><td>それらの機器から離れてご使用ください。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">スマートフォンに送信できません。</td><td>相手先のスマートフォンがすでに別のカメラと接続していませんか？</td><td>スマートフォンもカメラも一度に接続できる相手は 1 台のみです。

別のカメラとの接続を終了してから、やり直してください。</td><td rowspan="3">249</td></tr>
<tr><td>スマートフォンが近距離に複数台ありませんか？</td><td>操作をはじめからやり直してください。

周囲に複数台のスマートフォンがあると、つながりにくい場合があります。</td></tr>
<tr><td>他のカメラで撮影した画像が選択されていませんか？</td><td>このカメラで撮影した画像を送信してください。他のカメラで撮影した画像は送信できない場合があります。</td></tr>
</table>

症状	ここをチェック！	処置	📖
スマートフォンに送信できません。	動画が選択されていませんか？（画像を取り込み機能の使用時）	動画の送信には時間がかかる場合があります。またスマートフォンで再生できない動画は送信できない場合があります。	249
スマートフォンで受信した画像が開けません。	**Bluetooth/スマートフォン設定**の**スマートフォン送信時圧縮**を **OFF** に設定していませんか？	**スマートフォン送信時圧縮**を **ON** にしてください。また、スマートフォンによっては画像が大きすぎて開けない場合があります。	266

その他

症状		ここをチェック！	処置	📖
カメラの動作などについて	カメラのボタンなどを操作しても動きません。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリーをいったん取り外して、取り付け直してから操作してください。	36
		バッテリーの消耗が原因として考えられます。	充電済みのバッテリーを使ってください。	42
		無線 LAN に接続していませんか？	無線 LAN を解除してください。	—
		ボタンロックをしていませんか？	**MENU/OK** ボタンを長押しして、ロックを解除してください。	13 15
	カメラが正常に作動しなくなってしまいました。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリーをいったん取り外して、取り付け直してから操作してください。それでも復帰できないときは、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。	36 416
音について	音が出ません。	**音設定**で消音に設定していませんか？	各設定の音量を調整してください。	278
Q（クイックメニュー）	**Q** ボタンを押してもクイックメニューが表示されません。	TTL-LOCK 状態になっていませんか？	TTL-LOCK を解除してください。	181

警告表示

画面に表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示	警告内容	処 置
（赤点灯）	バッテリーの残量が少なくなっています。	新しいバッテリーまたは充電済みのバッテリーと交換してください。
（赤点滅）	バッテリーの残量がありません。	
!AF（赤点灯） AF フレームの形は撮影メニューの設定によって異なります	ピントが合わせができません。	AE/AF ロック機能を使って、同じ距離の他の被写体にピントを合わせてから、構図を変えてください。
絞り、シャッタースピード表示（赤点灯）	被写体が明るすぎる、または暗すぎるために適正な明るさで撮影できません。	• 静止画撮影時に被写体が暗いときは、フラッシュを使ってください。 • 適切な明るさ（露出）ではありませんが撮影できます。
フォーカスエラー **レンズ制御エラー** **電源を入れ直してください**	カメラが誤作動または故障しています。	• 電源を入れ直してください。 • レンズとカメラの間に異物がないか確認してください。 • 電源のオン / オフを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
フォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていません。	メモリーカードをカメラでフォーマットしてください。
	メモリーカードがパーソナルコンピューターでフォーマットされています。	メモリーカードをカメラでフォーマットしてください。
	メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れています。	メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよく拭いてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合はメモリーカードを交換してください。
	カメラが故障しています。	弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。

警告表示	警告内容	処 置
レンズエラー	レンズとカメラの間に異物が入っています。	カメラの電源をオフにしてレンズを取り外し、異物を取り除いて電源を入れ直してください。それでも復帰できないときは、弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
カードエラー	メモリーカードがカメラでフォーマットされていません。	メモリーカードをカメラでフォーマットしてください。
	メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れています。	メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよく拭いてください。 また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合はメモリーカードを交換してください。
	カメラが故障しています。	弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
	非対応のメモリーカードです。	弊社動作確認済みのメモリーカードを挿入してください。
	メモリーカードが壊れています。	
プロテクトされたカードです	SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。	SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチを元に戻し、誤記録防止のロックを外してください。
動画記録できません	パーソナルコンピューターでフォーマットしたメモリーカードのため、動画記録が間に合いません。	メモリーカードをカメラでフォーマットしてください。
SD 空き容量がありません	メモリーカードに空き容量がないため、画像を記録できません。	画像を消去するか、空き容量のあるメモリーカードを使用してください。

警告表示	警告内容	処 置
記録できませんでした	メモリーカードと カメラ本体の接触異常 またはメモリーカードの 異常のため記録できません。	メモリーカードを入れ直すか 電源のオン / オフを 繰り返してください。 それでも復帰できないときは、 弊社修理サービスセンターに 修理をご依頼ください。
	画像を記録する空き容量が ありません。	画像を消去するか、空き容量 のあるメモリーカードを 使用してください。
	メモリーカードがフォー マットされていません。	メモリーカードをカメラで フォーマットしてください。
	静止画または動画を記録中 にメモリーカードを取り出 しました。	記録中はメモリーカードを取 り出さないでください。
	書き込み速度の遅い メモリーカードを使用して るため記録できません。	動画撮影時は、設定に 適した速度のカードをご使用 ください。
コマ NO. の上限です	コマ NO. が「999-9999」に 達しているため、これ以上 撮影できません。	フォーマットした メモリーカードをカメラに 入れて、**コマ NO.** を**新規**に設定 します。撮影すると、コマ No. が「100-0001」から付けられ ます。**コマ NO.** を**連番**に戻すと、 引き続き撮影できます。

警告表示	警告内容	処 置
再生できません	正常に記録されていないファイルを再生しようとしました。もしくは他のカメラで記録した静止画または動画を再生しようとしました。	このファイルは再生できません。
	メモリーカードの接触面（金色の部分）が汚れています。	メモリーカードの接触面を、乾いた柔らかい布などでよく拭いてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合はメモリーカードを交換してください。
	カメラが故障しています。	弊社修理サービスセンターに修理をご依頼ください。
プロテクトされています	• プロテクトされているファイルを消去しようとしました。 • プロテクトされているファイルを回転しようとしました。	プロテクトしたファイルは消去 / 回転できません。プロテクトを解除してください。
トリミングできません	他のカメラで撮影した画像または壊れた画像をトリミングしようとしました。	トリミングできない画像です。
これ以上予約できません	DPOF のコマ設定で 1000 コマ以上のプリント指定をしました。	同一メモリーカード内でプリント指定できるコマ数は 999 コマまでです。 別のメモリーカードにプリント予約したい画像をコピーして、プリント予約してください。
設定できません 設定できません	プリント予約できない画像または動画にプリント予約しようとしました。	プリント予約できません。
回転できません 回転できません	他のカメラで撮影した画像または動画を回転しようとしました。	回転できません。

<table>
<tr><th>警告表示</th><th>警告内容</th><th>処 置</th></tr>
<tr><td>実行できません</td><td rowspan="2">実行できない操作をしようとしました。</td><td rowspan="2">他のカメラで撮影した画像や動画にはできない操作があります。</td></tr>
<tr><td>実行できません</td></tr>
<tr><td>!（黄）
温度が上昇しています</td><td>自動電源 OFF 温度が標準のときにカメラの温度が上昇しています。そのまま使い続けると、自動的に電源がオフになります。</td><td>電源をオフにして、しばらくたってからご使用ください。</td></tr>
<tr><td>!（黄）
温度上限に近づいています
持ち続けないでください</td><td>自動電源 OFF 温度が高のときにカメラの温度が上限に近づいています。低温やけどの恐れがありますので、カメラを持ち続けず、三脚などをお使いください。そのまま使い続けると、自動的に電源がオフになります。</td><td rowspan="2">電源をオフにして、しばらくたってからご使用ください。カメラの温度が上昇すると、画像にノイズが多くなる場合があります。</td></tr>
<tr><td>!（赤）
温度上限に到達しました
シャットダウンします</td><td>温度が上限に達したため自動的に電源がオフになります。</td></tr>
</table>

標準撮影枚数 / 記録時間

標準撮影枚数および撮影時間はおおよその目安です。実際の撮影枚数および撮影時間は、撮影条件やメモリーカードの種類により変動します。また、液晶モニターに表示される記録枚数・時間は規則正しく減少しないことがあります。

撮影モード ＼ 記録媒体		SD メモリーカード	
		64 GB	
画質		FINE	NORMAL
静止画	L 3:2	2660	3980
	RAW（非圧縮）	730	
	RAW（ロスレス圧縮）	1380	
	RAW（圧縮）	1950	
動画 *	4K 2160	79 分	
	FHD 1080	79 分	

*ビットレートが工場出荷時の設定の場合。

- 動画撮影をするときは、設定によって使用できるメモリーカードが異なります（68）。
- 1 時間以上動画を連続して撮影した場合、動画ファイルは分割されて記録されることがあります。32GB 以下の SD メモリカード使用時は、ファイルサイズ 4GB を超える場合に動画ファイルが分割されます。ファイル分割時も動画撮影は一時中断することなく続きます。

主な仕様

システム	
製品名	FUJIFILM X-T5
製品型番	FF220001
有効画素数	約 4020 万画素
撮像素子	23.5 mm × 15.7 mm（APS-C サイズ） X-Trans CMOS 5 HR、原色フィルター採用
記録メディア	SD/SDHC/SDXC メモリーカード（弊社推奨品）
メモリーカードスロット	SD カード × 2（UHS-II 対応）
記録方式	• **静止画**：DCF2.0 準拠 • **圧縮**：Exif Ver.2.32　JPEG 準拠 /DPOF 対応、HEIF 対応（4:2:2 10bit） • **非圧縮 / ロスレス圧縮 / 非可逆圧縮**：RAW（RAF 独自フォーマット、専用のソフトウエアが必要）、RAW+JPEG 記録あり、TIFF（RGB） • **動画**：HEVC/H.265、H.264 規格準拠 • **音声（ボイスメモを含む）**： - LPCM（2ch：24bit、48kHz サンプリング） - AAC（MP4 記録時のみ） • **音声（XLR マイクアダプター使用時）**： - LPCM（2ch：24bit 48kHz サンプリング、4ch：24bit 48kHz サンプリング） - AAC（MP4 記録時のみ、2ch：16bit、48kHz サンプリング）

システム	
記録画素数	**L 3:2**（7728×5152） **L 4:3**（6864×5152） **L 16:9**（7728×4344） **L 5:4**（6432×5152） **L 1:1**（5152×5152） **M 3:2**（5472×3648） **M 4:3**（4864×3648） **M 16:9**（5472×3080） **M 5:4**（4560×3648） **M 1:1**（3648×3648） **S 3:2**（3888×2592） **S 4:3**（3456×2592） **S 16:9**（3888×2184） **S 5:4**（3264×2592） **S 1:1**（2592×2592） **RAW**（7872×5196） **TIFF**（7728×5152） **L パノラマ 縦**（2160×9600） **L パノラマ 横**（9600×1440） **M パノラマ 縦**（2160×6400） **M パノラマ 横**（6400×1440）
レンズマウント	FUJIFILM X マウント
撮影感度	• **静止画**：ISO125～12800（1/3 段ステップ）、AUTO1～3 ISO64、80、100、25600、51200 は 拡張モード • **動画**：ISO125～12800（1/3 段ステップ）、AUTO ISO25600 は拡張モード
測光方式	• TTL256分割測光 • マルチ、スポット、アベレージ、中央部重点
露出制御	プログラム（プログラムシフト可能）、シャッター優先、絞り優先、マニュアル
露出補正	• **静止画**：-5EV～+5EV（1/3段ステップ） • **動画**：-2EV～+2EV（1/3段ステップ）

システム

シャッタースピード

- **メカニカルシャッター／電子先幕シャッター／電子先幕＋メカニカル**
  - **P/A** モード時：30 秒～ 1/8000 秒
  - **S/M** モード時：15 分～ 1/8000 秒
  - バルブ：最長 60 分
- **電子シャッター**
  - **P/A** モード時：30 秒～ 1/180000 秒
  - **S/M** モード時：15 分～ 1/180000 秒
  - バルブ：1 秒固定
- **メカニカル＋電子／電子先幕＋メカニカル＋電子**
  - **P/A** モード時：30 秒～ 1/180000 秒
  - **S/M** モード時：15 分～ 1/180000 秒
  - バルブ：最長 60 分

連写

連写モード	連写速度（コマ / 秒 [fps]）JPEG
20 fps(1.29X クロップ) *1	20
13 fps(1.29X クロップ) *1	13
10 fps(1.29X クロップ) *1	10
15 fps *2	15
10 fps *3	10
7 fps *4	7
5 fps	5
3 fps	3

*1　電子シャッター時のみ
*2　電子シャッター時は 13fps で撮影されます。
*3　電子シャッター時は 8.9fps で撮影されます。
*4　電子シャッター時は 6.7fps で撮影されます。

> ! 連写速度と連続記録枚数は、撮影環境やご使用のメモリーカードによって変わります。

フォーカス

- **モード**：シングル AF、コンティニュアス AF、マニュアルフォーカス（リング回転式）
- **AF 方式**：インテリジェントハイブリッド AF（TTL コントラスト AF ＋位相差 AF）
- **AF フレーム選択**：シングルポイント、ゾーン、ワイド／トラッキング、オール

システム	
ホワイトバランス	オート（ホワイト優先、AUTO、雰囲気優先）、カスタム 1 ～ 3、色温度（ケルビン値）設定、晴れ、日陰、蛍光灯 1、蛍光灯 2、蛍光灯 3、電球、水中
セルフタイマー	• **静止画**：OFF、2 秒、10 秒 • **動画**：OFF、3 秒、5 秒、10 秒
フラッシュ発光モード	• **モード**：TTL（フラッシュ発光 AUTO, スタンダード、スローシンクロ）、マニュアル、マルチ、OFF • **同調モード**：先幕、後幕、AUTO FP（ハイスピードシンクロ） • **赤目補正**：赤目抑制発光、OFF
ホットシュー	あり（TTL フラッシュ対応）、同調シャッタースピード $^1/_{250}$ 秒以下
シンクロ接点	X 接点、同調シャッタースピード $^1/_{250}$ 秒以下
シンクロターミナル	あり
ファインダー（EVF）	0.5 型有機 EL ファインダー、約 369 万ドット、ファインダー倍率 0.80 倍（35 mm 判換算 50 mm レンズ、無限遠、視度 $-1.0\,m^{-1}$ のとき）、対角視野 約 39 度（水平視野約 32 度） • 視度調節：$-5\,m^{-1}$～$+3\,m^{-1}$（dpt） • アイポイント：約 24 mm
液晶モニター（LCD）	3.0 型カラー液晶モニター、約 184 万ドット、3 方向チルト式、タッチパネル付き
動画 （ステレオ音声付き）	• **画像サイズ**：6.2K 16:9、4K HQ 16:9、DCI HQ 17:9、4K 16:9、DCI 17:9、FHD 16:9、FHD 17:9 • **フレームレート**：59.94P、50P、29.97P、25P、24P、23.98P • **記録 / 出力形式**： - H.265（MOV、4:2:2 10bit/4:2:0 10bit、360/200/100/50Mbps） - H.264（MOV/MP4、4:2:0 8bit、360/200/100/50Mbps） - HDMI 出力対応（Atomos 社製外部レコーダーおよび Blackmagic 社製外部レコーダー用 RAW 出力に対応、4:2:2 8bit/4:2:2 10bit）

システム	
ハイスピード動画	• **画像サイズ**：FHD 16:9、FHD 17:9 • **撮影フレームレート**：240P、200P、120P、100P

入出力端子	
マイク入力端子	φ 3.5 mm ステレオミニジャック
ヘッドホン出力端子	付属のヘッドホン用アダプターで USB 端子から変換
リモートレリーズ端子	φ 2.5 mm 3 極ミニジャック
デジタル入出力	USB 端子（Type-C）USB3.2 Gen2x1
HDMI 出力	HDMI マイクロ端子（Type D）

電源部、その他

電源	充電式バッテリー NP-W235（付属）
バッテリー作動可能枚数 / 時間の目安	（下記参照）

バッテリー作動可能枚数 / 時間の目安

- **バッテリー**：NP-W235
- **レンズ**：XF35mmF1.4 R 使用
- **クリップオンフラッシュ**：非装着
- **撮影モード**：**P** モード

静止画撮影枚数		
パフォーマンス	**LCD**	**EVF**
ブースト *1	**約 570 枚**	**約 500 枚**
ノーマル	**約 580 枚**	**約 590 枚**
エコノミー	**約 740 枚**	**約 670 枚**

1 回の充電で撮影できる合計動画時間		
画質	**実撮影電池寿命**	**連続撮影電池寿命**
6.2K *2	**約 90 分**	**約 130 分**
4K *3	**約 80 分**	**約 130 分**
FHD *3	**約 90 分**	**約 150 分**
ハイスピード動画 *4	**約 100 分**	—

*1 **EVF/LCD ブースト設定**が **EVF 表示フレームレート優先（100P）**の場合

*2 フレームレート 29.97fps の場合

*3 フレームレート 59.94fps の場合

*4 フレームレート 120fps の場合

CIPA 規格による。バッテリーは付属のもの、記録メディアは SD メモリーカードを使用し測定。

- **注意**：バッテリーの充電容量により撮影可能枚数の変動があるため、ここに示すバッテリー作動可能枚数や時間を保証するものではありません。低温時ではバッテリー作動可能枚数が少なくなり、時間は短くなります。

電源部、その他	
本体外形寸法（幅×高さ×奥行き）	129.5 mm × 91 mm × 63.8（37.9*）mm * 突起部含まず、奥行きは最薄部表記
本体質量	約 476 g（付属バッテリー、メモリーカード含まず）
撮影時質量	約 557 g（付属バッテリー、メモリーカード含む）
動作環境	• **温度**：-10℃～ +40℃（バッテリー充電時：+5℃～ +40℃） • **湿度**：10％～ 80％（結露しないこと）

ワイヤレス通信	
無線 LAN（Wi-Fi）	
準拠規格	IEEE802.11a/b/g/n/ac（無線 LAN 標準プロトコル）
使用周波数範囲（中心周波数）	• **イスラエル、インドネシア** ：2412 MHz ～ 2462 MHz（11 ch） • **アメリカ合衆国、カナダ、ブラジル、中国、インド、韓国、マレーシア** ：2412 MHz ～ 2462 MHz（11 ch） ：5180 MHz ～ 5320 MHz（W52、W53） ：5745 MHz ～ 5825 MHz（UNII-3） • **EU 加盟国、イギリス、日本、オーストラリア、ノルウェー、ニュージーランド、トルコ、香港、フィリピン、ベトナム、シンガポール、タイ、UAE、ロシア、台湾、サウジアラビア、カタール、バーレーン、オマーン、エジプト、イラン、クウェート、レバノン、ウズベキスタン** ：2412 MHz ～ 2462 MHz（11 ch） ：5180 MHz ～ 5320 MHz（W52、W53） ：5500 MHz ～ 5700 MHz（W56）
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
Bluetooth®	
準拠規格	Bluetooth Ver.4.2 (Bluetooth low energy)
使用周波数範囲（中心周波数）	2402 MHz ～ 2480 MHz

バッテリー NP-W235	
公称電圧	7.2V
公称容量	2350mAh
定格容量	2200mAh
使用温度	0℃〜+ 40℃
本体外形寸法 （幅×高さ×奥行き）	38.92mm × 22.8mm × 52.26mm
質量	約 79g

AC パワーアダプター AC-5VJ	
定格入力	AC 100V 〜 240V　50/60Hz
入力容量	MAX 50VA
定格出力	DC5.0V　MAX 3A
使用温度	0℃〜+ 40℃
質量（本体のみ）	約 45g ± 2g

仕様、性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書における記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。説明中の表記は、カメラ本体の表示と異なる場合があります。

索引

[あ]

[か]

[さ]

[た]

[な]

[は]

ソフトウエアのお問い合わせ

以下の手順でお問い合わせください。

1 お問い合わせの前にお確かめください。

ソフトウエアのインストールや使い方は使用説明書（本書）やソフトウエアのヘルプから調べることができます。

2 富士フイルム製品 Q&A・お問い合わせをご覧ください。

https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/ をご覧ください。

3 巻末のお問い合わせ先に FAX、電話でお問い合わせください。

より早く正確な回答のために、下記の情報をご用意ください。

- カメラの機種名
- ソフトウエアのバージョン
- エラーメッセージ
- どのようなときにトラブルが発生しますか？
  トラブルが発生する直前の操作は？
  カメラの状態は？
  トラブルが発生する頻度は？
- ご使用の PC 機種名、OS バージョン、他の接続機器名

ご質問によっては回答するまでに時間を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

あらかじめ「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店に所定事項を記入していただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。保証規定に基づく修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または修理サービスセンターにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。

修理

■ 調子が悪いときはまずチェックを

本書の「トラブルシューティング/FAQ」をご覧ください。使い方の問題か、故障か迷うときは、富士フイルムデジタルカメラサポートセンターへお問い合わせください。電話番号が巻末に記載されています。

■ 故障と思われるときは

富士フイルム修理サービスセンターまたは富士フイルムイメージングプラザに修理をご依頼ください。富士フイルム修理サービスセンターのご案内が巻末にあります。

■ 修理ご依頼に際してのご注意

- 本書巻末にある「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は、故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理料金の見積をご希望の場合には、「修理依頼票」の「見積」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理を進めさせていただきます。なお、見積は有料となります。
- 落下・衝撃、砂・泥かぶり、冠水・浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合には、修理をお断りする場合もあります。

■ 修理部品について

- 本製品の補修用部品は、製造打ち切り後 7 年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。ただしこの期間中であっても、部品都合等により、同等の製品などに交換させていただく場合もあります。その場合、旧機種でご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応 OS が変更になることがあります。
- 本製品の修理の際には、環境に配慮し再生部品や再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

個人情報の取扱について

当社は、お客さまの個人情報を大切に保護するため、個人情報保護に関する法令を遵守いたします。

1. 電話問い合わせ時あるいは修理依頼時にお客さまからご提供いただいた、お客さまのお名前・住所・電話番号・メールアドレスなどの個人情報は、以下に定める目的の範囲内で利用いたします。
   ① お客さまからいただいたお問い合わせに対する回答
   ② 修理・サポート及び関連する製品・サービスの情報提供
   ③ お客さま応対品質向上のため、及び製品・サービスに関する企画、開発、販促、その他事業活動のためのアンケート調査の実施
   ④ 製品カタログなどの資料発送
   ⑤ 個人情報保護法その他法令で認められた利用目的

2. 弊社指定の宅配業者、修理業務担当会社、その他の協力会社に当社が作業を委託する場合、委託作業実施のために必要な範囲内でお客様の個人情報を開示することがございます。開示にあたりましては、盗難・漏洩などの事故を防止し、また当社より委託した作業以外の目的に使用しないよう、適切な監督を行います。

3. お問い合わせいただいた内容により、当社製品・サービスを提供する当社関係会社にて対応することが適切と当社で判断した場合、上記利用目的の範囲内でお客さまの個人情報を当社関係会社に開示することがありますので、あらかじめご了承ください。

4. 当社における個人情報の取り扱いについては、「プライバシーポリシー」をご覧ください。
   https://www.fujifilm.com/jp/ja/privacy

5. 電話問い合わせ時あるいは修理依頼時の内容などにつきましては、個人を特定できないよう統計的なデータに加工した上で、サービス向上のために利用いたします。

6. ご提供いただいたお客様の個人情報に関するお問い合わせなどは、富士フイルムデジタルカメラサポートセンター等のお問合せ先、富士フイルム修理サービスセンターあるいは富士フイルムイメージングプラザにお願いいたします。

修理依頼票

※ あらかじめ「個人情報の取扱について」をご確認ください。
※ 本紙は拡大コピーしてお使いください。
※ 下表の □ は、該当する項目にチェック（✔）を入れてください。

フリガナ			**電話番号**	
お名前			**FAX 番号**	
ご住所		〒　　　ー		
製品名（型名）			ボディ番号（機番） 保証書あるいは本体に記載してある 8 桁の番号です。 修理お問い合わせ時にご連絡ください。	NO.
修理品への添付		□保証書 □（ □（	□メモリーカード	□バッテリー ） ）
見積		□要（修理金額	円以上見積り）	□不要
見積連絡方法		□電話	□ FAX	
故障症状 （故障時の様子）				
ご購入時期		20　　年　　月		※保証書を添付してください。
修理履歴		□初回	□再依頼（□同一症状　□別症状）	
発生状況	**発生頻度**	□開始時のみ	□いつも	□時々（　　日に　　回）
	動作モード	□再生時	□撮影時	□ショックを与えると
	他機との接続	□無	□有（接続機	）
	使用電源			

MEMO

MEMO

FUJIFILM　富士フイルム株式会社

●本製品に関するお問い合わせは…

富士フイルムデジタルカメラサポートセンター
TEL 0570-04-1060

■ 上記電話番号がご利用いただけない場合
03-6625-2809

■ FAX
050-3786-2060

※メールでのお問い合わせ、窓口の受付時間などはこちらをご覧ください。
https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/contact/

●修理に関するご相談受付窓口は・・・

富士フイルム修理サービスセンター
TEL 0570-04-1040

■ 上記電話番号がご利用いただけない場合
03-6625-2810

■ FAX
050-3786-2040

■ 修理品の送付先
〒989-5501 宮城県栗原市若柳字川北中文字95-1

※修理に関するサービス内容、窓口の受付時間などはこちらをご覧ください。
https://fujifilm-x.com/ja-jp/support/repair/

●本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…
お客様コミュニケーションセンター　TEL 0570-04-1711
※各窓口の受付時間、サービス内容は予告なく変更する場合があります。最新の情報は弊社ホームページでご確認ください。

FUJIFILM

FUJIFILM Corporation

7-3, AKASAKA 9-CHOME, MINATO-KU, TOKYO 107-0052, JAPAN

https://fujifilm-x.com